

ヲ呈スルコアリ然ルトキハ波動ノ存否ニ關セズ直ニ之レヲ齒齦部ヨリ根尖端ニ向テ深ク切開シ膿汁ノ進路ヲ決定セシムベシ但シ外頰部ニ向テ已ニ完全ナル波動ヲ呈シ外皮ガ著シク變色セルキハ止ムヲ得ズ外部ニ切開ヲ施スベシ

蜂窠織炎、骨膜下膿瘍等ニ轉セントスルノ傾向アルキハ波動ノ顯否ニ關セズ速ニ拔牙或ハ切開シテ膿汁ノ排泄ヲ補助スベシ然リト雖モ切開セントスル周圍組織ガ著シク急性炎ヲ呈セルキハ極メテ大ナル注意ヲ要ス切開或ハ拔牙ヨリ新創面ヲ作リテ膿汁ヲ血中ニ吸收セシムルコナキニアラズ故ニ此ノ如キニ際シテハ一應酒精罌法、合嗽等ニヨリ消炎法ヲ施シ且鎮靜的所置ヲナシテ其稍鎮靜スルヲ待ツテ然ル後ニ切開或ハ拔牙スルヲ寧ロ勝レリトナス

第五章 慢性齒槽膿瘍

慢性齒槽膿瘍

Chronic alveolar Abscess
Chronischer Alveolarabscess

ハ常ニ急性齒槽膿瘍ノ轉歸トシテ來ル左ノ状態ノ下ニ顯ハル

- 一 毫モ治療ヲ加エズシテ自然ニ放置シタル場合
- 二 消毒不完全ナリシ場合

三 原因ヲ除去セザリシ場合

四 特別ナル状態ノ存在シタリシ場合 例之血石ノ沈着、小瘡骨片ノ形成、膿汁ノ顯著ナル流注等ノ如シ

病理

本症ハ急性齒槽膿瘍ニ於ケルト同一ナル醗膿菌ノ作用ニヨリテ發起ス只毒性ノ彼レニ於ケルヨリモ微弱ナルモノタラズンバアラズ瘻孔ノ存否ニヨリ分ツテ二トナス無瘻膿瘍及ヒ有瘻膿瘍之レナリ之レニ隨伴スル病理的變化モ亦自カラ異ナルモノトス

無瘻膿瘍 *Blind Abscess* *Rhinitis* ハ其膿汁ガ根管ヲ通ジテ排泄セラル、モノニシテ他ニ特殊ナル瘻孔ヲ有セサルヲ特徴トス其病變ハ主トシテ根尖端周圍ニ局限セラル、即

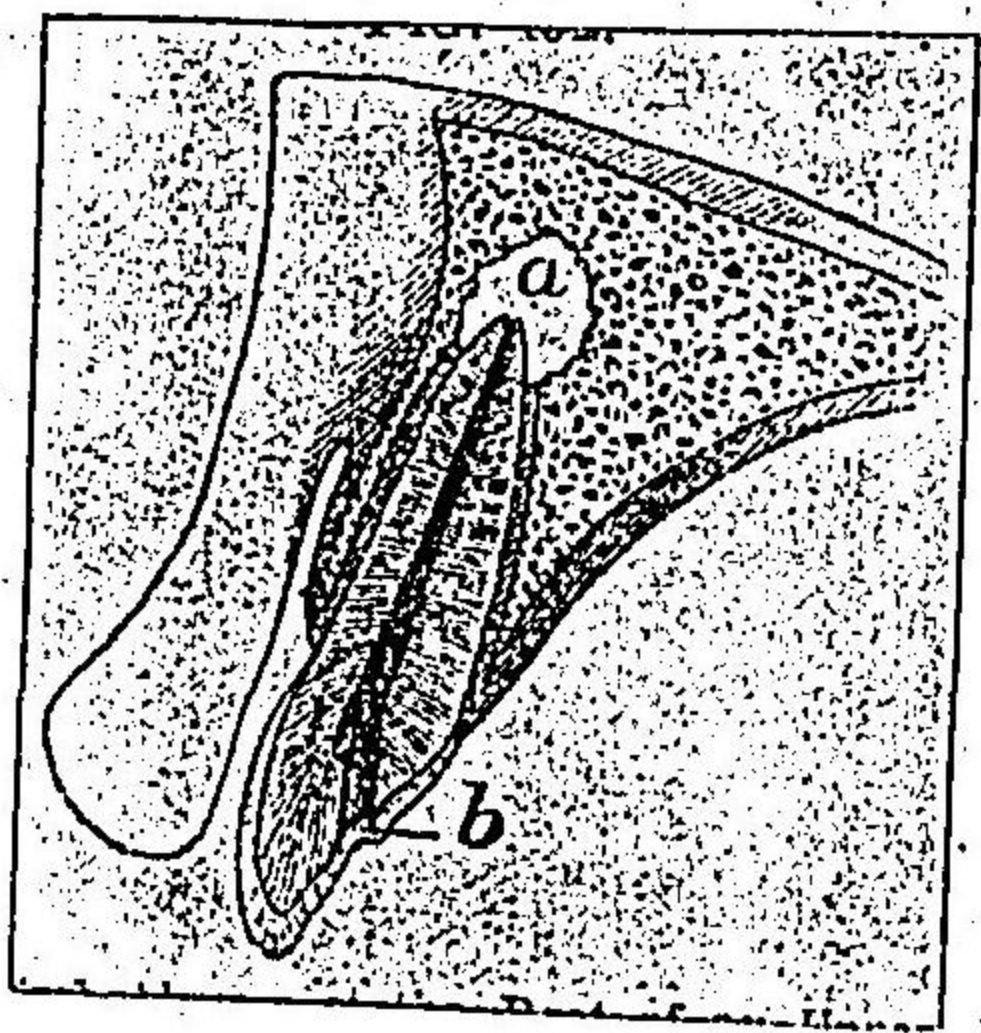
急性膿瘍ノ時代ニ形成セラレタル膿瘍ハ其内容物ヲ徐々ニ根管ニ向テ排泄シ囊内ニ生成シタル空隙ハ肉芽細胞ヲ以テ之ヲ填塞セラレ或ハ其大部分ヲ沒了スルコアリ、然リト雖モ尙此ニ殘留セル醗膿菌ハ時々其増殖ヲ致シ僅ニ形成セラレタル肉芽ヲ又破壊スルヲ以テ此破壊ト形成トノ作用相交代スル間決シテ膿瘍ノ治癒スルコナシ而シテ其經過中ニ白聖質ト齒膜トノ連絡漸ク分離シ血石ノ沈着、白聖質及骨表面ノ吸收蝕蝕等相次テ起ルモノトス此種ノ膿瘍ハ根管開放シテ膿汁

ノ排泄路存スル間ハ殆ド全ク自覺的症候ヲ起ス
ナシト雖モ充填物或ハ食塊等ヲ以テ其閉塞セラル
、毎ニ膿汁忽チ蓄積シテ急性膿瘍ニ見ルカ如キ症
候ヲ顯ハスベシ

有瘻膿瘍文齒槽瘻 *Alveolar Fistula* *Alveolar fistula* ハ根尖端附近ニ於
ケル變化ハ前者ニ似タリト雖モ此種ニアリテハ齒
槽壁ヲ穿通シテ外界ニ交通スル瘻管アリ其徑路中
ノ所々ニ不良ナル肉芽ヲ填塞シ時トシテ殆ド全ク之レヲ閉鎖スルコトアリ而シテ
内部ニ膿汁ノ蓄積スルコト多量ナルニ及ンデハ之レヲ壓開シテ再ヒ通路ヲ作ル此
ノ閉塞開通相交代シテ以テ時々外部ニ排膿ス血石ノ沈着齒根ノ吸收齒槽突起ノ
小腐骨疽等ノ存スルコト多シ

症候及診斷

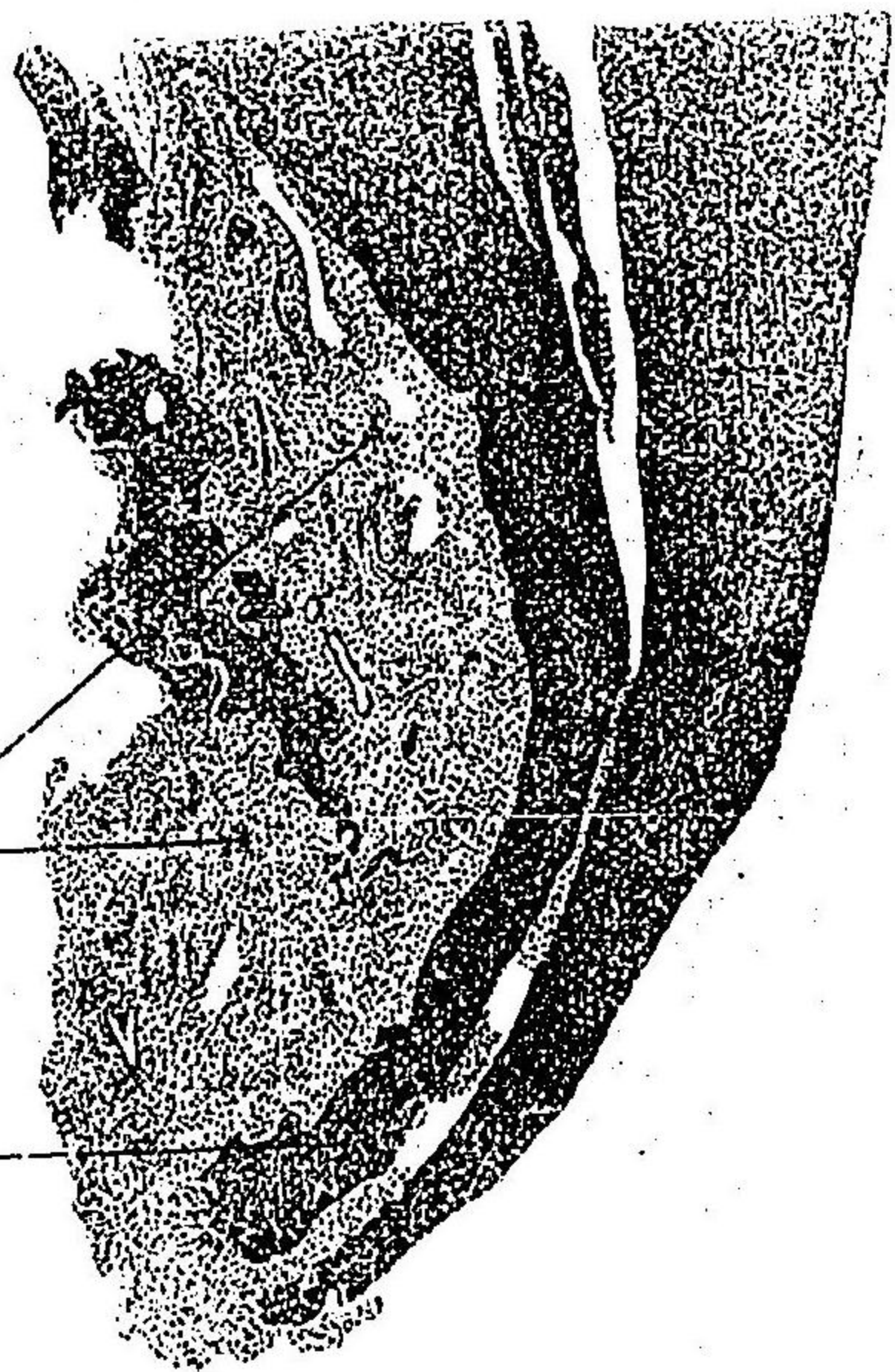
已往ニ於テ曾テ劇甚ナル齒痛後外部ニ腫脹ヲ顯ハシ治療ニヨ
リ或ハ自然ニ治癒シタル經驗ヲ有シ或ハ時々感冒過勞其他ノ
原因ニヨリ齒齦或ハ頰部ニ腫脹ヲ呈シ其自然或ハ人爲的ニ開口スルヤ膿様物ヲ
排泄シ又忽チニシテ腫脹緩解スルヲ訴フルコト常ナリ



瘻膿瘻無 圖五十三第

患齒ヲ見ルニ失活シテ其

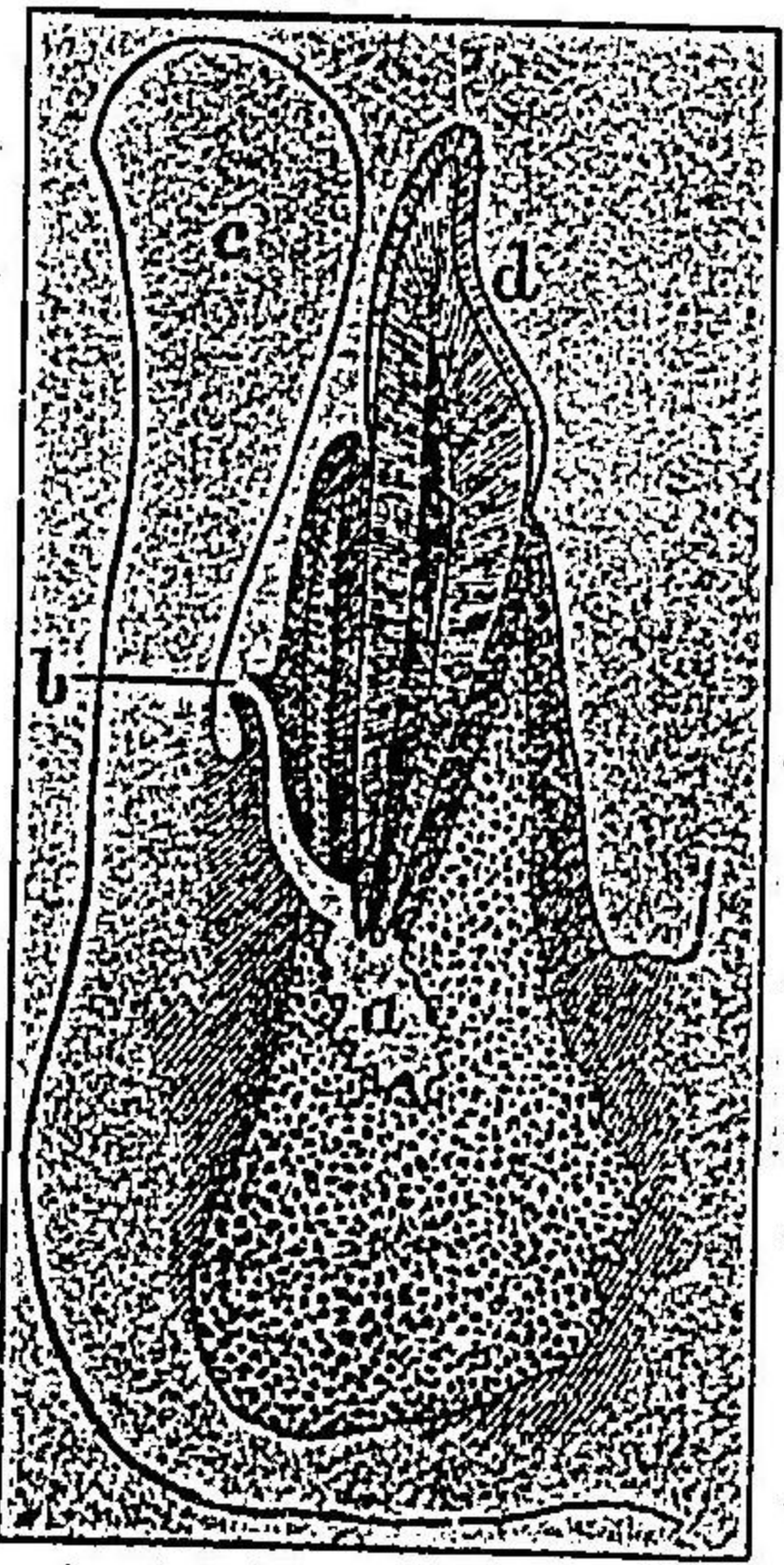
根管ヨリ膿汁ヲ漏出ス或ハ
單ニ殘根ナルコトアリト雖モ
又時トシテ永久充填ヲ施コ
サレタルモノニシテ一見之
レヲ識別シ難キコトナキニア
ラズ透照法及穿孔法ハ此際
缺クベカラザル鑑別法ナリ
無瘻膿瘍ニアリテハ之レ唯
一ノ排泄路ナルヲ以テ從テ



炎膿菌性端根性慢 圖六十三第
吸收ノ質骨及端根
(氏 ル メ ー エ 口)

比較的多量ノ膿汁ヲ根管內ニ滯留スベシト雖モ有瘻膿瘍ニアリテハ少量ナリ加
之前者ニアリテハ根管常ニ大ニシテ或ハ吸收擴大セラル、コトナキニアラズ
齒齦外頰部或ハ其附近ニ瘻孔ヲ認ムルコトアリ之レヲ絞レバ多小ノ膿汁ヲ漏出
シ探針ヲ挿入スレバ終末ハ硬固粗糙ナル物質ニ達ス齒槽骨之レナリ瘻孔ハ肉芽
ヲ以テ殆ト閉塞セラル、コト多シ

之ニ於テ更ニ當該齒牙ヲ精査スル
 ニ暗色不透明ニシテ多少延長弛緩シ
 打診ニ對シテ僅ニ反應ヲ呈ス剔刮冷
 熱共ニ疼痛ヲ生起スルコトナク髓腔内
 ニハ腐敗惡臭アリ周圍ノ齒齦ハ多少
 腫脹潮紅シ僅ニ壓痛アルヲ見ル



右膿瘍 圖七十三第

轉歸

化膿竈即膿囊及瘻管ヲ全ク清掃消毒スルキハ健全ナル肉芽組織ヲ生ジ
 其成熟ト共ニ治癒スベシト雖モ原因ヲ除去シテ消毒ヲ施コスコト不完全
 ナルキハ瘻孔忽チ閉鎖シ又忽チ開通シテ時々排膿シ長ク慢性膿瘍ノ經過ヲ持續
 ス但シ排膿路多少堅ク閉鎖セラレタルノ後有毒強力ナル化膿菌ノ新ニ感染スル
 キハ再ビ急性膿瘍ニ復歸スルコトアルベシ

類症鑑別

本症ハ之ヲ齒根膿腫及齒齦腫ト鑑別スルヲ要スルコト急性ノモノ
 ニ同ジ但シ前者トノ區別ハ全ク彼レニ同シキヲ以テ茲ニハ之ヲ
 省略シタリ

齒齦腫トノ鑑別ハ瘻孔消滅セルカ或ハ不明ニシテ齒齦ニ腫脹硬結アルキニ殊

ニ必要ナリ

慢性齒槽膿瘍

齒 齦 腫

- 一、急性炎ノ歴史 有ス 有セズ
- 二、腫脹 時々消滅シテ又顯ハル 發生後決シテ消失セズ
- 三、穿刺 膿汁ヲ排泄ス 然ラズ
- 四、瘻管 多クハ之レアリ ナシ

療法

排膿ノ部位ト齒根殊ニ根尖端ノ状態トニヨリテ治療上多大ノ差異アリ
 左ノ如シ

- (一) 無、瘻、膿、瘍、ノ、療、法、 左ノ順序ヲ以テ行フ
- 一、通法ノ如ク髓腔ヲ充分ニ開擴シ髓室及根管上部ヲ清掃洗滌ス
- 二、次テ防濕法ヲ施コシ根管ヲ「バイロゾン」ニテ充滿シ有針ヲ以テ根尖端ヨリ
 異物ヲ掃出シ且唧筒作用ヲ施コシテ消毒ス時々「バイロゾン」ヲ拭去シテ新鮮ナル
 モノヲ滴下シ殆ト全ク泡起セザルニ至リテ止ム
- 三、次テ水分ヲ拭去シ酒精ヲ以テ之レヲ乾燥セシム
- 四、是ニ於テ石炭酸龍腦、二十布仙石炭酸酒精溶液、改良「フェノール」等ヲ根管ニ滿シ

探針ヲ以テ唧筒作用ヲ行ヒ齒根端孔外ニ逸出セシム腐敗臭アルモノニハ「フォルモクレゾール」ヲ使用スベシ

五次テ藥液飽和綿球ヲ髓室ニ入レ「ストッピング」ニテ封塞ス

六、數日毎ニ此法ヲ反覆シテ根管ニ異臭ナク膿汁排泄セズ乾燥スルニ至レルト

キハ乃チ根管充填ヲ施コスヲ得ベシ

七、但數回ノ治療ニ係ラズ根管内ニ稀薄膿樣漿液ノ漏出止マサルヲアリ此ノ如

キモノニハ「バックレー」ハ知母爾○・六「ユーカリプトール」四・〇ノ合劑或ハ石炭酸加硫

酸溶液ヲ稱用シタリ三鹽化醋酸又用ユベシ然レモ尙頑固ナルモノハ人爲的ニ齒

槽壁ヲ穿孔シテ有癢膿瘍ニ變セシメ以テ治療ヲ施コスヲ却テ利アリ

(二)有癢膿瘍ノ療法、僅ニ殘根ヲ止ムルモノ或ハ齒冠ノ大部分破壊シテ髓床穿

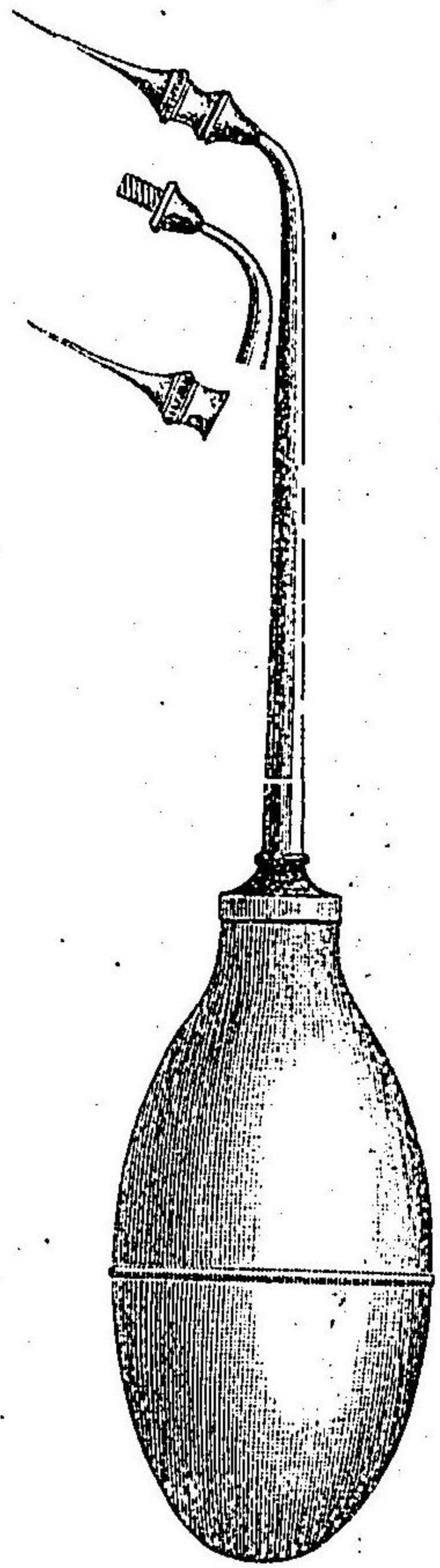
孔セルモノ等ハ猶豫ナク之レヲ拔去スベシト雖モ齒牙尙保存ノ價值アルキハ次

ノ順序ニヨリテ之レヲ處置スベシ

一、髓腔ノ開擴及ビ根管ノ消毒通法ノ如シ

二、齒齦ニ於ケル瘻孔ヲ擴大シ微細ナル匙狀剔子或ハ微細銳匙ヲ以テ瘻管内ノ

不良肉芽及齒槽骨面ノ粗糙部ヲ搔把スベシ



圖八十三第
器射注瘻膿

三次デ所謂根管通過法 *Irrigating Drenching* ヲ行フ即藥液ヲ根管ヨリ注入シ瘻管ヲ經テ

瘻孔ニ逸出セシムル方法ニシテ其術式ハ先ツ藥液ヲ滿シタル水銃ノ尖端ヲ深ク

根管内ニ挿入シ逆流ヲ防グタメ水銃ノ尖端ト根管壁トノ間ヲ堅ク綿、ゴム或ハ「パ

ラフィン」等ヲ以テ填塞シ然ル後徐々ニ注入スルニアリ通例先ツ滅菌水、或ハ硼酸水

等ヲ通過シ次グニ「バイロゾン」ヲ以テス其他石炭酸、メンタ水、メンタ水三〇〇石炭酸

二滴「レゾルチン」水「リゾール」水等又用ユベシ注射器ハ普通ノ皮下注射器或ハ特ニ

此目的ニ作ラレタル所謂膿瘍注射器ヲ使用ス

但根尖端ノ著シク吸收セルモノ或ハ腐骨小片ノ存在スル際ニハ一層濃厚ナル

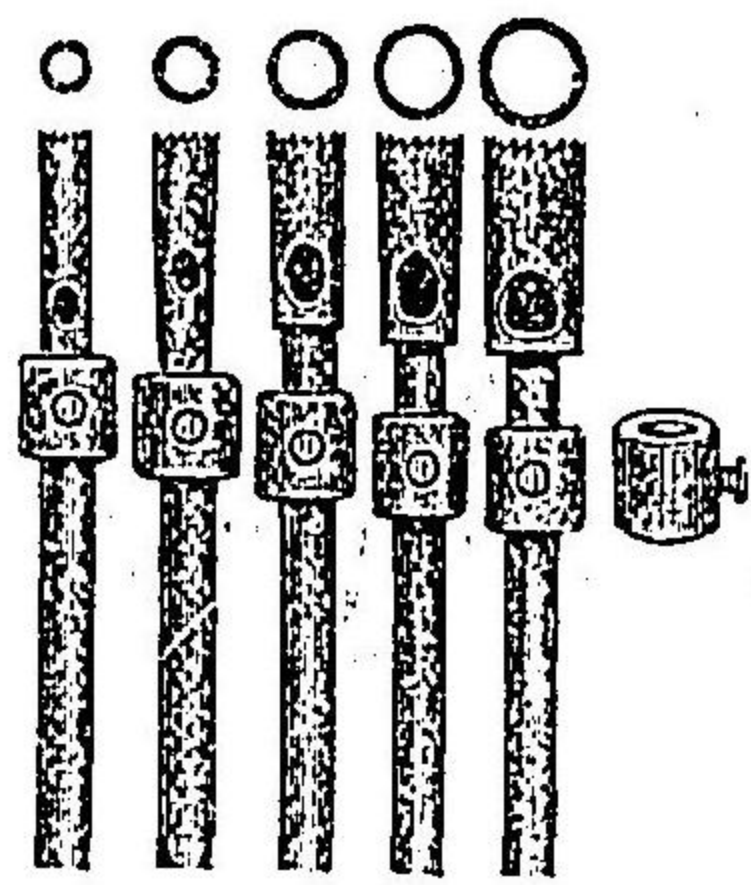
刺戟性藥液ヲ通過スルノ要アリ濃厚石炭酸、石炭酸加硫酸、三鹽化醋酸等ノ如シ此

ノ如キ場合ニハ此等ノ藥液ヲ飽和セシメタル綿子ヲ根管內ニ入レ其上ヨリ硫化
護膜片ヲ置キテ徐々ニ加壓シテ根管外ニ逸出セシムルヲ安全トス

四、通過法ヲ施コシタルノ後根管ヲ乾燥シテ「フォルモクレゾール」改良「フェノール」等
ノ消毒藥ヲ容レテ封塞シ瘻孔ニハ「ガーゼ」ノ小片ヲ入レテ其閉鎖ヲ防グ

五、數日毎ニ之レヲ反覆スルヲ數回ナレバ排膿全ク止ムベシ然ルキハ先ツ瘻孔
ヨリ「ガーゼ」ヲ除去シ其全ク癒合セルヲ確メテ後根管ニ異常ナケレバ乃チ之レヲ
充填スルヲ得

(三) 難治膿瘍ノ處置、如何ニ難治ノ膿瘍ト雖モ原因タル齒牙ヲ拔去スレハ忽チ
ニシテ治癒スルモノナリ然リト雖モ他ニ拔牙ノ適應症アルニアラサレバ單ニ膿
瘍ノ故ノミヲ以テ之ヲ拔去スルハ策ノ得タル者
ニアラズ其以前尙試ムベキ方法アリ齒根切除術
及再植術之レナリ再植術ハ患齒ヲ一度齒槽窩ヨ
リ拔去シテ病的狀態ヲ所置シ再ビ窩內ニ復歸シ
テ治癒セシムル方法ナリ更ニ齒牙再植術ノ條ニ
詳論スベシ



「孔穿氏」ガンヤ 圖九十三第

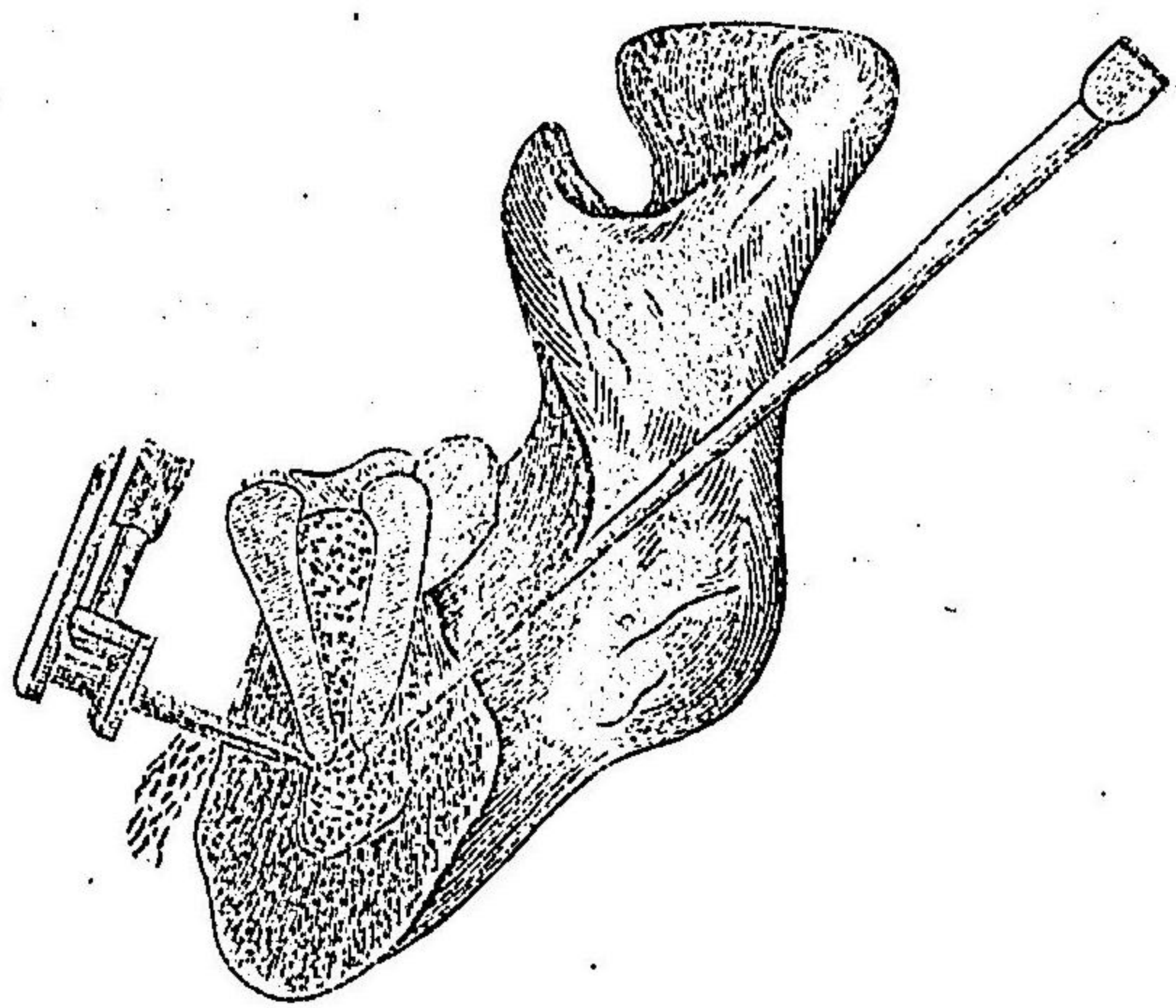
齒根切除術

Amputation of Root
Intrasection

ハ「ファーラー」(Farrar) (一八八〇年) ダン「デュム」(Dunn) (一八八四年) ス

ミス(一八八九年)等ノ研究ニヨリテ始メラレタル方法ニシテ殊ニ左症ニ適應ス 一、
根管充填下ニ於テ膿瘍ニ罹リタルキ 二、神經針ガ根管內ニ於テ破折シタルキ
三、白堊質肥大 四、齒根尖端ニ血石ノ附着シタルキ 五、齒根尖端ノ吸收セラレタ
ルキ等ノ如シ之ヲ行フニハ先ツ根管ヲ完
全ニ清掃消毒シ且永久の根管充填ヲナシ
置クヲ要ス次テ左ノ順序ニヨリテ之レヲ
施コスベシ

一、通法ノ如ク齒齦ヲ消毒麻醉セシメタ
ル後齒根ノ方向ニ併行シテ齒槽骨ニ達ス
ルマデ切開ヲ施コシ骨膜ヲ剝離シ鉤ヲ以
テ之レヲ兩側ニ壓排シ骨質ヲ露出ス或ハ
齒齦組織ヲ圓形ニ切除スルモヨシ
二、已ニ骨質ニ穿孔アルキハ之レヲ擴大
ス然ラザレバヤング「穿孔」子或ハ普通ノ



法除切根齒 圖十四第

局處刺戟ニシテ特ニ本症ト關係アルモノハ唾石、血石ヲ最トシ其他ノ齒齦縁ニ來ルモノ亦之ニ屬ス

唾石ト本症トノ關係ヲ最良ク研究シタルハリグス(一八七五年)ナリ、其他ナイル(一八八一年)ハ齒槽膿漏ノ二十五布仙ニハ必ラズ多量ニ唾石ノ存在スルヲ説キ且其ノ飲料水中ニ多量ノ石灰ヲ含有スル地方ニ多ク發見セラル、ヲ見タリト云フ唾石ニヨリテ誘起セラレタル齒槽膿漏ニ向ツテ種々ノ稱呼ヲ與エラレタリ淺在石灰性齒槽炎 Superficial calcic alveolitis (Wass) 石灰性齒膜炎 Calcic pericementitis (Black) 唾石性齒膜炎 Pthalogenic calcic pericementitis (Pines) 等ノ如シ

血石ハブラウン(一八七〇年)ガ初メテ之レガ原因トナルヲ説明シタル以來其少ナカラザル原因的關係アルヲ人ノ詳知スル處ナリ然リト雖モ或人ハ之レヲ以テ膿漏ノ原因ニアラズシテ却テ結果タルニトヲ主張セリ血石ニヨリテ生起セラレタル本症ニ對シテ附與セラレタル名稱種々アリ深在石灰性齒槽炎 Deep seated calcic alveolitis (Wass) 血流石灰性齒膜炎 Haematogenic calcic pericementitis (Black) 結節性膿漏 Nodular pyorrhoea (Barnet) 等ノ如シ

其他齒齦縁ニ加ハル所ノ局處刺戟中楔ノ適用、小楊子、齒刷子ノ亂用、不適當ナル

繼續齒、架工齒、咬合狀態ノ異常、齒牙ノ廢用、排列不正等何レモ之レガ素因タルヲ得ベキナリ

二、尿酸素質 マチト(一八七六年)シルレタイ(一八七六年)マーシヤル(一八九二年)ピアース(一八九二年)等何レモ體系中ニ於ケル尿酸鹽類ノ過剩ヲ以テ本症ノ原因トナシ痛風性齒膜炎 Gouty pericementitis ナル名稱ヲ附シタリト雖モ本症ハ尿酸素質ノミニヨリテ生起セラル、モノニアラズ要スルニ尿酸素質ノモノニアリテハ只極メテ有要ナル一素因ヲ作ルノミ蓋シ尿酸素質ヲ有スルモノニアリテハ組織ノ新陳代謝旺盛ナラズシテ抵抗力弱ク口腔液ハ變調シテ化學的刺戟ヲナシ易ク且齒膜ニ血石ノ沈着シ易キヲ齒石ノ條下ニ説明シタルガ如キヲ以テナリ

三、加答兒 本症ガ鼻腔其他ノ加答兒ト共ニ來リ(バスターソン一八八六年)又タ加答兒性素質ノモノニ多ク本症ヲ見ルニヨリ(スダグス一八八八年)或ハ加答兒ハ本症ニ前驅スルモノナリトナシ或ハ加答兒ヲ生ズルモノ即チ本症ノ原因ナリトナスモノアリ正ニ一大素因ヲナスヤ疑ヒナシ

四、遺傳 本症ハ直接ニ遺傳セラル、モノニアラズト雖モ本症ノ素因ヲナスモノニシテ遺傳セラルベキト多ク之レアリ例之痛風、佝僂質斯加答兒素質、生活力微

弱、排列不整齒等ノ如シ之レ本症ヲ遺傳性ニ見ルコトアル所以ナリ

五、全身ノ營養障害及慢性疾患 殊ニ熱性諸病、腎臟炎、糖尿病、癩癧、微毒慢性消化器病、貧血、白血病、萎黃病、佝僂質斯、痛風等ハ本病ノ素因ヲナス、之レ其組織抵抗力ヲ減却シテ細菌ノ侵入ヲ許シ、口腔液ヲ變調シテ粘膜炎ヲ刺戟シ、清掃不完ニシテ齒石ノ堆積ヲ容易ナラシムルニヨル

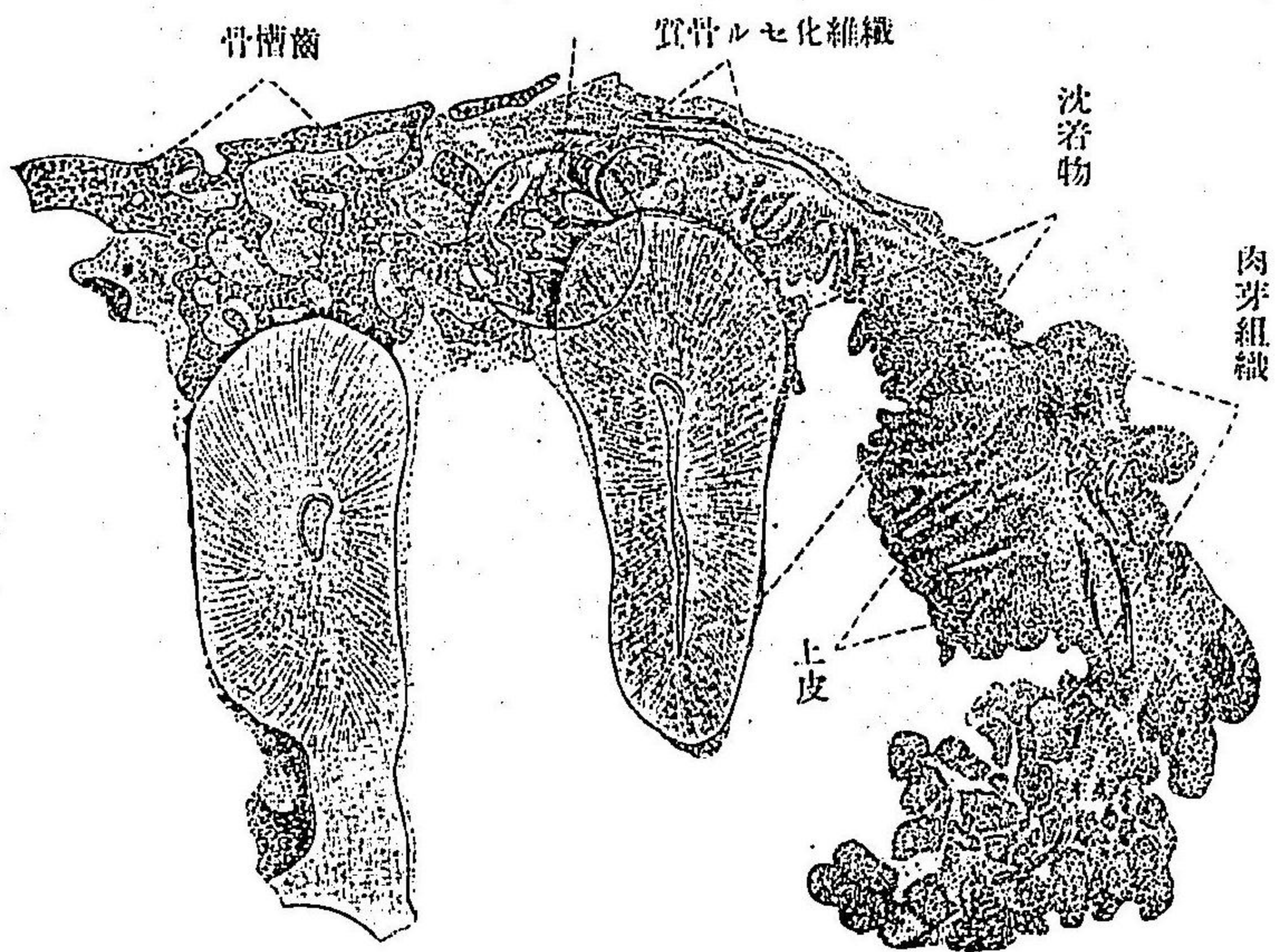
六、神經的疾患 神經衰弱、神經炎、歇斯的里、腦病、脊髓癆等ニ於テ本症ヲ見ルコト多シ之レ營養神經ノ機能障害ニヨリテ組織ノ營養減弱シ從テ其抵抗力衰微スルニヨルモノナリ

病理

齒槽膿漏トハ素ト臨床的ノ名稱ニシテ其中ニハ如何ナル組織ノ病的狀態ガ含マル、モノナルカニ就テハ古來異論ノアル處ナリトスセラシムルニ

八八〇年ハ本症ヲ以テ一種ノ齒齦緣炎ナリトナシスダッス(八八八年亦齒齦緣加答兒ノ末期ナリトナシウツツェル(八八二年)ハ之レヲ以テ齒槽骨ノ疾患ナリトセリ然レモ現今一般ノ信スル處ニヨレバ本症ハ化膿性齒膜炎ノ一形態ニシテ他ノ組織ニ於ケル病變ハ偶發的ノ者ニ過ギザルナリ恐クハ齒膜ガ已ニ他ノ素因ニヨリ頽廢狀態ニ陥リタルキ化膿菌ガ直接ニ或ハ間接ニ齒膜ニ入り此ニ慢性進行

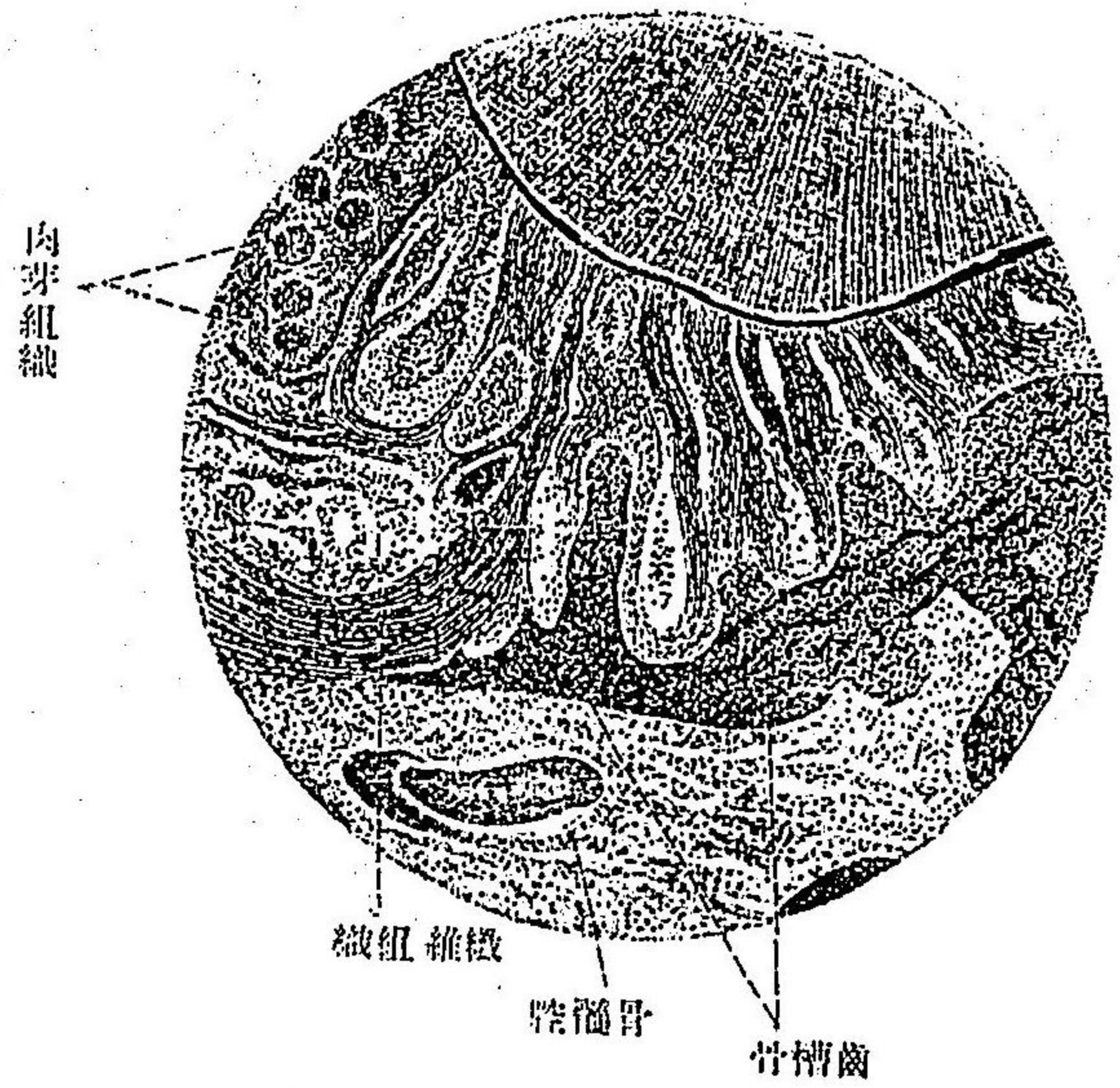
性ノ化膿ヲ生起シテ更ニ之レヲ頽壞セシメ其結果トシテ齒槽突起ノ營養ヲ奪ヒ吸收消失セシムルニ至レルモノナルベシ故ニ齒槽膿漏ノ生成ニ關與スル組織ハ齒膜ヲ主トシ齒齦緣及ヒ齒槽突起之レニ隨フモノニシテ病變ハ齒齦緣ニ最早ク目撃セララル、ガ如シ故ニ齒齦緣ハ早期ニ於テ已ニ或ハ萎縮シ貧血加答兒性狀態ヲ呈シテ扁平菲薄トナリ或ハ鬱血浮腫シテ增厚シ齒頸部ヨリ齦轉シ常ニ齒頸部ヨリ剝離シ小囊ヲ作為シテ膿汁ヲ潴留スルヲ見ルベシタルボット及ヒヅナメンス



第 四 十 一 圖 齒槽膿漏齒橫斷弱廓大
(ルメエロ)

キーハ其ニ本症ニ關シテ最大ナル病理組織的研究ヲナシタルモノニシテ兩者ノ
說相一致セザル處アリ

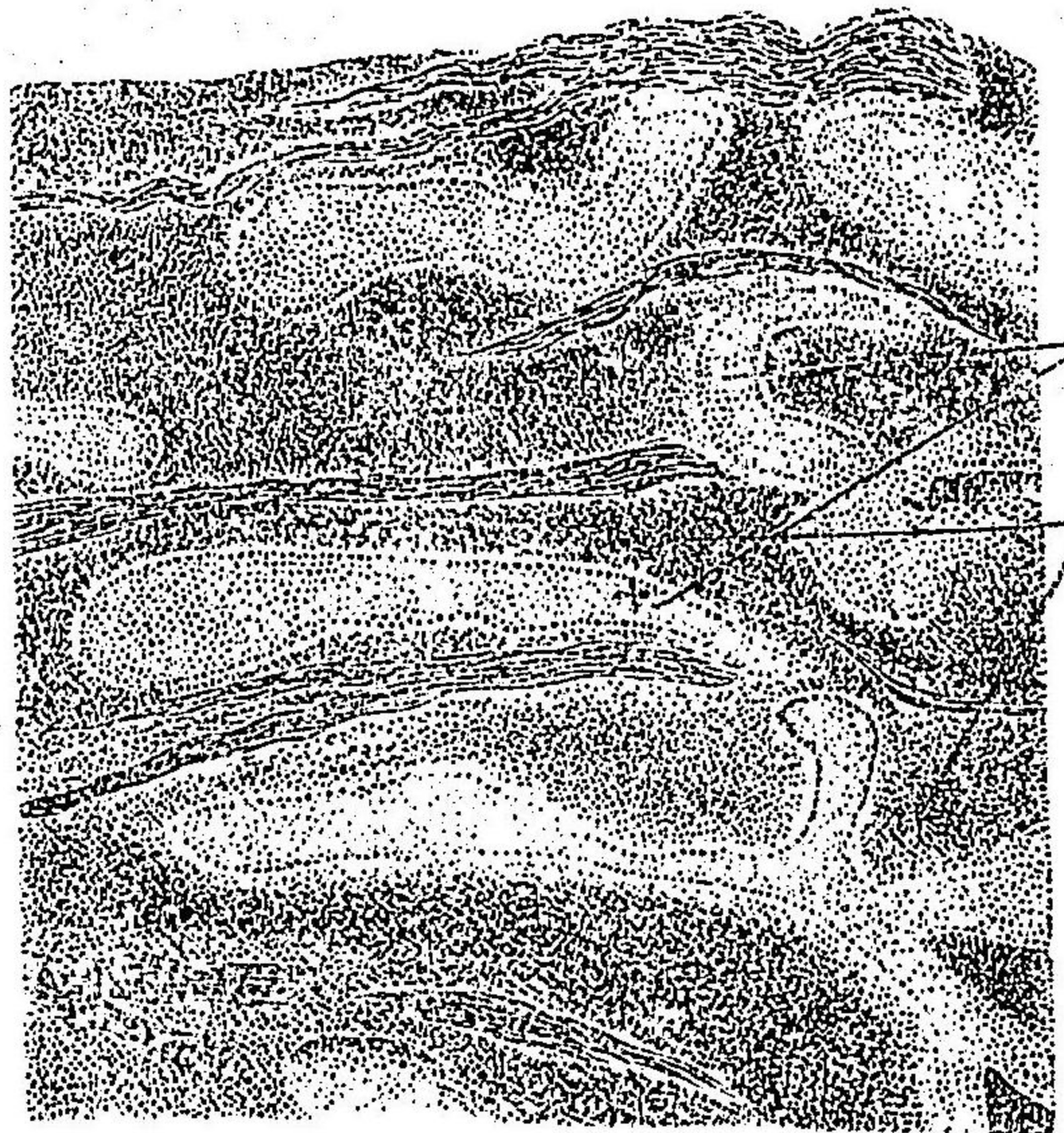
タルボットハ本症ヲ目シテ間質性齒齦緣炎 *Gingivitis interstitialis* トナシ其說ク處ニ
ヨレバ齒齦緣ハ初メ先ツ刺戟ニ
逢ヒテ結締織ノ増殖ヲ來シ同時
ニ之レヲ被蓋スル處ノ上皮細胞
モ亦増殖スルヲ以テ其表面殊ニ
齒頸部ニ相對スル面ニ無數ノ小
皺襞ヲ生ズ此皺襞ハ幾モナクソ
有機質ノ滿ス處トナリ次デ細菌
ノ繁殖場トナリ以テ組織内ニ細
菌侵入ノ門戸ヲ開クモノナリト
ツナメンスキー(一九〇二年)ノ說
ニヨレバ齒齦緣ニアリテ先ヅ化
膿性炎ヲ起シ其表面ニ生ジタル



大原度等中斷橫齒齦漏膿槽齒 圖二十四第
(氏ルメ一エロ)

上皮ノ剝離面ヨリ化膿菌侵
入シテ血管或ハ淋巴管ニヨ
リ齒膜ニ輸送セララル、モノ
ナリト云フ

オスカー、ルロー、メルノ說
ハ最至當ナル者ナルベシ氏
ノ說ニヨレバ或原因ニヨリ
テ齒齦緣ニ抵抗弱少部ヲ生
ズルヤ一方ニ於テハ先ヅ環
狀齒韌帶ノ破壞ヲ起シ他方
ニ於テハ細菌傳染ノ結果圓
形細胞ヲ以テ浸潤セラレタ



大原度等中斷橫齒齦漏膿槽齒 圖三十四第
肉芽組織増殖
(氏ルメ一エロ)

ル組織ヲ生ズ此浸潤組織ハ齒齦緣ヨリ由來スル處ノ上皮細胞ニヨリテ侵略セラ
レ且其増殖ニヨリ齒膜ハ徐々ニ齒根表面ヨリ剝離セラレ茲ニ所謂膿漿ヲ生ズ膿
漿ハ常ニ其中ニ多少ノ膿汁ヲ蓄藏ス膿ハ上記ノ如ク上皮細胞ニヨリ侵略セラレ

且細菌ノ進入ヲ蒙ムリタル肉芽組織ニヨリテ生成セラル、モノナリ、齒齦縁ニ於ケル此等ノ組織的變化ト相前後シテ齒膜及齒槽骨ニモ著シキ變化ヲ起スベシ即肉芽組織ノ侵入シ來レル附近ノ齒槽骨質ニハ局處的骨軟化ヲ生ズルモノニシテ先表層ニアル骨小體ハ死滅シ骨基質ハ溶解シテ粗密不同ナル結締組織トナル而シテ此纖維ハシャーパー纖維及尙現存スル基質中ノ纖維ノ末端ト相連絡スルモノニシテ病機ノ進行ト共ニ漸ク弛緩シ圓形細胞ニヨリテ浸潤セラレ序ヲ追フテ減少シ遂ニ全ク消滅シテ痕ニハ上皮塊ニヨリ侵略セラレタル肉芽組織ノミヲ遺スニ至ルベシ此ノ如キ變化ハ漸次蔓延シテ齒根ノ全周ニ達シ齒根尖端ニ及ビ遂ニ齒牙ノ植立ヲ危フスルモノナリト

膿嚢ノ形成ニヨリ露出セラレタル齒根ノ表面ハ常ニ粗糙ニシテ唾石或ハ血石ヲ附着シ或ハ不正ノ表層吸收ヲ呈スアルケヅノ説ニヨレバ膿漏齒根ノ深部ニ附着スル沈着物ハ普通ノ齒石ニアラズシテ膿ノ溶解作用ニヨリ白堊質中ノ石灰鹽ヲ溶解セシメ其一且溶解シタル石灰鹽類ガ再ビ沈降シテ生成セラル、モノナリト云フ蓋シ此ノ如キ現象モ稀ニ起ルコトナキニアラザルベシ

症候

患者ハ敢テ多大ノ自覺的障害ヲ覺ユルコトナシト雖モ多數齒牙ノ弛緩齒頸ヨリ膿汁ノ排漏及ビ冷熱ニ對シテ多少ノ疼痛ヲ訴フ蓋シ冷熱ニ對スル感受性ノ亢進ハ齒齦縁ノ退縮ニヨリ白堊質ガ露出シ其ノ知覺過敏ヲ生ジタルニヨルカ或ハ齒頸部ニ侵蝕症ヲ併發セルニヨル

本症ハ多クハ體質不良ニシテ痛風、痲瘋質、糖尿病、腎臟炎其他加答兒性素因ヲ有スルモノニ多ク來リ、齒牙ハ造構佳良ニシテ齶蝕其他ノ缺損少ナク且齒槽窩ヨリ挺舉セラレテ數々齒根ノ一部露出シ容易ニ動搖シ之レヲ注視スルニ齒頸部ニ唾石或ハ血石ヲ沈着シ且齒齦縁附近ニ小侵蝕面ノ形成アルヲ見ルベシ

齒齦縁ハ或ハ鬱血暗色ヲ呈シテ浮腫弛緩シ或ハ萎縮蒼白トナリテ退縮セルヲ見ル常ニ齒頸部ヨリ剝離シ小囊ヲ形成シテ膿汁ヲ滲溜シ齒齦縁ヲ外部ヨリ齒根ニ向テ壓搾スレバ膿汁ヲ漏出ス之レ膿漏ノ稱アル所以ナリ其他齒槽突起ノ吸收セラレタル片ハ齒齦縁附近ニ健態ノ抵抗ナク且此部ニ組織ノ凹陷ヲ呈スルコト稀ナラズ又齒齦縁ノ剝離ニヨリ齒頸部ニ生ジタル膿嚢ヲ檢スルニ探針ヲ以テ觸診スレバ齒根ノ表面ニ沿フテ多少ノ深サニ達シ内ニ膿汁ヲ容ル齒根ハ表面粗糙不同ニシテ小結節狀ヲナセル血石ヲ附着ス

轉歸

本症ハ經過極メテ緩慢ニシテ種々ナル治療法ニ抵抗シ齒牙疾患中最難治ナルモノ、一ナリ其轉歸左ノ如シ

一、治癒 病機ノ初期ニ於テ原因ヲ完全ニ除去シ得ヘキモノハ適當ノ療法ニヨリ其生機ヲ復得シテ治癒スベシ體力旺盛ナルモノニ於テ局所的原因ニヨリ發起シタルモノヲ殊ニ然リトス

二、急性齒膜炎ヲ惹起ス 齒槽膿漏ニ陥リタル齒膜ハ抵抗力極メテ微弱ナルヲ以テ殆ト認知シ難キ輕微ノ原因ニヨリ刺戟ヲ受ケテ急性齒膜炎ヲ惹起シ稀ニ急性齒槽膿瘍ノ形成ニ終ル口腔不潔ナルモノ、高度ノ飲酒家、小楊子ヲ亂用スルモノ等ニ於テヨク見ル處ナリ

三、齒髓炎ヲ生ズ 齒膜ニ於ケル病變漸ク根尖端ニ向テ進行スルヤ其刺戟齒髓ニ傳搬シテ急性齒髓炎ヲ生シ劇烈ナル齒痛ノ原因トナル其變化徐々ニ起ルキハ齒髓ハ徐々ニ壞死シテ障害ヲ生ズルコトナシ

四、齒牙ノ脱落 膿漏已ニ晚期ニ達シ如何ナル方法モヨク齒膜ノ萎微ヲ醒起セシムル能ハザルキハ齒膜ハ漸次頽廢ノ度ヲ増シ齒槽突起消失シテ齒槽窩漸ク淺小トナリ齒牙ハ漸次延長シテ遂ニ全ク脫出スルニ至ルベシ體質不良ナルモノ、除

去シ難キ全身素因ヲ有スルモノ、高齢者ニ於ケルモノ等ニ多シ

療法

原因ヲ芥除シ齒牙ニ安靜ヲ與ヘ已ニ侵入セル病原菌ヲ撲滅セシメ且新ニ侵入セントスルモノヲ防止セントスル目的トス但本症ヲ起セルモノハ全身ノ營養及局處ノ抵抗共ニ減少セルコト多キヲ以テ之ヲ改善セント亦必要ナリ大概左ノ如シ

一、原因ヲ除去ス 之レ本症ノ治療ニ於ケル死活問題ニシテ最大ナル研究ヲ要スル處トナス痛風、癩、質斯等ノ疾患アルモノハ之ニ向テ必要ナル療法ヲ施コスト同時ニ其生活機ヲ旺盛ナラシメンガタメ運動ヲ活潑ニシ浴湯ヲ頻繁ニシ日々多量ノ鑛泉ヲ飲用シ便秘等ノナキ様注意スベシ營養不良、貧血等ノ患者ニハ甘菜、沃鐵舍利別、フエラト、セ、其他ノ鐵製劑ヲ投與シテ効アリ多量ニ喫煙飲酒スルモノハ之レヲ節制セシメ、口腔不潔ナルモノハ其清掃法ヲ勵行セシメ、唾石、血石ノ存在セルモノハヨク之レヲ掃去ス些少タリヒ疑念アル者ハ直ニ檢尿シテ蛋白質糖分ノ存否ヲ精査スベシ

二、局處的清掃及ヒ消毒 齒牙ニ沈着シテ刺戟ヲナス處ノ異物ヲ悉ク清掃シ不良ナル肉芽組織ヲ除去シテ創面ノ癒合ヲ催シ且化膿ノ主働者タル處ノ細菌ヲ撲

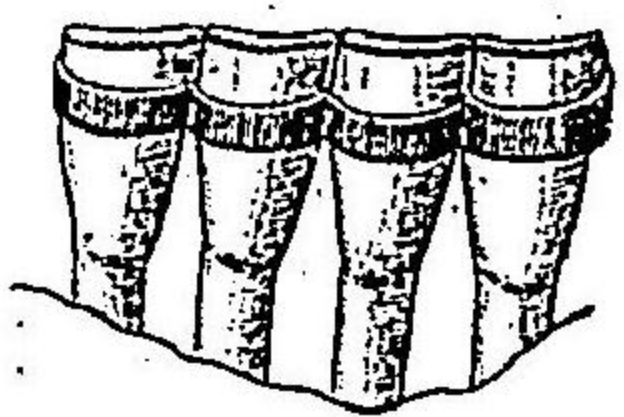
滅スルヲ要ス

沈着物ハ先ツ通法ニヨリ器械的ニ唾石及血石ヲ除去シタルノ後膿嚢内ヲ五布仙ノ乳酸或ハ芳香硫酸或ハ三鹽化醋酸等ノ稀釋水溶液ヲ以テ反覆洗滌シ齒根表面ニ附近セル屑片ト雖モ尙存在セザル様注意シテ溶解除去ス

不潔ナル肉芽組織ヲ除去スルニハ銳匙又ハ刀ヲ用ヒテ莖狀ヲナセルモノヲ切除スルカ或ハ腐蝕劑ヲ用ヒテ之ヲ腐蝕セシムルヲ常トス石炭酸濃厚溶液、フェノール、硫酸硝酸銀結晶等ヲ使用スルモノ多シ電氣燒灼法亦用ユベシ

膿嚢ノ消毒ニ向テハ種々ノ方法行ハル「バイロゾン」過酸化曹達、石炭酸類、硫石炭酸亞鉛、沃度仿謨類、桂皮油加「アリストール」、一布仙昇汞水等ノ消毒藥ノ外左記ノ處方ヲ用ユルモノアリ就中沃度、グリセロールノ弊價最高シ

- 一、沃度 三・〇 沃度亞鉛 一・八 僱里設林 一・二〇 水 一・二
- 右沃度「グリセロール」二週一乃至二回膿嚢内ニ注入(タルボット Talbot)
- 一、微細沃度仿謨粉末 五・〇 アラビヤゴム 二・五 グリセリン 八・五 蒸餾水 五〇・〇
- 右膿嚢周圍ノ齒銀ニ注射ス(ハイテック Heithecke)



圖四十四第 帶綴續連

一、ゲアヤコール 二・〇 華攝林 一・〇 巴拉フィン 七・〇

右膿嚢内ニ注入ス(サラチン Sarazin)

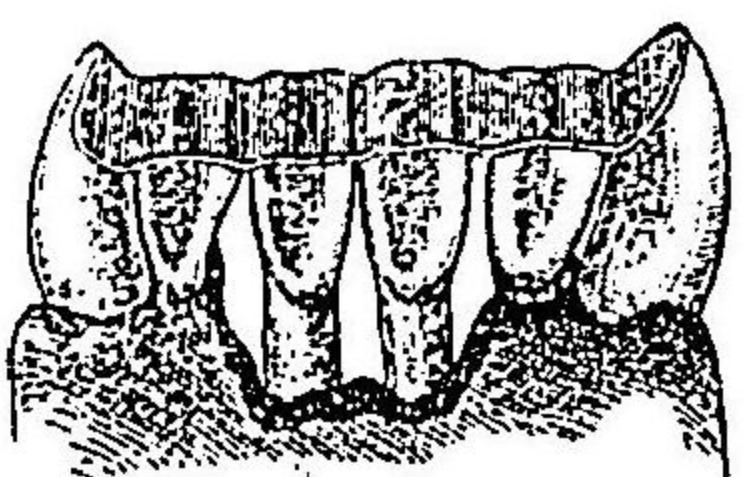
一、次硝酸砒鉛 三・七〇 黄色華攝林 六・三〇

右膿嚢内注入料(ヤック Leck)

三、齒牙ノ安靜 次デ齒牙ヲシテ安靜ヲ得セシメザルベカラズ故ニ先ヅ當該齒牙ノ咬合状態ニ注目シ不正ナル部分アレバ之レヲ矯正或ハ鑢刮スベシ殊ニ多少弛緩セル齒牙ニ於テ最喫緊ナル事ナリトス

弛緩齒ハ之レヲ其位置ニ固定セザレバ安靜ヲ得セシムルコト能ハズ、固定ヲナスニハ普通ノ結紮糸ヲ用ヒテ緊縛シ數日毎ニ其結紮ヲ新ニスルモ佳ナレモ最モ輕便且安全ナルハ當該齒牙ト兩隣齒トニ亘ル連續銀帶或ハ連續齒帽ヲ作り之レヲ「セメント」ニテ合着シ置クニアリ

四、防蝕性含嗽料 口腔ヲ清潔ニシテ醗膿作用ヲ制止スルニ缺クベカラザル處ノ者ナリ、患者ハ絶エズ之レヲ以テ含嗽セザルベカラズ此目的ニ用ユルモノ種々アリ「バイロゾン」「リステリン」「硼酸」「メント」水等之レニ適スト雖モ左ニ列舉スルモノ亦ヨシ



圖五十四第 帶綴續連

齒槽膿漏

二百十

一、知母附 〇・一 安息香酸 二・〇 有加里丁幾 五・〇 水 五〇〇・〇

右含嗽料

一、密兒拉丁幾 五・〇 刺腎鹽爾精 九五・〇 サツカリン 〇・五

右口洗料 半茶匙ヲ一合ノ水ニ稀釋シテ用ユ

一、炭酸石灰 一〇〇・〇 藥用石鹼 一五・〇 知母附 〇・五

メシタ油 〇・五 カリセリン 適宜爲糊狀

右煉製磨齒料

五、齒髓ノ抽出 膿漏齒ノ難治ナルモノハ其齒髓ヲ失活セシメテ抽出スレバ好果ヲ收ムルコトアリ或人ハ之ヲ以テ齒髓ヲ營養シタル血液ガ代價的ニ齒膜ヲ一層盛ニ營養セシムルニヨルモノナリト説明シタレモ極メテ疑ハシ然レモ其効果アルハ正ニ事實ナリ他ノ方法ヲ以テ治癒シ難キモノニハ試ムベキ方法ナリ、パックレハ此方法ノ適應症トシテ 一、膿嚢ノ深ク且根尖端部ニ於ケル病原菌ノ傳染已ニ齒髓ノ生活力ヲ低減セシメ其失活早晚避クベカラサルモ 二、齒根表面露出シテ高度ノ知覺過敏ヲ起シ始終患者ヲ惱マシムルモ及 三、永久の保持固定裝置ヲ合着スル必要アリタルモ三ヲ擧グタリ之ヲ行フニハ徐々ニ便宜ナル部ニ齒質ヲ穿孔シテ亞硫酸失活法ヲ行フモ佳ナレモ齒根内注射法ニヨルハ更ニ一層便

ナリトス

六、外科的方法 齒槽膿漏ノ晚期ニ達セルモノハ拔齒ノ他ニ救治ノ方法ナシ例之高度ニ弛緩セルモノ、齒根ノ過半露出セルモノ、齒根尖端ノ吸收セラレタルモノ、齒槽突起ノ吸收消失セルモノ、反覆急性膿瘍ヲ生起スルモノ等ノ如シ拔齒ヲ施ス以前ニ先ツ再植術ヲ試ムルモ佳ナレモ概シテ癒合機旺盛ナラザルヲ以テ効果滿足ナラズ

多根齒ニ於テ一根ノミ侵略セラレタルモ之ヲ切除シテ健康ナル他ノ齒根ヲ以テ維持セシムルモヨシ然レモ其永久の效果ヲ期シ難シ

七、細菌學的療法 近來細菌學的方法ニヨリ齒槽膿漏ノ治療ヲナスモノアリ、オゾンニ治療法及ビオチンナールゼヲ主ナルモノトナス

「オゾン」療法 Ozone Treatment. 血清中ニ特殊ノ物質アリ細菌ニ逢會スルモ之ヲシテ白血球ニ貪喰サレ易カラシムライト Wright ハ之ヲ「オゾン」ト命名シ血清ノ此作用ヲ「オゾン」力ト呼稱シタリ、血清ノ「オゾン」力ハ健康ト病態トニヨリテ同シカラズ且個人ノ傳染ニ對スル抵抗力ニヨリテ相異アリライトハ多數ノ傳染病者ニ就テ死滅セシメタル當該病原體即「バクシオン」 Bacterin ヲ注射シテ其

血清ノ「オプソニン」カヲ増進セシムレバ其治療的効果頗良好ナルヲ實驗シタリ此理論ニ基キテ「ゴドビー」(Godby) (一九〇七年)ハ葡萄狀球菌「バクシーン」ヲ膿漏患者ニ注射シテ好果ヲ收得シタル報告ヲナセリ頗ル興味アル方法ナレト特殊ノ設備ヲ要シ一般開業醫師ノ應用ニ適セズ而カモ現今尙毀譽相半バシ一定シタル結論ニ達セザルモノトス

「ピオチヤナーゼ」(Ptyocinase) ハエムメリヒ及「レウ」ウガ綠膿桿菌ノ肉汁純粹培養ヨリ得タル溶菌性酸酵素ニシテチンメルマン及ローマン等ハ頻リニ其齒科的應用ヲ説ケリ蓋シ本品ハ中等濃度ノ帶綠褐色液ニシテ比重ハ頗高ク固有ノ臭氣ト強キ鹹性芳香味ヲ有シ頗ル分解シ易シ其重要ナル性質ハ一ハ「プロトプラス」ヲ分解シ細菌ヲ死滅セシムルト一ハ「義膜」分泌液、滲出液等ヲ溶解消失セシムルトニアリ而シテ其細菌「プロトプラス」ノ溶解作用ハ只ニ綠膿菌ニ對シテ起ルノミナラズ其他數多ノ細菌ニ對シテ行ハル、モノナリ即チ無數ノ肺炎菌ハ三分間ニシテ死滅ニ歸シ「コレラ」菌及「麻毒菌」ハ五分間ニ實扶的里菌、連鎖球菌及「腦膜炎球菌」ハ何レモ十分間ニ「赤痢菌」ハ三時間ニシテ「葡萄狀球菌」及「空扶斯桿菌」ハ二十四時間ニシテ何レモ撲滅セラレベシト云フ其他健康組織ニ毫モ惡影響ヲ及ホスコトナクシテ

而カモ病的蛋白質及組織細胞等ヲ溶解セシムル本品ノ作用ハ夫ノ凝固性アル化學的消毒殺菌劑ニ勝ル點ナラズンバアラズ故ニ齒槽膿漏ニ向テハ患齒附近ヲ防濕シタル後本品ノ數滴ヲ膿囊内ニ滴下スレバ頗ル良好ナル効果ヲ收ムベシト云フ然レモ不快ナル香味ヲ有シ頗ル分解シ易ク且効果ノ常ニ確實ヲ期シ難キノ短アルモノト稱スベシ

第七章 齒膜疾患治療概論

夫レ齒膜ハ齒槽窩内ニ於テ白堊質ト齒槽突起トノ兩硬組織間ニ介在シ其上緣ハ齒齦組織ニ移行シ齒齦ハ其邊縁ニ於テ硬ク齒頸ヲ周繞セルヲ以テ健康ニアリテハ齒膜ハ外界ニ露出スルコトナシ故ニ齒膜ノ疾患ハ主トシテ周圍組織疾患ノ波及ニヨリテ生ズルモノニ自發的ニ起ルコト極メテ稀ナリ只齒牙ヲ媒介者トシテ齒膜ニ加ハル器械的刺戟及ヒ血流ニヨリ齒膜ニ輸送セラル、有害成分ノ刺戟等ハ他部ニ關係ナクシテ齒膜ニ自發的疾患ヲ生起セシムルコトアルベシ然レモ齒膜疾患ノ多クハ周圍組織殊ニ齒髓及ヒ齒齦縁ヨリノ波及ニヨルコト多シ一ハ先ツ齒根尖端部ニ發起シ他ハ齒頸周圍部ニ始マルモノトス

然リ而シテ一朝齒膜ノ疾患ヲ生起スルヤ之レニヨリテ營養ヲ受クル處ノ白堊質及ヒ齒槽突起ハ共ニ其累ヲ蒙リ一方ニ於テハ白堊質ト齒槽窩壁トノ連結力ヲ弱カラシメ他方ニアリテハ齒槽突起ノ營養不給ノ結果トシテ漸ク其萎縮吸收セラル、ヲ見ルヘシ之レ齒膜ノ疾患ニアリテ齒牙ノ植立漸ク弛緩シテ終ニ脱落スルヲアル所以ナリ

概スルニ齒膜ノ疾患ハ之ヲ治療スル頗ル困難ニシテ多數ノ時日ヲ要スルモノトス蓋シ齒膜ハ常態ニアリテハ齒根ト齒槽窩内壁トノ間ニ介在シ之レニ直達スルヲ難ク僅ニ齒頸部ニ於テ其上縁ヲ視齒根尖端孔ヲ通シテ其根端部ヲ窺知スルヲ得ベキノミ故ニ之ニ治療的効果ヲ致サシメンニハ左ノ方法ノ一或ハ數者ヲ撰マザルベカラズ

一、齒頸部ニ於テ齒膜上縁ニ治療ヲ施コス 之レ齒頸部ニ加ハル刺戟ノタメニ生起セラレタル齒膜疾患及ヒ齒頸部ニ疾病主坐ノ存スル齒膜疾患ニ向テ殊ニ有効ナリ例之唾石、義齒、異物、變性唾液等ノタメニ生起セラレタル齒膜疾患殊ニ周圍性齒膜炎、齒槽膿漏等ノ如シ此等ノ疾患ハ其主因ヲ除キ齒頸部ヨリ治療スレバ殆ド常ニ治癒セシムルヲ得ベシ

二、無髓齒根管ヲ通ジテ根尖端部ノ齒膜ニ治療ヲ施コス 齒膜疾患ノ多數ガ無髓齒ト多大ノ關係ヲ有スルヲハ前陳シタルカ如シ故ニ根管內ヨリ刺戟性物質ヲ去リ根端孔ヲ通シテ藥液ヲ齒膜ニ送クルハ頗ル多大ノ効果ヲ收得スルヲ得ベシ根端附近ニ限局セル齒膜疾患ヲ治療スルニハ缺グベカラザル方法ナリ例之根端性齒膜炎、無髓膿瘍等ノ如シ

三、患齒根側齒齦上ヨリ間接ニ齒膜ニ治療ヲ施コス 齒膜ハ齒槽突起ヲ隔テ、其外側ニ存スル骨膜及齒齦ト親密ナル血流的關係ヲ有ス故ニ今患齒根側ノ齒齦上ニ藥劑ヲ塗布スレバ其効果ヲ直接或ハ間接ニ齒膜上ニ致サシムルヲ得ベシ例之齒齦上ニ刺戟劑ヲ塗布シテ齒膜ニ鬱積セル血液ヲ誘導シ或ハ齒齦ニ亂刺ヲ施コシテ瀉血スルガ如シ吸引療法、水蛭等亦之レニ屬ス

四、齒齦齒槽突起ヲ穿通シテ齒膜ニ治療ヲ施コス 齒膜疾患ニシテ齒根尖端附近ニ占位シ根管內ヨリ満足ナル治療ヲ施コシ能ハザルハ即外側齒齦ヨリ齒槽突起ヲ穿通シテ治療スルヲ有益ナリ例之齒根端ニ血石ノ沈着、神經針ノ根端外逸、出齒根肉芽腫、齒根囊腫、齒槽膿瘍等ノ如シ此等ノ治療ヲ施コスニハ已ニ齒齦ニ存在シタル瘻管ヲ撰ムモヨシト雖モ瘻管ノ存セザルハ齒齦骨膜ヲ切開剝離シテ

齒槽突起ヲ穿孔セザルベカラズ然ル後病的狀態ニ應ジ或ハ銳匙ヲ以テ抓把シ或ハ齒根端ヲ切除シ或ハ根管ヨリ藥液ヲ通過ス茲ニ生ジタル組織ノ缺損ハ肉芽ノ新生ニヨリテ漸次填塞セラレベシ

五、齒牙再植術ヲ施コス 上記ノ方法ニヨリテ治シ難キ齒膜疾患アリ而カモ其齒牙ヲ保存スルコト頗ル必要ナリト認メラレタルキハ其上ニ植立セル齒牙ヲ一度拔去シ其病原ヲ悉ク除去シ充分ナル治療ヲ加ヘ然ル後再ビ齒牙ヲ舊位ニ整復治癒セシムベシ齒根ノ廣面ニ血石ノ沈着シタルキ慢性難治ノ膿瘍肉芽腫囊腫等ノ場合ニ用ヒラル、トアリ

六、拔齒ヲ施コス 齒膜疾患治療ノ最後ノ手段トシテ拔齒術アリ蓋シ齒牙ヲ拔去スレバ齒膜ニ加ハル凡テノ刺戟ヲ除去スルヲ得ベク且齒膜中ニ於ケル病的組織ヲ悉ク排除スルヲ得ベケレバナリ然レモ他ノ保守的方法ヲ以テ治療シ得ベキ齒膜疾患ニ向テ拔齒術ヲ施コスハ耻ツベキノ所行ナリ他ニ拔齒術ノ適應症アルニアラザレバ決シテ施コスベカラズ

第四綱 口腔粘膜炎及齒齦疾患

第一章 口腔粘膜炎

第一項 器械的損傷

Mechanische Verletzungen.

器械的損傷ヲ起ス原因トナルモノハ或ハ外界ヨリ到達スルアリ或ハ

咬嚼咀嚼運動等ニヨリテ起ルコトアリ口腔粘膜炎ノ何レノ部分モ之レヲ免カル、ト能ハズ

口唇ハ顛倒墜落等ノ際數々毀損セララル其實質中ニ齒牙ノ穿入スルキハ顯著ナル挫碎或ハ銳利ナル彫開ヲ顯ハスコトアルベシ其他口唇ハ偶然之レヲ齒間ニ咬取スルニヨリテ損傷ヲ受クルコトアレモ通例極メテ單純無意味ノモノタリ

齒齦ハ齒刷子ノ粗剛ナルモノヲ使用シ小楊子ヲ亂用シ或ハ對顎ニ於ケル尖銳齒牙ノ咬合スルモノアル等ニヨリテ微細ナル損傷ヲ生ズルコト頗ル多シ殊ニ其ノ發炎浮腫セルモハ上皮ノ剝離ヲ生ズルコト頗ル容易ナリ通例忽チニシテ自ラ治癒スレモ或ハ化膿菌ノ侵入ニヨリ發炎化膿スルコトアリ又出血素質ヲ有スルモノニアリテハ少ナカラザル出血ヲ生ズルコトアルベシ

舌ハ咬嚙ニヨリテ損傷ヲ蒙ルルハ頗多シ或ハ惶急ナル咀嚼ニ基キ或ハ舌ノ知覺機ニ異常アルニ依ルル常ナリ癩癩發作中舌ノ咬傷ヲ生ズルハ吾人ノヨク知ル處ナリ或ハ顛倒墜落シテ下顎骨ヲ打撲シタルノ際兩齒間ニ舌ヲ挟ミテ意外ノ損傷ヲ蒙ルルコトアリ時トシテ其大部分ヲ咬裂シ又時トシテ齒牙ノ破片ガ其實質中ニ穿入シテ埋没セラレタル儘發見セラレズシテ長ク其位置ニ留マルコトアリ或ハ異物ノ侵入ニヨリ刺傷切傷其他ノ損傷ヲ生ズルコトアリ鳥獸魚類ノ尖銳ナル骨殼物顆粒等ノ如シ此等ノ異物ハ其刺戟ニヨリ發炎化膿ヲ致サシメテ瘻孔ヲ形成スルニ至ルコトナキニアラザルモ又長ク發見セラレザルコト之レアリトス此ノ如キ損傷部ヨリ放線狀菌ノ侵入シタル例亦少ナカラズ其他銃傷ノ舌ニ顯ハル、コト又數々之レアリ

口蓋ハ比較的損傷ノ顯ハル、コト少ナク其來ルヤ或ハ開口シタル際硬固尖銳ナル抵抗物(棒其他ノ如キ)ニ遭遇スルニヨルカ或ハ兩唇間又ハ齒間ニ硬固物質ヲ銜ヘテ前方ニ顛倒スルニヨル故ニ小兒ガ喇叭等ヲ銜ヘテ遊戯スルノ際又ハ成人ガ煙管短笛鉛筆等ヲ銜ヘタル際ニ起ルコト最多シ或ハ粘膜上皮ノ單純ナル剝脫ヲ生ジ或ハ粘膜骨膜層ヲ瓣狀ニ剝離シテ骨質ヲ露出シ或ハ口蓋ヲ穿通シテ鼻腔ニ達スルコトアリ

頰粘膜ノ損傷ハ或ハ齒間ニ咬取セラル、ニヨリ或ハ外部ヨリ齒牙ニ向テ壓迫セラル、ニヨリ或ハ齒牙ノ粗糙縁ト磨擦スルニヨリテ生ズ刺創アリ切創アリ挫創裂創アリ銃創亦之レアリ

口腔底粘膜ノ損傷ハ最稀有ニシテ極メテ複雑ナル方法ニヨルニアラザレバ之レヲ生ズルコトナシ

療法

凡ソ口腔粘膜ノ損傷ハ其治癒力ノ旺盛ナルガタメ數時間乃至數日間ニシテ忽チ自然ニ癒合スルモノナリト雖モ之レヲ放置スレバ病原菌ノ侵入ニヨリ不測ノ危害ヲ生ズルノ患又ナキニアラズ故ニ其損傷ノ程度ニ應ジテ早ク之レヲ處置スルヲ要ス

縫合ハ創口ノ哆開大ナルモノニノミ必要ナリ若シ其多少傳染ノ疑アリタルハ創口ヲ清拭シ沃度仿謨粉末少許ヲ塗布シテ而シテ後縫合スルヲ安全トス(ミクシクツ氏)出血ハ持續性壓迫ニヨリ充分之レヲ制禦シ得ベシ創面淺小ナルハ單ニ沃度仿謨ヲ撒布シ其深大ニシテ化膿ノ疑大ナルモノニハ沃度仿謨「ガーゼ」ヲ以テ填塞スルヲ更ニヨシトス其他日々口腔創面ヲ清掃シ防腐性含嗽料ヲ投與スルコト

通法ノ如シ

第二項 毒瘡性潰瘍

Decubital Ulcer
Dentulous Stomatitis

破壊齒牙ノ粗糙縁適合不良ノ義齒矯
正装置充填物等ノ摩擦ニヨリ口腔粘

膜ノ隨處ニ壓迫潰瘍及毒瘡性硬結ヲ生スルヲ決シテ稀ナラズ舌縁頰唇齒齦等ニ
來ルヲ最多シ惡性腫瘍及微毒性潰瘍ト誤認セラレ且此部ヨリ腫瘍ノ發生ヲ起ス
コアルニヨリ頗ル注目セララル

初メ先刺戟ニ面スル部ニ上皮ノ剝離ヲ生ジ次デ其周圍ニ慢性炎性浸潤ヲ起シ
幾モナクシテ細小ナル潰瘍ヲ形成ス潰瘍ハ漸ク増大シテ小豆大乃至豌豆大ニ達
シ周圍組織ヨリ僅ニ高起シ基底ハ平坦ナルカ或ハ少シク漏斗狀ヲナス觸診スレ
バ軟骨様硬度ノ硬結ヲ感知スベシ潰瘍面ノ知覺ハ極メテ鋭敏ナラズ咀嚼嚥下ニ
方リ或ハ刺戟性食物ノ攝取ニ際シ不快感ヲ覺ユルノミナルコアレモ時トシテ
談話ニモ尙且鋭痛ヲ生スルコアルベシ

經過ハ短小ニシテ原因ノ除去後八乃至十日ニシテ治癒スルコト常ナリ然レモ長
ク放置セララルハキハ腫瘍ノ發生地トナルコトアリ殊ニ癌腫ノ遺傳アルモノニ於テ
ハ頗ル危険ナキニアラズ此種ノ潰瘍ハ遺傳及年齡ニ關係ナク器械的刺戟ノ加ハ

ル部位ニ生ジ出血ノ患ナク原因ヲ除去スレバ忽チニシテ治癒シ且附近淋巴腺ノ
硬結ナキヲ以テ容易ニ微毒及癌腫性潰瘍ト鑑別セラル但疑ハシキ場合ニハ組織
的検査ヲ要スルコアルベシ

齒牙ノ銳縁ヲ平滑ニシ義齒充填等ノ粗糙部ヲ研磨シ單純ナル無刺戟性含嗽科
ヲ與フレバ數日ニシテ治癒スベシ潰瘍面ニハ硝酸銀結晶ヲ以テ腐蝕シ或ハ沃度
丁幾ヲ塗布スルヲヨシトス

第三項 口角潰瘍

Ulceration on the Mouth-corner
Angular Stomatitis

稍成長シタル小兒ノ口角ニ來ル
處ノ扁豆大乃至指頭大ノ淺在性

潰瘍ニシテ疼痛ヲ生ズルコト寧ロ稀ナリ其初メ口角周圍ノ皮膚及口唇粘膜炎ノ囊狀
部ノ腫脹及潮紅ヲ以テ起リ忽チニシテ皸裂ヲ生ジ遂ニ淺在性ノ痂皮ヲ以テ覆ハ
ル、處ノ浸潤性潰瘍ヲ形成スルニ至ルモノナリ

此潰瘍ハ常ニ不潔ニシテ唾液分泌過多ナル小兒ニ來リ恐クハ不潔ナル手指ヲ
以テ浸潤シタル口角ヲ頻々摩擦スルニヨリテ起ルモノナルベシレマイステルビ
ユーロー等ハ共同一家族及學舎ニ於テ多數流行性ニ侵サレタル事實ニ徴シ一
種ノ連鎖球菌ヲ以テ原因ナラント指稱セリ

單純ナルル口角潰瘍ハ微毒性口角潰瘍ト混同セラル、トアリ然レ本症ニアリテハ皮膚部ニ浸潤ナク又深入シテ深キ實質缺損ヲ生ズルコトナク其治癒スルヤ後ニ瘢痕ヲ殘スコトナキヲ特徴トス

本症ハ適當ナル方法ニヨリ忽チニシテ治癒ス豫防法トシテ小兒ノ手指ヲ清潔ニシ又之ヲ以テ口角ヲ摩擦スルコトナカラシムルヲ要ス局處的ニハ沃度丁幾ヲ塗布シ「デルマトール」ヲ撒布シ疼痛アルモノニハ「オルトフォルム」ヲ使用ス

第四項 ベドナー氏亞布答

Bednar's Aphtha
Behnische Aphthen

ハ初生兒口腔ニ顯ハル、一種ノ外傷性潰瘍ニシテ維納ノ

小兒科醫ベトナー氏ニヨリテ初メテ記載セラレタル處ノモノナリ

生後七ヶ月以前ノ初生兒ノ硬口蓋ノ後方三分一殊ニ楔翼狀鈎ノ部ニ來ル所ノ扁豆大乃至指頭大ノ潰瘍或ハ白色斑ニシテ全ク器械的原因ニヨリテ生ズ蓋シ此部ノ粘膜ハ銳ク凸出セル骨端上ニ緊張スルヲ以テ口腔清掃ニ際シ極メテ容易ニ毀傷セラル、モノナルベシ

潰瘍ハ常ニ扁平ノ圓形弛緩性白色斑トシ顯ハレ汚穢黃色ノ義膜ヲ有シ其周縁ハ蒼白ニシテ浸潤ヲ呈セズ周圍組織トノ限界明確ナリ深部ニ進入スルノ傾向ヲ

有セザレモ體質不良ノ小兒ニアリテハ廣ク硬口蓋ノ前方マデ蔓延シ蝶形ヲ呈スルコトアルベシ早期ニ適當ノ所置ヲ施セバ忽チニシテ治癒スベシト雖モ之ヲ放置スレバ疼痛漸ク劇シクシテ哺乳ヲ妨グ初生兒ノ營養ヲ障害スルコト大ナリ

本症ハ七ヶ月以後ノ初生兒ニハ極メテ稀ニシテ常ニ衰弱セル營養不良ノモノヲ侵シ多クハ單ニ局處障害ヲ起スニ止リ數日乃至數週ニシテ治癒スレモ稀ニ全身膿毒症狀ヲ起シ死ニ至ラシムルコトアリ

豫防法トシテ初生兒口腔ノ清掃ヲ怠ラザルヲ要ス潰瘍ハ單ニ口腔清掃法ノ嚴守ニヨリ自然ニ治癒スルモノナレモ二乃至三布仙硝酸銀水、二布仙過滿俺酸加里溶液或ハ十五倍「ペルヒドロール」水ノ塗布亦効アリ

第五項 腐蝕

Canterization
Kauterisation

腐蝕性物質ノ口腔粘膜炎ニ來ルコト頗ル稀有ナラズ其徑路種々アリ

一或ハ齒科醫ガ治療ノ目的ヲ以テ使用シタル藥劑ガ過度ノ破壞性ヲ有シ又ハ濃厚ニ過ギ又ハ全然他品ト過誤セラル、コト之レアリ合嗽劑齒齦塗布劑及ビ窩洞貼藥等ノ如シ 二或ハ自ラ故意ニ又ハ過失ニテ腐蝕性藥劑ヲ攝取スルコトアリ 合嗽劑トシテ使用スル藥劑ハ普通ノ稀釋度ニシテ使用スルモノ之レニ對シテ特

異性ヲ有スルモノニアリテハ乃チ腐蝕ヲ生ズルコトアリ然ラザレバ處方ヲ與フルニ濃厚ナルモノヲ以テシ之レヲ稀釋シテ使用スベキヲ命ズルニ患者ノ之レヲ誤マリテ濃厚ナル儘合嗽ニ用ユルコトアルベシ之レ合嗽劑ニヨリテ腐蝕ヲ生ズル普通ノ順序ナリ過滿俺酸加里撒里矢爾酸石炭酸醋酸羸土等何レモ之レナリ此等ハ其腐蝕性ノ強弱ニヨリテ同ジカラズト雖モ頰唇舌軟口蓋等ニ多少廣汎性ノ白色痂皮ヲ形成シ周圍ノ組織ニ潮紅腫脹ヲ呈出ス其腐蝕性深部ニ及ブヤ潰瘍等ヲ生ズルコトナキニアラザレモ極メテ稀ナリ解毒安靜ニヨリ通例數日ニシテ治癒スルヲ常トス

齒齦塗布劑トシテ使用スル藥劑中沃度丁幾或ハ其合劑硝酸銀液芫菁丁幾等ハ其濃厚ニ過ヅルカ或ハ患者ガ特異質ヲ有スルキハ腐蝕作用ヲ顯ハシテ上皮ヲ壞死セシメ義膜ヲ形成シ數日ニシテ剝離治癒ス周圍組織ニ長ク炎症ヲ遺スモノ稀ニ之レアリ

窩洞内ニ貼付スル藥劑ハ封塞完全ナラザレバ逸出シテ附近粘膜炎ニ顯著ナル腐蝕作用ヲ致スベシ亞砒酸石炭酸結麗阿曹篤苛性亞爾加里等ノ如シ其他齒槽膿漏ノ膿囊中ニ貼付シ或ハ有癩膿瘍ニ根管通過ヲナサシムルモノ亦同ジ

嚥下セラル、腐蝕毒ニハ自殺ノ目的ヲ以テ故意ニ攝取セラル、モノト過誤ニ使用セラル、モノトアリ多クハ苛性亞爾加里及強酸類ノ一ニ屬ス

症候及療法

物質ノ異ナルニ從ヒ腐蝕部分ノ外觀亦相異ナルモノニシテ例之硫酸ハ暗褐色乃至黑色ノ厚キ痂皮ヲ生ジ硝酸及王水ハ黃色痂皮ヲ結ビ苛性安母尼亞ハ更ニ其周圍組織ニ白色義膜並ニ數多ノ粘膜炎下出血ヲ生ズルガ如シ此等ノ痂皮ノ生ズルハ其物質ノ直觸スル處ニシテ從テ唇舌軟口蓋ニ多ク毒ノ嚥下セラレタル場合ニハ會厭軟骨附近ニ迄波及スベシ口底ハ多クハ之レヲ免カル概スルニ痂皮ハ其初メテ生ズルヤ新鮮白色ナレモ口唇ニアリテハ其乾燥ニヨリテ漸ク黃褐色乃至黑色トナリ口腔内部ニアリテハ絶エズ濕潤シテ漸ク汚染暗色トナル周圍ノ組織ハ多少發炎シテ潮紅腫脹シ且浮腫ヲ呈ス之ガタメ其喉頭聲門ニ波及スルヤ窒息症候ヲ顯ハスニ至ルベシ痂皮ハ時日ノ經過ト共ニ漸ク剝離シテ新鮮ナル肉芽面ヲ生ジ周圍ヨリ上皮細胞ノ増殖ヲ起シテ遂ニ之レヲ被覆スルニ至ルベシ附近ノ炎症ハ此時期ニ方リテハ已ニ消退スルモノトス但シ腐蝕ノ程度ニ應ジ治癒後癩痕收縮ヲ生ジ長ク機能障害ヲ遺スコトナキニアラズ口峽附近ノ腐蝕ニ於テ殊ニ著シ

療法トシテハ腐蝕毒ノ來源及ビ性質ヲ探求シ之レヲ解毒スルヲ要ス酸類ナレバ稀薄ナル亞爾加里溶液ヲ以テ反覆清拭シ或ハ油類、卵白、牛乳等ヲ使用シ亞爾加里ニ對シテハ稀釋シタル植物酸殊ニ醋或ハレモン汁ヲ貼用シ油類、蛋白質類亦佳ナリ其他火傷ノ條下ニ述ベタルト同様ナル注意ヲ加フレバ足レリ

第六項 火傷

Scalding
Verbrennung

口腔粘膜炎ノ火傷ハ火焰、熱瓦斯、熱固體等ニヨリテ生ズル、ト多シ煮沸シタル飲食物ヲ攝取スルニヨリテ口蓋其他ノ粘膜炎ニ火傷ヲ生ズルハ吾人ノヨク經驗スル處ナリ其他小兒ガ遊戲ニ方リ燒火箸ニ觸レ熱湯ニ吹カレ、亦ヨク目撃スル處タリ

火傷ノ輕微ナルハ例之熱キ飲食物ノ攝取等ニヨリテ生ジタルモノハ主トシテ限局性充血ニシテ其部ハ潮紅腫脹シ多少ノ疼痛アリ少量ノ漿液性滲出物ト毛細管擴張以外ノ組織的變化ヲ起スト少ナシ充血ハ數時間ニシテ漸ク消退シ表層粘膜炎上ノ小片剝脫ス

中等度ノ火傷ニアリテハ角質層ト粘液層トノ間ニ漿液或ハ纖維性滲出物ヲ生ジテ水泡ヲ形成ス其大ナル豌豆大ヲ超ユルト稀ナリ多クハ透映ニシテ水樣微黃色

ノ内容ヲ有シ潮紅腫脹稍顯著ニシテ疼痛少ナカラズ殊ニ緊張大ナル顎間皺襞等ニ占位スル時或ハ上皮剝離シテ眞皮ノ露出セラレタル時ニ然リトス多クハ數日ノ中ニ高舉セラレタル角質剝離シ水泡ノ内容物ヲ排泄シ徐々ニ其底面ニ角質層ヲ新生シテ治癒スルモノトス

高度ノ火傷ハ寧ろ稀有ナレモ其來ルヤ灰白色乃至淡褐色ノ痂皮ヲ形成スルヲ腐蝕毒ニ似タリ周圍ノ組織ニ急性炎ノ症狀アリ疼痛劇甚ニシテ口腔ノ機能障害セラレ談話、咀嚼、嚥下何レモ困難トナルベシ多クハ外頸部其他顔面ノ火傷ト共ニ來ルモノニシテ其廣汎ノ度ニ應ジ全身の症狀ヲ呈スベシ痂皮ノ剝離シテ治癒スルヤ痂痕收縮ヲ遺スト常ナリ

通法ニヨリ先ツ清掃ヲナシ鎮痛ノ目的ニハ氷塊ノ適用ヲ最佳ナリトナス一布仙石炭酸水、コロ、ホルム水、硼酸、グリセリン、デルマトール、華攝林、コロヂウム、サングラックノ塗布亦用ヒラル其他上皮剝離シテ糜爛セル表面ニハ硝酸銀水ノ塗布或ハ硼酸、アリストール、デルマトール等ノ撒布ヲ施コス嚥下困難ナルトキハ鼻腔ヨリチラトン氏カテーテルヲ挿入シ流動物ヲ攝取セシメ或ハ滋養灌腸ヲ施シ窒息ノ症候アルキハ直ニ氣管切開術ヲ施コスヲ必要トス

第二章 口内炎

口内炎

Stomatitis
Stomatitis

トハ口腔粘膜ノ炎症ヲ稱スルモノニシテ齒齦、頬ノ内面、唇、舌等ノ表面ノ一部ニ限局シ或ハ全部ニ蔓延スベシ口腔粘膜炎又口腔炎トモ稱ス口腔軟組織ノ疾患中最多ク見ル處ノモノニシテ又口腔軟組織疾患ノ殆ド凡テニ於テ多少之レヲ併發ス

口内炎ノ最大多數ハ小兒ニ來ル成人ニ顯ハル、ハ極テ少數ニシテ且常ニ輕微ナリ元來口腔粘膜ハ一方ニ於テハ消化器及呼吸器ニ連續スルヲ以テ其炎症ニ類似シタル症候ヲ呈シ他ノ一方ニアリテハ頗ルヨク外皮ニ肖似セルヲ以テ皮膚ノ炎症ニ似タル現象ヲ顯ハス從テ口内炎ニ種々ノ區別ヲナスコトヲ得其重ナルモノ左ノ如シ加答兒性潰瘍性亞布管性芽生菌性汞毒性淋毒性丹毒性壞疽性實扶的里性流行性及疱疹性之レナリ

第一項 加答兒性口内炎

Catarrhal Stomatitis
Stomatitis catarrhalis

口腔粘膜ノ炎症中最單純ナルモノニシテ病機ノ主坐ハ粘膜潰

胞ニアリ故ニ又濾胞性口内炎 *Stom. follicularis* ト云フ或ハ限局シテ小部分ヲ侵ス

アルモ漸ク蔓延シテ潮紅斑ヲ形成シ更ニ擴布シテ粘膜面ニ廣汎性充血濕濁ヲ呈ス然レモ其病機多クハ淺表ニ止マルヲ以テ又淺在性口内炎 *Stom. superficialis* ト云フ特發性ニ來リ或ハ症候的ニ來リ急性ナルアリ慢性ナルアリ

原因

三歳乃至八歳ノ腺病性小兒ニ最多ク殊ニ中流以下ノモノニ於テ非衛生的狀態ノ下ニ生存シタルキニ然リ例之食料不良ナル時消毒不完全ナル牛乳ヲ以テ哺育セラル、時、食器哺乳器等ノ不潔ナル時授乳後或ハ食後口腔ヲ清掃セザル時等ノ如シ其他生齒障害、消化不良等ノ場合ニモ亦之レヲ見ル

大人ニアリテモ之レヲ見ルコトナキニアラズ主トシテ局處刺戟ノ結果ナリ或ハ器械的刺戟アリ適合不良ノ義齒、齒刷子小楊子ノ暴用、朽傷破壞齒、齒石堆積、齒牙發生等之レニ屬ス、或ハ化學的刺戟アリ飲酒、喫煙、辛酸味物、口腔不潔ニヨル唾液ノ變敗等之レニ屬ス、或ハ溫度的刺戟アリ水塊、熱飲料等之レニ屬ス、其他此ノ如キ局處的原因ニヨラズシテ口内炎ノ發生ヲ致スモノアリ寒胃其他ノ熱性病、月經、妊娠、消化不良、惡性貧血、萎黃病、心肺等ノ鬱血狀態、痛風、癩、麻質、斯鏽劑殊ニ水銀、砒、鉛並ニ臭素等ノ中毒之レナリ

「*Stomatitis*」
状態、*Stomatitis*

症候

口腔粘膜ノ一部或ハ大部ニ亘リテ潮紅溷濁ヲ呈シ緊張乾燥シテ溫度増進シ知覺殊ニ鋭敏ナルヲ見ルベシ初期ニアリテハ唾液ノ分泌ハ増加シテ水様ヲナスト雖モ濾胞ノ分泌漸々休止スルヤ表面乾燥シテ固有ノ光澤ヲ失フニ至ルベシ時トシテ炎機粘膜下組織ニ波及シ血行阻害セラレ、片ハ多少限局シタル壞疽ヲ生ジ又炎機極メテ旺盛ナルハ舌齒齦又ハ頬粘膜等ニ於テ上皮ノ剝離ト粘稠ナル粘液膿様分泌物トノ混合ニヨリ汚穢ナル義膜ノ形成ヲナスコアルベシ

其他炎症ノ劇度ニ應ジテ全身倦怠違和ヲ覺エ發熱食思不振味覺異常ヲ生ジ便秘或ハ下痢ヲ起スベシ

豫後多クハ佳良ニシテ原因ヲ全ク除去スレバ數日乃至數週ニシテ治癒シ後害ヲ遺スコナシ然レモ稀ニ潰瘍性口内炎ニ轉化スルコアルベシ

療法

先ヅ原因或ハ刺戟ヲ掃去シ衛生的状態ヲ改善シ不潔ナル哺乳法ヲ廢止シ口腔ヲ清掃シ次テ消炎防腐性ノ含嗽料ヲ與フ、三布仙硼酸水、〇・五布仙粘礬水、二布仙鹽剝水、二千倍知母爾水、二布仙レゾルチン水、リスステリン、バイロゾン又使用スベシ小兒ニアリテ含嗽法ヲ行フ能ハサルハ硼酸水ヲ用ガ

ゼニ蘸シテ頻々口内ヲ清拭セシメ且同時ニ硼酸グリセリン、硼砂蜜等ヲ反覆塗布セシムベシ局處ノ狀況ニヨリテ收斂劑ヲ塗布スルノ必要ナルコアリ沃度丁幾ヲ單味或ハ密兒拉丁幾又ハ刺答尼丁幾ト等量ニ調勻シタルモノヲヨシトス、二布仙硝酸銀水、アドリナリン又之レニ適ス、全身症狀ニ對シテハ其處置ヲ忘ルベカラズグットマンハ口腔ノ加答兒ニ左ノ處方ヲ稱用セリ

鹽酸ピロカルピン 〇・〇二乃至〇・〇五

稀鹽酸 二乃至三滴

水 八〇・〇

右一時間毎ニ一茶匙ヲ内服セシム

第二項 潰瘍性口内炎

Stomatitis ulceroosa. *Mundfäule, Stomatitis.*

口内炎ハ其如何ナル形態ノモノニアリテモ潰瘍ノ形成ヲ見ルコト稀ナラズト雖モ特ニ或種ノモノニアリテハ自餘ノ症候ニ比シ潰瘍形成ノ特異ナルコトアリ之レヲ潰瘍性口内炎ト云フ成人ニハ頗ル稀ニシテ五乃至十歳ノ小兒ニ最多ク局處的原因ヨリモ全身的原因ニヨルコト寧ロ多シトス、壞血症、汞劑中毒、腸窒扶斯赤痢發疹熱、白血病、糖尿病、佝僂病、癩癬質其他ノ非衛生的状態等ノ如シ稀ニ

流行性ニ兵營寄宿舎、學校等ニ顯ハル、コトアリ故ニ眞因トシテ細菌ヲ重要視スルモノ少ナカラズ就中紡錘狀桿菌及ワ^ンサン「スピロヘーテ」ハ最根據アルモノ、如シ

症候及豫後

主トシテ齒齦ノ遊離線頰粘膜トノ移行部及ヒ舌ノ周縁ニ顯ハル、モノニシテ初メ先ツ限局性腫脹乃至浮腫ヲ生ジ壓痛アリテ容易ニ出血シ忽チニシテ灰白紅色乃至暗褐色ノ義膜ヲ以テ被覆セラル、ニ至ルト雖モ之レヲ剝離スレバ極メテ出血シ易キ潰瘍面ヲ形成ス、然ラザレバ玆ニ形成セラレタル斑點ノ下ニ溷濁セル漿液ヲ蓄積シテ水泡ヲ形成シ其上皮ガ自然ニ摩擦消失シテ初メテ潰瘍ヲ顯出ス

此等ノ潰瘍ハ漸ク周圍ニ蔓延シテ増大シ且組織中ニ漸々深入スルノ性ヲ具ハシ其表面ノ義膜ハ堅ク膠着シテ之レヲ剝離スレバ出血少ナカラズ潰瘍面ノ知覺機ハ極メテ鋭敏ナルヲ以テ口腔ヲ清掃スルコト能ハズ呼氣惡臭ヲ呈シ咀嚼不能トナリ食思不振、便秘、發熱ヲ起シ營養漸々不良トナリ體力漸々沈衰ス、附近ノ淋巴腺ハ早期ヨリ腫脹硬結ヲ呈スベシ潰瘍ハ其増大ニ從ヒテ周圍ノ組織ヲ破壊スルノ性ヲ有シ齒槽膿瘍、齒牙ノ弛緩脱落、顎骨々膜炎、或ハ骨疽ヲ生ズルニ至ルコト稀有ナラズ

ラズ

本症ノ重症ナルモノニ於テハ尿中ニ蛋白質ヲ證明シ得ルコトアリ故ニ蛋白尿性口内炎ナルモノヲ提唱スル學者アレモ之レ畢竟口内炎ト蛋白尿ト同一原因ニヨリテ生起セラレタルモノニ過キサルベシ故ニ小兒ノ赤痢、窒扶斯、猩紅熱等ニ於テ其ノ末期ニ數々之ヲ見ルベシ

豫後多クハ佳良ニシテ初期ニ於ケルモノハ適當ノ治療法ニヨリ容易ニ治癒ス、長ク放置セラレタルモノハ組織ヲ破壊スルコト大ナルニヨリ治癒後周圍ノ組織ニ癒着ヲ生ジ機能障害ヲ遺スコトアリ、時トシテ膿毒症或ハ營養障害ニヨリ致死セシムルコトアレモ極メテ稀ナリ蓋シ病原的事項ニ關ス

診斷亦常ニ容易ニシテ誤ラル、コト少ナシ汞毒性口内炎ニアリテハ汞劑攝取ノ已往症アリ壞血症ニアリテハ出血ノ傾向多ク且全身症候ヲ見ルベシ

療法

先ヅ原因ヲ除去シテ口腔ヲ清掃シ「バイロゾン」ヲ以テ反覆口内ヲ洗滌ス次デ初期ニアリテハ防腐收斂性ノ含嗽料ヲ投與スルコト必要ナリ硼酸水、鹽刺水ノ他硼砂(三布他)過滿俺酸加里(二千倍)ヒノソール水(二布他)密拉爾丁幾(二布他)刺答尼丁幾(三布他)等之レニ屬ス、潰瘍面ハ硝酸銀結晶、石炭酸、三鹽化醋酸等ヲ用

ヒテ腐蝕シ或ハバックェリン又ハ電氣ヲ以テ燒灼スルノ用アリ而シテ其表面ニ沃度仿謨粉末ヲ塗擦シ裂隙ノ存スルキハ沃度仿謨ガ―ゼヲ挿入スベシ

重症ニ向テミククツハ鹽剝ノ内服ヲ稱用シタリ即成人ニハ其三布仙水溶液ヲ毎三時一食匙小兒ニハ其二布仙溶液ヲ毎二時一茶匙宛與フ其他患兒ノ營養ヲ保持スルコト極メテ緊要ナリ流動性滋養品即チ牛乳、鶏卵肉汁等ヲ多量ニ用ヒ用トシテ酒精飲料ヲ以テ興奮セシメザルベカラズ

第三項 亞布答性口内炎

Aphthous Stomatitis. Stomatitis aphthosa.

亞布答ノ形成ヲ以テ特異トスル處ノ口内炎ノ一形態ニシテ

十乃至三十ヶ月ノ初生兒ニ最多シト雖モ成人モ亦之レヲ免ル、能ハズ
第一生齒期ニ於ケル小兒ニ頻發スルモノニシテ營養不良、口腔不潔ノモノ特ニ之レニ向テ素因ヲナス、又傳染ノ傾向ヲ有ス

眞因トシテ細菌ヲ想像スルモノアリフレンケルハ橙色及ヒ黃金色葡萄狀球菌ヲ擧ゲスト―スハ双球菌ノ一種ヲ以テ之レガ原因トナシタリ

誘因トシテ局部的刺戟ノ働クコト爭フベカラズ或ハ器械的刺戟アリ齒刷子ノ亂用、齶蝕破壞齒、生齒機等之レナリ、或ハ化學的刺戟アリ口腔ニ於ケル腐敗分解作用

辛酸味物等之レナリ或種ノ果物ハ殊ニ此刺戟ヲナシ易シト云フ莓、赤茄子等之レナリ

其他凡テノ身體不調ハ素因或ハ誘因ヲナスモノ、如シ月經、妊娠、授乳期、消化不良、佝僂病、癩癧質、發疹熱、氣管枝加答兒肺炎、實扶的里等何レモ之レニ屬ス

症候及診斷

本症ハ唇頰、齒齦或ハ舌ニ一或ハ數ヶノ亞布答ノ形成ヲ以テ初マル、亞布答ハ圓形又ハ橢圓形扁豆大ノ小斑ニシテ白色乃至稍黃色ヲ帶ビテ少シク凹陷シ其周圍ノ組織ハ狹小ナル潮紅帶ヲ呈ノ之レヲ周繞シ僅ニ浸潤ヲ顯ハス其形成初メハ少數ナリト雖モ漸々多キヲ加ヘテ附近ノモノ相癒合シ不正ナル一大潰瘍ヲナスニ至ルコト稀ニ之レアリ然レモ之レ眞正潰瘍ノ性質ヲ具有スルニアラズシテ其底面ハ常ニ多少ノ上皮ヲ以テ覆ハルベシ

自費的症候

亞布答ハ極メテ刺戟性ニ富ミ之レニ觸ル、キハ燒クガ如キ疼痛ヲ覺ユ從テ咀嚼、哺乳、嚥下、談話等ニ障害ヲ生ズ、口腔粘膜炎一般ニ加答兒性炎ヲ生ジ口氣惡臭アリ唾液分泌ノ量ヲ増加シ口唇ニヘルペスアリ顎下線ニ硬結アルコト常ニ見ル處ナリ其他體温亢昇シテ三十九度ニ達シ消化機障害セラレテ下痢ヲ生ジ體力減弱スルコト少ナカラズ

亞布答ハ瘡口瘡及乳色斑ト鑑別スルヲ要ス然レモ瘡口瘡ニアリテハ義膜ノ形成廣汎性ニシテ剝離セシムルヲ得ベク其中ニハ瘡口瘡菌ヲ見ルベク且全身症狀一層劇烈ナルヲ以テ容易ニ之ト區別セラルベシ又乳色斑ハ微毒第二期ニ來ルモノナルカ故ニ微毒感染ノ已往症ト身體他部ニ微毒症候ヲ見ルト且斑ノ無痛無炎症ナルトニヨリテ之レト區別スルヲ得ベシ

病理

亞布答ハ粘膜炎ニ於テ上皮細胞ト結締織トノ間ニ横ハル處ノ纖維性滲出物ヨリナルモノニシテ其形成後忽チニシテ滲出物吸收セラレテ治癒スルヲ稀ニ之レアリ然レモ普通ノ場合ニアリテハ其表面ニ存スル上皮剝離シテ滲出物ヲ露出スルニ至ルモノトス滲出物ハ其下方ニ於ケル上皮細胞ノ再生増殖ニヨリ容易ニ下在組織ヨリ分離脱失セラレ其後ニ潮紅セル小斑ヲ遺ス小斑ハ已ニ多少完全ナル上皮細胞ヲ以テ被覆セラル、ヲ以テ終ニ完全ナル潰瘍ノ形成ヲ致ス、ナシ亞布答ノ周圍ニ相當セル一帯ノ發炎組織ハ稀ニ化膿菌ノ傳染ニヨリテ化膿竈ヲ形成スルヲアリ

豫後及療法

通例一二週間ニシテ治癒スルモノナリト雖モ時トシテ一方ニ於ケル治癒ト他方ニ於ケル新生ト相持續シテ頗ル長キ經過ヲ

ナス、アリ幼児或ハ極メテ虛弱ナル小兒ニアリテハ稀ニ肺炎腸加答兒其他營養障害ノ去果トシテ其死因ヲナスベシ成人ニ於ケルモノハ再發ノ患ナキニアラズ原因ヲ去リ口腔ヲ清掃スルヲ勉メ營養保持ニ注意スレバ自然ニ治癒スルモノナレモ無刺戟ナル防腐收斂性藥劑ヲ用ヒ其治癒ヲ促進セシメテ効アリ硼酸水枯礬水鹽剝水過滿俺酸加里水等ノ含嗽沃度丁幾密拉爾丁幾刺答尼丁幾三布仙石炭酸水二布仙硝酸銀水五布仙硫酸銅水硼砂蜜硼酸佩里設林等ノ塗布塗擦又之レニ適ス

亞布答ノ知覺過敏ナルモノアルキハ硝酸銀棒三鹽化醋酸結晶等ヲ用ヒテ之レヲ腐蝕シ或ハ食前五分ニ五布仙鹽酸古加乙涅水ヲ塗布スルヲヨシトスサイフェルトハ左記ノ處方ヲ舉グ

撒里矢爾酸曹達

〇・一

鹽酸古加乙涅

〇・二

蒸餾水

一〇〇

右塗布料

口内炎

第四項 芽生菌性口内炎

Parasitic Stomatitis
Candida albicans

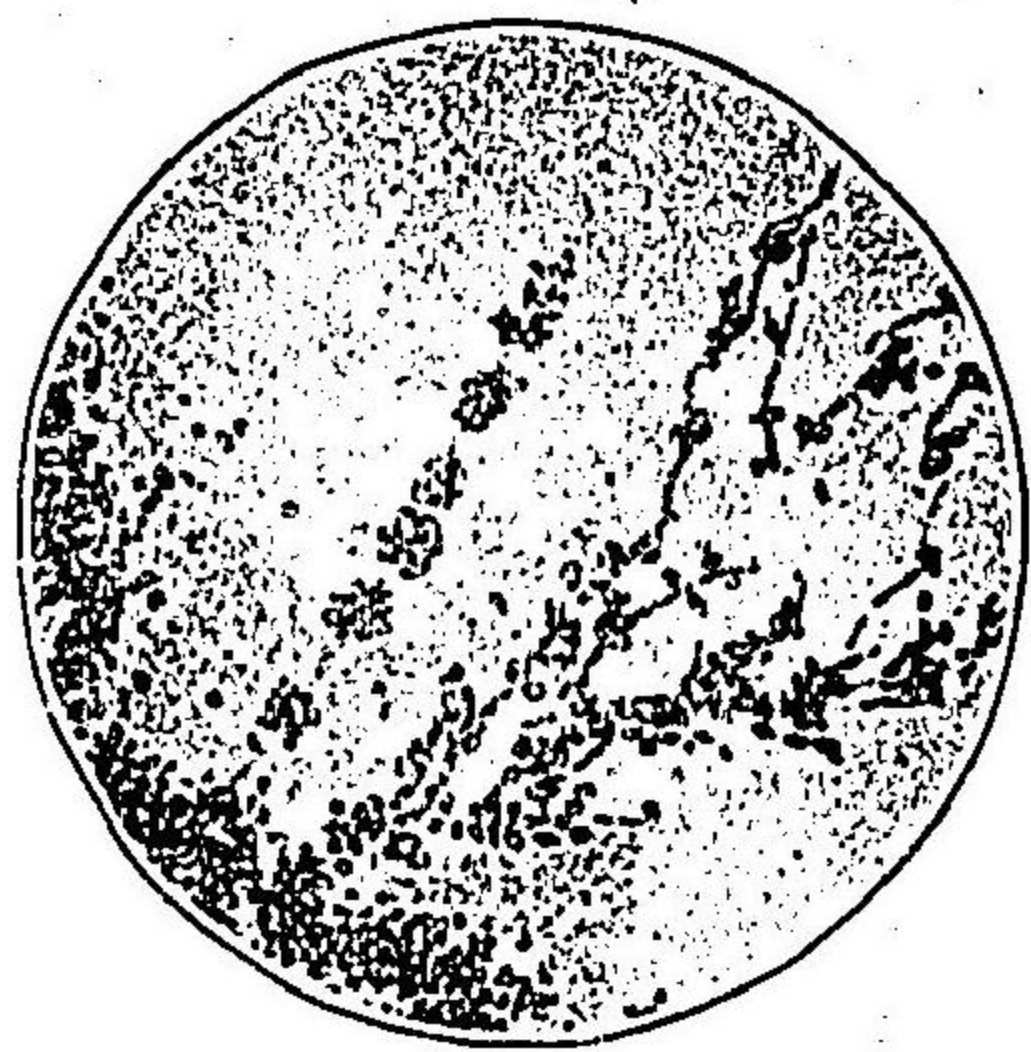
ト云フ

二百三十八
鴉口瘡菌ノ傳染ニヨル口内炎
ノ一形態ニシテ又鴉口瘡
Thrush
Sour

鴉口瘡菌 *Oidium albicans* ハランゲンベック(一八三九年)ニヨリテ初メテ發見セラレタル處ノ一種ノ芽生菌ニシテベルグ、グルービー等又其病原タルコトヲ確メタリ菌ハ口腔粘膜面ニ義膜ヲ形成シテ發育シ表皮細胞ト類廢異物トノ間ニ菌糸叢ヲナシテ生存シ菌體ハ多數ノ不規則ナル節ヲ有シ其各節或ハ終端ニ一乃至數ヶノ卵圓形ノ芽胞ヲ具フ菌ハ普通ノ培養基上ニ室溫ニ於テヨク發育ス殊ニ肉羹汁培養基ニ於テ美麗ナル長節ヲ有スル菌糸ヲナシテ分岐發育ス亞仁林色素ニ容易ニ染色シグラム氏法ニ着色ス

原因

主トシテ小兒ニ來ル殊ニ體力衰弱シ口腔ノ清掃完全ナラザルモノニ多シ蓋シ本菌ハ糖分ヲ含ム培養基ニヨク發育スルモノニシテ茲ニ蓄積セル牛乳或ハ含糖食物ハ



第四十六圖
イガイムアビルカス

ヨク此條件ニ適合スベク加之口内ニ於ケル酸酵ハ更ニ之ヲ補助スベケレバナリ故ニ初生兒或ハ幼兒ノ營養不良ナルモノ慢性下痢慢性餓餓熱性病ニ惱メルモノニ多ク來ル

其他成人ニアリテモ重症疾患ニ惱ムモノ例之結核糖尿病惡液質等ノ如キモノ或ハ人事不省ノモノ等ニハ同一理由ニヨリテ之レヲ生ズルコトアルベシ

症候

菌ノ發育ハ最初舌、頬粘膜或ハ軟口蓋ノ表面等ニ點狀白色ノ義膜トシテ顯ハレ漸ク其大サヲ増シテ終ニ廣汎性ニ口腔粘膜ノ大部分ヲ侵害スルニ至ル或ハ更ニ蔓延シテ咽頭或ハ食管ニ波及スルコトナキニアラズ義膜ハ堅ク粘膜面ニ膠着スレバ下在上皮ノ壞死シテ剝離スルヤ茲ニ所謂鴉口瘡性潰瘍ヲ形成シ發炎シテ出血シ易シ

輕度ナルモノニアリテハ義膜形成ノ他顯著ノ障害ナシト雖モ其廣汎性ナルモノ或ハ體力ノ著シク沈衰セルモノニ於テハ知覺頗ル鋭敏ニシテ哺乳食餌ニ少ナカラザル疼痛ヲ生ジ不安不眠消化障害體溫昇騰アリ其後方咽喉ニ向テ蔓延スルヤ或ハ嚥下困難トナリ著シキ羸瘦ヲ招來シ或ハ呼吸困難トナリ窒息ノ現象ヲ呈スルコトアルベシ更ニ菌ノ淋巴流或ハ血流ニヨリテ運搬セラレテ轉移ヲ生ジ耳下

腺膿瘍或ハ腦轉移ヲ致シタルノ例之レアリ

診断及豫後

實扶的里及ビ乳汁ノ凝固ト誤ラル、コアリト雖モ、一、口腔ノ状態、二、義膜ノ剝離困難ニシテ剝離スレバ出血スルコト、三、義

膜中ニ芽生菌ノ存在ヲ證明シ得ルコトニヨリ容易ニ鑑別ヲナスヲ得ベシ

豫後多クハ佳良ナリ一週前後ニシテ全治スト雖モ營養不良ナル虛弱ノ小兒ニアリテハ窒息、衰弱等ノタメニ致命スルコトナキニアラズ殊ニ咽喉深部迄蔓延シタルモノニ於テ然リトス

療法

口腔ノ清掃ヲ完全ニシ攝生ヲヨクシ營養ヲ保持スルヲ以テ急務トナス
口腔内ノ義膜面ニハ硼砂蜜、硼酸グリセリン、鹽剝、硝酸銀等ヲ塗布シ其食道附近ニ蔓延シタルハ安息香酸曹達、レゾルチン等ヲ内用セシム其他重症ノモノニハ硼砂ノ内服ヲ稱賛スルモノアリ即三布仙ノ硼砂溶液ヲ小兒ニハ毎二時一茶匙ヲ大人ニハ一食匙ヲ與フルヲ常トス

第五項 汞毒性口内炎

Mercurial Stomatitis
Stomatitis mercurialis

職業トシテ常ニ水銀ヲ取扱フモノ或ハ感受性ノ大ナルモノガ汞

劑ヲ攝取シタルハニ來ル驅微療法ニ伴フコト最多シ然レモ亦特異質ヲ有スルモノ

ニアリテハ下劑トシテ極少量ノ甘汞ヲ使用シテ尙之レヲ生スルコトアリ、要スルニ口腔ノ清掃ヲ怠ルモノハ一層之レニ罹リ易キガ如シ

症候

患者ハ初メ先ヅ口内ニ鏽味ヲ覺エ次テ齒齦ニ潮紅腫脹ヲ呈シ壓痛アリ咀嚼ニ障害ヲ生ジ齒牙ハ動搖弛緩シテ或ハ脫出ス、舌モ亦發炎腫脹シ呼吸ニ惡臭アリ顯著ナル流唾症ヲ伴フ、病機ノ漸ク深入スルヤ先ヅ潰瘍ヲ形成シ更ニ齒齦ヲ侵蝕シ顎骨々疽ヲ生ズルコトナキニアラス

原因ノ除去ト共ニ二週ニシテ治癒スルコト常ナレモ稀ニ咽頭或ハ歐氏管ニ至ルマデ炎症ノ蔓延スルコトアリ、汞劑ノ攝取ト關係ヲ有シ之ヲ遠サクレバ容易ニ治癒スルヲ以テ他症トノ鑑別敢テ困難ナラズ

療法

汞劑ノ使用ヲ休止シ口内ヲ清掃シ防腐性含嗽料ヲ與フレバ輕症ハ忽ニシテ治癒スベシ然レモ少シク重症ニアリテハ流動食ヲナサシメ鹽剝ノ内服及ビ含嗽ヲ命ジ腸ノ排泄機能ヲ旺盛ナラシメ多量ノ亞爾加里性鏽泉ヲ飲用セシムルヲ効果多シトナス營養ヲ保持スルコト亦必要ナリ

亞篤魯必涅内服モ亦効アリ○○○○六ヲ一日二回宛用ヒシム、沃度劑亦用ユベシ疼痛劇シキ時ハ夜間抱氏散ヲ頓服セシムルヲヨシトス

第六項 淋毒性口内炎

Gonorrhoeal Stomatitis
Stomatitis gonorrhoea

ハ淋毒球菌ノ傳染ニヨリテ起ル

口内炎ニシテ成人ニハ極テ少ナ

シ之レ口腔粘膜ノ抵抗力大ナルニヨル本症ハ母體産道ニ淋疾ノ存在シタル場合ニ初生兒ノ口腔ニ顯ハル、ヲ最多シトナス、或ハ第三者ヲ媒介トシテ甲ヨリ乙ニ傳染スルコトアリ、成人ニアリテハ不自然ナル理由ニヨリ淋毒菌ガ傳染シタルトキニノミ之レヲ生ズ蓋シ稀ナリ

症候

生後五乃至十二日ニシテ舌背、口蓋或ハ口唇ノ内面ニ廣汎性口内炎トシテ顯ハレ其部ノ粘膜ハ發赤溷濁シ其下ニ暗青乃至深紅色ノ線紋ヲ透見シ又其表面ニハ固有ナル帶黃灰白色ノ平滑ナル斑點ヲ形成ス

斑點ハ粘膜下組織ニ於ケル滲出物ニ歸因スルモノニシテ數日ノ中ニ其上皮壞死剝離シテ表面ニ汚穢膿様ノ義膜ヲ形成スルニ至ル、周圍ノ組織ヨリ多少挺舉セラレベシ、義膜ハ汚穢黃色ナル膿ノ一層ヨリナルコトアリ、或ハ老敗上皮細胞、膿球及汚物ノ混雜シタル一髓様層ヨリナルコトアリ、其ノ剝離スルヤ後ニ平滑ニシテ充血シ且出血シ易キ剝脫面ヲ遺スト雖モ數日ニシテ上皮細胞再生シテ之レヲ被覆スルニ至ルベシ機能障害ハ極メテ顯著ナラズ

成人ニ於ケル淋毒性炎ハ少シク之レト其趣ヲ異ニス先ヅ口唇ノ内面或ハ舌ノ下面ニ限局性口内炎ヲ起シ粘膜潮紅、腫脹シテ且乾燥シ之レニ觸ル、ニ疼痛アリ且著シク熱感アルヲ見ルベシ、數日ニシテ此部ニ膿様滲出物ヲ生ジテ義膜ヲ形成シ上皮ノ摩擦剝離スルヤ刺激性ニ富ミテ出血シ易キ剝脫面ヲ生ズ或ハ終ニ潰瘍ノ形成ヲ見ルコトアリ辛酸味物、刺激性物質ノ攝取ハ燒クガ如キ疼痛ヲ生ジ舌唇ノ運動モ多少制限セラレレモ其他著シキ自覺的障害ヲ生ズルコトナシ

診斷及豫後

一、傳染ノ歴史ハ之レヲ母體ノ淋毒或ハ他ニ追求スルヲ得可ク
二、症候特異ナル部ニ顯ハレテ機能障害少ナク
三、或ハ身體他部ニ淋毒竈ヲ檢出シ得ベク(泌尿器或ハ眼結膜) 四、局處ノ分泌物中ニ淋毒菌ヲ證明シ得ルニヨリテ他ノモノト確然鑑別スルヲ得ベシ

豫後佳良ニシテ他部ニ轉移ヲ生ズルコトナク又顯著ナル組織破壊ヲ致スコトナシ然レモ之レヲ放置スレバ他部ニ傳染蔓延スルノ患アリ眼結膜ノ如キ之レナリ

療法

豫防法トシテ分娩後直ニ二布仙硝酸銀水ヲ以テ口腔ヲ清拭スルコトヲ唱フルモノアレモ敢テ其必要ヲ見ズ只疑ハシキ場合ニハ無害ナル防腐液例之硼酸水等ヲ用ヒテ口内ヲ清拭スレバ足レリトス

口内炎ニ對シテモ他部ノ淋毒疾患ノ如ク銀鹽類ヲ有効ナリトス一布仙プロタ
ゴール水ニ布仙アルギロール水四分一乃至三分一布仙硝酸銀水ノ塗布ハ普通行
ハル、方法ナリ之レニ加フルニ硫酸銅硫酸亞鉛枯礬等ノ收斂性藥液ヲ以テ時々
口内ヲ清拭スルコト亦有要ナリ

第七項 丹毒性口内炎

Erysipelatous Stomatitis
Stomatitis erysipelatosa

ハ顔面皮膚ノ丹毒ガ蔓延スルニ
ヨリテ生ズルコト常ナリ或ハ口内

ニ於ケル外傷又ハ潰瘍面ヨリ丹毒連鎖狀球菌ガ侵入シテ原發性ニ發生スルコトナ
キニアラザレモ極メテ稀有ニ屬ス

症候及豫後

粘膜炎ノ一部ニ顯著ナル廣汎性發赤ヲ生ジ腫大緊張シテ乾燥シ
之レニ觸ル、ニ甚シキ疼痛ヲ生ジ且頗ル熱シ其軟口蓋ニ生ズ
ルヤ忽チニシテ懸壜垂ヲ侵シ口峽ヲ腫脹セシメテ嚥下障害ヲ起シ更ニ下降シテ
喉頭門或ハ氣管ニ達シ呼吸困難ヲ生ズルコトアルベシ同時ニ體温ハ著シク昇騰シ
發熱ニ伴フ凡テノ症狀顯著トナル顔面外表ニ丹毒ノ病竈アルカ或ハ局處ヨリ丹
毒連鎖狀球菌ヲ檢出シ得ルニヨリ容易ニ診斷ヲ下スヲ得ベシ
早期ニ確診シ相當ノ處置ヲ施コセバ一乃至數週ニシテ治癒ス然ラザレバ組織

ノ連續ヲ沿フテ氣管ヨリ肺臟ニ達シ茲ニ遊走性肺炎ヲ起スコトアリ或ハ血流又ハ
淋巴流ニヨリ頸部淋巴腺胸腺心嚢乃至肋膜腔ニ轉移ヲ生ジ生命ヲ危フスルコト
アルベシ

療法

口腔ノ清掃ヲ完全ニシテ斷エズ氷塊ヲ含ンデ炎機ヲ鎮靜セシメ且一布
仙石炭酸水一布仙リゾール水三布仙硼酸水等ヲ用ヒテ含嗽セシムルコ
ト亦必要ナリ組織ノ緊張著シキハ亂切瀉血セシメテ効アリ
其他興奮劑滋養物ヲ多量ニ用ヒテ體力ヲ維持シ嚥下困難アルモノニハ鼻腔ヨ
リチラトソン氏カテーテルヲ用ヒテ流動滋養食ヲ取ラシムベシ呼吸困難アルモノ
ニハ氣管切開ヲ施コスベキコト勿論ナリ

第八項 壞疽性口内炎

Gangrenous Stomatitis
Stomatitis gangrenosa

ハ主トシテ小兒ヲ侵ス處ノ一種
ノ壞疽性炎ニシテ恐クハ或細菌
ノ傳染ニ因スルナルベシ最恐ルベキ疾患ノ一トシテ小兒科醫及ビ外科醫ニ知ラ
ル又水癌 *Water cancer* ト云フ

原因

本症ハ濕潤セル氣候或ハ位置ニ住居セル小兒ニ多ク見出サル故ニ歐洲
大都會ノ下層社會ノモノニ多シト云フ

口内炎

年齢ハ二乃至十二歳ヲ最多シトナネフンブルンスハ本症ノ四百十三例ヲ集メタルニ十五乃至七十歳ハ僅ニ十一例初生兒ハ僅ニ六例ナリシ

本症ハ營養不良ナルモノニ多ク來リ或ハ疾患ノタメニ體力沈衰セルモノヲ侵ス發疹熱就中麻疹、室扶斯、肺炎、貧血、惡液質等何レモ之レガ素因ヲナス或ハ潰瘍性口内炎ニ繼發スルコトナキニアラズ

本症ノ本態ヲ説明スルニ諸説ノ行ハル、ヲ見ル或ハ血管ノ疾患ニ歸シ或ハ神經殊ニ三叉神經ノ機能障害ニ因ルトナセシ其發生ノ急劇ナル其部位ノ殆ト一定セル並ニ其ノ養育院、寄宿舍等ニ數多一時ニ發生スルコトアル等ニヨリ一種ノ傳染ヲ疑ヒタルハ已ニ數十年前ナリトス

水瘡ノ原因トシテ報告セラレタル細菌數多アリリンガルト *Lingard* ハ細長ナル桿菌ヲ發見シランケ *Kanke* ハ一種ノ連鎖狀球菌ヲ區別シベルテス *Perthes* ハ「ストレプトトリック」スノ一形態ノモノヲ證明シ得タリ更ニビショップ *Bishop* リアシン *Ryan* シムメルブッシュ *Stammchusch* ハ何レモ實扶的桿菌ニ類シタル短小ノ一桿菌ヲ擧ゲタリト雖モ未ダ以テ確認スベキモノナシ

症候

多少明瞭ナル潜伏期ヲ以テ初マルモノニシテ患兒ハ羸瘦シテ口氣惡臭、流唾アリ口内全體ニ顯著ナル口内炎ヲ呈ス

水瘡ハ殆ト常ニ一定ノ部位ニ起ル、頬ノ内面粘膜炎ニ於テ口角ヲ僅ニ後方ニ去リ第一大白齒附近ニシテ齒齦トノ移行部ヲ最多シトス主トシテ一側ニ來リ他側ニ蔓延スルコトアリ、先ヅ此部ノ粘膜炎ニ限局性炎或ハ水疱ヲ生ズ水疱ハ帶青紅色乃至暗紅色ニシテ當初ヨリ一種異様ノ不快臭或ハ腐敗臭ヲ放ツ、水疱ノ發顯後忽チニシテ其部ノ頬實質ニ浸潤ヲ呈シ其腫脹外部ニ露出シ或ハ下眼窠部ヨリ鼻翼ニ亘リテ浮腫ヲ呈スルコトアルベシ腫脹部ハ初メ其中心ニ於テノミ僅ニ強韌硬固ナルヲ觸知スレモ其漸ク蔓延スルヤ腫脹ノ大部分硬結ヲ呈シ遂ニ患側ノ頬全體ホ一ル紙様ノ硬度ヲナスニ至ルベシ且其表面蠟樣光澤ヲ放ツコト極メテ特異ナル現象ナリトス、此時期ニ至レバ頬内面ノ水疱ハ漸ク黒變シテ水瘡性壞疽ノ本態ヲ呈シ數日ニシテ頬内面全體ニ波及シ惡臭鼻ヲ衝クモノアルベシ

頬外部ニアリテハ蠟樣觀漸ク其暗色ヲ増シテ黒變シ終ニ暗黒鉛様ノ壞疽組織トナリ玆ニ頬實質ヲ通ズル處ノ穿孔ヲ生ズルニ至ル、穿孔ノ周圍ハ暗黒乃至黒褐色ニシテ浸潤シ容易ニ之レヲ剝離スルヲ得ベシ穿孔ハ漸ク四圍ニ蔓延シ或ハ前

進シテ口角ニ達シ更ニ對側ニ波及シ或ハ後退シテ下眼窠部耳下腺部ニ至リ或ハ下降シテ顎下部顎部ニ及ブ唯ニ表面ニ於テ蔓延スルノミナラズ漸ク深入シテ骨質ニ達シ壞疽組織ノ剝離セラル、ヤ顎骨ノ大部ヲ露出スルニ至ルベシ

水瘡ノ進行ニ伴フ全身の状態ハ常ニ一様ナラズ或ハ活潑ニシテ寢食遊戯常ニ異ナル

ナキモノアリト雖モ多クハ惡寒發熱アリ脈搏硬ク且頻數ニシテ餓渴燒クガ如ク舌ハ乾燥シ局部ニ疼痛ヲ覺ユベシ殊ニ膿毒性顯象ノ起ルヤ體溫著シク上昇シ頭痛不眠或ハ譫語ヲ發スルモノナキニアラザレモ精神狀態ハ死ニ至ルマデ明白ナルモノ多シ

經過

或ハ壞疽組織ガ分離ヲ生ズルヲアリ或ハ併發症ヲ起シテ死ニ至ルヲアリ前者ハ比較的稀ニシテ後者ハ頗ル多シ即チ生活力旺盛ニシテ病勢漸ク鎮靜スルヤ壞疽組織ノ周圍ニハ鮮紅色ニシテ良好ナル肉芽ヲ生ジ數日中ニ壞

疽分離機能ヲ起シ露出セラレタル骨質モ亦忽チニシテ腐骨剝離ニヨリテ同ジク遊離スルニ至ルモノトス此ノ如クニシテ生ジタル新創面ハ周圍ノ健康組織ヨリ上皮細胞ノ増殖ニヨリテ上皮ヲ新生シテ漸ク癒合シ後ニ顯著ナル癬痕收縮ヲ遺スモノトス

死ノ轉歸ヲ取ルハ寡ク多クシテ全數ノ七十布仙ヲ占ム(アレン)其起ルヤ壞疽ノ發顯後八乃至十四日ニシテ來リ其死因ハ或ハ膿毒敗血症ニヨルヲアリ或ハ衰弱虛脫ニヨルヲアリ或ハ轉移ニヨルヲアリ殊ニ腎臟ニ轉移スルヲ最多シ肺炎、心筋炎、腸炎亦之レガタメニ起サルベシ其他外顎動脈出血ニヨリ死ヲ致シタル例亦ナキニアラズ

診斷及豫後

初期ニ於テ潰瘍性口内炎ト確診シ難キヲナキニアラズト雖モ其發生ノ部位經過並ニ他部ノ症候ヲ參照セバ又鑑別ニ困難ヲ

覺ユルヲナシ

豫後頗ル不良ナリ七十布仙ハ死ノ轉歸ヲ取ル早期ニ施術シ壞疽分離ノ傾向現ハレ而シテ全身體力旺盛ナルキハ恢復ノ希望少ナカラズ但シ其再發スルヲアルヲ記憶セザルベカラズ



痛水圖七十四第 (氏ノートクハ)

療法

晩期ニ於テ其已ニ口腔大部ニ蔓延セルニ至レルキハ施術頗ル好望少ナシ然レモ初期ニアリテ速ニ之レヲ切除スルキハ其蔓延ヲ制限セシムルヲ得ルコト常ナリ

病竈ヲ切除スルニハ刀ヲ用ヒテ遠ク健康組織ニ於テ之レヲ切除ス然レモ單ニ刀ノ力ノミヲ利用セズシテ同時ニ焼灼或ハ腐蝕ヲ併用スルコト利アリ電氣燒灼器並ニバググリン燒灼器ハ之レヲ用ユルニ出血ヲ生ズルコト少ナク且其發スル高熱ニヨリ同時ニ組織中ニ潜在セル細菌ヲモ撲滅スルヲ得ルトシテ稱用セラル或ハ腐蝕藥トシテ硫酸、鹽化亞鉛、苛性加里、石炭酸等ヲ用ユルモノアリカバール *H. C. G. Ca-pall* ハアレンヂ、ストレプトコククス、血清十瓦ヲ注射シテ十二時間内ニ壞疽分離ヲ起サシメ得タル一例ヲ報告セリ

消毒藥ハ多大ノ影響ヲ致サルモノ、如シ然レモ創面ニハ沃度防護ヲ撒布シ口腔ハ消毒、含嗽ヲ行ハシムルコトヲ忘ルベカラズ其他ノ處置ハ單ニ對症的ニシテ同時ニ營養ヲ極メテ旺盛ナラシムルヲ要ス

第九項 實扶的里性口内炎

Oral Diphtheria
Stomatitis diphtherica

レフレル氏實扶的里桿菌ノ傳染ニヨリテ生ズル口内炎

ニシテ原發スルコト稀ナリ、主トシテ咽頭實扶的里ノ蔓延ニヨリテ生ズ從テ軟口蓋及口蓋弓ノ附近ニ來ルコト最多シ故ニ流行時ニ際シ小兒ヲ襲フモノニシテ口呼吸ヲナスモノ發疹熱ニヨリテ衰弱セルモノニ殊ニ多シ

症候

一般實扶的里ノ症候ヲ呈ス即一乃至八日ノ潜伏期ヲ經テ頭痛、眩暈、發熱、餓渴、嘔吐、下痢乃至頸部強剛、咽喉不快等ヲ以テ初マリ發病後一乃至三日ニシテ咽頭及ビ軟口蓋或ハ其前方ニ義膜ノ形成ヲナス、義膜ハ初メ潮紅腫脹シタル粘膜炎ニ圓形ナル灰白色斑トシテ顯ハレ漸ク増大シテ多少廣汎性ヲ帶ビ周圍ノ組織ヨリ少シク高起シタル膜狀ヲナスニ至ルモノトス、甚シキ場合ニハ前方ハ軟口蓋ヨリ後方ハ喉頭ニ達スルノ大サヲオス可シ、出血或ハ異物沈着ノタメ其ノ黃色褐色乃至黑色ヲ呈スルコトアリ、義膜ハ堅ク粘膜炎ニ膠着シ綿球ノ清拭等ニヨリ容易ニ剝離セラル、コトナシ其一タビ剝離スルヤ潰瘍ヲ形成シ顆粒狀ニシテ頗ル出血シ易キ表面ヲ遺ス

局處的機能障害トシテハ嚥下困難、流唾、舌苔懸垂垂ノ腫脹或ハ麻痺ニヨル鼻聲等ヲ主ナルモノトス、全身の症候トシテハ發熱アリ四十度乃至四十一度ニ達シ全身倦怠、消化障害、呼吸障害アリ且殆ド常ニ多少ノ蛋白尿ヲ目撃スベシ

経過

佳良ナル場合ニハ義膜及ビ壞死シタル上皮ノ一部剝離シ癩痕形成ヲナシテ治癒ス滲出物ハ徐々ニ吸收セラレテ消失スルモノトス或ハ義膜ノ擴布漸ク周圍ニ及ンデ下方ハ喉頭氣管肺臟ニ上方ハ鼻腔ニ至ルマデ蔓延シ或ハ更ニ口腔ノ前方歐氏管内又ハ胃中ニ達スル迄蔓延スルヲナキニアラズ其侵略ノ程度ト生活力ノ強弱トニヨリ種々ナル症候ヲ呈ス

病初以來五日以内ニ死ノ轉歸ヲ取ルコト少ナカラズ或ハ局處的破壊作用ニヨリ或ハ虚脱ニヨリ或ハ轉移ニヨリ之レヲ斃ス腎臟腦及ビ心臟ハ最轉移ヲ生ジ易キ部分ナリトス其他併發症ガ致死ノ因ヲナスコアリ

豫後及診斷

毎回ノ流行性ニヨリ並ニ生活力ノ強弱ト療法ノ適否トニヨリテ著シキ差異アリト雖モ豫後概シテ危險ナリ鼻腔喉頭消化器等ニ義膜ノ沈下耳痛咽頭痛皮膚紫斑其他ノ出血消化障害ノ持續高熱尿閉心臟運動衰弱等ハ殊ニ豫後ノ不良ナルヲ示スモノトス

治癒亦稀ナラズト雖モ後ニ全身性或ハ局處性麻痺ヲ遺スコアリ後者ノ場合ニアリテハ口蓋筋咽頭筋或ハ咀嚼筋ノ侵サレ、ト最多シ味神嗅神又之レヲ免ル、ト能ハズ然レモ其麻痺ハ一過的ニシテ忽チ恢復スルモノナリ

流行ノ存否咽頭ニ於ケル病變ノ狀態口腔粘膜面ニ附着セル義膜ヨリ細菌學的ノ検査ニヨリ實扶的里菌ノ存在ヲ證明シ得レバ診斷ニ苦シムコナシ

療法

隔離法ヲ施コシ可及的速ニ千乃至三千免疫單位ノ實扶的里血清ノ皮下注射ヲナスコト普通ノ如シ全身症狀ニ對シテハ對症療法ヲ取ル即チ要ニ臨ミ解熱劑興奮劑ヲ與ヘ營養ヲ保持スルコトヲ勉メテ牛乳食ヲナサシム

局處的ニ防腐消毒性合嗽料防腐消毒性蒸氣ノ吸入等ヲ命シ頸部ニ醋酸礬土水器法或ハ水襟ヲ施コシ呼吸困難ノ場合ニハ時期ヲ誤ラズシテ挿管法又ハ氣管切開法ヲ施コスベシ

第十項 流行性口内炎

Epidemic Stomatitis
Stomatitis epidemica

ハ家畜ノ口蹄疫 Mouth and Claw Disease
ニ罹レルモノヨリ直接或ハ間接ニ

傳染スルモノニシテ幼若ナル小兒ニ最多ク且最重劇ナル症候ヲ生ズ唾液潰瘍分泌物及水胞内容物等ヨリ種々ナル細菌ヲ檢出シタルモノアレモ眞ノ病原ハ未發見セラレズ

傳染ハ殆ト常ニ消化器又ハ呼吸器系ヨリ侵入スルモノナレモ又皮膚及粘膜ノ欠損部ヨリ感染スルコトアルガ如シ

症候

本症ハ八乃至十日ノ潜伏期ノ後惡寒發熱消化障害ヲ以テ初マリ疲勞頭痛關節痛食慾不振胃痛嘔氣嘔吐ヲ訴フルモノ最多シ次テ口腔ニ乾燥灼熱ノ感ヲ覺エ口唇頰粘膜及齒齦ノ諸所ニ潮紅セル斑點ヲ現出ス此潮紅斑點ハ忽チニシテ増大融合シ遂ニ口腔及咽頭粘膜全面深赤色ヲ呈スルニ至ルベシ二乃至三日ヲ經過スレバ口腔鼻腔眼或ハ顔面ニ數多ノ水泡性發疹ヲ生ズ此發疹ハ孤立シ或ハ融合シ多クハ豌豆大ニ達シ其内容ハ初メ清澄水様ナレモ漸次濁濁ス又發疹部ノ組織ハ多少腫脹シ口唇眼險舌等ニ於テ最顯著ナルヲ見ルベシ故ニ灼熱感ト相待ツテ嚙下談話ヲ妨グルコト少ナカラズ唾液ノ分泌ハ著シク増加シ顎下部及耳下腺部ノ淋巴腺及唾液腺何レモ硬結スルコト常ナリ

水泡ノ發育完成ト共ニ熱ハ下降ス而シテ更ニ二三日ヲ經過スレバ水泡ノ被蓋ハ自然ニ剝離シ後ニ浸潤シ潮紅シタル知覺銳敏ナル淺在剝脫面ヲ遺シ徐々ニ瘡痕ヲ形成セズシテ自然ニ治癒ス

其他口腔ニ關係ナクシテ外皮ニモ亦數多ノ發疹ヲ見ルベシ殊ニ搾乳者ニ於テ最多シ指趾ノ末端踵部外陰部乳房等ノ如シ數日乃至數週ニシテ水泡ノ内容乾固シテ痂皮ヲ形成シ外皮ハ完全ニ再生セラレガ如シ

豫後及診斷

人類ニ來ルモノハ豫後比較的佳良ナリ多クハ二乃至四週間ニシテ恢復ス後ニ瘡痕ヲ遺スコトナシ然レモ極メテ幼若ナル營養不良ノ小兒ニ來ルキハ衰弱膿毒症等ニヨリ死ヲ致スコトアルベシ

家畜口蹄疫ノ流行ニ際シ直接或ハ間接ニ家畜ニ觸接スルモノ或ハ生肉ヲ食スルモノニ來リ特殊ノ症候ヲ以テ外皮ニ水泡ヲ形成スルガ故ニ診斷頗ル容易ナリ殊ニ潰瘍性口内炎ノ如ク深大ナル實質欠損ヲ生スルコトナク亞布答性口内炎ヨリモ劇烈ナル前驅症狀及全身症狀ヲ有スルヲ特徴トナスシユナイデミュールハ動物ニ接種試驗ヲナスベシト云ヘリ

療法

家畜ヲ常ニ清潔ニ保チ之レニ觸接スルニ注意ヲナスベシ殊ニ口蹄疫流行ノ疑アルキニ然リ口内炎ニ對シテハ鹽剝硼砂過錳倫酸加里等ヲ用ヒ剝脫面ニハ二布仙ノ硝酸銀溶液ヲ塗布シ疼痛ニ對シテハ古加乙濕溶液或ハ硝酸銀結晶ノ腐蝕ヲ行フベシ下痢嘔吐等ニ向テ又相當ノ處置ヲ忘ルベカラズ

第十一項 疱疹性口内炎

Herpetic Stomatitis
Stomatitis herpetic

ハ發熱症候ノ下ニ發炎潮紅セル口腔粘膜面ニ群集性又ハ散在性ノ罌粟實大乃至粟粒大ノ水泡ヲ生ズルヲ以テ特徴トスル處ノ急性口内炎ノ一種

ナリ、便麻質斯、急性鼻加答兒、流行性感胃消化機障害、肺炎、婦人生殖器疾患並ニ局處的刺戟ヲ以テ原因ト見做サル其本態ニ關シテハ、ヘブラ、カボシ、等ハ當該知覺神經領域ノ疾患トナセリ

症候

口唇殊ニ皮膚ト粘膜トノ移行部ニ群集性或ハ散在性ノ微細水泡ヲ生ズルヲ最普通トス、水泡ノ内容物ハ當初ハ清澄透明ナレモ數日ノ中ニ漸ク濁濁シテ膿様トナリ又忽チニシテ自然或ハ自潰ニヨリ乾固シテ黃色又ハ褐色ノ痂皮ヲ生ズ然レモ粘膜面ニ生ジタル水泡ハ稍之ト趣ヲ異ニシ水泡ノ形成後浸潤ト摩擦トニヨリ忽チ上皮ヲ剝離セラレ大小不同ノ白色斑點又ハ剝脫面トナリ完全ナル水泡ヲ認ムルコト極メテ稀ナリ其發生ハ硬口蓋、舌、頰粘膜ニ最多ク齒齦及懸壅垂附近ニモ亦來ルベシ何レモ偏側ニノミ顯ハル、コト多シ

自覺的症候トシテハ最初ニ不安、氣力減衰、倦怠ヲ覺エ忽チニシテ多少ノ發熱症候ヲ呈ス同時ニ口腔、咽喉聽器内部等ニ放散スル處ノ劇烈ナル燒灼様乃至穿刺性疼痛ヲ感ズベシ爲ニ嚥下困難ヲ起スコト稀ナラズ然レモ又緊張灼熱ノ感以外ニ何等ノ障害ヲ生セザルコトアルベシ

豫後及診斷

起始ノ急劇ナルコト、疼痛ノ性質、水泡ノ集簇及其半側性ナルコト等ニ注目スレバ診斷ニ過誤ヲ生ズルコトナカルベシ豫後常ニ佳良ニシテ數日乃至二週日中ニ全ク治癒ス

療法

水泡形成以前ニハ水ヲ以テ口腔ヲ洗滌シ發熱ニ對シテハ規尼涅、安知必林、アスピリン等ノ解熱劑ヲ内用セシム
水泡ノ已ニ形成セラレタルモノニハ微溫湯、カミルレ浸或ハ粘滑劑ヲ以テ口腔ヲ洗滌スルヲヨシトス、疼痛ノ劇シキモノハ之ニ阿片丁幾、等ノ鎮痛劑ヲ配合シテ用ユベシ、或ハ食前五乃至十布仙古加乙涅溶液ヲ塗布スルモヨシ、晚期ニハ硼酸水ノ含嗽、硼砂溶液又ハ單寧、偲里設林(三十倍)ノ塗布等用ヒラル食物ハ初メヨリ流動食ヲ取ラシムルヲヨシトス

第三章 齒齦炎

齒齦炎

Gingivitis

齒齦ノ一部或ハ全部ニ於ケル炎症ハ局處的刺戟ニヨリテ自發的ニ來ルコトアリ又ハ全身的疾患ノ一症候トシテ來ルコトアリ急

性ト慢性トヲ分ツ

齒齦炎

一、局處的刺戟ハ主トシテ急性或ハ亞急性齒齦炎ヲ生ズルノ原因トナル例之齒石ノ堆積異物ノ介在、適合不良ノ義齒破壞齒牙、齒牙難生等ノ器械的刺戟アリ口腔不潔、唾液變性、喫煙、飲酒等ノ化學的刺戟アリ

二、發疹熱及其他熱性疾患ハ急性或ハ亞急性齒齦炎ノ原因ヲナスコアリ

三、症候的齒齦炎ハ主トシテ慢性或ハ亞急性ニシテ且廣汎性ヲ帶ブ汞劑中毒、鉛中毒、微毒、壞血病等何レモ之レガ原因トナル

急性、齒齦炎、*Acute Gingivitis*、*Gingivitis acuta* ハ主トシテ局處刺戟ニヨリテ生ズルモノニシテ從テ刺戟ノ加ハリタル部位ニ症候特ニ顯著ナリ、概スルニ表面ハ固有ノ光輝ヲ失ヒテ潤濁シ潮紅浮腫アリ知覺亢進シテ之レニ觸ル、ニ容易ニ出血シ唾液ノ分泌多少増進シテ口氣惡臭アリ其齒頸部ノ附近ニ沿フテメ顯ハル、時ハ特ニ之レヲ齒齦緣炎ト稱ス一様ニ浮腫増厚シテ齒頸部ヨリ剝離シ其間ニ分泌物ヲ滯留ス又數々潰瘍ヲ散在スルコアリ口腔ノ機能障害ノ外全身の症候ヲ生スルコト極メテ少ナシ汞、毒性、齒齦炎、*Mercurial Gingivitis*、*Gingivitis mercurialis* ニアリテハ症候殊ニ顯著ニシテ廣汎性ニ齒齦組織ノ大部分ヲ侵シ浮腫最モ著シク海綿様柔軟トナリ處々ニ潰瘍ヲ形成ス、口内ニ齶味アリ流唾、口臭共ニ極メテ不快ナリ、多數ノ齒牙一時ニ弛緩シ或ハ脫出スルニ

至ルコアルベシ口腔ノ機能障害又極メテ顯著ナリ

鉛、毒性、齒齦炎、*Lead-Gingivitis*、*Gingivitis plumbae* ハ症候的疾患トシテ慢性鉛中毒ニ來ル慢性齒齦炎

ノ一形態ナリ一般齒齦炎ノ輕微ナル症候ニ加フルニ齒齦緣ニ於ケル青線(又鉛線) *Blue line* ヲ以テス、鉛線ニ二種ヲ區別ス一ハ齒頸部ニ沿フテ齒齦組織ノ表面ニ沈着シタルモノニシテ強ク含嗽スルカ或ハ之レヲ清拭スレバ消失スベキモノナリ、他ノ一ハ真正特異ナル帶青黑色線ニシテ齒齦緣ニ沿フテ數齒ニ跨リテ顯ハル齒齦緣ノ乳頭組織中ニ硫化鉛トシテ鉛ノ分子ガ沈降シタルニ基クモノニシテ從テ線ヲ擴大シテ檢スレバ點綴セルヲ認ムベシ其沈降急劇ニ起リ數週ニシテ消失スト雖モ又タ永久消滅セザルモノナキニアラズ

壞、血、病、性、齒、齦、炎、*Scurvitic Gingivitis*、*Gingivitis scorbutica* ハ壞血病ニ伴フテ生ズル症候的齒齦炎ノ一形態ナリ、疾病ノ初期ニ於テ已ニ顯ハル、モノニシテ齒齦ハ全體ニ著シク腫脹軟化シ海綿様ヲ呈シ極メテ出血シ易ク贅肉様外觀ヲナシ數齒一様ニ弛緩動搖シ或ハ遂ニ脫出ス稀ニ顎骨ノ骨疽ヲ生ズ、其他舌モ甚シク腫大シ赤色ヲ呈シ厚キ苔ヲ被ムリ唾液腺腫脹シ口氣極メテ惡臭アリ口腔粘膜ノ處々ニ皮下溢血ヲ散見スベシ殆ド制止シ難キ齒齦出血ヲ見ルコト又少ナカラズ

診斷及豫後

局處ノ状態ヲ精査シ原因タル事項ヲ追究スレバ容易ニ之レヲ鑑別シ得ベシ殊ニ慢性齒齦炎ハ主トシテ全身の疾患ノ結果タルヲ多キヲ以テ常ニ之ヲ檢出スルヲ忘ルベカラズ

急性齒齦炎ニシテ除去シ得ベキ原因ヲ有スルモノハ豫後最佳良ナリ其刺戟ニシテ完全ニ除去シ難キモノナルハ單純ナル慢性齒齦炎ニ轉ジ或ハ齒齦肥大ヲ生ズルニ至ル症候の齒齦炎ハ其原始性疾患ノ種類ニヨリテ豫後一様ナラズト雖モ概スルニ其原因の疾患ノ治癒ト共ニ消散ス

齒齦緣炎ハ齒頸部ヨリ細菌ノ侵入スルヤ容易ニ齒槽膿漏ノ轉歸ヲ取ル故ニ或ハ齒槽膿漏ハ必ラズ齒齦緣炎ヲ以テ初マルモノナリトナスモノアリ(ツナメンスキ、タルボット等)

療法

原因ヲ除クヲ以テ急務トナス殊ニ全身の疾患ニハ適當ノ處置ヲ施コスヲ要ス、口腔ハ刺戟トナルベキ物質ヲ去リ齒石ヲ除去シ有機質ヲ清掃シ口内ヲ反覆「バイロゾン」ニテ洗滌シ齒牙ニモ適當ノ處置ヲ施コス

局處塗布劑トシテ密爾拉丁幾刺答尼丁幾沃度双蘭菊丁幾「アドレナリン」等ヲ使用シ潰瘍面ハ硝酸銀腐蝕又ハ電氣燒灼ヲ施コスベシ

含嗽劑トシテハ防腐收斂性ノモノヲヨシトス硼酸鹽剝枯禁安息香酸知母爾鹽化亞鉛「バイロゾン」「リステリン」等之レニ適ス滅菌食鹽水或ハ硼酸水ヲ血温以上ニ温メタルモノヲ多量ニ用ヒテ一日數回口腔ニ灌注法ヲ行フハ口腔ヲ清潔爽快ナラシメ且鎮靜セシムルノ効アリ

齒齦緣炎ニシテ齒頸部ノ周圍ニ囊ヲ形成セルモノアルハ時々芳香硫酸三鹽化醋酸(四布他揮發性油類、石炭酸龍腦硫酸銅液(三布他)等ヲ注入シテ少シク刺戟ヲ附與スルヲヨシトス齒齦肥大ヲ呈セルモノハ切除或ハ電氣燒灼ノ必要アリ

第四章 齒牙難生

齒牙難生

Difficult Dentition
Erythremia Zahn

齒牙ハ齒齦下ニ於テ形成セラル、ヤ所謂萌出力ニヨリテ其上ニ存スル軟組織ヲ吸收シテ漸次粘膜炎上ニ露出スルニ至ル、其間齒根ノ形成ト軟組織ノ吸收トハ相調和セザルベカラズ普通ノ場合ニアリテハ兩者ノ調和維持セラル、ヲ以テ病的變化ヲ生ズルコトナシト雖モ時トシテ其作用ノ一或ハ兩者ニ錯誤ヲ生ズルコトアリ然ルニ生齒期ニ於ケル小兒ハ其ノ知覺機敏ニ抵抗カ微弱ナルヲ以テ乃チ茲ニ種々ナル病機ヲ顯出ス

ベシ齒牙難生之レナリ齒牙難生ハ主トノ乳齒發生ノ際目撃スル處ニノ永久齒ノ發生ニ方リテハ殆ド常ニ之レヲ生ズルコトナシ但智齒殊ニ下顎智齒ハヨク難生ヲ起ス者ナリト雖モ此際ニ於ケル病變ハ乳齒ノ者ト全然相異ナルコト後述ノ如シ

齒牙難生ヲ説クニ先ダチ生理的齒牙發生ノ狀態ヲ述ベントス即生後六七ヶ月ノ頃ニ至ルヤ齒齦ハ未來ノ齒穹線ニ相當スル部ニ於テ漸ク軟骨様ノ抵抗ヲ顯ハスベシ此硬固ナル齒齦緣ハ時日ヲ經過スルニ從ヒ順次菲薄柔軟トナリ終ニ齒牙ノ潜伏スル部分ヲ除イテハ普通強靱ナル齒齦ノ硬度ヲ呈スルニ至ル試ニ指頭ヲ以テ壓診スレバ多少化灰セル齒牙ヲ齒齦上ヨリ觸知スルヲ得ベシ此時期ニ於ケル小兒ハ齒齦ニ存スル異様ノ感覺ヲ慰センガタメ指頭或ハ硬固ナル物質ヲ口中ニ挿入シテ齒齦ヲ摩擦スルモノニシテ之レガタメ時トシテ軟組織ヲ毀損スルコトアルベシ

古來生齒ハ流唾ヲ生起スルモノナリト説明セラレタルコトアレモ極メテ信據スルニ足ラズ生齒期ニ唾液ノ分泌多量ナルヲ見ルコトハ正ニ事實ナリト雖モ之レ偶然相併發セルモノニシテ敢テ原因的關係ヲ有スルモノニアラザルナリ蓋シ唾液ノ分泌ハ生後第一週ノ頃ニハ僅ニ數滴ニ過ギズ二ヶ月頃ニ達スレバ漸ク増量シ

テ十五分乃至三十分ニシテ一グラムヲ分泌シ四ヶ月乃至六ヶ月ニ至レバ口外ニ溢流スルノ量ニ達スルモノナルコトリテンコンバレット等ノ研究シタル處ナリ而シテ此等ハ毫モ生齒作用ノ如何ニ關係ヲ有セザルモノナリ

極メテ強健ナル小兒ニアラザル限りハ生齒期ニ方リ數日間多少ノ異和不安失調等ヲ顯ハスコト常ニシテ稍稀レニハ又下痢咳嗽發疹等ヲ生ズ殊ニ乳白齒ノ發生時ニ多シトナス

本態

齒牙難生ハ齒牙ノ萌出機異常ノ結果トシテ來ルモノニシテ或ハ齒牙ノ萌生遲滯スルニヨルコトアリ或ハ齒齦吸收ニ對スル抵抗ノ過多ナルニ基因スルコトアリ或ハ兩者ノ連合ニヨルコトアリ萌出機ニシテ一度異常ヲ呈スルヤ齒齦組織ハ容易ニ器械的刺戟ヲ受ケテ發炎スベク齒髓中ノ神經ハ反動的壓迫ヲ蒙ルリテ又忽チニ機能障害ヲ生スベキコト疑フニ足ラズ而シテ初メ先ヅ末梢神經ニ起リタル機能障害ハ小兒ノ鋭敏ナル知覺裝置ニヨリテ忽チ他部ニ傳搬セラレベキコト亦見易キノ事實ナリ加之生齒期ハ小兒ノ健康ニ異常ヲ呈出シ易キ時期ニシテ偶然併發シタル消化器或ハ呼吸器ノ疾患ニシテ生齒困難ノ結果ナリト見做サレタルモノ古來少ナカラザルモノトス此間極メテ劃然タル區別ヲ要ス

症候

齒牙難生ニ伴フ症候ハ其劇度相同ジカラズ主トシテ小兒健康ノ程度如何ニ歸スルモノトス其主要ナルモノ左ノ如シ

一、局處的症候 萌出路ニ方レル齒齦ニハ不快感乃至疼痛アリ小兒ハ之レヲ慰セントシテ手指又ハ硬固物質ヲ以テ頻リニ摩擦スルガタメ頗ル其刺衝性ヲ増シ發炎シテ少ナカラザル自發痛乃至壓痛ヲ生ズルニ至ル更ニ其炎症ハ漸ク口腔粘膜全體ニ波及シ加答兒性亞布答兒性乃至潰瘍性口内炎ヲ生ズルヲ稀ナラズ

唾液ノ分泌ハ已ニ此ノ時期ニ於テ多量ナルモノナルニ手指ノ挿入其他器械的ノ刺戟常ニ斷エザルヲ以テ更ニ其分泌ヲ増加シテ口外ニ溢出ス其溢出シテ口唇頰部等ノ斷エズ濕潤スルヤ此附近ニ剝脫面或ハ濕疹ヲ生ズルヲ少ナカラズ而シテ此ノ如キ皮膚ハ知覺鋭敏ニシテ手指又ハ異物ノ觸ル、カ或ハ口腔運動ニ際シテ緊張スルハ少ナカラザル疼痛ヲ生起スルモノニシテ小兒ハ之レガタメ容易ニ號叫シ或ハ不安ノ状態ヲ呈ス

其他發作性ニ一種ノ電擊的疼痛ヲ生ズルヲアリ殊ニ睡眠中ニ多ク襲來シ小兒ハタメニ急劇ニ醒覺シテ號叫スルヲ數々見ル處ナリ

二、呼吸機障害 齒牙難生ニ方リ咽頭氣管等ノ加答兒及ビ咳嗽ヲ見ルヲ頗ル稀

有ナリトセズ加答兒ハ或ハ偶然同時ニ發生スルヲアルベシト雖モ或ハ口腔粘膜面ニ於ケル濕疹ガ組織ノ連續ニヨリ呼吸器粘膜面ニ波及シタルニヨルヲナキニアラズ或ハフーゲルノ謂フガ如ク齒牙難生時ニ口外ニ溢出スル唾液ガ衣類ヲ濕潤シテ寒胃ニ罹ラシムルニヨルヲアルベシ

咳嗽ハ加答兒ノ結果ナルヲアリ或ハ變敗シタル唾液ガ多量ニ嚥下セラレテ咽頭ヲ刺戟スルニヨルヲアリ或ハ齒牙難生ノ結果トシテ迷走神經ガ反射刺戟ヲ蒙ムリ百日咳ニ類シタル一種ノ痙攣性咳嗽ヲ生ズルヲナキニアラズ

三、消化機障害 齒牙難生ニ際シテ起ル消化障害ハ一或ハ偶然共存スルヲアルベシト雖モ二多クハ異常ニ多量ノ亞爾加里性又ハ中性ノ口腔分泌液ノ嚥下セラル、ニヨリ消化液ガ其酸性度ヲ低減セラル、ニヨルカ 三然ラザレバ三又神經齒牙枝ニ加ハル刺戟ガ内臟神經ニ反射シテ腸蠕動機ノ刺戟セラル、ニヨリテ起ルモノトス單純不消化ノ他下痢及ビ嘔吐等之レアリ

下痢ハ或ハ不消化性下痢ナルヲアリ即チ糞便ハ其頻數及ビ含水量ヲ増加シ粗雜ナル凝固乾酪樣屑片ヲ排泄シ之レニ多少ノ粘液ヲ混有シ酸性反應ヲ呈シテ排泄後忽チ綠變スベシ或ハ腸加答兒性下痢ナルヲアリ即チ前者ヨリ其排泄ノ量少

ナク主トシテ消化不良ノ乳汁、粘液及ビ多少ノ血液ヲ混有ス

嘔吐ハ急性胃加答兒及ビ異食ト關係ナク直接ニ生齒障害ヨリ來ルコアリ主トシテ嘔下セラレタル水様粘液ヨリナリ嘔氣ヲ前驅スルコトナクシテ來ル

四神經機障害 知覺機銳敏ナル此時期ノ小兒ニアリテハ生齒以外ノ原因ニヨリ已ニ多少ノ神經機障害ヲ起セルモノ少ナカラズ殊ニ貧血性、佝僂病性並ニ神經質性ノ小兒ニ於テ然リ然レモ亦純然生齒困難ニヨリテ生起セラル、コトナキニアラズ不安、不眠、不機嫌等ハ最多ク目撃スル處ナリ

搖擗ノ限局性ニ顯ハル、コトハ極メテ稀有ナラズ眼瞼、頸項附近ニ於テ然リ主トシテ他ノ疾患ノ併發セルニヨル、稀ニ膀胱ニ障害ヲ生ジテ利尿困難、遺尿等ヲ顯ハスコトアリ殊ニ佝僂病性又ハ癩癩性小兒ニ於テ多シトナス或ハ之レヲ以テ生齒ノ反射刺戟ニ歸スルモノアレトモ不安、睡眠障害、生殖器ノ炎症等又之レガ原因トナルコトアルベシ

五、發熱 モ亦殆ト常ニ併發スル處ノ症候ナリ三十八度乃至三十九度ニ達ス齒牙難生ガ直接ニ發熱ヲ生ズベキコトハ極メテ疑ハシ寧ロ消化器、呼吸器等ノ全身的或ハ局處的炎症ノ結果ナリト見做ス方穩當ナルベシ

六、發疹 濕疹、痒疹、蕁麻疹、苔癬等ノ生齒困難ニ併發スルコトアリ或ハ僅ニ口腔附近ニ限局シ或ハ廣汎性ニ皮膚ノ大部ヲ侵スベシ

七其他加答兒性眼炎、耳漏等ノ併發スルコト亦之レアリ

診斷及豫後

一、小兒ノ年齢ト 二、局處ノ狀態ト 三、從來ノ健康トヲ精査スレバ此ニ生ジタル症候ガ生齒困難ニ基因スル者ナルヤ將タ他部ノ原因ニ歸スベキヤヲ容易ニ鑑別スルヲ得ベシ豫後常ニ佳良ナレモ他ニ存在スル眞因ヲ看過ノ治療ヲ施コサルキハ或ハ不良ノ豫後ヲ呈スルコトナラズ

療法

豫防法トシテ小兒ハ朝夕數回殺菌水或ハ弱硼酸水ヲ「ガーゼ」ニ蘸シテ口腔ヲ清掃スルヲ佳トス但シ強ク摩擦スレバ剝脫面ヲ作り或ハ器械的刺戟ヲ附與スルノ弊アルヲ以テ注意スベシ

生齒困難ノ存在ヲ確メ得タルキハ先ヅ何レノ齒牙ノ發生セントスルヤヲ探知スルヲ要ス、是ニ於テ普通ノ鑷及刀ヲ用ヒテ齒牙ニ達スル切開ヲ齒齦ニ加ヘテ其萌出ヲ容易ナラシムルコト常ナリ切齒犬齒ニアリテハ近心ヨリ遠心ニ向フ眞直切開ヲナシ臼齒ニアリテハ咬面ノ對角線ニ相當スル十字形切開ヲ加フルヲヨシトス神經機障害ノ大ナルモノ或ハ一時ニ多數齒牙ニ切開ヲ加ヘント欲スル場合ニハ

クロ、ホルムノ半麻酔ヲ必要トス切開シタル創面ハ頻々防腐無刺戟性藥液ヲ用ヒテ反覆清拭セシムレバ足レリトナス

其他ノ療法ハ凡テ對症のナリ下痢ニ對シテハ先ヅ蓖麻子油等ノ緩性下劑ヲ與ヘテ腸内ヲ清掃シ次ヅニ次硝酸蒼鉛或ハ之レト阿片末ヲ調合シタルモノヲ以テス不安充奮等ニ對シテハ少量ノ臭剝ノ内服又ハ抱水、クロラールノ灌腸等ヲ必要トスルコトアリ瘧癘ノ顯著ナルモノニバ、クロ、ホルムノ少量ヲ吸入セシムルノ止ムヲ得ザルコトアリ

第五章 智齒難生

智齒難生

Difficult Denture of Wisdom Teeth. Zschawet's Durchbruch der Weisheitsähne

ハ曾テ説明シタル如キ齒齦神經ノ壓迫或ハ齒髓ノ壓迫等ノ如キ器械的疾患ナリト稱スル能ハズ純粹ナル一種ノ外傷性炎症ナリ
智齒難生ハ上顎ニ起ルコト殆ド之レナク主トシテ下顎ニ來ル之レ下顎骨ハ人類ノ進化ニ伴ヒ漸ク萎縮ヲ呈スルモノニシテ齒牙ノ萎縮ハ之レト相調和セズ即茲ニ齒牙ノ大サト顎骨ノ大サトノ間ニ不調和ヲ生ジ最後ニ發生スル智齒ハ殆ド常

ニ充分ナル空隙ヲ見出ス能ハズ或ハ轉位シ或ハ傾斜シテ萌出シ以テ其ノ附近軟組織ニ外傷ヲ生ジ化膿菌ノ侵入ヲ許シ易カラシムルヲ以テナリ故ニ印度人亞弗利加人等ノ如キ顎骨ノ進化極メテ少ナキモノニアリテハ智齒ノ發生ニ何等ノ故障ヲ生ズルコトナシト雖モ白哲人種ノ約三分ノ二ハ智齒發生ニ際シ必ラズ多少ノ障害ヲ生ズルモノナリト云フ

下顎智齒ノ萌出シ來リテ其上方ニ存スル齒齦及ビ顎間皺襞ヲ多少舉上スルヤ上顎ノ對合齒ハ咬合毎ニ玆ニ叩打シテ軟組織ニ剝脫面或ハ潰瘍ヲ形成スルコトアルベシ此部ヨリ細菌ノ侵入スルコト亦忽チニシテ起ルベシ故ニ概言スレバ下顎智齒ノ難生ハ外傷及ビ傳染ノ起リ易キ場合ニ生ズルモノナリ即智齒ノ方向ガ著シク傾斜セルト上顎對合齒ガ異常ニ長大ナルト小楊子ヲ亂用スル惡弊ヲ有スルモノ等ニアリテハ外傷ヲ生ジ易ク口腔ノ清掃不完ナルモノ、粘膜面ノ抵抗力薄弱ナルモノ、齒齦緣又ハ顎間皺襞ノ肥厚腫大セルモノ等ニアリテハ傳染ヲ生ジ易ク從テ智齒難生ヲ生ズルハ此ノ如キ場合ニ見ル處ナリ

症候

先ヅ智齒ヲ被覆スル口腔粘膜ノ炎症ヲ以テ初マリ忽チニシテ齒齦ニ波及シ更ニ組織ノ連續ニ沿フテ顎間皺襞、頰、口蓋等ノ粘膜ニモ蔓延スベシ

疼痛ハ初期ニアリテハ頗ル顯著ナラズ顎ノ開閉及ビ嚙下ニ際シテ僅ニ之レヲ
 經驗スルノミ、然レモ炎症ノ漸ク増劇スルヤ疼痛モ亦増悪シ自發痛ヲ生ジ或ハ耳
 部迄放散スル深在劇痛ヲ現ハスニアリ、炎症ノ長ク持續スルヤ漸ク深入シテ顎骨
 々膜ニ達シ或ハ咬筋並ニ内翼狀筋ノ附着部マデ蔓延シテ終ニ高度ノ牙關緊急ヲ
 生ズルニ至ルベシ

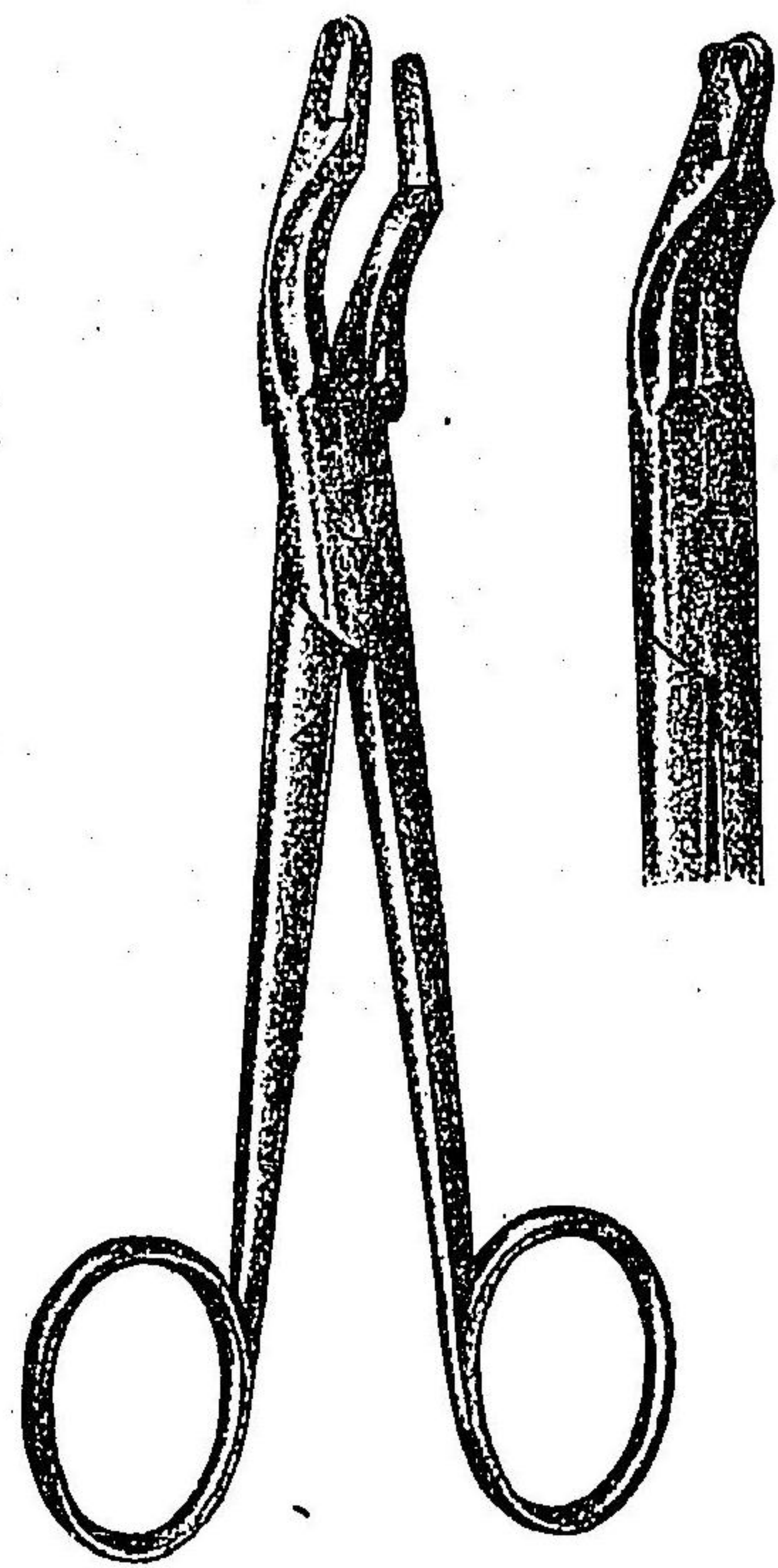
潰瘍面或ハ齒頸周圍ヨリ化膿菌ガ侵入スルヤ症候更ニ顯著ナル増勢ヲ示シ劇
 烈ナル口内炎ヲ生ジ遂ニ化膿ノ轉歸ヲ取り其附近ニ膿瘍ノ形成ニ終ルベシ、同側
 顎下部ノ淋巴腺ハ早期ヨリ腫脹スル者トス、膿瘍ハ或ハ直ニ智齒ノ周圍ニ形成セ
 ラレテ齒頸部ヨリ排膿シ大ナル後害ヲ遺サハルニアリ或ハ智齒ノ内側前口蓋弓
 ノ前方ニ形成セラレテ口腔ニ開口排膿スルニアリ或ハ下顎骨々膜下ニ流注シテ
 大ナル骨膜下膿瘍ヲ形成シ終ニ外皮ニ開口スルニアリ其結果トシテ齒牙ハ失活
 シ顎骨ハ隅角部附近ニ於テ骨疽ニ陥ルヲ稀ナラズ

牙關緊急ト化膿作用トハ著シク患者ヲ沈衰セシムルモノニシテ體溫昇騰、食思
 不振、頭痛、不眠、便秘等頗ル患者ニ苦痛ヲ與フベシ

診斷及豫後

一 萌出セントスル智齒ノ存在、二 炎症ガ初期ニアリテハ智齒
 ノ附近ニ限局シ顎骨膜、口底組織等ニ顯著ナラザルヲ、三 初期
 ヨリ牙關緊急ノ顯出等ニ注目スレバ容易ニ顎骨膜炎、ルドウヒ氏安魏那、扁桃腺炎
 等ヨリ鑑別スルヲ困難ナラザルベシ

輕微ナル智齒難生ニシテ智齒ヲ容ル、ニ足ルノ空隙存スルモノハ其ノ萌出完
 了ト共ニ又後害ヲ生ズルヲナシト雖モ已ニ膿瘍ノ形成セラレタルモノニアリテ
 ハ速ニ適當ノ處置ヲ施コサレバ破壊ノ方向ト程度トニ應ジテ多少ノ後害ヲ遺
 スモノナリ、頰、瘦、顎、骨々、
 疽等ノ如シ或ハ轉歸ト
 シテ口底、蜂、窠、織、炎、關、節、
 強直ヲ起スニアリ、著者
 ハ一婦人ニシテ智齒難
 生ノ結果トシテ頭蓋底
 ニ膿浸潤ヲ生ジ致命シ
 タルモノヲ見タリ



子針銀齒氏一ガリーク 圖八十四第

療法

初期ノ炎症ニシテ智齒ハ正位ニ萌出スベキ希望アルキハ其ノ上層ニア
ル齒齦ヲクローリオー氏齒齦切除鉗子ニテ圓形ニ切除シ防腐收斂性含嗽
料ヲ附與スレバ足レリトス

附近ニ廣ク炎症ノ波及セルキハ外部ヨリ冷罨法ヲナサシメテ利アリ又已ニ化
膿ノ轉歸ヲ取レルモノハ波動ノ顯出ヲ持チ速ニ切開排膿セシムベシ可及的口腔
内ヨリスルヲヨシトス或ハ寧ロ智齒ヲ拔去スベシ

智齒ノ拔去ハ其正位ニ萌出スル望ミナキキ例之轉位傾斜シテ萌出シ或ハ空
隙不足ナルキ等ノ如シ或ハ他部ニ毀損ヲ與ヘズシテ速ニ排膿スルノ必要アリタ
ルキニ行ハル元來智齒ハ咀嚼其他口腔ノ機能ヲ營爲スルニ極メテ有要ナルモノ
ナラザレバ些少タリトモ再發ノ患アルモノハ疾ク之レヲ拔去スベシ

拔去ノ時期ハ常ニ考慮ヲ要スル處ナリ牙關緊急ノ存在スルキハ拔齒器ヲ挿入
スルヲ難ク急性炎ノ存在セルキハ拔齒後ノ疼痛著明ニシテ重劇ナル牙關緊急ヲ
起スノ原因トナルベシ故ニ能フベク先ヅ消炎療法ヲ施コシ受働的運動等ヲ
用ヒテ炎症稍鎮靜シ開口稍充分トナリタルノ後之レヲ施コスベシ

但シ特ニ急ヲ要スル場合アリ例之骨膜下膿瘍ヲ生ジテ外部ニ穿孔スル患アリ

タルキ附近ニ蜂窠織炎ヲ生ジ速ニ排膿路ヲ作爲スル必要アリタル時等ノ如シ此
ノ如キニ際シテハ全身麻醉ニヨリ筋肉ヲ弛緩セシメテ然ル後拔去スルヲ佳トス
拔去ノ方法ハ普通ノ萌出ヲナセルキハ決シテ困難ナルコトナシ下顎臼齒用鉗子
ノ一ヲ以テ鉗取拔去シ得ベシ然レモ智齒ガ 一著シク前方ニ傾斜シテ第二大臼
齒ノ遠心面ト其ノ咬合面ト相觸接セルキ 二或ハ後方ニ傾斜シテ齒冠ノ大部顎
間皺襞中ニ埋沒シタルキ 三或ハ著シク外方ニ傾斜シテ咬筋ノ附着部ニ咬合面
ノ觸接セルキ等ニアリテハ普通ノ鉗子ヲ適用シ難ク又タ挺子ヲ使用スル能ハズ
拔齒極メテ困難ナルベシ此ノ如キ場合ニ施コスベキ方法數種アリ左ノ如シ

一智齒ノ遠心面ニ相當スル齒槽突起或ハ顎骨ノ一部ヲ切除シテ智齒ヲ挺舉ス
ルコトアリ其法先ヅ局處麻醉ノ下ニ智齒後方ノ齒齦ヲ前後ニ向ツテ深ク切開シテ
骨質ニ達シヨク之レヲ剝離シ次デ回旋鑿子ヲ用ヒテ齒槽突起及顎骨ノ一部ヲ切
除シ智齒ヲ挺舉スルニ足ル空隙ヲ作ル茲ニ於テ挺子ヲ用ヒテ智齒ヲ直上ニ挺起
スルニアリバルチニクライアイ等ノ施コス處ナリ著シク前方ニ傾斜セル智齒ヲ
拔去スルニ最適ス

二智齒ノ齒冠ヲ破碎シテ細小片トシテ除去スルコトアリ即空隙缺如シテ鉗子ヲ

運用シ難キ場合ニ用ヒラル、切斷鉗子ヲ用ヒテ切斷シ或ハ鑿ト槌トヲ以テ破折ス極メテ應用ノ範圍廣シト稱スルヲ能ハザレモ無髓智齒ヲ拔去スルニハ最適當ナリ

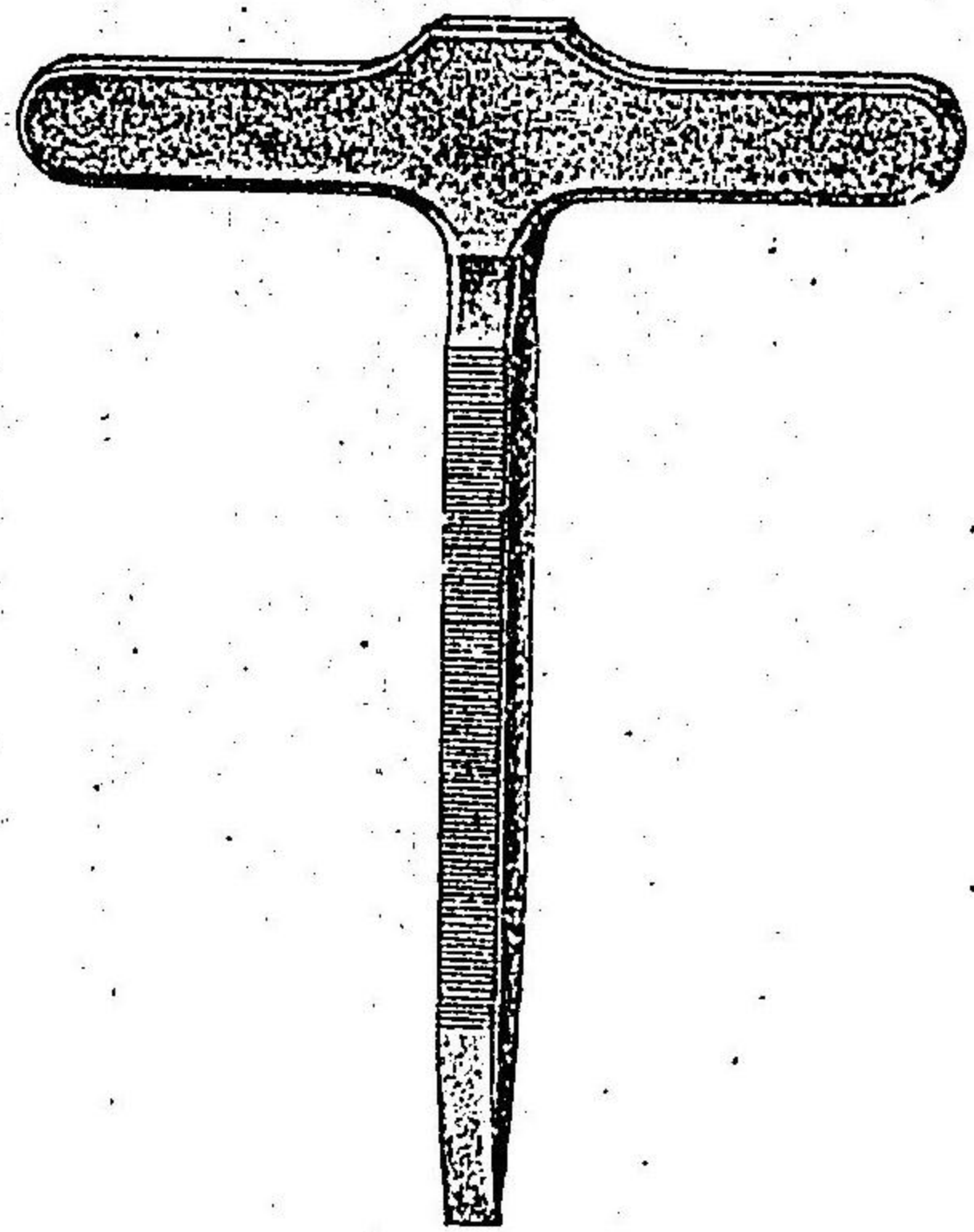
三、第二大臼齒ヲ拔去シテ智齒ヲ容ル、ノ空隙ヲ作ルモノアリ、單ニ拔齒困難ノ理由ヲ以テ健全ナル第二大白齒ヲ犧牲ニ供スルヲ極メテ費用スベキ方法ニアラズ、寧ロ先ヅ第二大臼齒ヲ一時的ニ拔去シ次デ智齒ヲ拔除シ、然ル後第二大臼齒ヲ舊位ニ復歸シテ再植ヲ施コスヲ勝レリトス

第六章 口腔發疹

口腔發疹

Oral Erythema
Erythema des Mundes

急性發疹熱ニ於テ皮膚ト同様ナル發疹ヲ口腔ニ發顯スルヲアルハ決シテ稀有ナラズ、時トシテハ却テ



圖九十四第
同旋鑿子
(氏ユナ ルバ)

皮膚ニ先ンジテ之レヲ發スルヲアリ、又然ラザレバ皮膚ヨリ一層特異ナル形態ヲ以テ口腔ニ顯ハル、ヲアリ、故ニ急性發疹熱ノ早期ニ於テ確診ヲ下サント欲セバ常ニ口腔ニモ留意セザルベカラザルモノトス
其他口腔ニ發疹ヲ生ズルヤ之レニ充分意ヲ用ヒザルキハ一他ニ傳播ノ危險ヲ生ジ又一ハ口腔ニ危險ナル併發症ヲ生ジテ不測ノ豫後ヲ招來スルヲアルベシ
口腔發疹ノ主ナルモノ左ノ如シ

第一項 麻疹

Measles
Morbilli

發疹ノ外皮ニ顯出スルヨリ一二日以前ニ已ニ之レヲ口腔ニ認ムルヲアリ、軟口蓋、口蓋弓、懸壅垂附近ニ初マリ數日ニシテ齒齦、頬、硬口蓋ニ及ブ、口腔發疹ハ圓形又ハ不正形ノ帽針頭大乃至扁豆大ノ潮紅色斑トシテ顯ハレ周圍ノ組織ヨリ高起スルヲナク又明確ナル限界ヲ有スルヲ少ナシ、初メハ散在性ニ生ズレモ忽チニシテ數者相融合シテ簇生スルニ至ルヲ多シ、又時トシテ其ノ數個不規則或ハ稍求心性ニ排列シタル微細點狀ノ小水泡群ヲナスヲアリ

其他コブリック Koplik (一八九七年)ニヨレバ麻疹ニ特有ノ一種ノ口腔發疹アリ、他ノモノニ之レヲ見ズ、而カモ其發スルヲ皮膚發疹ニ先ダツ一乃至四日ナルヲ以テ

極メテ緊要ナルモノナリトナセリ、即チ頰唇粘膜面ニ發生スル不正形鮮赤色ノ小斑ニシテ、其中央ニ帶青白色ノ小點ヲ有ス、初メハ散在スルモ、忽チニノ數ケ融合シ、外皮ニ發疹ノ顯出スル頃ニモ尙之ヲ明瞭ニ見ルヲ得ベシ

此等ノ口腔發疹ハ通例外皮發疹ノ落屑ト相前後シテ消失シテ後害ヲ遺スコトナシ、又之レガタメニ生スル患者ノ自覺的障害ハ極メテ大ナラズ、僅ニ咽喉ノ刺戟、口内乾燥ノ感ニ止マルト雖モ時トシテ併發症トシテ、齶口瘡、亞布答、潰瘍性口内炎、或ハ水瘡ヲ生ズルノ危險アリ

第二項

猩紅熱

Scarlet fever

Schrankel

猩紅熱ハ其特徵ヲ舌ニ發揮ス、

莓子舌

Strawberry Tongue

之レナリ、即舌ハ初期ニ於テ已ニ側縁及ヒ

尖端潮紅シ、舌背ハ白苔ヲ蒙リ、其白苔中ニ發赤腫脹シテ表面ニ突出セル乳頭ヲ

散見スルコト恰モ莓子ノ如キヲ以テ此名アリ、苔ハ數日ニシテ剝脫シ、後ニ潮紅粗糲

面ヲ遺ス、猩紅熱患者ノ殆ド凡テニ於テ之レヲ見ル(マシコロム *MacCollum*)之ニ併行シ、テ一般ノ口腔粘膜ハ凡テ他ノ發熱性疾患ニ於テ見ルガ如ク發炎乾燥シ、口唇ニ輝裂結痂等ヲ形成スルコト決シテ稀ナラズ、然レモ自覺的障害ハ敢テ大ナラズ、疾病ノ消褪ト共ニ後害ヲ遺スコトナクシテ緩散ス、併發症ヲ起スノ危險アルコト麻疹ニ同ジ

第三項

風疹

Rubeola

Kutschera

皮膚ニ於ケルガ如キ發疹ヲ口蓋及咽喉ニ生ズ、即普通

扁豆大圓形又ハ不正形ノ斑點ニシテ、或ハ充血性ナル

コトアリ、或ハ出血性ナルコトアリ、融合スルノ傾向少ナク、數日ニシテ無害ニ消失ス

第四項

水痘

Variola

口腔粘膜殊ニ軟口蓋及頰粘膜ニ發顯スルコト皮膚ヨ

リモ早ク且顯著ナリ、稀ニ舌尖舌縁及口唇ニ來ル、發疹ハ外皮ニ於ケルト同ジク扁豆大ノ水疱トシテ顯ハレ、周圍ニ紅暈ヲ繞ラス、然レモ其表面容易ニ剝脫シテ淺小ナル潰瘍ヲ形成ス、自覺的障害極メテ少ナシ、多小集簇シテ來ルコトナキニアラザレモ二三ケ以上ニ及ブコト寧ロ稀ナリ、潰瘍ハ數日ニシテ治癒シ、癍痕ヲ遺スコトナシ

第五項

痘瘡

Variola

Jacksen

痘瘡ニ於テモ亦殆ド常ニ口腔發疹ヲ生ズ、或ハ却テ皮

膚ニ先ツコトアリ、發疹ハ主トシテ唇、頰、軟口蓋、口底ニ多

ク發生シ、初メハ微細紅點トシテ認メラル、モ漸ク結節狀トナリ、六乃至九日ニシ

テ水疱ヲ生ズ、水疱ハ摩擦ノタメ容易ニ其脆弱ナル上皮ヲ消失シ、剝脫面或ハ潰瘍

ヲ形成スルニ至ル、多少ノ刺戟性ヲ有ス、其他口腔全體ニ廣汎性炎症アリ、又軟口蓋

咽喉附近ニ實質的里樣義膜ヲ形成スルコト稀ナラズ、潰瘍面ガ多少ノ刺戟性ヲ顯ハ

スノ他、自覺的障害極メテ少ナシ、通例後害ヲ遺スコナクシテ治癒ス

第六項 口腔發疹ノ一般處置

發疹病ニ於テハ發疹ノ已ニ口腔ニ存スルト否トニ關セズ、常ニ口腔ヲ清潔ニ保チ無害ナル防腐性藥劑ヲ使用セシムルヲ緊要トス、幼兒ニアリテ含嗽法ヲ行ヒ得サルモノニ對シテハ頻々口内ヲ清掃セシムルヲ便トス、含嗽ハ少クトモ一日五六回以上ナサシメザルベカラス、含嗽料トシテ硼酸、メインタ水、鹽剝水、リステリン水等ヲ用ユルモノ多シ、左ノ處方モ亦佳ナリ

- 一、密爾拉丁幾 五〇〇 刺賢堉爾精 九五〇〇 サッカリン 〇・五
- 右一茶匙ヲ一酒杯水ニ稀釋シテ用ユ
- 一、安息香酸 二・〇 メンタ油 一・〇 知母爾 〇・五
- サッカリン 〇・五 酒精 一五〇・〇
- 右用法前ニ同ジ

其他刺戟セラレ易キ潰瘍面ハ隨時之レヲ硝酸銀ニテ腐蝕シ、發炎顯著ナルモノニハ收斂性含嗽料殊ニ粘藥、密爾拉丁幾等ヲ處方スルコト必要ナリ

第七章 口腔皮膚樣疾患

口腔皮膚樣疾患

Dermatoid-like Diseases
Dermatoidähnliche Krankheiten

口腔粘膜ハ其組織並ニ解剖的關係頗ルヨク外皮ニ類似セルモノニシテ且

兩者ハ互ニ相移行スルガ故ニ外皮ニ見出スガ如キ疾患ヲ口腔粘膜面ニ生ズルコト決シテ稀有ナリトセズ、或ハ外皮ヨリ組織ノ連續ヲ沿フテ波及スルコトアリ、或ハ外皮ト同時ニ散在性ニ發生スルコトアリ、或ハ單獨ニ口腔ニノミ發生スルコトアリ、濕疹、紅色苔癬、天疱瘡、紅疹等ヲ其重ナルモノトス、其他狼瘡、微毒疹、丹毒、疱疹等ハ他章ニ論シタルヲ以テ茲ニ省略シタリ

第一項 濕疹

Eczema
Ekzem

ハ主トシテ顔面皮膚ヨリノ波及ニヨルモノニシテ體質不良ノモノ、粘膜纖弱ナルモノ等ノ口唇粘膜面ニ於テ冬期ニヨク目撃スル處ナリ、頗ル治癒シ難ク又再發シ易キヲ以テ名アリ

顔面ニ於ケル濕疹ノ漸次口唇粘膜面ニ蔓延スルヤ粘膜ノ表面ハ漸ク乾燥脆弱トナリ、粗糙樣落屑ヲ呈シ、談話其他ノ運動ニヨリ口唇ヲ緊張スレバ忽チ小皸裂ヲ生ジ、少ナカラザル疼痛ヲ起シ、又タ容易ニ出血スルニ至ルベシ、元來此部ニ來ル濕

疹ハ慢性ノモノ多シト雖モ外來ノ刺戟ニ逢ヘバ急ニ増悪シテ急性ニ轉シ顯著ナル發赤腫脹ヲ呈シ處々ニ濕潤セル創面ヲ形成スルコトアルベシ

脂漏性濕疹 Eczema Seborrhoeum ノ此部ニ現ハル、コアリ主トシテ頭部皮脂漏ノアルモノ或ハ皮脂腺分泌過多ナルモノニ之レヲ見ル、眼瞼鼻翼附近ニ濕疹ヲ有スルモノニ於テモ亦然リ、多クハ口唇遊離縁ニ近ク旬行性不規則ナル概形ヲ有スル濕疹斑トシテ顯ハレ其限界ハ明確ニシテ表面ニ於ケル落屑顯著ナリ、口角ハ微細ナル皸裂ヲ生ジ唇ノ運動ニ際シ多少ノ疼痛ヲ與フ、其經過極メテ慢性ニシテ治癒緩慢ナリ、再發シ易シ

療法

口唇慢性濕疹ハ他部ノ外皮ニ於ケルト同様ナル所置ヲナス、即先ヅ刺戟ヲ遠サケザルベカラズ、談話其他口唇ヲ運動スルコトヲ可及的避ケ、寒風刺戟性飲食ヲ觸レシメザル様ニナスベシ

二布仙、レゾルチン軟膏、二分一布仙、イヒチオール軟膏、五布仙硫黃軟膏等ヲ毎日數回塗擦スルモヨシ、左記ノ軟膏モ亦佳ナリ

- レゾルチン 一・五 酸化亞鉛 澱粉 各七・五 ラノリン 一〇・〇
- 華攝林 五〇・〇

右軟膏トナス

慢性難治ノモノニハ更ニ刺戟性藥劑ヲ使用シテ効アリ、ナフトール又ハステロイドヲ三乃至五布仙ノ華攝林軟膏トナシタルモノ、如シ輕微ノ濕疹ニシテ單ニ口唇ノ乾燥セルモノニハ、ラノリン亞鉛華軟膏、撒里失爾酸華攝林、硼酸軟膏等ヲ塗擦スレバ佳ナリ、堀里設林ハ効果少ナシ、皸裂ヲ生ジタルモノニハ五乃至十布仙硝酸銀水ヲ塗布スルヲヨシトス、極メテ再發シ易キモノニハ亞細亞丸等ヲ内服セシメテ効アリ

亞細亞丸處方

- 亞砒酸 〇・〇五 黑胡椒末 二・〇 アラビアゴム 適宜
- 甘草越幾斯及末 適宜

右爲六十九日二三回一丸宛食後内用ス(漸次増量シテ十九ニ至ルヲ得)

第二項 紅色苔癬

Lichen ruber

口腔ニ顯ハル、ハ扁平態ノモノヲ普通トス、尖圭態ノモノハ極メテ少ナシ

扁平、紅色、苔癬、Lichen ruber planus. ノ口腔ニ發スルヤ或ハ身體他部ト同時ニ來ル、或ハ稀ニ單獨ニ來ル舌背口唇、頰内面、硬軟口蓋等何レノ粘膜面ニモ顯ハル

帽針頭大乃至豌豆大ノ蒼白色強靱ノ結節ニシテ中央僅ニ陷没ヲ呈ス其數ケ環狀象眼様又ハ線條ヲナシテ集簇排列スルヲ常ナリ表皮ノ剝脱ナク又タ炎症症候ヲ顯ハスヲナシ只ダ周圍ノ粘膜稍僅ニ發赤セルノミ瘡痒ハ稀ナラズト雖モ他ノ自覺的障害ハ殆ド常ニ之レヲ見ズ時トシテ頰粘膜ノ齒牙咬合面ニ相當スル部ニ於テ強靱ナル一廣帯ヲナシテ見ラル、トアリ之レ線條ヲナシテ排列シタル數結節ガ融合シタルニヨル

身體他部ニ同様ナル病竈アリ局處ノ症候特異ナルヲ以テ他症トノ鑑別容易ナリ唯初期ニ於テ注意セザレバ白斑或ハ微毒性丘疹ト混同セラル、トナキニアラザルベシ

局處刺戟ヲ除去シテ口腔ヲ清潔ニシ亞硫酸ヲ内服又ハ皮下注射スレバ容易ニ治癒スルモノタリ局處的療法ハ其要少ナシ

尖、圭、紅色、苔癬、Lichen ruber acuminatus ハ口腔ニ來ル^ト極メテ稀ナリウ^ンナ *Uma* ハ舌ノ侵サレタルヲ見タリ顆粒大ノ剝脱面ニシテ底面帶青紅色ヲ呈シ邊緣ハ蒼白色ニシテ少ナカラザル瘡痒ヲ生起シタリト云フ

第三項 天疱瘡

Pemphigus Pemphigus

本症モ亦外皮ニ於ケル同一病機ト同時ニ發生スルモノニシテ苔癬ニ比スレバ其口腔ニ來ル^ト頻

々タリ尋常性 *P. vulgaris* 及葉狀天疱瘡 *P. foliaceus* ヲ多シトナス

本症ノ口腔ニ來ルヤ外皮ニ於ケルガ如ク固有ノ水疱ヲ形成スル^ト稀ニシテ多クハ其表面ノ摩擦及ビ外來刺戟ノ襲來等ニヨリテ特異ノ水疱ヲ完成スルニ至ラザル前ニ已ニ上皮ノ剝離ヲ生ズルモノトス而シテ其表面ハ又外皮ニ於ケルト異ナリテ水様ヨリモ寧ロ纖維性滲出物ヲ多量ニ生成ス

天疱瘡ノ形成ヲ初ムルヤ先ツ粘膜面ニ於テ上皮ノ限局性溷濁或ハ灰白色ノ滲出物ヲ形成シ夫ノ實扶的里性義膜ニ似タル外觀ヲ呈ス滲出物ハ長ク變化セスシテ殘留スル^トアリト雖モ多クハ數日ニシテ漸ク消失シ後ニ豌豆大位ノ限局性潮紅斑ヲ遺ス斑ハ漸ク増大スルヤ附近ノモノ互ニ相融合シテ廣汎性ニ蔓延スル^トアルベシ

口腔ノ廣汎性ニ侵サル、ヤ自覺的障害頗ル鮮少ナラズ劇痛嚙下障害流唾及口氣惡臭等ヲ生スル^ト常ナリ更ニ其増進スルヤ全身ノ危險症候ヲ起シ或ハ衰弱ニヨリ致命セシムル^トナキニアラズ

概スルニ天疱瘡ニシテ口腔ヲモ同時ニ侵襲スルモノハ悪性ニシテ豫後疑ハシ殊ニ初期ニ於テ口腔ニ顯ハル、モノヲ然リトナス

身體他部ニ固有ナル水疱形成ノ見ラル、キハ診斷ニ錯誤ヲ生スルヲ決シテ之レナシ、然ラザレバ微毒粘液斑ト鑑別セザルベカラザルヲアリ他ノ微毒症候ノ存否及ヒ驅微療法ノ反應如何ハ容易ニ之レヲ判明ナラシムベシ

天疱瘡ノ一般療法トシテ亞砒酸ノ内用或ハ安知必林ノ投與ノ他局處的ニハ口腔ヲ清掃シ二十%硝酸銀水或ハ沃度丁幾ノ塗布ヲナス、疼痛甚シクシテ咀嚼嚥下ノ障害セラル、一著シキモノニ對シテハ用ニ臨ミ五乃至十%ノ古加乙涅溶液塗布ヲ施スベシ

第四項 紅斑

Erythema
Erythema

ハ口腔ニ來ルヤ多形滲出性紅斑、虹彩膜狀疱疹或ハ中毒性紅斑ノ一ニ屬ス

多形滲出性紅斑、*Erythema exudativum multiforme* トシテ顯ハル、ヤ殆ト常ニ手背、足背其他外皮ノ同斑ト同時ニ來リ、紅色豌豆大ニシテ僅ニ隆起シ指壓ニヨリ容易ニ消褪シ疼痛ヲ生ズルヲナシ、周圍ノ粘膜ハ僅ニ發赤腫脹スルヲ稀ナラズ、時トシテ半ハ剝離シタル上皮下ニ不正ノ小水疱ヲ形成スルヲアリ、上皮ノ剝離スルヤ出血

シ易キ剝脫面ヲ遺シ其表面汚穢暗色ノ義膜ヲ形成スルヲ亦之レアリ

虹彩膜狀疱疹、*Herpes iris* トシテ顯ハル、ヤ發赤セル粘膜ヲ中心トシテ數多ノ水

疱ガ求心性ニ配列スルヲ見ルベシ、然レモ外皮ニ於ケルガ如ク特異ノ形態ヲ口腔

ニ見ルハ寧ロ稀ナリ、同時ニ單純ナル紅斑ヲ散在スルヲナキニアラズ

中毒性紅斑、*Erythema venesitis* トシテ顯ハル、ヲアリ安知必林、安質歌貌林、規尼涅

「フエナセチシ」等ヲ内服又ハ注射シタルニヨリ生起セラル、藥疹ニシテ其用量ニ關

係ナク特異性ニ應ジテ顯ハル、或ハ單純ナル紅斑ヲ生シ或ハ同時ニ水疱ヲ形成ス、

或ハ一小部ニ限局セラレ或ハ廣汎性ニ大部ヲ侵ス、多クハ同時ニ外皮ニモ紅斑ノ

顯出スルヲ見ルベシ

要スルニ凡テノ紅斑ハ手背、足背等ニ同種ノ病竈アリ、自覺的障害少ナク、特異ノ

形態ヲナセルヲ以テ診斷容易ナリ、中毒性ノモノニアリテハ原因ヲ除クヲ勿論ナ

リ、熱アラバ解熱劑ヲ與フ、其他凡テ對症的療法ヲ行フ、收斂防腐性ノ含嗽水水ノ適

用頗ル効アリ

第八章 白斑

白斑

Leukoplakia
Leukoplakie

口腔粘膜ノ慢性限局性炎ノ一種ニシテ上皮細胞ノ增厚角化ニヨリ白色乳様ノ斑點ヲ形成スルヲ特徴トナス、主トシテ舌頰粘膜及ヒ齒齦ニ顯ハル、又舌乾癬 Psoriasis lingue 口腔粘膜肥厚 Tylosis buccalis 口腔鱗癬 Ichthyosis buccalis 等ノ名アリ、元來白斑トハシニウインメル Schewimmer ノ初メテ提出シタル名稱ニシテ其本態ニ至リテハ諸學者ノ説未ダ一致セズ

ハイド Hyde ハ古來口腔鱗癬ナル名稱ヲ附與セラレタルヲ否定シテ曰ク『鱗癬ノ粘膜面ヲ侵カスコアルハ極メテ明白ナラザル事實ニシテ所謂舌鱗癬ナルモノハ頰部白斑喫煙斑粘液斑或ハ扁平上皮癌ノ一ナルベシ』ト

ニコルソン Nicholson ハ古來説ヘラレタルガ如ク本症ヲ以テ皮膚疾患ノ一ナリトナシ夫ノ白斑ニ隨伴スル燒灼様疼痛及ヒ水泡ノ形成ハ實ニ其ノ帶狀疱疹ニ異ナラザルヲ示スモノナリトナセリ

パーク Park ハ本症ヲ以テ微毒ノ晚期ニ顯ハル、一症候ナリトナシ夫ノ第二期ニ於テ顯ハル、粘液斑ガ漸ク其濕潤性ヲ喪失シ平滑蒼白トナリテ乃チ所謂白斑ヲ形成スルモノナリト謂ヘリ

之レヲ要スルニ現時學説ノ歸スル處ハ白斑ハ皮膚ノ鱗癬等ト自カラ區別スル

處アル疾患ナルハ爭フベカラザルガ如シ、其果シテ微毒ト直接關係ヲ有スルヤ否ヤハ頗ル研究ニ値ス、エルブ Erbs ハ白斑ノ二百四十例ニ就テ研究シタルニ其約六十布仙ハ明白ナル微毒ノ歴史ヲ有シ其他疑ハシキモノ數例アリタルヲ報告セリ、シエーリングルト Schöngarth モ又數多ノ白斑ヨリ統計ヲ蒐集シテ六十五布仙ニ於テ微毒ノ歴史ヲ證明スルヲ得タリト云フ、之レヲ以テ之レヲ見レバ其微毒トノ關係極メテ淺薄ナラザルヲ知ルベシ

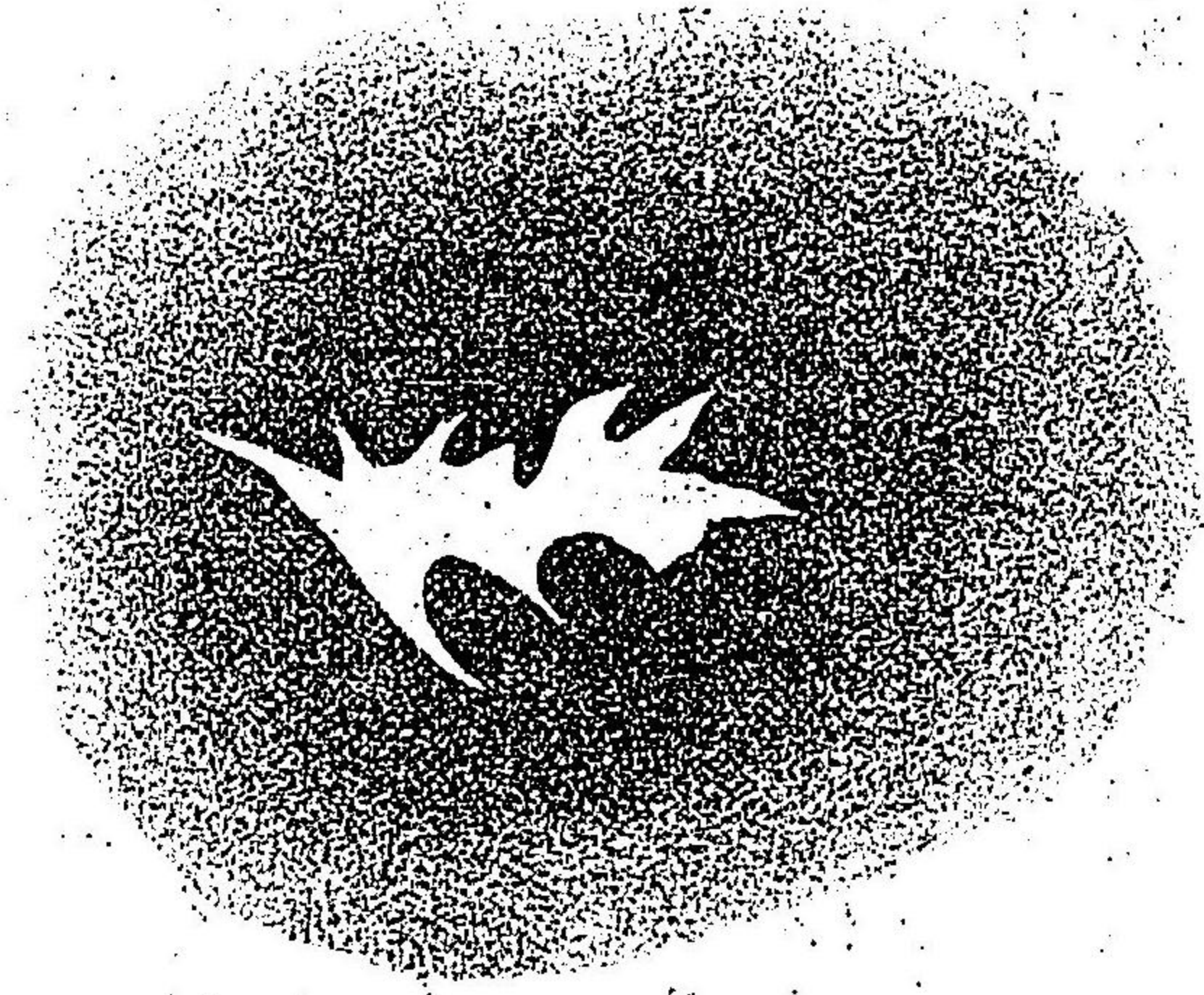
然リト雖モ又他ノ方面ヲ見ルニ微毒ヲ以テ直ニ白斑ノ本態トナスコト難キ事實ナキニアラズ即チ其ノ 一、微毒ノ歴史ヲ有セザルモノニ之レヲ見ルノ稀ナラザルコト 二、白斑ヲ有スルモノハ微毒ニ對シテ常ニ必ラズシモ免疫性ヲ有スルモノニアラザルコト 三、驅微療法ニヨリテ白斑ヲ治療スルニ効果極メテ確實ナラザルコト等之レナリ故ニ本症ハ口腔粘膜ノ慢性限局性炎ノ一種ニシテ、微毒ト少ナカラザル關係ヲ有スルモノナリト結論ヲ下スヲ得ベシ、

原因

白斑ハ二十歳以下及ビ六十歳以上ノモノニハ極メテ少ナク、女性ハ殆ド全ク免疫性ヲ有スルガ如ク、マーシャルハ十二例中僅ニ一例ノ女性ヲ侵セルヲ示シ、エルブハ二百四十例中僅ニ二例ノ女性ヲ見タリ

粘膜面ノ抵抗微弱ナルモノハ本症ノ素因ヲナス殊ニ刺戟ニ逢會シ易キ粘膜面ノ部分舌口蓋頰及ビ齒齦等ニ於テ其發生スルコト多シ其他全身健康狀態殊ニ胃腸ノ疾患痛風佝僂質斯等ヲ有スルモノ亦之レガ素因ヲナス微毒ガ本症ニ對シテ特殊ノ素因ヲナスコトハ前述ノ如シ

本症ノ誘因トナルモノハ煙草酒精其他刺戟性辛辣物及諸種ノ器械的刺戟ナリトス殊ニ喫烟ハ極メテ著大ナル誘因ヲナス就中烟管ノ使用ヲ有害ナリトナスエルゾノ白斑二百四十例中劇度ノ喫烟家ニ中等度ノモノ百〇一極メテ僅微ナルモノ四十五ニシテ就中純粹ニ喫烟ノミニヨリテ生起セラレタリト思考スベキモノ三十七例ナリシト云フ以テ其一汎ヲ窮知スベシ其他強烈ナル酒精飲料ヲ稀釋セズ



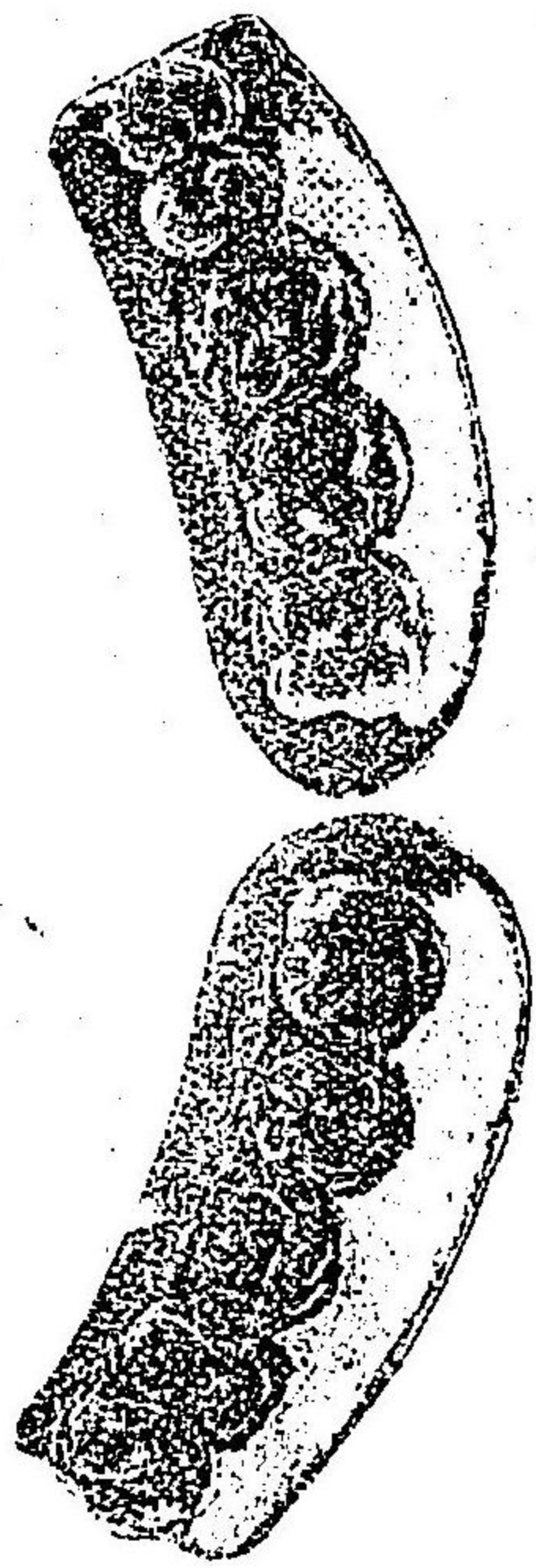
第五圖 頰粘膜白斑 (氏ルヤシーマ)

シテ常用スルモノ熱キ飲料及食物ヲ悅ブモノ或ハ辛辣物ヲ嗜好トスルモノ並ニ破壞粗糙齒石堆積適合不良ノ義齒等ニヨル器械的刺戟ヲ受クルモノニ白斑ノ發生スルコト多シ

症候

初メ先ヅ頰唇齒齦口蓋或ハ舌ノ粘膜面ニ一乃至數ケノ小白斑トシテ顯ハル各白斑ハ不正帽針頭大乃至五十錢銀貨大ノ蒼白又ハ眞珠様白色ノ斑點ニシテ周圍ノ組織ヨリ毫モ高起スルコトナク平滑ニシテ放線狀觀ヲ呈スベシ白斑ノ生長ハ極メテ徐々ニシテ加フルニ初期ニアリテハ自覺的障害鮮少ナルヲ以テ患者ハ長ク其存在ヲ知ラズ數年ヲ經過シテ白斑漸ク増大肥厚シテ胼胝様トナリ其色漸ク純白ナルニ及ンデ初メテ之ヲ自認スルニ至ルコト少ナカラズ概スルニ白斑ニ隨伴スル自覺的症候ハ常ニ僅微ニシテ當初輕度ノ知覺過敏ヲ起シ其漸ク増大スルニ從ヒテ其部ニ乾燥ノ感ヲ覺エシムルノミ

白斑ノ存在長キニ至ルヤ其表面ニ裂創ヲ形成ス



第五圖 齒齦白斑 (氏ルヤシーマ)

ルニアリ殊ニ舌背ニ於テ最多ク之レヲ見ル裂創ノ形成セラル、ヤ恰モ火傷ニ伴フガ如キ燒灼様感ヲ覺エ酒精飲料辛辣物煙草等ヲ攝取スルニ方リテハ少ナカラザル疼痛ヲ生ジ稀ニ飲食咀嚼ノ機能障害ヲ起ス

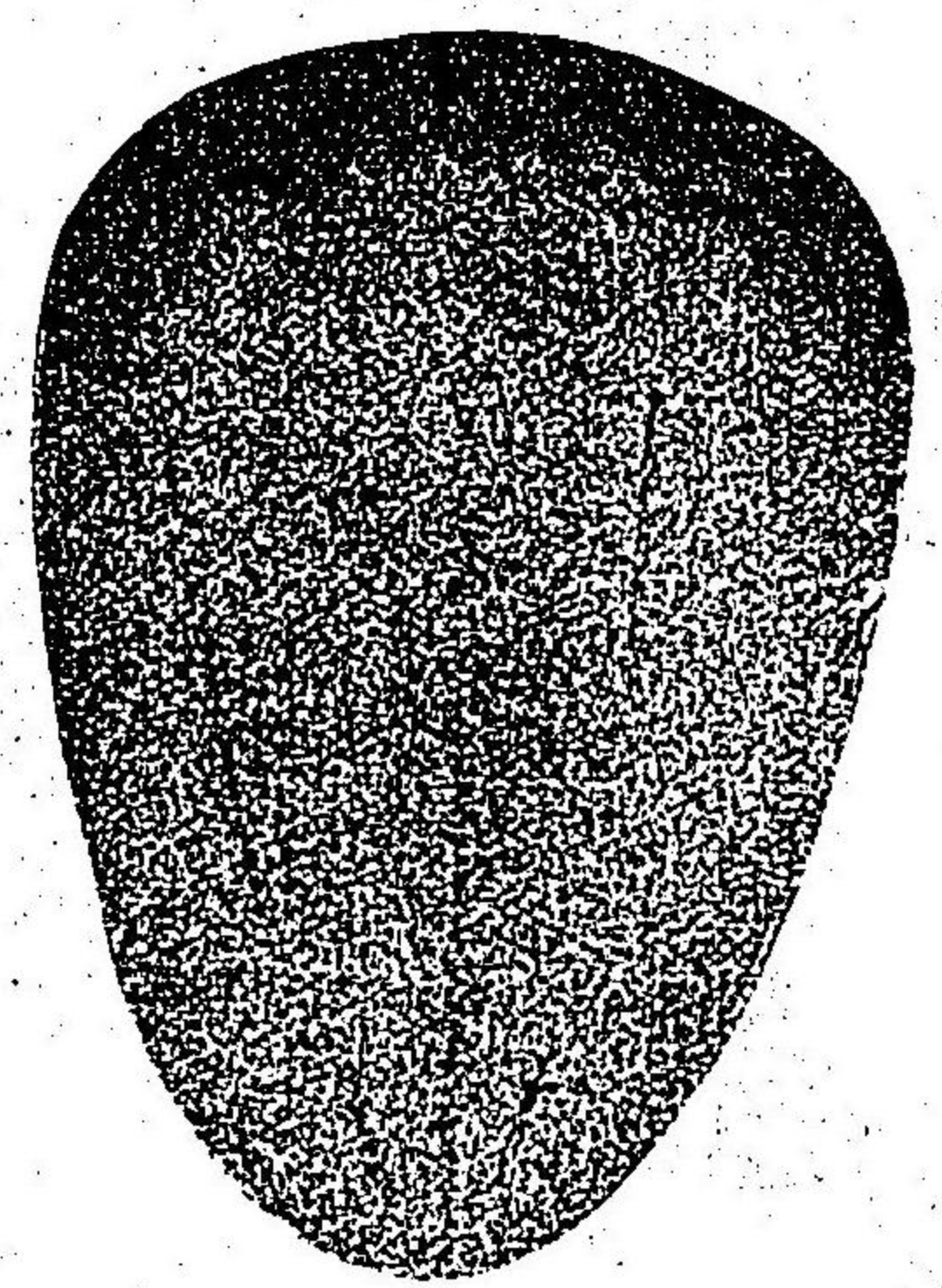
裂創周縁ヲ形成スル處ノ上皮ハ自

カラ剝離スルノ傾向ヲ有シ其厚ク剝離スルヤ玆ニ潰瘍ヲ形成ス潰瘍ハ知覺極メテ鋭敏ニシテ自發痛ヲ起スニアリ加之此部分ハ最モ注目スベキ處ニシテ癌腫ノ起始點トナリ易シ

診斷

本症ハ之レヲ微毒ノ粘液斑及ビ上皮癌ノ初期ノモノト診斷スルヲ要ス

粘液斑ハ一微毒感染ノ既往症ヲ有シ二第一期微毒症候ヲ經過シタルモノニ來リ三身體他部ニ微毒ノ症候ヲ顯ハシ殊ニ喉硬結脫毛微毒疹四驅微療法ニヨリ忽チニシテ治癒スルヲ以テ之レト區別スルヲ得但シ白斑ハ前陳ノ如ク微



斑白舌 圖二十五第 (氏ルヤシーマ)

毒ト多大ノ關係ヲ有スルガ故ニ微毒ノ存在ヲ以テ直ニ白斑ヲ排除スルヲ能ハズ要ハ粘膜炎竈ガ果シテ單純ナル粘液斑ナルカ或ハ白斑ナルカヲ確カムルニアリ驅微療法ニヨリ消失セザルモノハ單純ノ微毒性疾患ナラザルヲ證スルモノナリ

上皮癌ハ一遺傳ヲ有スル高齡者ニ多ク二經過迅速ニシテ忽チ破壊性ヲ顯ハシ三早期ニ於テ已ニ附近淋巴腺ノ硬結ヲ生ジ四之レヲ鏡檢スレバ基礎膜ノ破壊癌眞珠ノ形成等癌腫特有ノ組織ヲナセルヲ見ルベシ

病理

白斑ニ於ケル組織的變化ハ主トシテ舌ノ乳嘴唇頰唇ノ粘膜及ビ表皮ノ細胞ニ顯ハル、モノナリ、舌ノ表面ニ顯ハル、ヤ乳頭ハ漸ク萎縮シテ遂ニ全ク消失スルニ至ル表皮ハ角化シテ恰モ夫ノ皮膚ニ於ケルガ如キ外觀ヲ呈スルヲアリ、頰唇粘膜面ニ白斑ノ形成セラル、片亦同シ、其他凡テ白斑ノ顯ハレタル部ニ於ケル口腔粘膜ノ表皮突起ハ他部ヨリ短小ニシテ其部ノ眞皮ハ白血球ノ浸潤ヲ蒙ムル、白斑ノ末期ニアリテハ細胞巢ノ發見セラル、ト決シテ稀有ナラズ之レ本症ヲ以テ上皮癌ニ前驅スルモノナリト稱スル所以ニシテ果シテ如何ナル方法ニヨリ形成セラル、ニヤ明ナラザレモ其部ノ外傷ノ結果トシテ上皮細胞ガ下

在組織中ニ滲入シテ生ズルト説明スルモノアリ

豫後

白斑ヨリ上皮癌ノ發生スルコトアルハ稀有ナラザル現象ナリ、白斑ハ癌腫ノ發生ノ素因ヲナスモノナルカ或ハ又癌腫ノ前驅ヲナスモノナルカ明白ナラズ、ガーレットソンハ白斑ヲ以テ良性及ビ悪性腫瘍ノ境界線ヲナスモノナリト稱シ、ルデントーハ白斑ハ癌腫變性ヲナスノ傾向ヲ有スルモノナリト稱シ、ストンハ舌癌ノ二十布仙以上ハ白斑ニ前驅セラル、モノナリト云ヘリ、バトリンハ舌癌八十例中十六ニ於テ白斑ノ前驅アリシヲ證明シ得タリ

療法

先ツ豫防法トシテ慢性ニ作用スル化學的及ビ器械的刺戟ヲ除去スルコトヲ要ス、煙草、酒精飲料、酸味物、辛辣物等ヲ其主ナルモノトス、殊ニ口腔粘膜ノ知覺鋭敏ナルモノニ於テ然リ、器械的刺戟トシテ朽傷破壊齒唾石、殘根、適合不良ナル義齒等アリ此等ハ須ラク適當ノ方法ニヨリ改善セラレザルベカラズ、白斑ノ微毒ト特殊ノ關係ヲ有スルコトハ前陳ノ如シ、故ニ此種ノ患者ニアリテ顯然タル微毒症候ノ存在シタルキハ勿論、然ラザルモ尙多少其疑念ノ存スルモノニハ必ラズ數週間驅微療法ヲ試ムルヲ要ス、局處療法トシテニコルソンハ一日三四回過鹽化鐵液ヲ塗布スルコトヲ稱用セリ、蓋

シ之レニヨリテ燒灼様不快感ヲ治シ、上皮形成ヲ促進スルニ足ルト思爲セルヲ以テナリ、ローゼンベルグハ一日數回刷子ヲ以テ純百露拔爾撒謨ヲ局處ニ塗布シ數分間放置スルヲヨシトナセリ、其他レゾルチン軟膏ノ塗擦、沃剝溶液ノ塗布、沃双合劑ノ塗布等モ亦佳ナリ

其他亞爾加里性洗滌水或ハ含嗽等ハ頗ル有効ナリ、バトリンハ輕度ノモノニハ三乃至四布仙重曹水、微毒性ノモノニハ〇・二乃至〇・四布仙格羅謨酸水等ヲ局處ニ塗布シタリ、昇汞水〇・二乃至〇・四布仙、過硼砂蜜、硼酸、偏里設林等亦用ユベシ、又含嗽料トシテ、バイロゾン、硼酸水、重曹水等ヲ投與ス

局處ヲ硝酸銀等ヲ用ヒテ腐蝕スルモノアレハ極メテ不佳ナリ、却テ刺戟ヲ附與シテ癌腫變性ノ傾向ヲ大ナラシム、最安全ナル効果ヲ收得セント欲セバ疣狀或ハ斑狀ヲナセルモノヲ可及的廣ク切除スルニアリ、電氣燒灼及ビバックリン燒灼法又用ユルニ足ル、多少限局セル白斑ニアリテハ必ラズ之ヲ行フヲ要ス

第九章 口腔狼瘡

口腔狼瘡

Lupus of the Mouth
Lupus des Mandes

口腔粘膜面ニ於ケル狼瘡ハ夫ノ皮膚ニ於ケルモノニ結核病竈ノ存在スルル或ハ皮膚ニ狼瘡ヲ有スルモノニ於テハ時々之ヲ目撃スベシ、主トシテ口唇ノ遊離縁、口腔前庭ノ上界、口蓋弓及ビ口蓋穹窿ニ發顯シ極メテ稀ニ原發性ニ否ニ來ル

症候

狼瘡結節ノ發顯ヲ以テ本症ノ初メトナス、結節ハ黃色帽針頭大ニシテ數多密集簇生シ僅ニ健康ノ粘膜ヲ以テ分離セラル、此部ノ粘膜ハ暗紅色ニシテ全體ニ周圍ヨリ多少高起セリ、此結節ハ容易ニ其上皮ヲ喪失シテ扁平ナル小缺損部ヲ生ジ漸ク増大シテ附近ノモノト相癒合シ所謂結核性潰瘍ヲ生ズ、潰瘍ハ大小形狀共ニ不正ニシテ底面ハ汚穢暗色ノ滲出物ヲ以テ覆ハレ處々ニ黃褐色ノ痂皮形成ヲ呈ス、邊緣ハ高起シ不規則ナル瓣狀ヲナシテ下ニ大ナル穿堀ヲ有シ膿樣分泌物ヲ蓄フ、底面邊緣ニハ小結節ノ數多散在セルヲ見ルベシ、潰瘍ハ又漸ク増大融合シテ極メテ不規則ナル大潰瘍ヲ形成ス、潰瘍ハ無限ニ淺在性ナラズ長時日間ニハ漸次深入シテ骨膜、骨質ニ波及シ少ナカラザル骨疽ヲ生ズベク軟口蓋ニアリテハ其全組織層ヲ穿通シテ鼻腔咽喉ニ達スルヲアリ、其他結核病者ノ

末期ニアリテハ口腔ニ播種性狼瘡ヲ生ジ粘膜面ノ各部ニ無數ノ結節及ビ潰瘍ヲ見ルベシ、狼瘡ニ於テモ亦附近淋巴腺ノ腫脹スルヲ常ナリ殊ニ頤下部、隅角附近ニアルモノニ多ク、頸部ニ於ケルモノ亦時々侵サル

經過及診斷

身體他部ノ狼瘡ニ於ケルガ如ク年餘持續スルヲ常ナリ、幼少ノモノニ初マリ數年間停止シテ更ニ一層劇烈ニ再發スルヲアリ、其發生スル部位ニヨリ拔齒ニヨリ全治スルモノアルベシ

他部ニ結核病竈ノ存在ヲ證明シ得ルカ、結核潰瘍ノ特異ナル形態ヲ認識スルヲ得ルカ、細菌學的或ハ組織的検査ヲナスカ、ツベルクリンノ注射ヲナスルハ診斷極メテ容易ニシテ癰腫、微毒其他ト鑑別スルヲ得ベシ

療法

全身他部ニ結核性病竈ノ存スルルハ之レニ向テ相當ノ結核療法ヲ施コス、局處ニハ水楊酸酒精溶液、乳酸五十布仙溶液、メントール十乃至二十布仙溶液等ヲ塗布スルカ或ハ燒灼シ或ハ腐蝕スルヲ以テ足レリトス、口腔内ハ防腐性含嗽料ニヨリ清潔ニ維持スベシ

第十章 口腔微毒疹

微毒疹

Syphilis
Syphiliticus

口腔粘膜面ニ微毒疹ノ顯出スルハ普通第二期ニ於テス、第三期ニ於ケル發疹ハ極メテ不明且無意味ニシテ忽チ潰瘍ノ形ニ成ニ終ルモノトス、元來口腔微毒疹ハ已ニ外皮ニ數多ノ發疹ヲ生ジタルノ後始メテ生ズルコトナキニアラザレモ又外皮ニ先ダテテ口腔ニ來ルコトアリ、且第二期ニ來ル微毒疹ハ傳染性頗ル大ニシテ周圍ニ不測ノ危害ヲ附與スルコトアルガ故ニ疾病ノ診斷及豫防上忽テ付スベカラザルモノトス

症候

口腔ニ來ルモノハ紅斑性微毒疹、丘疹性微毒疹並ニ乳白斑ヲ最多シトス

紅斑性微毒疹、Syphilis erythematosa ハ最早ク口腔ニ顯ハル、處ニシテ、外皮ニ蓄積疹ノ發生セル後或ハ其以前ニ已ニ之レヲ見ル、軟口蓋及舌ニ於テ大小不同ノ紅斑トシテ來リ或ハ其數者合シテ大紅斑ヲ爲ス、腫脹其他自覺的障害ヲ致スコトナキヲ以テ單純ナル加答兒性炎トシテ看過セラレ、コト少ナカラズ、然レモ其周圍組織ヨリ明確ニ限局セルト自覺的症候極メテ少ナキト、外皮ニ蓄積疹ヲ證明シ得ルトニヨリ其本性ヲ窺知スルヲ得ベシ

丘疹性微毒疹、Syphilis papulosa 上記ノ紅斑ハ普通數日ニシテ消失シ其位置ヲ丘

疹ニ讓ル、即丘疹ハ以前紅斑ノ存在シタル部位或ハ其他ノ粘膜面ニ生ジ舌ニ於テ殊ニ著シキヲ見ル、其部ノ上皮ハ漸ク潤濁シテ剝脫面ヲ生ジ知覺過敏トナル、此部ニ外來ノ刺戟ガ加ハルコト頻々ナレバ茲ニ忽チ乳白斑ヲ生ズルニ至ル

乳白斑、Plaques muqueuses (扁平疣贅 Condylomata lata) ハ傳染力強大ナルヲ以テ名アリ、初

メ先ヅ一乃至數ケノ粘膜下細胞浸潤トシテ顯ハレ帶圓形ニシテ周圍ヨリ明確ニ限界シ僅ニ高起セリ、初期ニ於テハ僅ニ上皮ノ潤濁ヲ呈スルノミナレモ時日ヲ經過スルニ從ヒ漸ク其本性ヲ顯ハシテ灰白色ノ乳樣斑トナル、其周圍ニ於ケル組織ハ通常潮紅輪ヲ劃スベシ、乳白斑ハ主トシテ唇、頬、舌、口蓋及ビ扁桃腺ノ粘膜面ニ生ジ器械的刺戟ノ存スル部ニハ又其發生ヲ見ルベシ、初メハ圓形或ハ橢圓形ナレモ漸ク相融合シテ侵蝕性大斑ヲ爲スニ至ル、口蓋弓附近ニ於テハ擴布シテ一圓銀貨大ノ大斑ヲナシ、口角附近ニ於テハ深入シテ浸潤性皸裂面ヲ生ズルコト人ノ知ル處ナリ、殊ニ幼兒或ハ少壯者ニ於テ口角ヲ侵スヤ數ヶ月間尙其現狀ヲ持續シ微細線狀ノ散在性皸痕組織ヲ生ジ極メテ特異ナル外觀ヲ呈スベシ、其他口蓋弓、扁桃腺附近ニ於テハ時トシテ廣汎性傾向ヲ顯ハシ加答兒症狀ヲ呈シ或ハ義膜ヲ形成シテ實扶的里ト誤認セラレ、コトアリ、乳白斑ニ伴フ自覺的障害ハ常ニ一定セズ或ハ認

識セラレザルコアリ或ハ甚シキ燒灼様疼痛ヲ與ヘテ談話飲食ニモ尙且不便ヲ生ズルコアリ

診斷

微毒疹殊ニ乳白斑ハ之レヲ早期ニ確診ヲ下シテ傳染ヲ防止スルヲ緊要トス之レト混同セラル、ハ白斑亞布答及腐蝕面トナス

白斑ハ 一、微毒病竈ヲ他ニ證明スルコト能ハズ 二、其斑極メテ明確ナル限界ヲ有セズ且處々ニ灰白青色等ノ異色ヲ呈シ又放散狀ヲナスコトアルベク 三、驅微療法ニ對シテ乳白斑ノ如ク顯著ナル反應ヲ呈スルコトナカルベシ

亞布答ハ 一、常ニ少壯者ニ發生シ 二、經過急性ニシテ疼痛アリ 三、灰白色ノ義膜ヲ有シ其周圍ニ明瞭ナル炎症症候アリ

硝酸銀蝕面ハ必ラズ之レニ觸レタルノ歴史ヲ有シ且容易ニ治癒スルヲ以テ容易ニ判定シ得ベシ

豫後

微毒疹ハ其豫後概シテ佳良ナリ、水銀療法ニヨリ溷濁上皮ハ漸ク剝離シテ新剝脫面ヲ生ジ健康上皮ヲ再生シテ忽チ治癒ス、極メテ頑固ナル症ニアリテハ治癒後數回再發スルコトアルベシ

療法

驅微療法(水銀軟膏塗擦、昇汞、撒里夫爾酸水銀、サルバルサン等ノ注射)ヲ施コシ口腔ヲ清掃シテ防腐性合嗽料ヲ與フ、局處ニハ一布仙昇汞溶液(昇汞〇・三 依的兒一五〇 アルコール三〇〇)十乃至二十布仙硝酸銀水、硝酸銀棒、五乃至十布仙格羅護酸溶液等ヲ塗布スルモヨシ

第十一章 口腔癩

口腔癩

Leprosy of the Mouth
Leprosy of the Mouth

口腔ノ癩性疾患ハ原發スルコトナク常ニ全身癩ノ一發顯トシテ來ル、癩患者中多クノモノハ早晚口腔症候ヲ發ス、

グリック *Glick* ノ統計ニヨレバ結節癩ノ七十三布仙ニ於テ口腔癩ヲ目撃シ麻痺癩ニアリテハ少シク之レニ劣リ約六十布仙ヲ算シタリト云フ

癩病ノ如何ナル時期ニ於テ口腔ニ其發顯ヲ見ルカハ極メテ不明ナル事實ニシテ恐クハ人ノ想像スルヨリモ早キモノナルベシ、然レモ口腔症候ハ其起ルモ自覺的障害極メテ鮮少ナルヲ以テ患者之レヲ認識セズ、其發見セラル、迄ニ已ニ數月乃至數年ヲ經過シタルモノ蓋シ少ナカラザルベケレバナリ、口腔組織中最多ク之レニ侵サ、ルハ口唇、懸壅垂基部及ピ口蓋縫線ノ部位ナリトス

症候

癩性浸潤、結節形成ヲ以テ初マル、殊ニ口唇ニ於テ最早クシテ硬口蓋軟口蓋懸壅垂之レニ次ギ、稀ニ頬粘膜ニ顯ハル

結節ハ彈丸大乃至榛實大ニシテ全然健康ナル粘膜ニヨリ被覆セララル、コナレハ多クハ鮮紅色、青色又ハ灰白色ノ粘膜ヲ被ムリ且發赤シタル粘膜ニヨリテ圍繞セララルベシ、頗ル強靱ナル腫脹ニシテ漸次増大シテ附近ノモノト相融合シ一大結節乃至大浸潤斑ヲ形成ス、其特異ナルハ蠟樣光澤面ヲ呈スルニアリ、成長極メテ緩徐ニシテ破壊崩潰ノ傾向極メテ少ナク、其上層粘膜ハ年餘變化ヲ來サザルコトアレハ收縮ヲ生ズルコト著シキ他ニ其比ヲ見ズ

癩性潰瘍ノ形成セララル、ヤ扁平淺在性ニシテ周圍組織ヨリ僅ニ低キ平面ヲ保チ底ハ汚穢黃色ニシテ處々ニ上皮ノ殘屑ヲ附着ス、其特徵トスル處ハ邊緣ハ高度ノ浸潤ヲ示シ強靱ニシテヨク周圍ヨリ限界セラレ毫モ急性炎ノ症候ヲ呈セザルニアリ

懸壅垂ノ侵サル、ヤ初メ浸潤ヲ呈シテ全ク其固有ノ外觀ヲ失ヒ之レヲシテ一結節狀ヲナサシメ、次デ其收縮ヲ起シテ全體ガ前上方ニ牽引セラレ軟口蓋面ト相觸接スルニ至ルノ奇觀ヲナス、然レハ茲ニ潰瘍ヲ生ズルコトハ極メテ稀ナリ、晚期

ニ達スレバ稀ニ否ノ侵サル、コナリ即否ノ表面殊ニ其中央ニ帶黃紅色強靱ナル結節ヲ生ジ上層ノ上皮ハ漸次溷濁シテ菲薄トナリ遂ニ消失ス、然レハ固有ノ潰瘍ヲ形成スルコトハ寧ロ稀有ナリ、舌表面ニ此ノ如キ結節ノ生ズルコト漸ク數ヲ加フルニ從ヒテ其數者相融合シ否全體ヲシテ不正醜惡ナル結節狀外觀ヲナサシムルニ至ルベシ

自覺的障害ハ通例少ナシ顯著ナル浸潤或ハ潰瘍モ尙且患者ニ看過セララル、コナリ然レハ亦當初ヨリ患部ノ麻痺ヲ生シ或ハ口唇、口峽等ニ大ナル收縮ヲ起シテ少ナカラザル機能障害ヲ起スコトアルベシ、唾液ノ分泌ハ初期ヨリ著シク増多スルモノノ如シ

經過

極メテ緩慢ナリ其認識セララルベキ大サニ達スルニ數年ヲ要スルモノ少ナカラズ、時トシテ其自然治癒ヲナスコトアリ、即潰瘍面ニ上皮ヲ再生シ蒼白ナル胼胝ヲ遺シテ治癒シ或ハ扁平廣汎性浸潤斑ガ漸ク吸收セラレテ著シキ放散狀ノ癩痕收縮ヲ起シテ治癒スルコトアリ、從テ懸壅垂ノ變形及轉位、舌表面ノ凹陷、皺襞ノ形成等ハ決シテ稀ナラズ

病理

皮膚ニ於ケル癩組織ニ異ナラズ、粘膜下組織ノ深部及ビ筋質ノ處々ニ亘リテヨク限局シタル細胞浸潤アリ主トシテ腔窩性癩細胞ヨリナリ周圍ニハ僅少ナル反應性炎ノ顯象ヲ呈ス、壞疽乃至乾酪樣變性ヲ起スコトハ殆ド全ク之レナシ、癩病桿菌ハ組織ノ全體ヲ通ジテ無數ニ存在シ圓形小團ヲナシテ細胞ノ内外ニアリ又粘膜下筋纖維間ニアリ

診斷及豫後

微毒及ビ結核ト鑑別スルヲ要ス 一、身體他部殊ニ顔面ニ癩性病竈ノ存在アリ 二、結節ハ強靱ニシテ容易ニ崩潰スル傾向ヲ顯ハサズ 三、驅微療法及ツベルクリン注射ニ反應ナク 四、局部ヨリ多數ニ癩菌ヲ證明シ得ルコト等ニヨリ鑑別スルヲ得ベシ

一般癩病ノ豫後ヨリ思考スレバ全體トシテ不良ナルコト勿論ナリ、然リト雖モ局處的疾患ハ極メテ多大ノ惡結果ヲ生ズルモノニアラザルナリ、口腔ノ癩性疾患ハ此ノ如ク患者自身ニ取リテ極メテ危險ナラズト雖モ其疾病ノ傳染ヲ擴布スル點ヨリ考フレバ極メテ危險ナリ蓋シ談話、噴嚏等ニ際シ無數ニ存在スル細菌ガ非常ニ増多セル唾液ニ混ジテ附近ニ飛散スルコト決シテ怪シムベカラザレバナリ

療法

局處的ニハ口内ヲ清掃シ、防腐性含嗽料ヲ與ヘ、潰瘍ハ之レヲ硝酸銀、格羅謨酸等ヲ以テ腐蝕スベシ、其他一般ニハ患者ヲ隔離シ、水楊酸曹達(一日三回)ヲ内服セシメ、昇汞又ハ大楓子油ノ注射ヲナス等一般癩病ノ所置ニ從フ

第十二章。齒齦肥大

齒齦肥大

Hypertrophy of Gum
Zahnfleischhyperthrophie

遺傳性ニ齒齦肥大ヲ呈セルモノアリ殊ニ中流以下ノ階級ニ屬スルモノニ多シ、緩慢ナル局處的刺戟ハヨク之レガ誘因ヲナス、齒牙ノ粗糙縁適合不良ノ義齒、齒石ノ堆積、充填物過剩、變敗唾液等ノ如シ、其他如何ナル原因ニヨルヲ問ハズ凡テ慢性齒齦炎ハ本症ヲ誘起スルコトアルモノトス、又特異ナル原因ナクシテ妊娠時、月經時等ニ暫時的肥大ヲ生ズルモノアリ

症候

先天性ナルカ或ハ極メテ緩徐ナル齒齦組織ノ増殖ヲ以テ特徴トス、或ハ齒齦ノ刺戟ニ接觸スル部ニ於テ限局性疣狀乃至「ポリプ」狀ヲ呈シテ増殖スルコトアリ、朽傷齒根ノ周圍ニ於テヨク見ル處ナリ、或ハ齒齦縁ニ沿フテ數齒ニ亘リテ廣汎性増殖ヲ呈シ、甚シキ場合ニアリテハ齒冠全部ヲ沒了シテ口唇外ニ露

出シ醜惡ナル外
貌ヲ呈スルモノ
アリ前齒部ニ頻
發シ齒槽突起ノ
過剩發育ヲ伴フ
肥大齒齦ハ或
ハ柔軟出血性ノ
海綿様組織ヲナ
シ或ハ強韌彈力
性ノ纖維様組織
ヲナス知覺ハ共
ニ極メテ鋭敏ナ
ラズ肥大組織ハ齒頸部ヨリ剝離シテ小囊ヲ作りテ玆ニ膿汁ヲ潑留シ膿漏狀ヲ呈
シ其周縁ニ潰瘍ヲ形成スルコトアリ
自覺的障害ハ極メテ少ナク只稀ニ其増殖顯著ニシテ齒冠截端ニ達スルキハ咀



大肥齦齒圖三十五第

嚼ノ際咬傷ヲ受ケ疼痛出血アリ或ハ病原菌侵入ノ門戸ヲナス

診斷及豫後

廣汎性肥大ハ主トシテ遺傳ノ歴史ヲ有シ或ハ幼時ヨリ極メテ
緩徐ナル増殖ヲナシ自覺的症候僅微ニシテ齒槽突起ノ増殖ヲ
伴フ等ノ事實アリ敢テ鑑別ニ困難ヲ感ズルコトナシ

限局性肥大ハ齒齦腫ト鑑別スルヲ要ス殊ニ纖維性齒齦腫ト之レヲ鑑別スルハ
極メテ容易ナラズ只發育ノ一層緩慢ナルコト自覺的症候ノ缺如スルコト並ニ其組織
的検査ニヨリ肥大組織ト新生幼若組織トヲ區別スルコトニヨリ僅ニ之レガ區別ヲ
ナスベキノミ

肥大組織ヲ全ク除去シテ原因ノ再ビ加ハラザル様ナラシムレバ再發スル患ナ
カルベシ但シ遺傳性ノモノハ此限リニアラズ

療法

刺戟トナル處ノ齒牙義齒齒石充填物等ヲ掃去シタル後肥大組織ヲ除去
ス肥大組織ノ除去ハ刀或ハ電氣燒灼ヲ以テ之レヲ行フ廣汎性肥大ニア
リテハ其上ニ植立スル數齒及ビ齒槽突起ヲモ同時ニ除去セザルベカラザルコトア
リ切除後ハ通法ノ如ク防腐性處置ヲ施コシ治癒後要ニ應ジテ補綴術ヲ行フモノ
トス

第十三章 齒齦腫

齒齦腫 *Gingivitis*

齒齦腫ニ其周縁齒頸部附近ヨリ發生スル腫瘍ニシテ明瞭ナル莖ヲ有スルカ或ハ齒齦本體ヨリ多少確然タル區劃ヲ有スルモノヲ意味ス、敢テ必ラズシモ齒齦組織ヨリ發生スルヲ要セサルナリ、普通齒齦腫トシテ説カル、モノハ多クハ齒槽突起及ビ其骨膜ヨリ由來ス、故ニ齒齦腫ナル名稱ハ病理解剖的見地ヨリ下シタルモノニアラズシテ臨牀的便宜ヨリ名ケラレタルモノナレ、往時病理組織的研究ノ發達セザリシ時ヨリ因習ノ久シキ今日ニ及ビテ尙使用セラル、モノナリ、故ニ廣義ニ於テハ齒齦ニ發生スル凡テノ腫瘍即纖維腫、肉腫、粘液腫、骨腫、軟骨腫、癌腫、肉芽腫等ヲ悉ク此中ニ包含セシメ得ベシト雖モ現今臨牀上齒齦腫ト稱セラル、モノハ纖維性、肉腫性及癌腫性ノ三種トス、甲ヲ良性乙及丙ヲ惡性齒齦腫ト稱スルコトナリ、

第一項 纖維性齒齦腫

Epiulis fibromatosa
Fibromatose Epithelien

殆ト常ニ齒槽突起或ハ其骨膜ヨリ發生スルモノニシテ純然タル

纖維腫ナリ又單純齒齦腫

Simple Epulis
epitheliale Epithelien

良性齒齦腫

Benigne Epulis

ト云フ、稀ニ肉芽腫

ノ性質ヲ共有ス、其原因トナルモノ左ノ如シ

- 一、顎骨及ビ齒齦ノ状態ガ遺傳スルガ如ク遺傳性ニ纖維性齒齦腫ノ發見セラル、ニアリ、グンツェルトニヨレバ妊娠ハ本症ノ素因ヲナスガ如シ
- 二、慢性齒齦縁炎ハ極メテ重要ナル素因ヲナス、夫ノ慢性炎ノ結果トシテ肥大増生シタル齒齦縁ガ漸ク増殖ヲ重テ遂ニ強靱ナル齒齦腫ニ轉化スルハ日常多シ

目撃スル處ナリ

- 三、排列不正齒モ亦纖維腫ノ發生ニ一機會ヲ附與スルモノト謂フベシ、蓋シ其附近ニ形成スル齒齦ノ皺襞ハヨク異物ノ堆積ヲ許シテ慢性炎ヲ發シ加之刺戟ニ暴露シ易キヲ以テナリ

- 四、器械的刺戟ハ其如何ナル性質ノモノタルヲ問ハズ纖維腫發生ノ誘因ヲナス、齒石堆積、齶蝕、朽傷齒齦ノ不適合等何レモ然リトナス、故ニ纖維性齒齦腫ハ破壊齒ノ周圍或ハ其拔去後ノ齒槽窩内ヨリ發生ヲ初ムルコト最多シトス

症候

或ハ朽傷破壊齒ノ附近ヨリ、ポリゴブ狀ヲナシテ發生スルコトアリ、或ハ數齒ノ齒齦縁ニ亘リテ廣汎性ノ一大塊ヲ形成スルコトアリ、然レモ胡桃大ヲ超ユルハ寧ロ稀ナリ、腫瘍ハ常ニ強靱弾力性ヲ有シ時トシテ其表面粗糙ナルヲ觸

知スベク多クハ厚キ上皮ヲ被ムル、知覺頗ル遲鈍ニシテ壓痛ナク容易ニ出血セズ發育極メテ遲徐ニシテ胡桃大ニ達スルニハ數年ヲ要ス、而シテ其生長一定ノ度ニ達スルヤ長ク其形態ヲ保維シテ發育殆ド停止ス

自覺的障害極メテ鮮少ニシテ患者ハ口内ニ新生物ノ存在スルニヨリ僅ニ不快ヲ感ズルノミ、決シテ劇痛ヲ生ズルコトナシ、機能障害亦少ナクシテ其漸ク増殖シテ咬合ノ平面上ニ突出セルニ至レルルハ只咀嚼ニ不便ヲ生ジ或ハ其表面ヲ毀傷シテ出血ス、前方齒牙ノ周圍ニ發生スルヤ外容醜貌ヲナシ口唇及舌ノ運動ヲ抑止シテ發音ニ障碍ヲ與フルヲアルベシ、其他腫瘍ノ發育進行的ナルハ齒槽窩中ニ於テ齒牙ヲ舉上シ弛緩傾斜セシメ終ニ之レヲ脱出セシム、或ハ齒穹ヲ變形セシメ顎骨ヲ壓扁スルヲアリ

病理

纖維性齒齦腫ノ組織ハ纖維ト細胞トヨリナル、纖維ハ其方向一定セズ或ハ密集シテ束狀ヲナシ或ハ疎鬆ニシテ環狀又ハ網狀ヲナス、細胞ハ主トシテ圓形並ニ紡錘形ニシテ纖維間ニ散在シ核分割機旺盛ナルヲ見ル、纖維些少ニシテ細胞多量ナルハ腫瘍柔軟ニシテ之レニ反スルトキハ腫瘍強固ナリ、腫瘍ノ表面ハ常ニ口腔粘膜ヲ以テ被ハレ乳頭ノ發育頗ル顯著ナリ、血管ハ或ハ

饒多ニシテ容易ニ破綻シ出血ヲ誘發スルヲアレモ又或ハ鮮少ニシテ腫瘍ノ外觀蒼白ヲ呈スルヲアリ、腫瘍若シ齒槽内部ニ發生シタルハ其増生ニ伴ヒテ骨質ヲ壓迫吸收セシムベク又腫瘍ノ實質中ニ骨質或ハ軟骨質ヲ新生スルヲアリ

診斷

良性齒齦腫ハ之ヲ炎症肥大、惡性齒齦腫骨腫及軟骨腫ト鑑別スルヲ要ス

一、齒齦縁ノ炎症肥大ハ纖維性齒齦腫ノ有莖中等大ノモノト錯誤ヲ生シ易シト雖モ元來炎症肥大ハ其生長ノ迅速ナルヲ、炎症症候ヲ現ハスヲ、時ニ縮小スルヲアルト及ヒ消炎療法ニヨリ容易ニ縮小スルヲアル等ニヨリ其間ノ鑑別ヲナス
二、惡性齒齦腫ト本症トヲ鑑別スルヲハ頗ル必要ナリ、然レモ炎症ノ歴史ヲ有セズシテ而ガモ生長ノ迅速ナルヲ、切除後數回再發シタルモノ、周圍組織ニ破壞的影響ヲ附與スルヲ顯著ナルモノ等ニアリテハ先ツ惡性齒齦腫ノ疑念ヲ生ジテ佳ナリ、直ニ其細片ヲ切除シテ組織學的検査ヲナシ其本性ヲ確實ナラシメザルベカラズ

三、骨腫及ヒ軟骨腫ノ本症ニ肖似スルヲアリ、然レモ其硬度ト表面ニ於ケル不同ノ抵抗ト及ビ切開ニヨリ容易ニ其本態ヲ明カニスルヲ得ベシ、此等ノ診斷ハ極メ

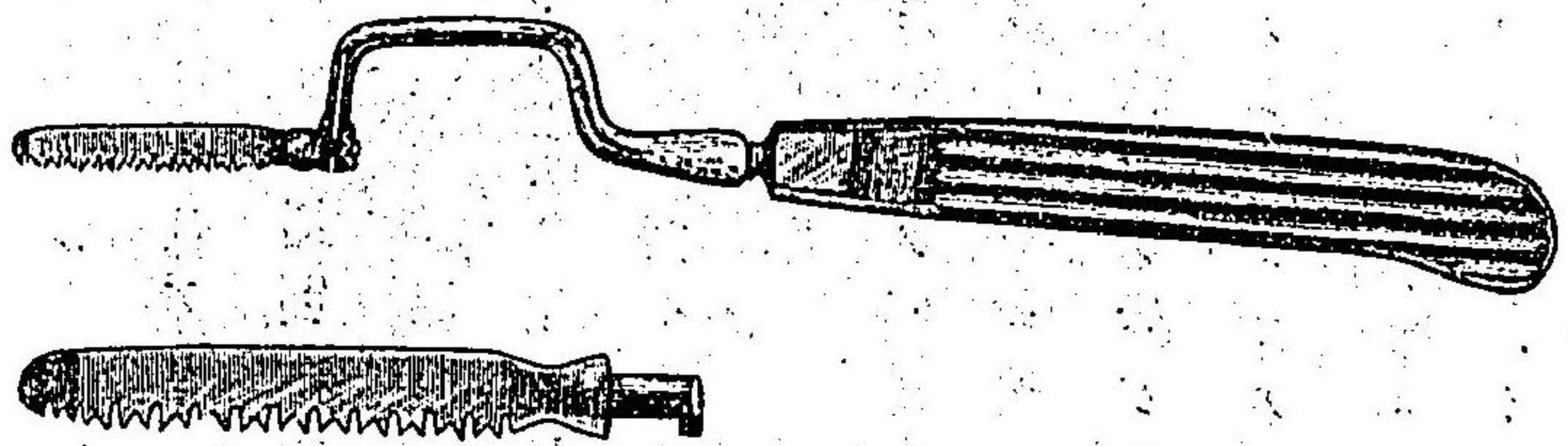
テ有要ナリト稱スベカラズ蓋シ療法上何レモ區別ナケレ
バナリ

豫後

極メテ良性ニシテ豫後佳良ナリ、完全ニ切除スレ
バ再發スル患ナシ、但シ極メテ長日月ヲ經過シタ
ルキハ肉腫性變生ヲ致スナキニアラズ

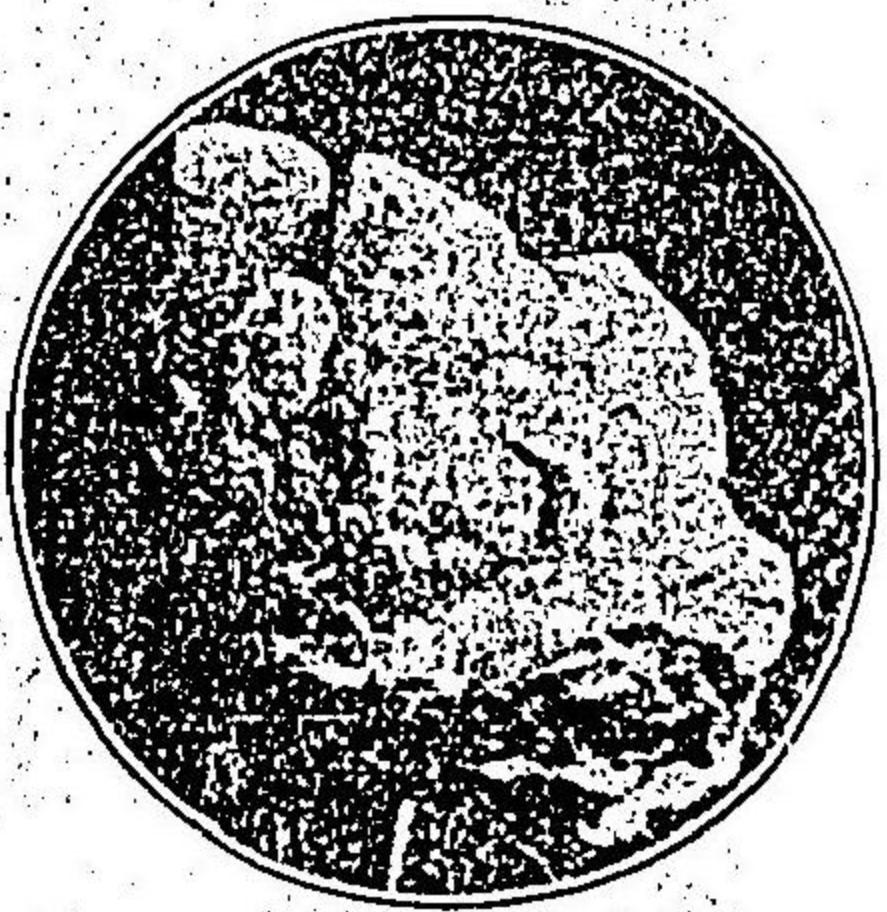
療法

藥効的療法ハ寸効ダモ收得スルヲ難シ必ラズ之
ヲ切除セザルベカラズ、切除ノ方法ハ腫瘍ノ部位
ト形態トニヨリテ多少ノ差異アリト雖モ大略左ノ如シ
細莖ヲ有シテ齒槽窩外側ヨリ發生セルモノハ先ツ細莖
ノ部ニ於テ之レヲ剪切或ハ切離シタルノ後其起始部ニ相
當スル軟組織ヲ齒槽骨質ニ達スルマデ楔狀ニ切除スルニ
アリ或ハ切除ニ代フルニ焼灼ヲ以テスルモ佳ナリ
又若シ數齒ニ亙リテ齒槽窩ノ内部ト連絡ヲ有スルキハ
腫瘍ト共ニ齒槽突起ノ一部ヲ切除セザルベカラズ、其中ニ
植立スル齒牙ヲモ拔去スベキハ勿論ナリ、齒槽突起ヲ切除



子鋸骨 圖四十五第

スルニハ鑿ト槌トヲ使用スルカ或ハ骨鋸子ヲ使用
スベシ、顎骨大部ニ亙リテ纖維腫ノ増殖スルキハ顎
骨ノ一部切除ヲ要スルモノトス
切除ハ多クハ局處麻醉ヲ以テ安全ニ遂行スルヲ
得ベク全身麻醉ハ寧ロ稀ニ之レヲ要ス、施術ニ伴フ
出血ハ極メテ顯著ナラズ、壓迫ヲ持續スレバ容易ニ
制止ス、切除後ハ無刺戟性單筒ナル防腐性含嗽料ヲ使用セシムレバ足レリ、硼酸水
等之レナリ



腫齦齒性纖維 圖五十五第
(氏ルヤシーマ)

第二項 肉腫性齒齦腫

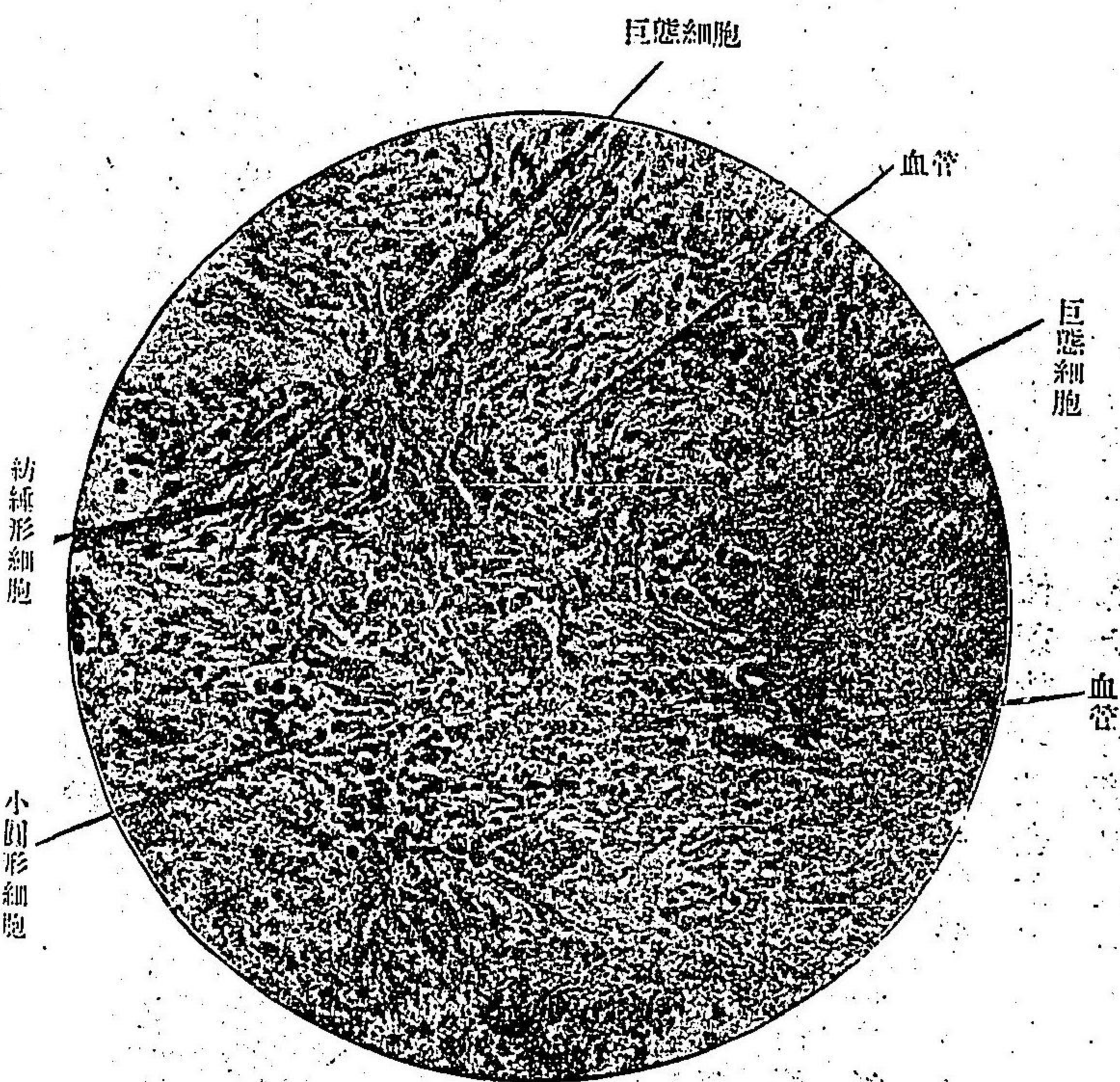
Epulis sarcomatosa
Stromatose Pyritica

普通惡性齒齦腫トシテ表示セラ
ル、ハ肉腫性ノモノナリ、此腫瘍
ハ主トシテ齒槽突起ノ骨膜或ハ骨質中ニ根底ヲ發スルモノニシテ、齒齦縁ヲ侵略
シ齒齦腫トシテ顯ハル多クハ巨態細胞肉腫ニシテ、惡性少ナキヲ以テ名アリ
二十歳以上三十歳以下ノモノニ最多ク、下顎ヨリモ上顎ニ頻發シ、殊ニ小白齒部
ノ齒間腔、齒槽突起ニ其根底ヲ有スルヲ多シ、慢性刺戟ハ其發生ヲ誘起ス、朽傷破壊
齒、齒石堆積等之ニ屬ス、妊娠ガ本症ノ發生ニ特殊ナル影響ヲ致スハ一般ニ認識セ

ラル、處ナリ、其他
顎骨實質内或ハ上
顎竇内ニ發生シタ
ル腫瘍ガ骨質ヲ破
壞シテ繼發的ニ齒
齦腫トシテ顯ハル
、トアルベシ

症 候

初メ先ツ
細小ナル
球塊トシテ、齒間腔
ニ顯ハレ鮮紅色ニ
シテ細莖ヲ以テ齒
齦ニ連續スレモ、又
タ廣キ基底ヲ以テ
齒槽突起ノ外側ヨ



第 五 十 六 圖 肉 腫 性 齒 膿 腫

(氏) (七)

リ發生スルコナキニアラズ、其漸ク増大スルヤ附近ノ齒牙ヲ齒槽窩ヨリ挺起シテ、
遂ニ弛緩脱落セシムベシ、又其表面ハ咀嚼運動或ハ摩擦ノ結果、剝脱シテ潰瘍ヲ形
成シ種々ノ刺戟ヲ享受シ易ク、從テ漸ク其悪性ヲ發起シ急性ナル増殖ヲナスモノ
トス、周圍健康組織トノ限界極メテ不明ニシテ表面ヲ覆フ處ノ粘膜ハ帶青紅色ヲ
呈ス

其大サハ一様ナラズ豌豆大ヲ以テ普通トナセモ、又鶏卵大ニ達スルモノアリ、硬
度ハ纖維腫ト相混ゼルキハ、硬クシテ、多量ノ細胞ト血管ヲ有スルモノハ軟ナリ、骨
新生ヲ伴フモノハ處々ニ不同ノ硬塊ヲ混ズベシ

自覺的症候ハ、極メテ顯著ナラズ、疼痛及壓痛ナク、只潰瘍ヲ形成スルトキハ、辛辣
物ニ逢ヒテ刺戟セラレ、ノミ

病 理

肉腫性齒齦腫ハ齒槽突起ノ骨膜、或ハ附近ノ結締織ヨリ發生ス、其組織ハ
主トシテ巨態細胞肉腫ニ屬ス、稀ニ圓形細胞肉腫及ヒ混合肉腫アリ、基質
ハ幼若ナル結締織纖維ヨリナリ比較的少量ナレモ、纖維性肉腫ニアリテハ多量ニ
シテ成熟セルヲ見ルベシ、細胞ハ巨態細胞ヲ最トシ、少量ノ圓形細胞、及ビ紡錘形細
胞ヲ混ズ、血管ハ多量ニ新生セラレ、壁ハ菲薄ニシテ、肉腫細胞、其周圍ニ排列ス、附近

ニ存在スル骨質ハ吸收破壊セラレ、コト常ナレモ又タ肉腫ノ種類ニヨリテハ却テ骨質ヲ新生スルモノアリ、時日ヲ經過スルニ從ヒ、諸種ノ變性、或ハ轉化ヲ顯ハス粘液變性、軟骨變性、骨變性、或ハ稀レニ囊腫變性ヲ起ス、腫瘍ヲ被覆スル處ノ粘膜ハ稍樽血狀態ヲ呈スルノミナレモ、又時トシテ潰瘍ヲ形成シテ海綿様ヲナスコトアルベシ

診斷

毫モ疼痛、其他ノ炎症症候ナクシテ成長迅速ナル齒齦腫アリ、周圍ノ組織ニ惡性破壊性影響ヲ及ボスヲ見タルキハ之レヲ惡性齒齦腫ト思考シテ佳ナリ、宜シク組織的検査ニヨリ其本態ヲ確カムベシ、纖維性及ビ癌腫性齒齦腫ハ之レト鑑別スルヲ要スル處ノモノナリトス

- 纖維性齒齦腫トノ鑑別ハ纖維性ノモノニアリテハ 一、成長ノ緩慢ナルコト
- 二、破壊性少ナキコト
- 三、組織的研究ノ結果特異ナルコト等ニヨリ鑑別容易ナリ
- 癌腫性齒齦腫ハ 一、粘膜ノ表層ニ初マリ 二、高齢者ニシテ遺傳アルモノニ多ク 三、特異ナル癌腫潰瘍ヲ形成シ早期ニ附近ノ淋巴腺ニ硬結ヲ生ジ、容易ニ出血シ 四、鏡檢スレバ特異ナル癌巢、基礎膜ノ破壊等ヲ認識スルヲ得ベシ

豫後

肉腫性齒齦腫ハ他部ノ肉腫ニ之レヲ比スルニ毒性些少ニシテ切除後再發スルコト少ナク、又周圍ニ傳搬スルコト劇烈ナラズ、然レモ小圓形細胞ヨリナル肉腫性齒齦腫ハ再發スルコト多クシテ豫後最不良ナリ

療法

肉腫性齒齦腫ハ其起始ヲ齒槽突起ノ骨質、或ハ其骨膜ニ由來シ、其増殖スルヤ必ラズ骨質中ニモ浸潤スルモノトス、故ニ之レヲ切除スルニ方リテハ齒槽突起及ヒ顎骨體ヲモ共ニ切除セザルベカラズ、切除ノ範圍ハ腫瘍ノ太サニヨリテ同ジカラズト雖モ可及的遠ク腫瘍ノ限界ヲ超エテ健全組織ニ於テナスヲヨシトス、切除後ハ通法ニヨリテ防腐的處置ヲ施コシ、創口治癒後、顎骨ニ生ジタル缺損ハ之レヲ補綴スルコト必要ナリ(顎骨切除術參照)

第三項 癌腫性齒齦腫

Epulis carcinoma
Carcinomatose Epuliden

口腔粘膜ノ表層上皮、或ハ腺上皮ヨリ發生スル惡性齒齦腫ノ一ナリ

極メテ稀ニ齒齦腫ノ形態ヲ顯ハスモノニシテ多クハ發生後直ニ急速ナル増殖ヲナシ、周圍ノ組織中ニ浸潤ヲ起シテ忽チ骨質ニ至ルマデ深入シ、定型的顎骨惡性腫瘍ノ形態ヲナス、最多ク發生スルハ顎間皺襞ノ附近ニシテ軟口蓋及扁桃腺ハ殆ド常ニ侵蝕ヲ免カレザルモノトス、詳細ハ顎骨腫瘍ノ條ヲ見ヨ

第五綱 口腔成形異常及後天性缺損

第一章 唇頰成形異常

成形異常 *Anomalies* *Komjeller*

唇頰ニ發顯スル成形異常ニハ極メテ數多ノ種類ヲ見ル其主ナルモノ左ノ如シ然レニ破裂形成ヲ除キテハ比較的稀

有ナルモノトス

口唇缺損症 *Achilia* *Achilia*

口唇ノ一部或ハ大部先天性ニ缺損スルコトアリ稀有ニ屬ス或ハ單獨ニ來リ或ハ顎骨ノ一部缺損ト共ニ來ル後天性口唇缺損症ハ外傷壞疽、微毒、汞毒、痘瘡又ハ腫瘍施術後ニ見ル處ナリ

鎖口 *Labial Atresia* *Atresia labiorum*

巨口症ノ反對ニシテ第一鰓弓ト上顎突起及ビ前頭突起ト完全ナル融合ヲ生シ口裂ヲ全然閉鎖スルコトアリ鎖口之レナリ之レト異ナリ上下兩唇間ノ融合一部性ナルキハ口裂ノ異常ニ小ナル畸形ヲ呈ス小口 *Microstoma* 即之レナリ共ニ頗ル頻發スルモノニアラズ

重複唇 *Double Lips* *Duplyte Lippe*

口唇殊ニ上唇ノ遊離縁ヲ去ル少許ノ處ニ於テ縁ニ併行シテ走ル粘膜隆起或ハ皺襞ヲ見ルコトアリ談笑ノ際ニハ口唇

翻轉シテ外方ニ露出シ奇異ナル外觀ヲ呈ス殊ニ唇繫帶ノ短縮ヲ併發シタルキニ於テ著シ

其顯著ナル場合ニハ兩側ニ於テ之レヲ切除シ纖細ナル結紮糸ヲ用ヒテ創面ヲ縫合スルヲ要ス

短唇畸形 *Brachycheilia* *Brachycheilia*

口唇ガ其中央部ニ於テ著シク短小ニシテ口唇縁ガ上方ニ向テ凹彎ヲ呈シ切齒ノ一乃至數ケヲ露出スルノ畸形ヲ見ルコトアリ其程度ニ應シランゲンベック兔唇手術或ハ之レニ類似シタル方法ニヨリ成形セザルベカラズ

巨大唇 *Macrocheilia* *Macrocheilia*

巨大舌ト同シク種々ナル状態ニヨリ先天性或ハ後天性ニ來ル瘰癧性肥大、第三期微毒、淋巴管腫、血管腫、腺腫、慢性口唇炎等ノ如シ

先天性唇瘻 *Congenital fistula of Lips* *Angioborne Fistel der Lippe*

多クハ下唇唇赤ノ正中線附近ニ生ジ時トシテ對稱的ニ來ル數仙迷ノ深サヲ有シテ唾液様ノ液體ヲ分泌ス上唇ニ來ルコトアレ稀有ニ屬ス破裂形成ニ伴フコト多シ

癒着唇

Ankylocheilia
Ankylocheilie

口唇ガ後方顎骨ノ前面ト癒着スルコアリ或ハ先天性ニ來
リ或ハ後天性ニ來ル腫瘍潰瘍外傷等ハ多ク其原因ヲナス

口唇外翻症

Labial Ectropium
Ectropium labii

主トシテ後天性ニ來ル状態ニシテ外皮ニ壞疽其他
ノ缺損ヲ生ジ之レガ治癒スルニ方リ癩痕形成ヲ營

ミ其收縮牽引ニヨリテ外翻ヲ生ズルモノトス

上唇ニアリテハ微毒狼瘡、腫瘍瘡等ニヨル潰瘍ヲ原因トナス其外翻一小部分
ニ限局セルコト多シ之レニ反シ下唇ニアリテハ時トシテ外傷殊ニ火傷等ニヨリ著
大ナル外翻ヲ生ジ或ハ其粘膜面ノ全體ヲ外方ニ露出シ外皮ヲ悉ク覆フコアリ其
外翻ノ程度ニヨリ成形手術ヲ要ス

唇頰破裂形成

唇頰ノ成形異常中最頻發スル處ノ形態ニシテ又吾人ニ最モ
興味ヲ與フルモノナリ次章ニ詳述ス

第二章 唇頰破裂形成

唇頰破裂形成

Congenital Fissures of Lip and Cheek
Spaltbildung der Wangen und der Lippe

唇頰ノ成形不全ハ前頭突起、上顎突
起及第一鰓弓ノ相互ノ融合不全ノ

結果トシテ破裂形成ノ状態ヲナシテ顯ハル、コト最多シ其融合不全ハ果シテ如何
ナル原因ニヨリテ生起セラル、ヤ極メテ明白ナラザレモ其何ニヨルヲ問ハズ凡
テ胎生第五週即チ融合ノ完了スル以前ニ働キタルモノナラザルベカラズ左記ノ
モノハ單獨ニ或ハ數者連合シテ素因及誘因ヲナス

一遺傳 オークレー、コールズ Oakley Coles ハ興味アルニ家族ノ例ヲ報告セリ、一
ハ三人ノ兄弟ニ悉ク破裂アリ、他者ハ五人ノ兄弟中二人ニ之レアルヲ見タリト云
フ、其他レーソン Laison フリック Fricke マーシャル Marshall ハ數多ノ實驗例ヲ有ス、ヘ
イマン Haymann ニヨレバ破裂ノ二十布仙ハ遺傳ニ歸スト、殊ニ父親ヨリモ母親ニ
由來スルコト多キカ如シ

二發育停止 胎生時ニ於テ融合未タ完成セサルニ方リ其發育停止スルヤ破裂
形成ヲ生起スルコト勿論ナリ、營養不良其他母體ノ疾患ニ歸因スルコト多シ、此ノ如キ
モノニアリテハ身體他部ノ發育不全ヲモ伴フモノトスピオンデー Biondi ハ破裂
線ノ原發性萎縮ヲ記載セリ

三融合線ニ異物ノ介在 ブローカ Broca ハ頭蓋底ニ先天的「ラトローマ」ヲ有シ
タルモノニ於テ顯著ナル顔面破裂ヲ目撃シ、ランネロング Lamelongue ハ先天性舌

腫瘍ヲ有スルモノニ口蓋破裂ヲ實驗セリワルテクロース *Wanckros* ハ顎間骨ト固有顎骨トノ融合線ニ過剩齒ノ存在シテ口蓋破裂ヲ生起シタルヲ見タリ

四、腦内壓ノ高昇 水頭症、腦軟兒、尼亞、腫瘍等ノタメニ腦内ニ於テ異常ノ高壓ヲ生ジ融合機ヲ障碍スルコトアリ

五、羊膜内壓ノ不規則ナルキハ又融合ヲ不全ナラシムルコトアリ(ウインケル)

六、顔面ト羊膜内壁ト癒着ヲ生シテ其一部ヲ牽引シ融合機ヲ障碍スルコトアリ

七、頭蓋底ノ異常ニ廣キキハ側方ヨリ中央ニ進ンテ發育スル處ノ突起ハ充分正規ノ融合線ニ達スル能ハズシテ破裂ヲ遺スコトアリ

八、母親ノ影響 妊娠時ニ母親カ劇動、恐怖等ニ逢會スルキハ畸形兒ヲ生ズルコト間々見ル處ナリ、然レモ其果シテ如何ナル關係ニヨルヤハ明白ナラス

形態

破裂形成ハ發育融合線ノ一部乃至全部ニ亘リテ生ズルモノニシテ從テ其顯ハル、ヤ數種ノ形態アリ左ノ如シ

一、上唇正中破裂 *Fissura labii superioris centralis* 本症ハ兩側内鼻突起ノ融合不全ニ基因スルモノニシテ寧ろ稀ナリ、輕微ノモノニアリテハ上唇線ノ中央ニ於テ少許ノ截痕ヲ呈スルニ過キザレドモ或ハ其ノ破裂上方ニ延長シテ鼻腔ニ達スルコトアリ

リ或ハ鼻中隔ノ分裂ヲ伴フモノアリ(ウイックエ) 兩側

性唇顎破裂ニ於テ顎間骨及ヒ人中缺如シ且兩破裂線

ノ遠ク相隔離セザルモノニアリテハ一見本症ニ似タ

ルカ如キ外觀ヲ呈スト雖モ全ク其趣キヲ異ニス

二、上唇側方破裂 *Fissura labii superioris lateralis* 本症ノ

成生ニ從テ二説アリ、一ハ内鼻突起ト上顎突起トノ融

合不全ニヨルモノナリト云ヒ(ケリケル、ピオン、アイ) 等他ハ内鼻突起ト外鼻突起

トノ融合不全ニ之レヲ歸ス(アルブレヒト、マクエル) 等唇頰ノ破裂形成中最頻發ス

ル形態ニシテ又兔唇ト云フ次章ニ詳論スベシ

三、下唇破裂 *Fissura labii inferioris* 下唇ノ正中線ニ沿フテ破裂ヲ形成スルコトアリ

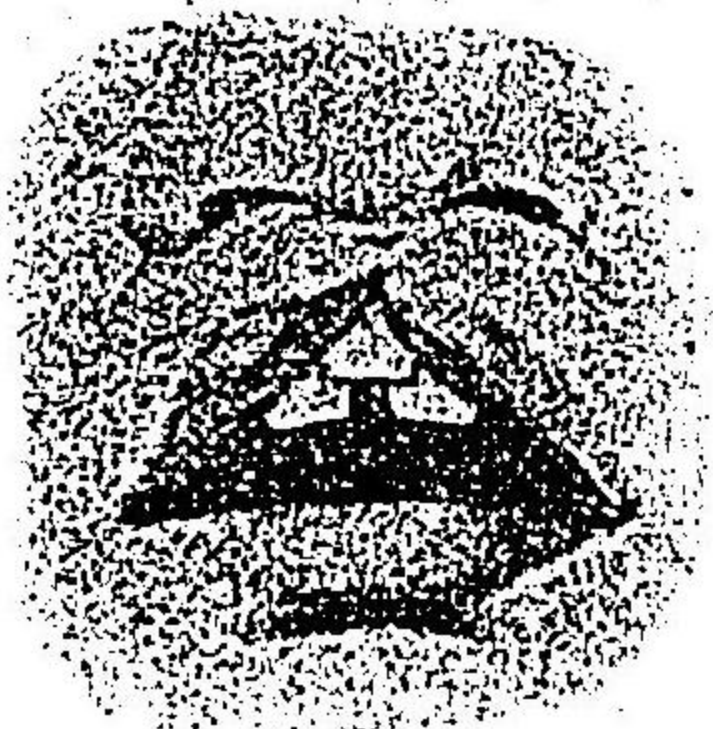
或ハ下唇ノ輕微ナル截痕ニ過キザルコトアリ、或ハ下唇ノ全破裂ニ兼ヌルニ下顎骨

正中破裂ヲ以テスルコトアリ、或ハ更ニ口底舌等ニ至ルマテ正中破裂ヲ呈スルコトアリ

リ蓋シ稀ナリ、何レモ兩側第一鰓弓ノ正中線ニ於テ完全ニ融合セザリシニ基因ス

ルモノトス

四、頰斜破裂 *Meloschisis* 極メテ稀有ニ見ル處ノ破裂ニシテ外鼻突起ト上顎突



第五十七圖 上唇正中破裂 (ベイルン氏)

唇頰破裂形成

起トノ融合不全ニ基因ス、多クハ腦疾患殊ニ頭蓋發育不全、腦缺損、偏腦症、水頭症、腦軟兒尼亞等ヲ隨伴スルヲ以テ出生前或ハ出生直後ニ於テ死亡スルヲ多シ

破裂ハ僅ニ口唇側方並ニ下眼瞼内側ニ於テ少許ノ截痕ヲ呈スルノミナルヲアリ、或ハ口唇ヨリ斜ニ下眼瞼ニ直達スル完全破裂ヲナスヲアリ、或ハ只ニ軟組織ノミナラズ下在骨質ニモ其破裂ヲ呈スルヲアリ、其更ニ甚シキモノハ口蓋破裂ヲモ伴フベシ

五、頰部橫破裂 Microstoma 即巨口



三百三十二

圖八十五第 裂破唇下 (氏カ一ネへホ)



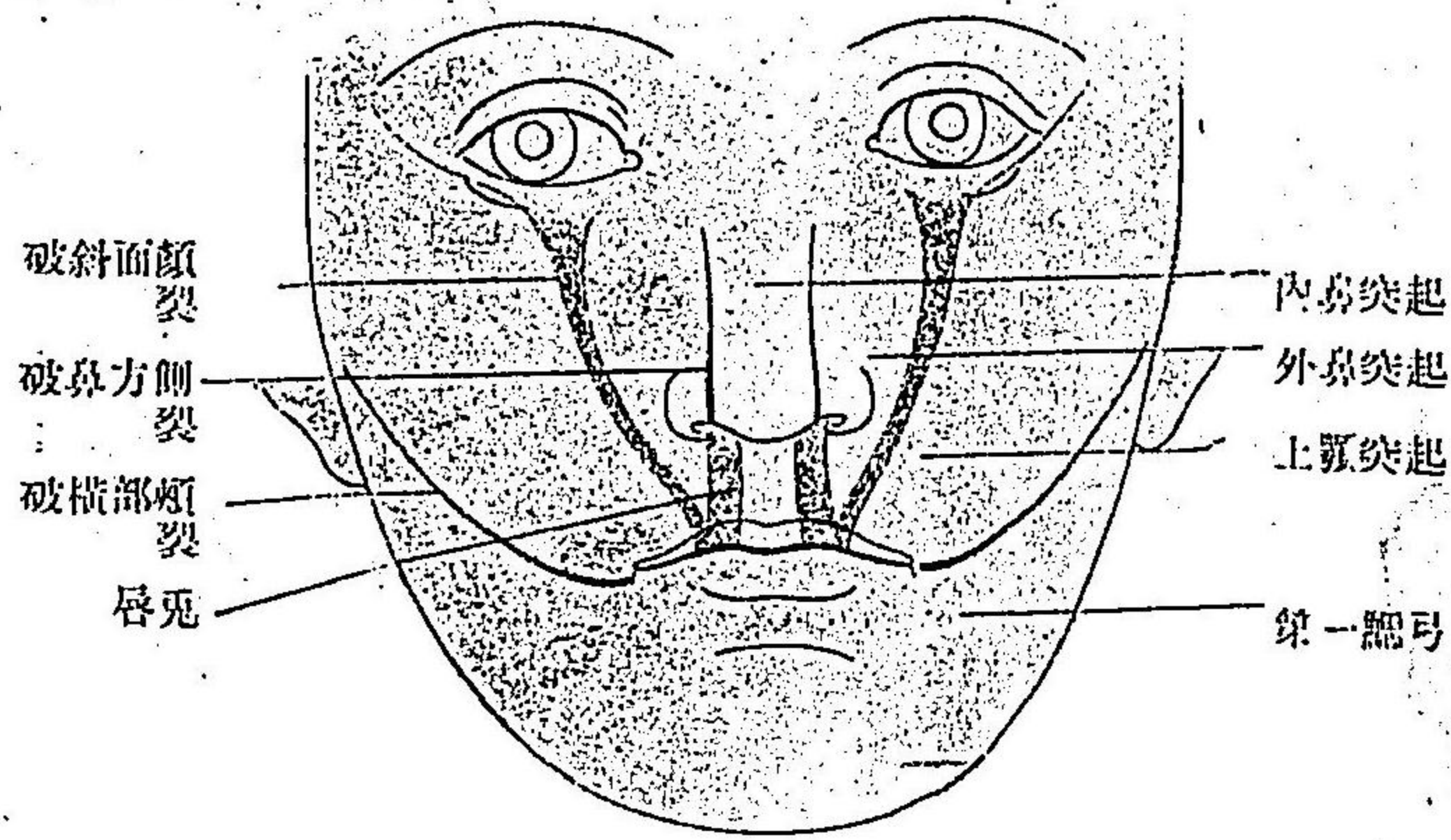
圖九十五第 裂破斜面頰側 (氏シマヒルホ)

症ト稱スルモノニシテ口角ヨリ側方頰部ヲ橫斷シテ生スル處ノ破裂ナリ、第一鰓弓ト上顎突起トノ融合不全ニ基因スルモノニシテ一側或ハ兩側ニ來リ共ニ極メテ稀ナリ、單純ナルモノハ口角部ニ於テ一側或ハ兩側ニ截痕乃至破裂アリ唇赤ヲ有シ恰モ口裂ノ増大シタルモノト見做スベシ、或ハ其破裂ヨリ耳前ニ到達スル瘰癧組織ノ一狹帶ヲ示スヲアリ、或ハ口角ヨリ咀嚼筋ノ前緣乃至耳前ニ達スル完全ナル破裂ヲ呈スルヲアリ

豫後

破裂ノ形態ト範圍トニヨリテ相同ジカラズト雖モ概スルニ單純ナル頰唇破裂ハ豫後佳良ナリ、然レモ同時ニ下在骨質ノ破裂ヲ伴フモノ及其破裂面廣大ナルモノハ豫後頗ル佳良ナラズ、死ノ轉歸ヲ取ルヲ稀ナラズ、其死因ハ或ハ隨伴

唇頰破裂形成



圖十六第 成形裂破頰唇 (氏カ一子へホ)

スル處ノ腦其他ノ疾患ニヨルコトアリ、或ハ破裂間ニ於テ露出スル粘膜面ヨリ加答
兒性炎ヲ生ジ其漸ク蔓延シテ肺炎等ヲ生スルニヨルコトアリ、或ハ哺乳飲食ノ完全
ニ行ハレザルタメニ營養不良ニ陥ルニヨルコトアリ

療法

破裂縁ニ沿フテ新創面ヲ作り之ヲ對向セルモノト相縫合シテ第一期癒
合ニヨリテ治癒セシムルヲ法トス、生後第二乃至第六週日ノ間ニ於テナ
スコト最有益ナリ

第三章 兔唇

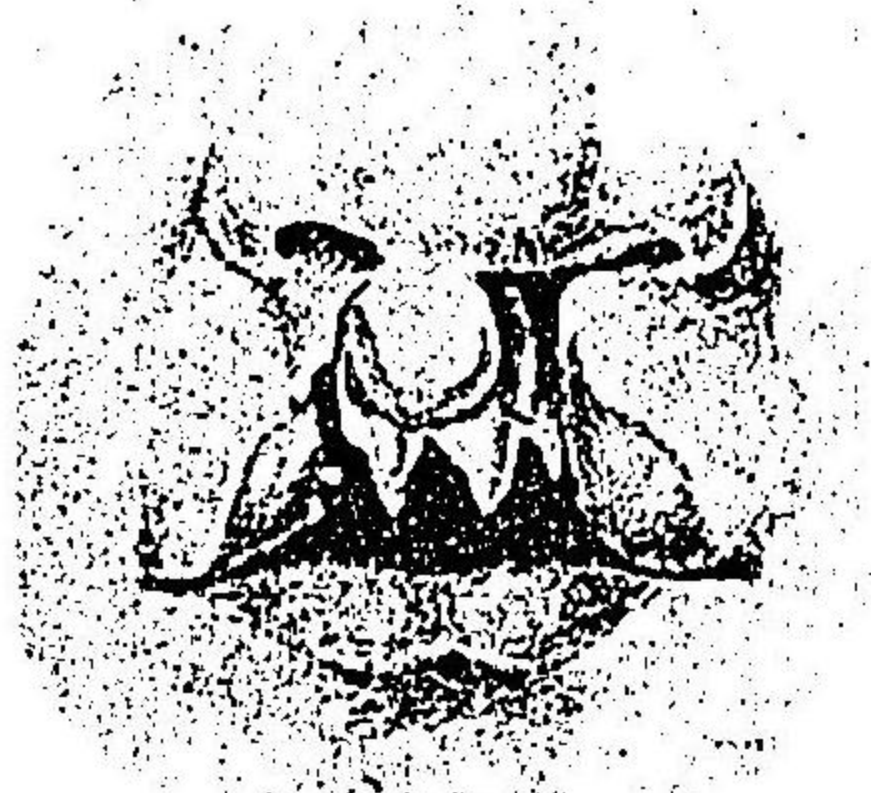
兔唇

Harelip
Mucoscharte

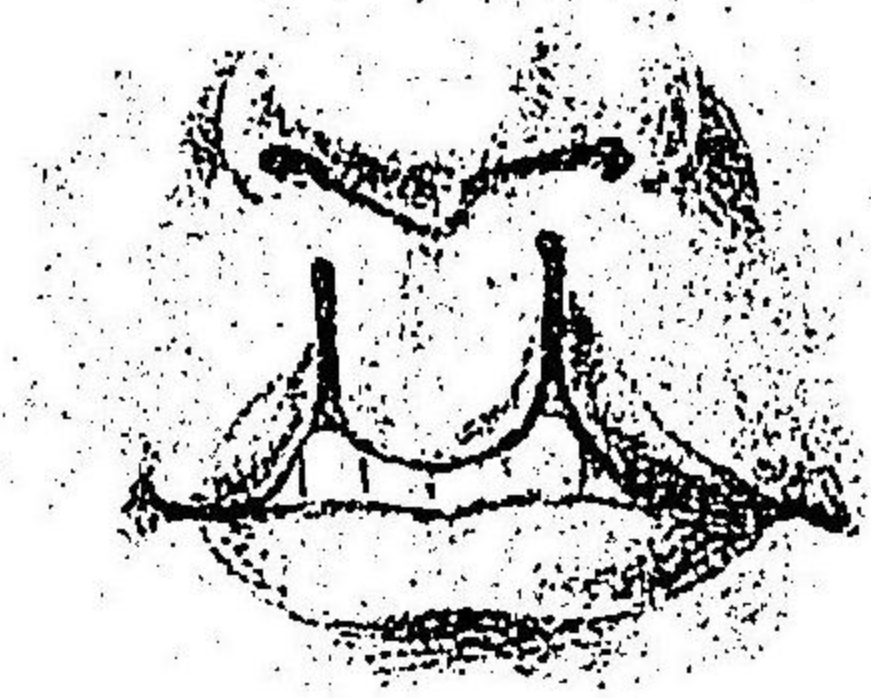
ハ即上唇側方破裂ニシテ其成生ニ就テハ或ハ内鼻突起ト上顎
突起トノ融合不全ニ之レヲ歸スルコト前述ノ如シ、而シテ殆ト常ニ人中ヨリ少シク
偏シテ側切齒ニ相對シテ生ジ完全ナルアリ不完全ナルアリ、一側性ナルアリ兩側
性ナルアリ、或ハ單純ナルアリ或ハ他ノ破裂ト併發スル複雑ノモノアリ、概スルニ
女子ヨリモ男子ニ多ク又偏側性破裂ハ右側ヨリモ左側ニ來ルコト多シ
一、不全兔唇、トハ破裂ガ口唇縁ヨリ鼻孔内迄完全ニ進達セザルモノヲ云フ最

單純ナルモノハ口唇縁ニ僅微ノ截痕アリ之レヨリ
鼻孔ニ向ヒテ癍痕様ノ一狹帶ヲ顯ハス者トス、或ハ
之レヲ以テ癍痕組織ナリトナシ子宮内ニ於テ一度
存在シタリシ兔唇ガ自然ニ癒合シタル者ナリト説
明スルモノアレモ未タ曾テ組織的検査ニヨリ其中
ニ癍痕組織ノ存在ヲ證明シ得タルモノナク又タ粘膜組織ノ介在ヲ検査シ得タル
モノナシ、故ニ之レ蓋シ或原因ノタメ融合機カ遅徐トナリ或ハ不完全トナリシニ
ヨルモノナルベシ

不全兔唇ノ最普通ナル
形態ハ口唇縁ヨリ鼻孔ニ
向テ多少明瞭ナル破裂形
成ヲ顯ハシ唇縁ノ高サニ
於テ最廣ク離開シ上端ハ
角狀ヲナシ破裂縁ハ一般
ニ唇赤ヲ以テ被ハル、モ



唇 兎 全 完 側 兩



唇 兎 全 不 側 兩

圖 二 十 六 第

(氏 ス ン ル プ ン ヲ フ)

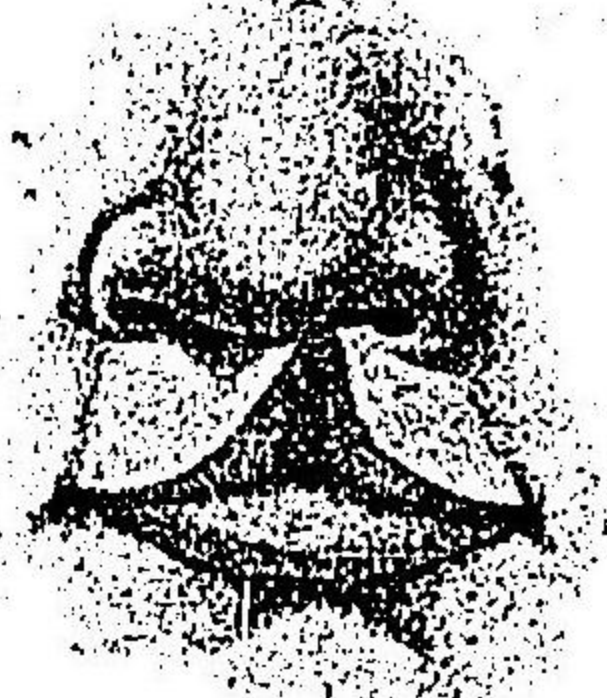


圖 一 十 六 第

唇 兎 全 完 側 偏

(氏 ゲ ー 子 ハ)

ノトス破裂終端ト鼻孔トノ間ニハ尙健態ノ皮膚アリテ破裂兩緣唇部ノ皮膚ヲ橋
狀ニ連續セシム不全破裂モ亦一側ニ來リ或ハ兩側ニ顯ハレ又時トシテ顎骨ノ破
裂ヲ伴フベシ

二、完全兔唇 トハ口唇緣ヨリ鼻孔迄進達スル處ノ破裂ヲ顯ハスモノヲ云フ一
側又ハ兩側ニ來リ數々顎骨破裂ヲ伴フ破裂緣ハ通例兩側共ニ鼻孔ニ至ルマテ唇
赤ヲ有ス破裂ノ終末ハ時トシテ廣開シ或ハ全ク缺損シ鼻翼ハ外方ニ牽引セラレ
テ不快ノ醜貌ヲ呈ス

兩側性兔唇ニアリテハ其破裂兩側共
ニ完全ナルカ或ハ一側完全ニシテ他ハ
不全ナルカヲ論セズ人中ニ相當シテ鼻
中隔ト連續セル一帯ノ組織アリ概形ハ
四角三角乃至楕圓形ニシテ邊縁ニハ唇
赤ヲ有ス但シ兩側完全兔唇ニシテ同時
ニ兩側完全口蓋破裂ヲ有スル場合ニハ
人中全ク缺如シテ中央ニ一大破裂ヲ呈



起突骨間顎 圖三十六第
(氏ガ一ホハホ)

スルヲアルベシ

概スルニ不全並ニ完全兔唇ハ共ニ多少ノ口蓋破裂ヲ伴フト多シトナス、一側或
ハ兩側性兔唇ガ偏側顎骨破裂ト併發スルキハ顎間骨健側ニ向テ突出シ奇異ナル
外觀ヲ呈スルヲアルベシ

兔唇手術

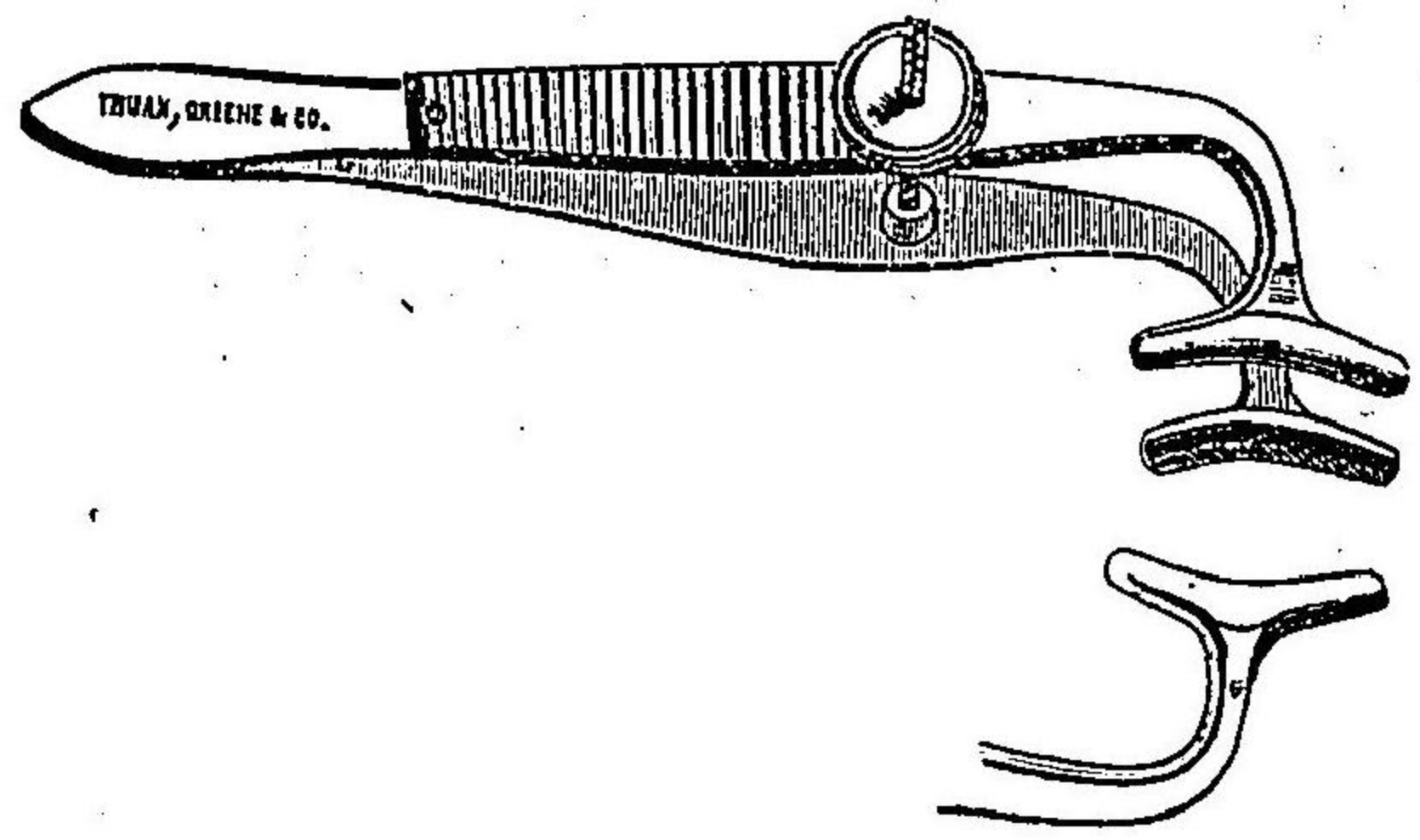
兔唇ハ破裂形成中最頻發スルモノニシテ其縫合ニ特殊ノ考慮ヲ
要シ吾人口腔科醫ニ取リテ最興味アルモノナリトス、兔唇ノ手術
ハ强健ナル小兒ニ向テハ生後第一乃至第六週日ニ於テ之レヲ施コスヲヨシトス
之レ一ハ以テ附近組織ノ完全ナル發育ヲ遂ゲシメ一ハ以テ哺乳ヲ完全ナラシメ
又一ハ以テ粘膜炎呼吸器系等ノ疾患ヲ豫防センガタメナリ、加之此時期ニアリテ
ハ神經裝置未ダ完成セザルヲ以テ知覺大ナラズ從テ麻醉ヲ用ユルノ必要ナク而
カモ震盪ノ危憂ナク又出血創傷傳染ノ危險ヲ容易ニ豫防スルヲ得ベケレバナリ
兔唇手術ハ左ノ順序ニヨルベシ

一、兔唇手術ヲ行フニ方リテハ先ツ患兒ハ其兩膊ヲ繙帶其他便宜ノ紐帶ヲ以テ
軀幹ニ緊縛シ助手ノ一人ヲシテ之レヲ抱キタルマ、坐位ヲ取リテ椅子ニ倚ラシ
メ更ニ他ノ助手ヲシテ後方ヨリ患兒ノ頭ヲ支持セシムベシ

二、手術面ハ強キ消毒劑ヲ用ユレバ濕疹ヲ起ス極メテ容易ナルガ故ニ石鹼及ビ滅菌水ヲ以テヨク清掃スレバ足レリトナス、本手術ニ伴フ出血ハ主トシテ上唇冠狀動脈ヨリスルモノナレバ之ヲ防止センカタメ豫メ切開ニ先テ助手ヲシテ兩側ニ於テ之レヲ指壓保持セシムルカ然ラサレハ動脈齧子ヲ以テ齧取固定スベシマーシヤルハ特殊ノ形態ノ齧子ヲ稱用セリ

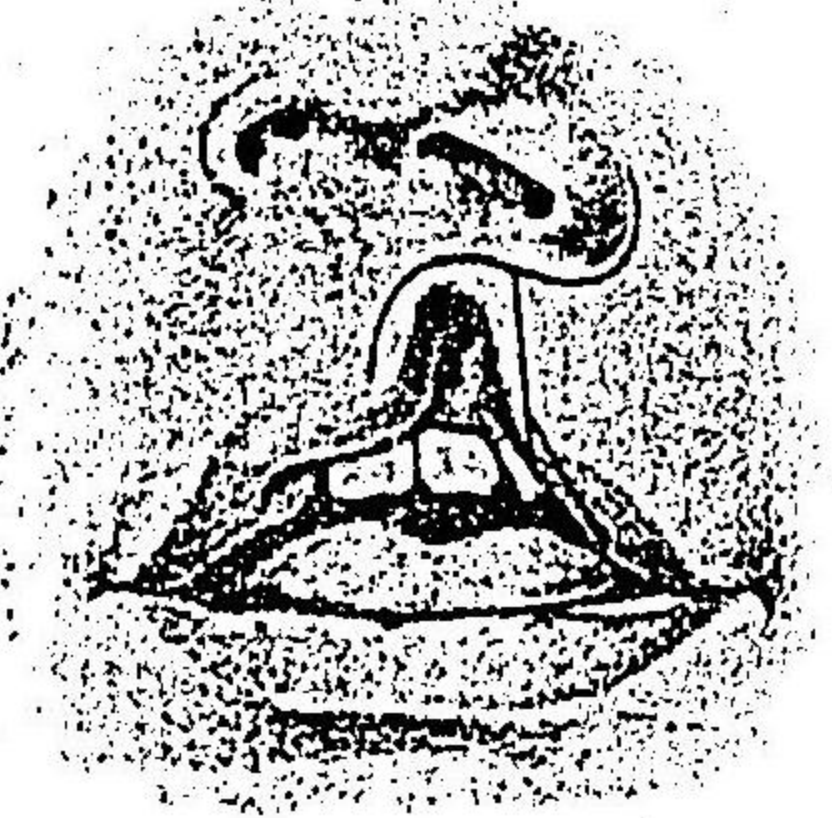
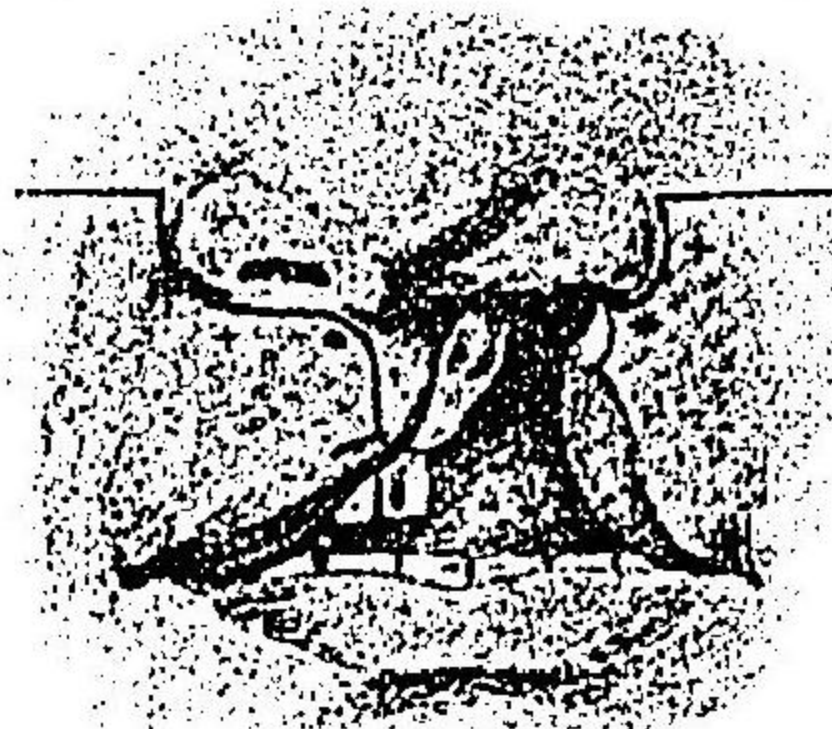
三、是ニ於テ破裂ノ大小方向ニ應シテ適當ナル作創法ヲ撰ビ便宜刀或ハ剪子ヲ用ヒテ新創面ヲ作為ス、兩破裂線ノ移動容易ナラザルトキハ之レヲ任意顎骨ヨリ剝離スルモ佳ナリ

四、創縁ノ縫合ニハ可及的纖細ナル針及ビ糸ヲ撰ブヲヨシトス、絹糸ヲ用ヒテ結節縫合ヲナスヲ普通トス、但シ結紮ニ際シ粘膜炎ニ穿通スルハ不佳ナリ粘膜炎下組織ニ止ムルヲ要ス、普通五六ノ結紮ヲ以テ足ルベシ、時トシテ其緊張大



子齧用術手唇見 圖四十六第
(氏ルヤシ一マ)

ナルキハ小鉛板ヲ以テ減張縫合ヲナサ、ルベカラズ然ラサレバ長ク切リタル絆創膏ノ數條ヲ一側ノ頬ヨリ他側ノ頬ニ貼置シテ緊張ヲ減少セシムベシ、緊張ノ度更ニ大ナルモノアリタルキハ、ブルンス又ハヂッフェンバッハニ從ヒテ鼻翼ニ沿ヒ一側或ハ兩側ニ於テ減張切開ヲ施コス(第六十五圖)又若シ鼻呼吸ノ障害セラル、患アリタルキハ該側鼻孔内ニ強靱ナル細小護膜管ヲ挿入シ置クヲヨシトス



開切張減 圖五十六第
(氏ンマヒルベ)

作創法

破裂線ニ沿フテ如何ナル新創面ヲ作為センカハ此手術ニ於テ最思慮ヲ要スル處ニシテ破裂ノ形態ト廣狹トニヨリテ頗ル大ナル差異アリ、偏側兔唇ニ對スルモノ、兩側兔唇ニ對スルモノ及顎間骨ノ突出ヲ伴ヘル兔唇ニ對スルモノ何レモ其方式ヲ異ニスベシ

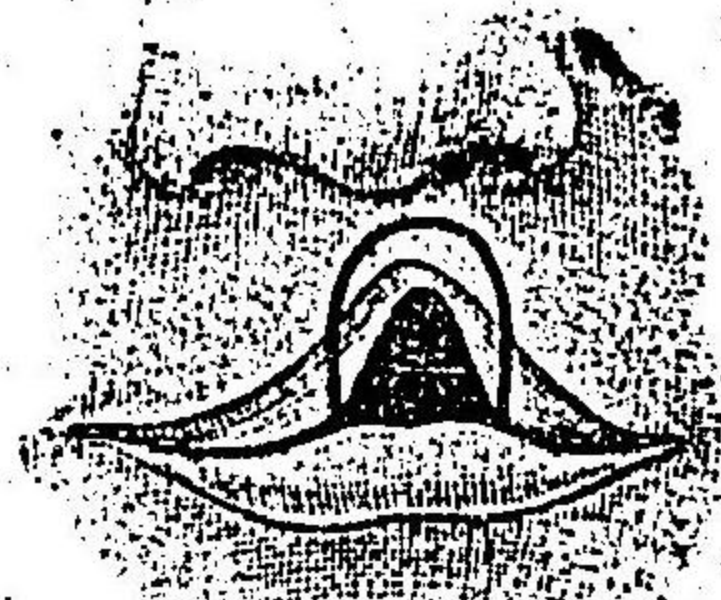
(一) 偏側兔唇ニ對スル作創法
極メテ僅微ナル兔唇ニ對シハグレートフ、チラトン等ノ作創法又用ユベシト雖モ

常ニ適用ノ最廣キハミロール式ナリ又若シ一回ノ手術ニテ唇線ヲ充分ニ恢復スルヲ得サリシキハランゲンベック式ニヨリ調整スルヲヨシトス

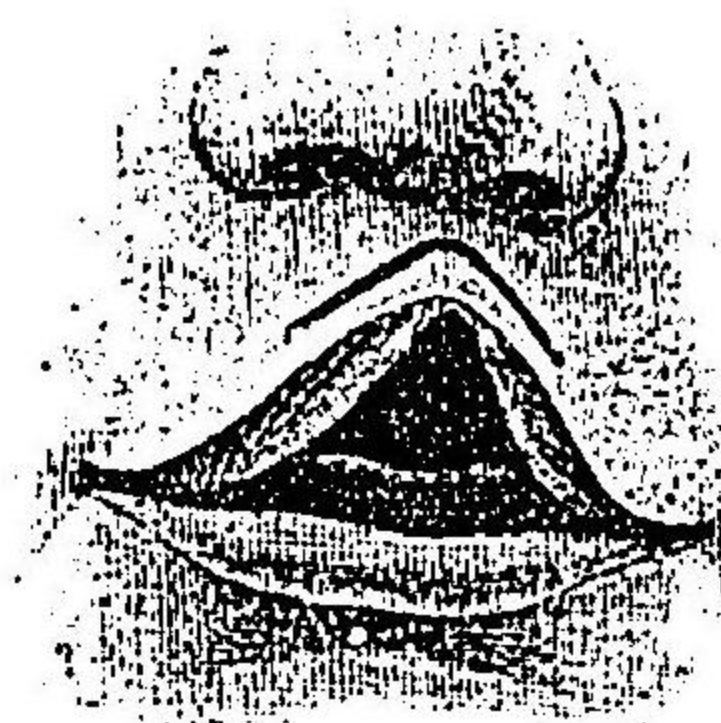
一、グレーフ式 *Graf* (一八二五年) 最簡單ナル方法ニシテ破裂線ニ沿ヒ一側ヨリ他側ニ亘リテ弓形作創ヲナシ之レ

ヲ一直線ニ適合シ唇赤ヲ下方ニ排除シツ、縫合スルノ法ナリ、極メテ輕微ノ兔唇ニアラザレバ用ユルコト能ハズ

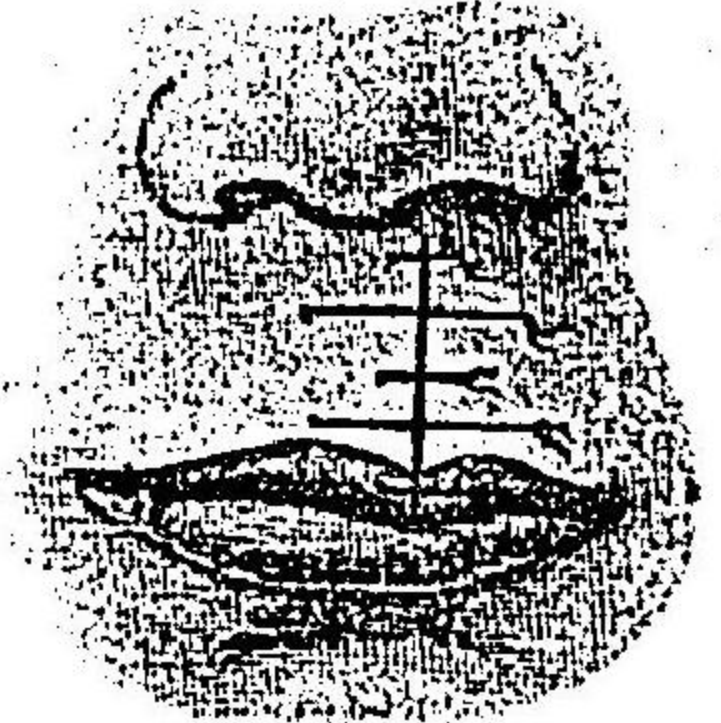
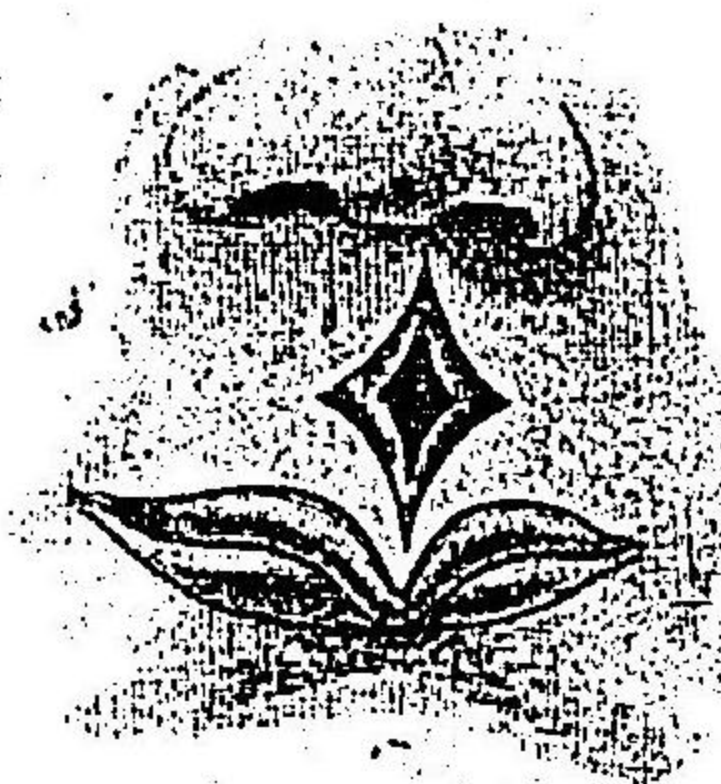
二、ネラトン式 *Nelaton* 破裂ノ尖頂



式フーレカ 圖六十六第
(氏 スンマルチ)

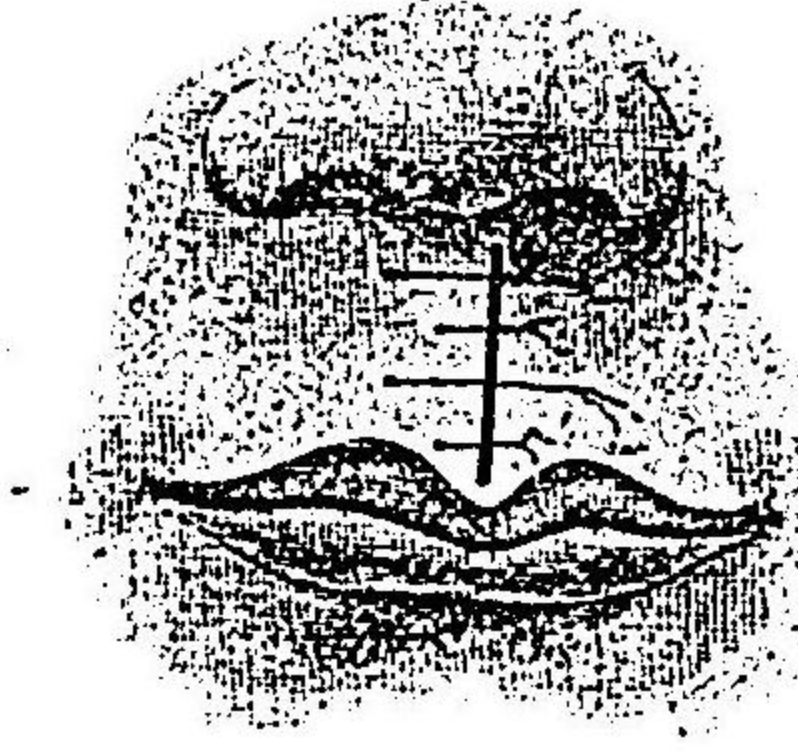
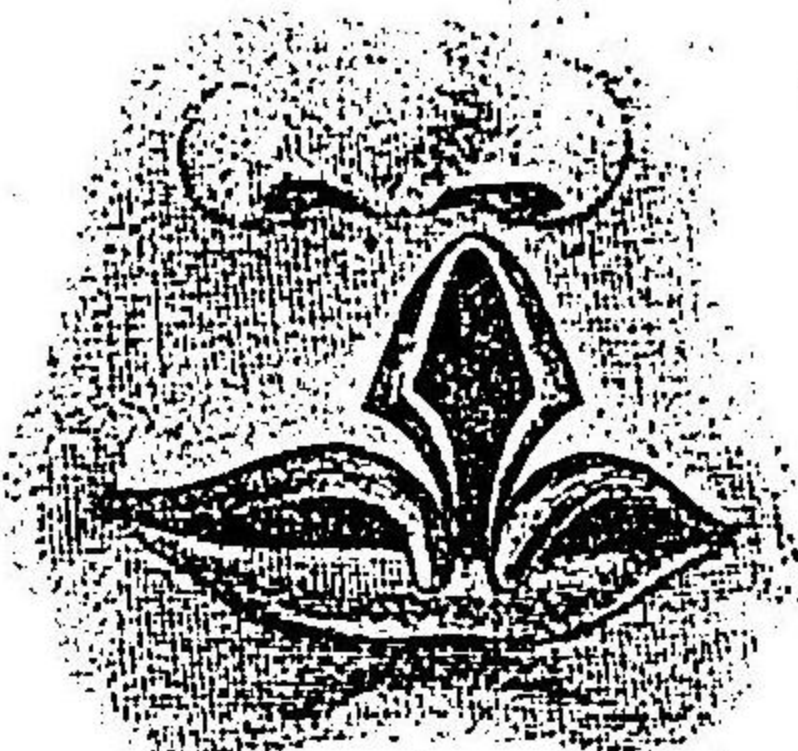
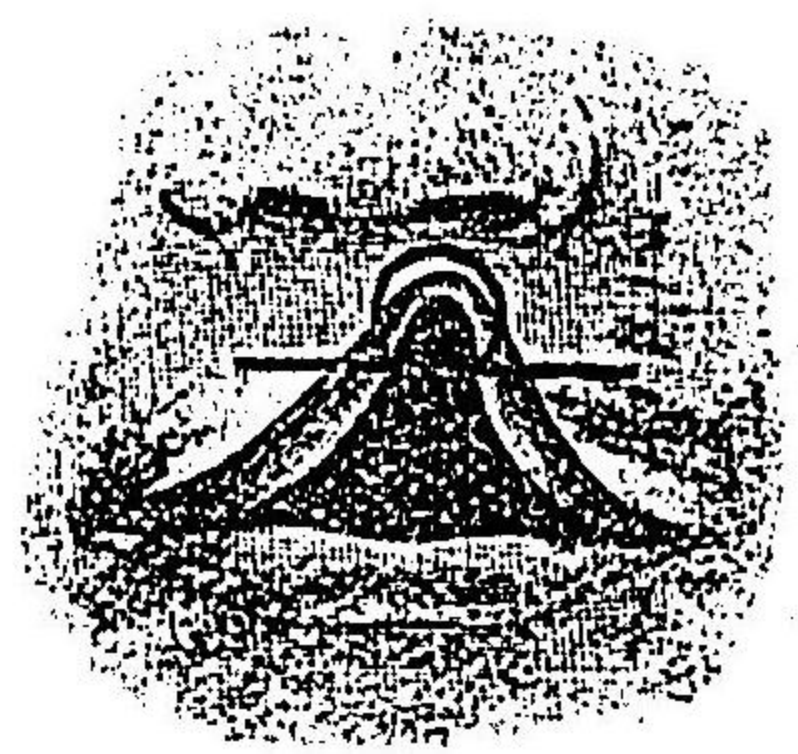


式ントラネ 圖七十六第
(氏 スンマルチ)



ニ相當スル部ニ於テ線ヲ隔ツル少許ノ處ニ弓形切離ヲ施コシ破裂線ヲ強ク下方ニ牽引シ玆ニ生ジタル菱形ノ創面ヲ一直線狀ニ縫合スル方法ナリ、之レモ亦極メテ輕微ノ不全兔唇ニ適ス

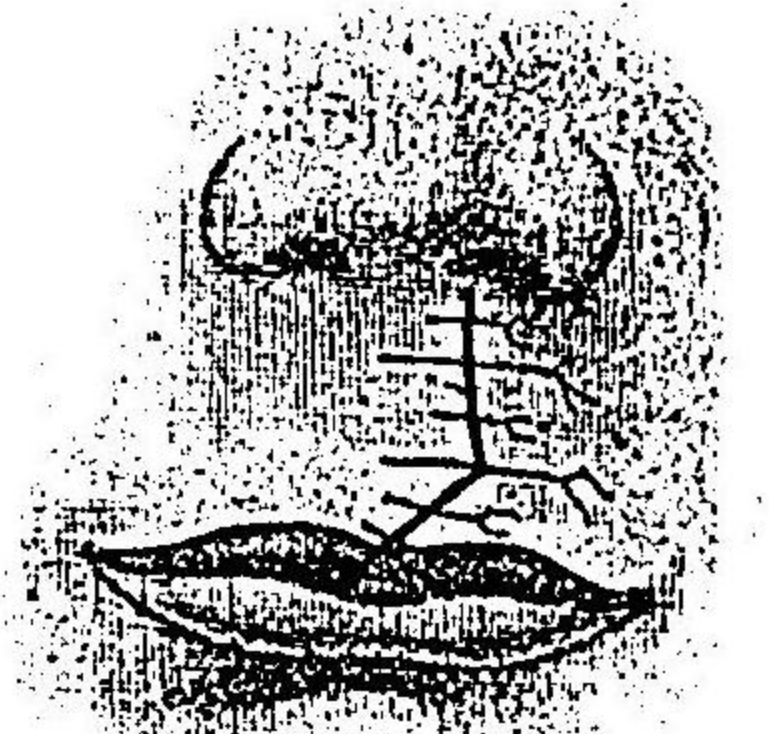
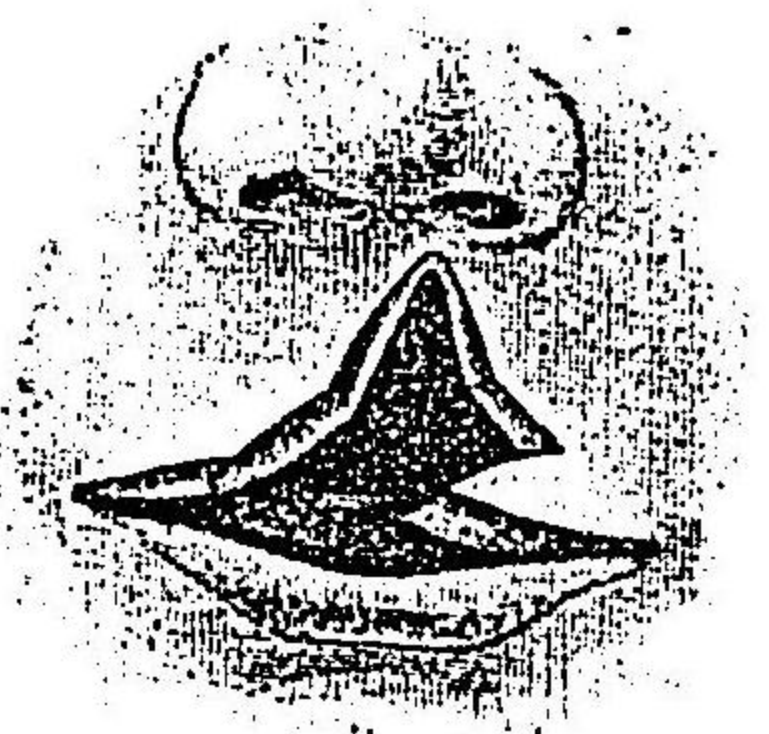
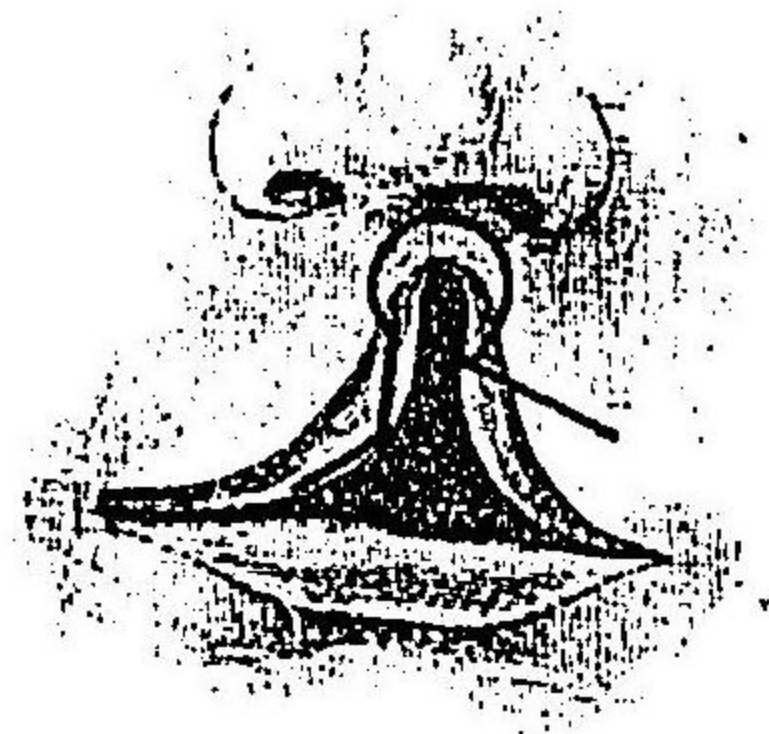
三、マルグーン式 *Malgaigne* (一八四四年) 破裂線ノ兩側ニ於テ唇赤ヲ有スル有莖小瓣ヲ作り其部ヲ下方ニ翻轉シテ角狀ノ創面ヲ眞直ニ縫合スルニアリ亦頗ル良好ナル一式ナリ



式ンードルマ 圖八十六第
(氏 スンマルチ)

四、ミロール式 *Mirault* 極メテ良好ナル式ニシテ又最多ク採用セラル、處ノモノナリ或ハランゲンベック式或ハブルンス式ト稱ス、先ツ破裂ノ一側ニ作創シ次デ其對側上半ニ作創シ其下方ヨリ唇赤ヲ有スル有莖瓣ヲ作り兩線ヲヨク相適合シ

テ縫合スル方法ナリ



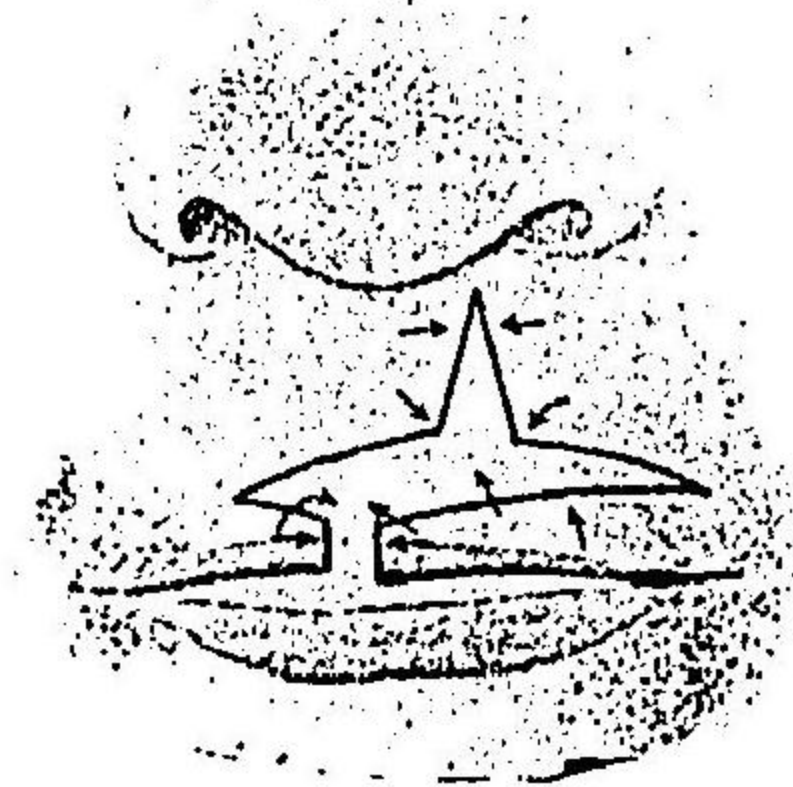
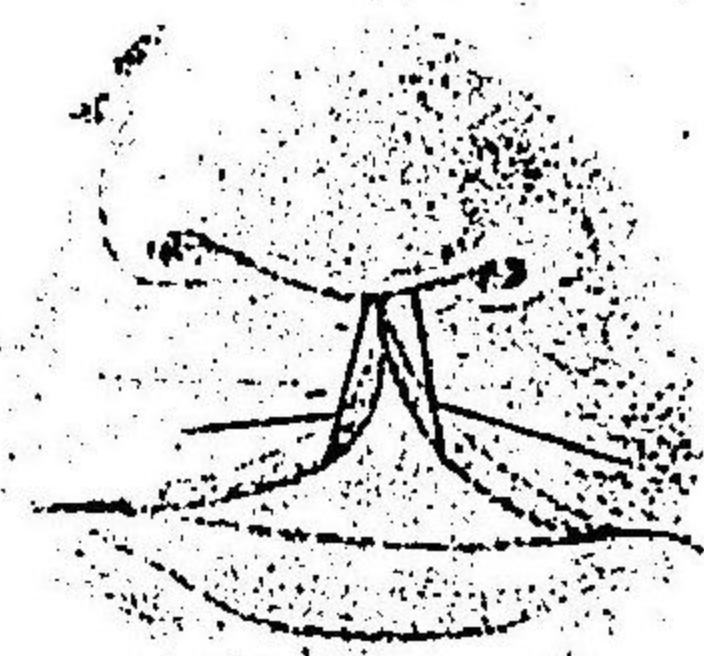
式ルーロミ 圖九十六第
(氏スンマルチ)

五、コーニヒ式 *Konig* 兩破裂線ヲ略ボ真直ニ作創シ次テ兩線ノ下方ニ於テ口唇線ニ略ボ併行シテ唇赤ヲ具フル小瓣ヲ作り之レヲ少シク下方ニ翻轉シテ縫合スル方法ナリ

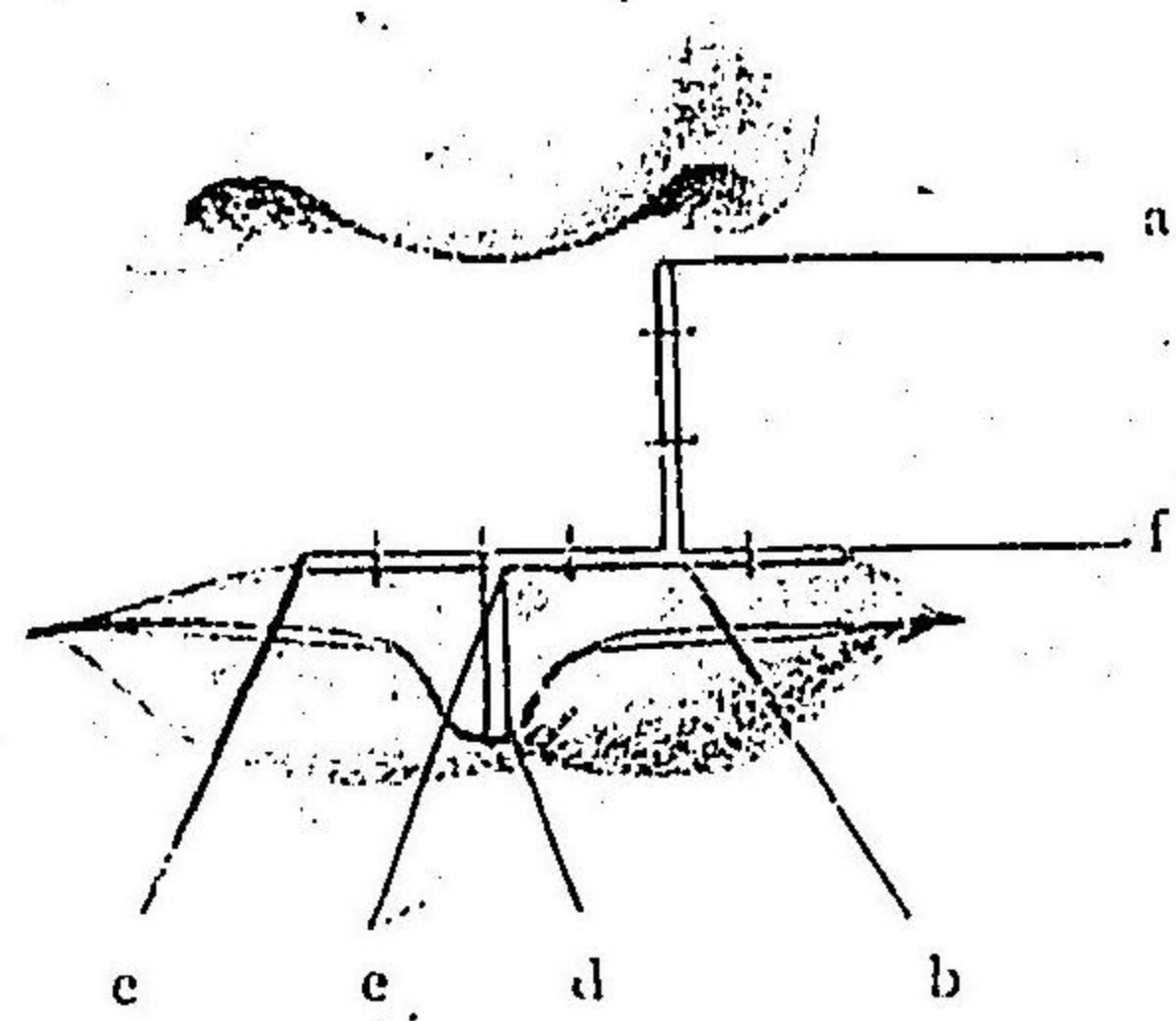
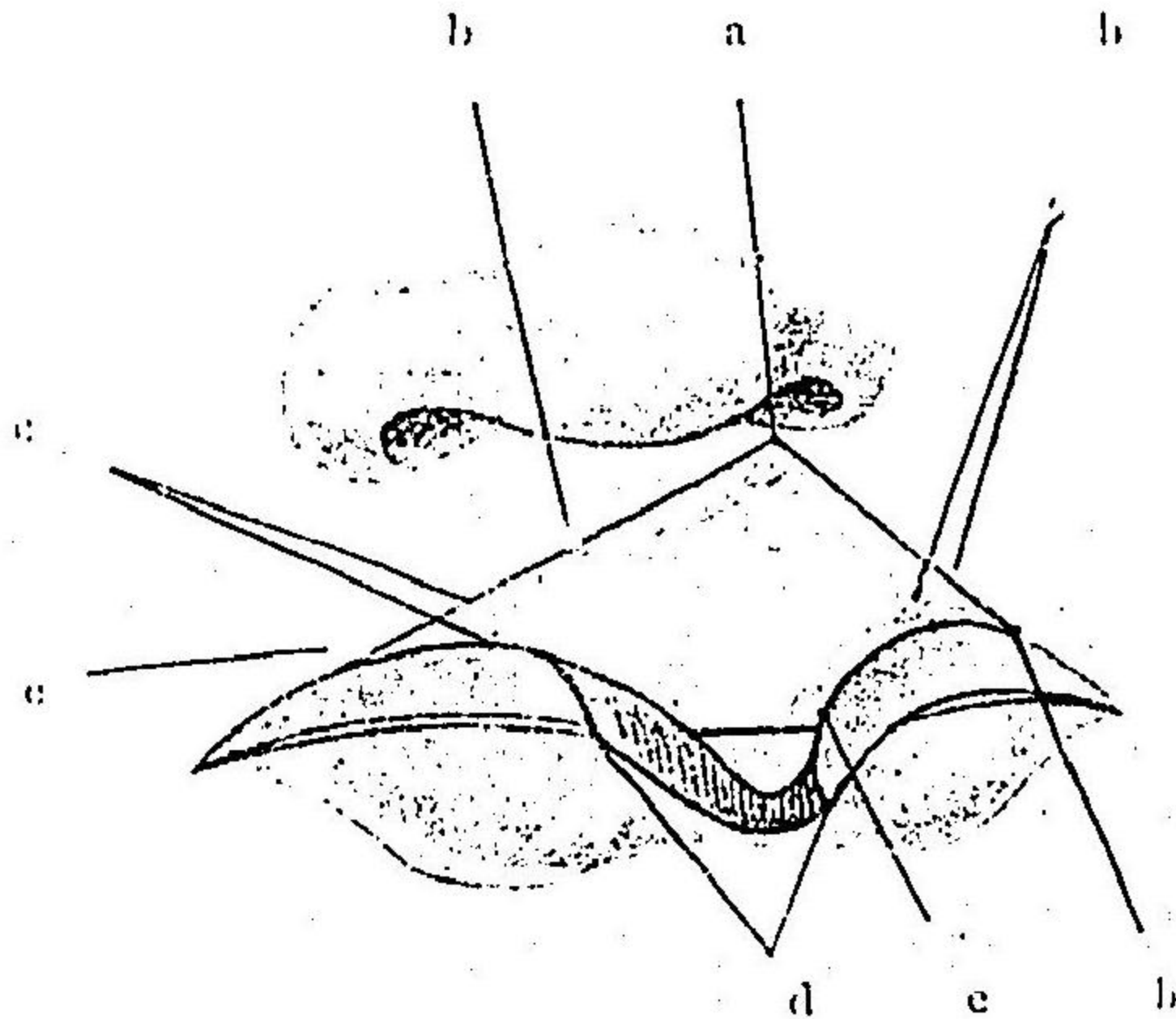
六、フォンランゲンベック式

Langenbeck (又ツルツ式 *Wolff*) 口唇

カ著大ナル離開ヲナス者ニ最適當ナリ、破裂線ニ沿フテ線ヲ去ル少距離ノ部ニ於テ一側ヨ



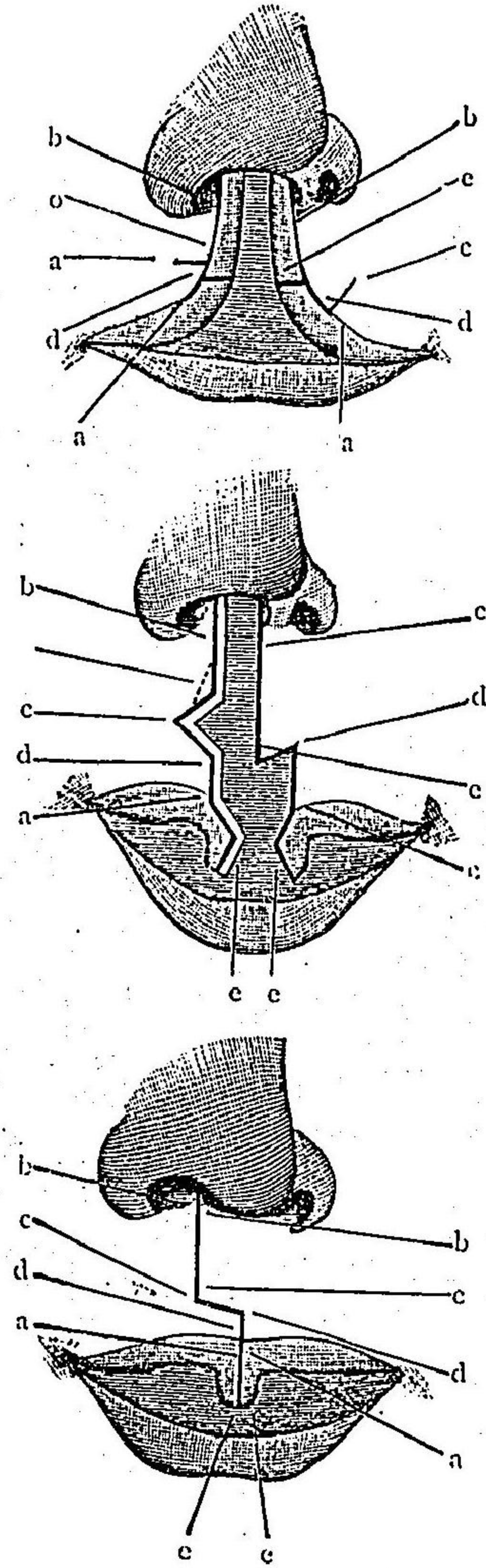
式ヒコーニコ 圖十七第
(氏ンマヒルベ)



式クッペンゲンラ 圖一十七第
(氏ンマヒルベ)

リ他側ニ跨リテV字形切離ヲ施コシ唇線ヲ下掣シ茲ニ生ジタル創面ヲ縫合スルニ方リ破裂線ハ之レヲ上方ヨリ真直ニ縫合シ兩側線ハ之レヲ地平ノ方向ニ縫合シ兩者ガ中央人中部ニ至レル時茲ニ輻輳セル唇赤部ヲ下方ニ向ケテ縫合シ以テ手術ヲ完了スルニアリ、此式ニヨル片ハ一回ノ兎唇手術ニヨリテ生ジタル截痕ヲ消失シテ人中ノ自然凸變ヲ恢復スルヲ得ベシ

七、ハーゲドルン式 *Hagedorn* 兩側破裂線ノ上方三分二ヨリ唇赤ヲ去リテ作創シ
 其下方ニ於テハ兩側トモ唇赤限界線ニ沿フテ小切離ヲ施コシテ以テ小瓣ヲ作り
 之レヲ下掣シテ真直ニ縫合スルキハ人中ノ自然形ヲ成生セシムルヲ得ベシ



式シルドゲーハ 圖二十七第
 (氏ンマヒルベ)

(二) 兩側兔唇ニ對スル作創法

一、ミロール式 *Mirault* 人中兩側及下線ヲV字形ニ作創シテ唇赤ヲ去リ兩側ノ破
 裂線ヨリ各一ツノ唇赤ヲ具フル小瓣ヲ作為シ之レヲ象鼻狀ニ下方ニ翻轉シテ相
 縫合ス人中ノ下端ニ相當スル處ハ殊ニ精密ナル適合ヲ要ス

二、コーニヒ式 *Koehls* 人中ノ兩側及ヒ下線ヲ方形ニ作創シ兩側ノ破裂線ハ先ツ

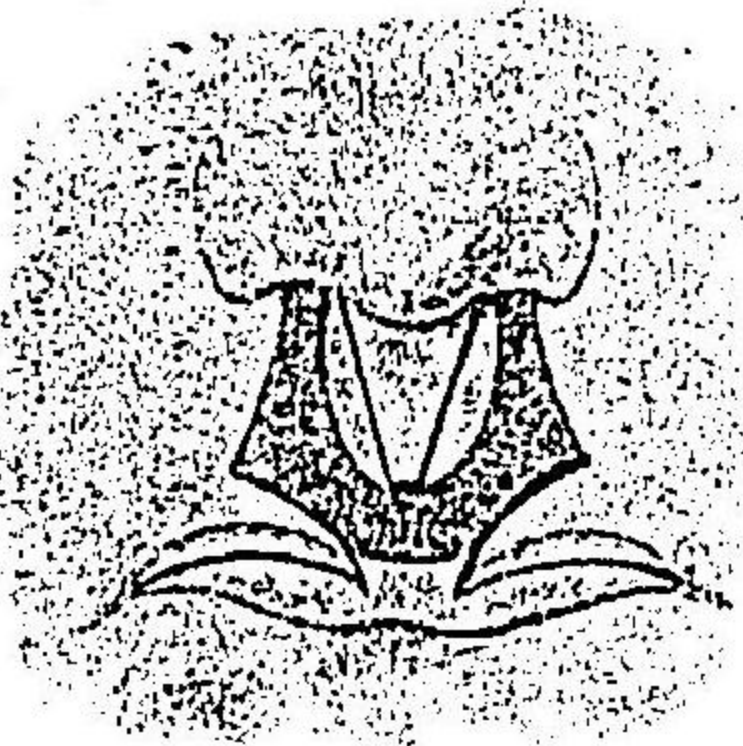
真直ニ作創シ更ニ其下部ニ於テ
 唇遊離線ニ併行シタル切離ヲ施
 コシテ兩側ニ小瓣ヲ作り之レヲ
 下内方ニ翻轉牽引シテ縫合ス

三、ハーゲドルン式 *Hagedorn* 人

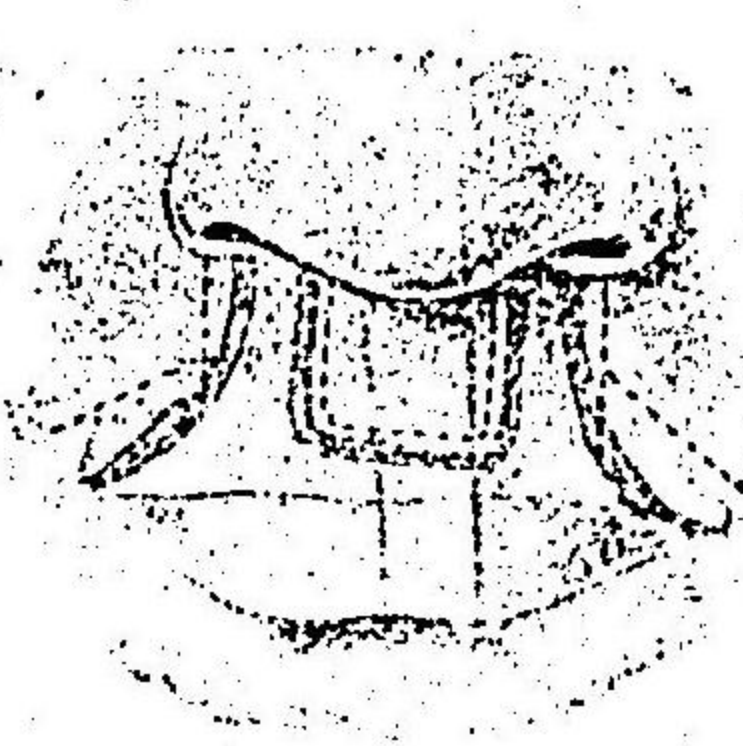
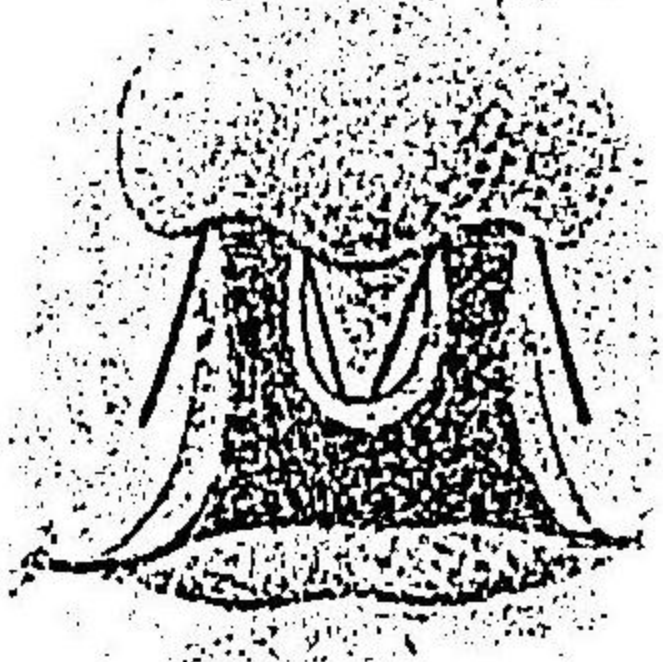
中ヲ劍尖狀ニ作創シ其兩側破裂
 線ニ對シテハ偏側兔唇ニ於テ施
 コシタルガ如キ作創法ヲ各側ニ
 行ヒテ縫合ス共ニ極メテ有要ナ
 ル方法ナリトス

(三) 兩側兔唇ニノ顎間骨突出ヲ
 兼、スルモノニ對スル作創法

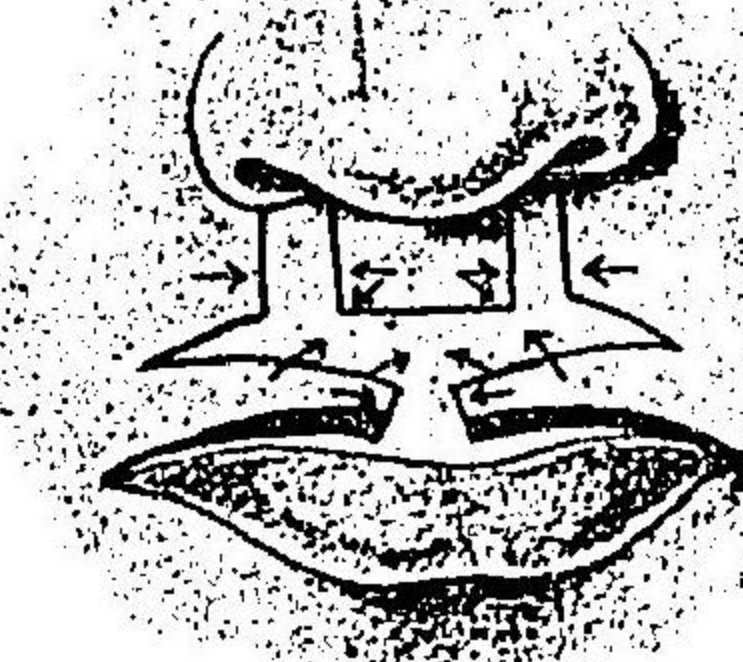
顎間骨ガ前突セルキハ口唇ノ緊張大ニシテ之レヲ縫合スルヲ能ハザルベシ此
 ノ如キ場合ニハ左法ノ一ニヨリテ之レヲ處置ス
 一、器械的壓退 顎間骨ノ突出端ニ壓迫ヲ加ヘテ後退セシムル方法ナリ例之ニハ

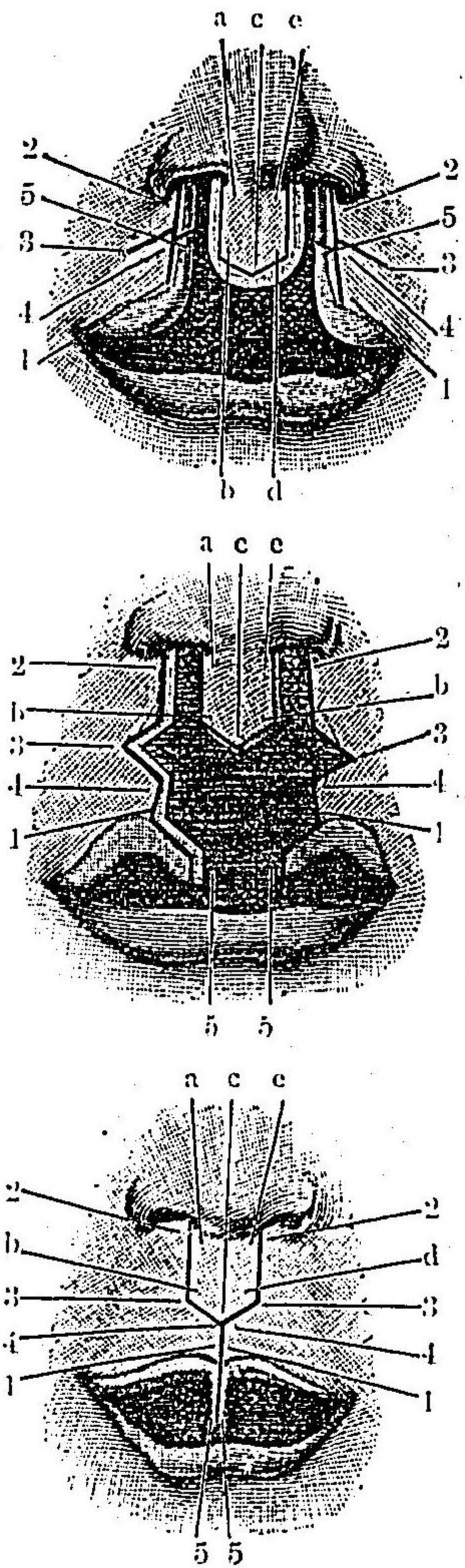


式ルーロミ 圖三十七第
 (氏ンマヒルベ)



式ヒニーアコ 圖四十七第
 (氏ンマヒルベ)





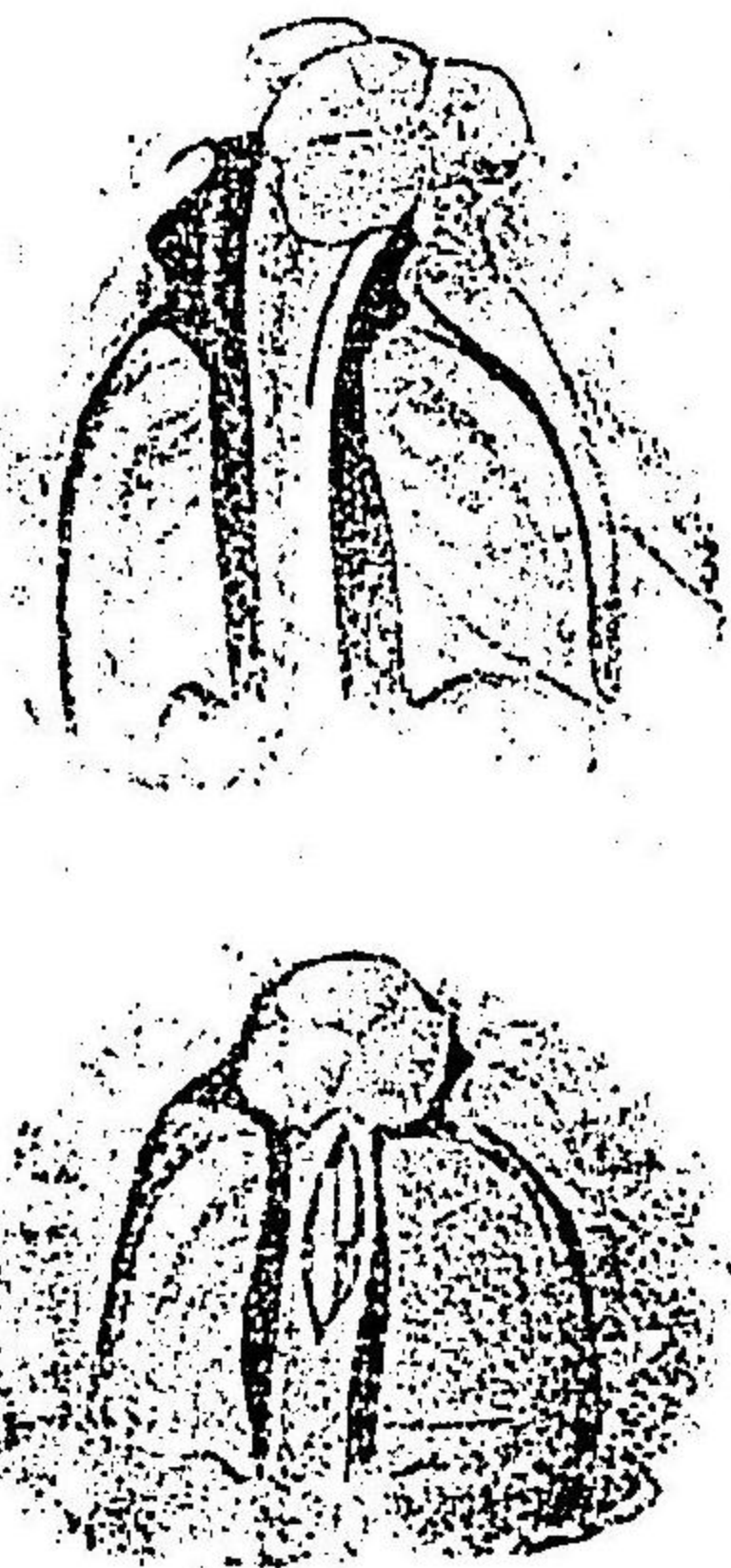
式ノドゲーハ 圖五十七第
(氏ンマヒルベ)

ルニア帯ノ如キモノヲ用ヒ或ハ壓迫綑帶ノ一種ヲ用ユルガ如シ効果確實ナラズ
稱用スベキ方法ニアラザルナリ

二外科的壓退法 前突セル顎間骨ヲ強制的ニ後退セシムル方法ナリ法式數種
アリゲンソール *Genoul* ハ顎間骨ヲ鋤骨ヨリ切離シテ之ヲ後退セシメブランダン
Blainin ハ顎間骨ノ直後ニ於テ鼻中隔ヨリ楔狀小片ヲ缺去シテ之レヲ後退セシメ
タリ後者ハ鼻口蓋動脈ヲ毀傷シテ制止シ難キ出血ヲ招來スルノ危険アリ

バルデレーマン *Bardleben* ノ骨膜下切離法ハ蓋シ此種ノ術式中ノ白眉ナルモノ
ト稱スベシ此法ニヨルトキハ出血ヲ生起スルコトナクシテ而カモ効果ノ確實ナ

ルモノアリ(第七十六圖)之レヲ
行フニハ先ヅ顎間骨ノ直後ヨ
リ正中線ニ沿フテ數仙迷ノ切
開ヲ行ヒ細小ナル骨膜起子ヲ
以テ軟組織ヲ鋤骨ノ左右ニ剝
離シ骨缺ヲ以テ骨質ヲ鉛直ニ



圖六十七第
術手氏ンペーレテルバ
(氏ンマヒルベ)

一乃至二仙迷切離シ最後ニ顎間骨ヲ強ク後退セシムルニアリ

三、顎間骨ノ切除 突出セル顎間骨ヲ切除スルハ極メテ簡單ナリト雖モ之レヲ
行フキハ危険ナル出血ヲ生ジ加之其附近ニ於ケル顎骨ノ發育完全ナラズ從テ對
顎ノ齒穹トヨク相調節シテ口腔ノ機能ヲ營爲スルヲ能ハサルベシトハ一般ニ扼
憂スル處ナリ然レモ一方ニ於テ切除術以外ノ方法ニヨリ保存サレタル顎間骨ヲ
見ルニ其新位置ニ於テ固定シテ完全ナル機能ヲ營爲シ得ルモノ極メテ多カラズ
更ニ翻テ他方ニ於テ顎間骨ヲ切除セシモノヲ見ルニ其機能障害敢テ大ナルモノ
アルナク義齒ニヨリテ齒槽突起ノ缺損ヲ補綴スルルハ其効果移動性顎間骨ノ存
在ニ勝ルテ少ナカラズ此ニ於テ近來顎間骨ノ切除ヲナスモノ多シ

後療法

兔唇手術ハ如何ナル法式ヲ撰ミタリトスルモ其後處置ニ於テハ一
 ナリ即チ創面ニハ上ヨリ一二層ノ「ガーゼ」小片ヲ當テ其上ヨリ數
 條ノ長キ絆創膏ヲ一側ノ頰ヨリ他側ノ頰ニ緊張シテ貼付スベシ。繃帶ハ通例必要
 ナラズ但シ小兒ガ指ヲ以テ觸レザル様注意スベシ。兩膊ヲ軀幹ニ縛シ或ハ手端ヲ
 繃帶ニテ纏絡シ置クモヨシ。創面ハ斷エズ注目シテ毎日或ハ用ニ臨ミ一日數回汚
 レタル「ガーゼ」ヲ交換スベシ縫合糸ハ四日乃至一週間後ニ徐々ニ之レヲ除ク

患兒ノ營養ヲ沈衰セシメサル様最大ナル注意ヲ要ス。乳房ヨリ之レヲ哺育スル
 ハ不佳ナリ口唇ヲ緊張シ癒合ヲ危カラシム。常ニ匙子或ハ長キ軟キ護頭ヲ有ス
 ル哺乳器ヲ以テ養フ可シ。鼻呼吸ノ妨ケラレサル様鼻孔ニ細小ナル護膜管ヲ挿入
 シ置クモ佳ナリ

啼泣其他口唇ヲ緊張スル運動ハ數日間之レヲ嚴禁スルヲ要ス。其他血液ノ嚙下
 ニヨリテ胃腸障害ヲ生ジ其吸入ニヨリテ呼吸器ノ障害ヲ生起スルヲアレバ之レ
 ニ向テ多大ノ注意ヲ要ス

豫後

手術ノ豫後ハ施術ノ巧拙ト患兒ノ體質トニヨリテ同ジカラザレモ概ス
 ルニ創面ハ四日乃至一週間ニシテ第一期癒合ニヨリ治療スルヲ常ナリ

然レモ若シ第一回ノ施術失敗ニ歸シ化膿其他ノ事故ニヨリ創面離開シタル片ハ
 六乃至八週以後其癒痕組織ガ充分柔軟可撓性ヲ帶ブルニ至リテ再施術ヲナスベ
 シ。其他第一回ノ手術ニヨリ治療シタル創面ガ口唇縁ニ截痕ヲ形成シテ尙少許ノ
 醜貌ヲ遺スヲアリ數年ヲ經過シタルノ後殊ニ春期發動期ノ前ニ方リテ夫ノラン
 ゲンベック式等ニヨリ之ガ調整ヲ企ツルモ亦佳ナリ。兔唇手術ハ極メテ危険ナルモ
 ノニアラサレモ其後療法ノ適否ニヨリテ種々ナル不良結果ヲ生スルヲアルベシ
 手術後二週間内ニアリテハ五乃至九% (フリッツチ、ミユルレル等) 三週乃至三ヶ月間
 ニアリテハ十三乃至十四% (フリーレンバツハ、ミユルレル等) 術後一年間ニハ三十八乃
 至四十一% (ヘルマン、トレンテンブルヒ) ノ死亡率ヲ示スト云フ

第四章 唇頰後天性缺損

後天性缺損

Acquired Defects
 Irregular Defects

唇頰ニ後天性缺損ヲ生ズル原因トナルモノハ他
 部ニ於ケルガ如ク外傷ニヨルヲ素ヨリナキニア
 ラズ。然レモ此部ニハ銃創以外ノ創痕ニヨリテ之ヲ生ズルヲ寧ロ少ナク從テ戰士
 及自殺企圖者ニ之ヲ見ルヲ多シ。或ハ唇頰ノ實質中ニ穿孔ヲ生ジ或ハ同時ニ口腔

内部又ハ顎骨ニモ毀傷ヲ致スモノトス、火傷及腐蝕毒ニヨルコト又時々之レアリ、唇頰ニ最著大ノ缺損ヲ生起スルハ水瘡ナリ、永痛ハ口角ヲ僅ニ後方ニ去ル處ノ頰實質ニ初マリ急劇ニ其周圍ニ蔓延シテ完全ナル壞疽ヲ起シ幸ニ患兒ヲシテ致死セシムルニ至ラザルハ壞疽分離機能ニヨリ健康組織ヨリ分離シ頰ノ穿孔ヲ殘スカ或ハ口裂ト連續スル處ノ大破裂ヲ生起スルモノトス、其他脾脫疽、丹毒、馬疽等ニヨリ唇頰ノ缺損ヲ生ズルコトアレモ極メテ稀ナリ、狼瘡及梅毒亦然リ、痛腫ハ唇殊ニ下唇ニ來リテ著シキ組織破壞ヲナスガ故ニ之ヲ手術スルヤ其後ニ必ラズ顯著ナル缺損ヲ遺シ成形ヲ要セシムルコト常ナリ

凡ソ此等ノ唇頰缺損ハ其程度、形態及部位ニ應ジテ外貌ヲ醜惡ナラシメ且口腔ノ機能ヲ障害スルヲ以テ適當ノ成形術ヲ加フルヲ必要トスルコト多シ、蒸和護謨又ハ「セルロイド」等ヲ以テ補綴器ヲ作爲シ器械的ニ之ヲ補綴スル方法アレモ可及的唇頰成形術ニヨリ外科的ニ之ヲ成形スルヲ宜シトス、之ニ適スル成形術數多アリ左ノ如シ、症ニ應ジテ便宜此中ヨリ選擇スルモノトス

第一項 下唇成形術

Cheiloplasty of Lower Lips
Cheloplastik der unteren Lippe

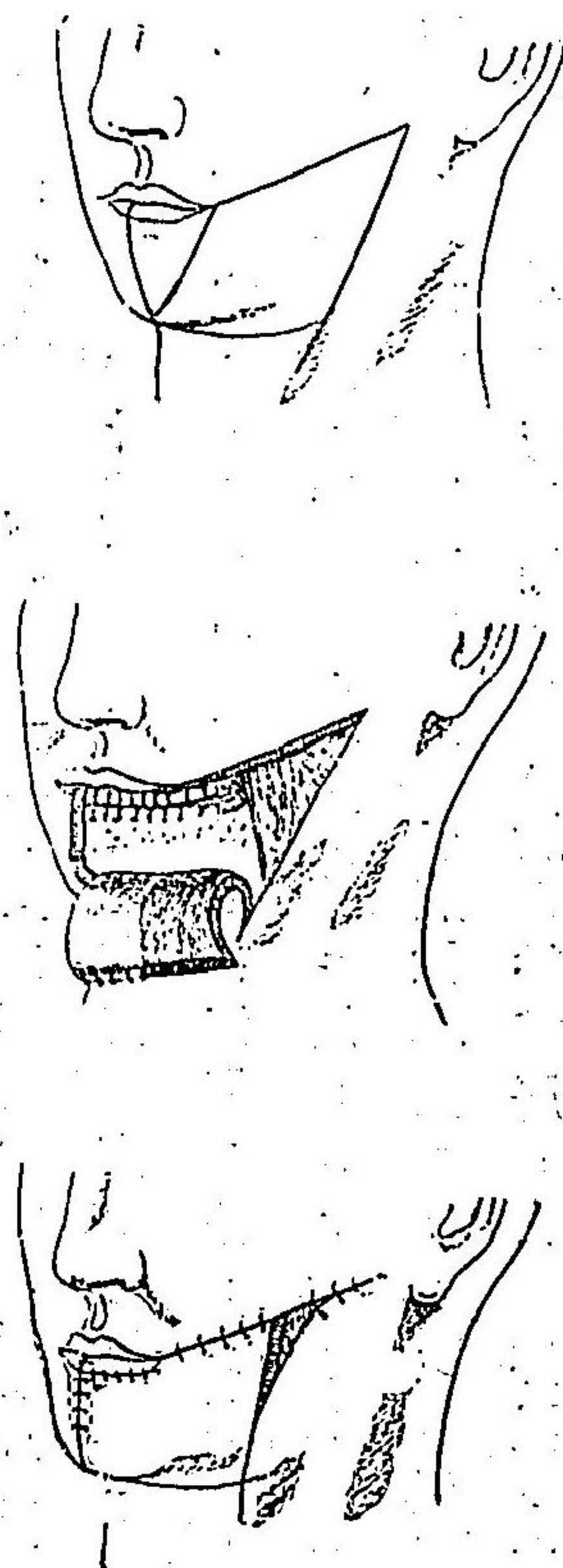
造唇術ハ下唇ニ於テ迥ニ大ナル適應ヲ見ル之レ下唇ハ惡性

腫瘍其他缺損又ハ畸形ヲ生起スベキ原因ニ遭遇シ易ク加フルニ其著大ナル變形ヲ致スヲ以テナリ、出血極メテ大ナラズ兩側ニ於テ冠狀動脈ヲ指壓又ハ鑷取シ置ケバ殆ド全ク之レヲ防止シ得ベシ、麻醉ハ古加乙涅注射或ハ嚙囉仿謨半麻醉ニテ足ルベシ、下唇成形術ハ其狀態ト部位トニヨリテ左法ノ一ヲ任意適用ス

一、**コニーニヒ式** 唇赤ニ於ケル小ナル淺在性腫瘍ハ横ニ弓形乃至楔狀切開ヲナシテ之レヲ切除シ直ニ創面ヲ縫合シ得ベシト雖モ稍大ナル腫瘍ハ必ラズ之レヲ縦徑ニ施コシタル楔狀切開ニヨリテ摘出シ直ニ創面ヲ縫合スルヲ要ス

二、**セーレ式** *Serre* 縦徑ニ楔狀切開ヲ施コシテ腫瘍ヲ摘出シタルノ後兩側口角ヨリ側方地平ノ方向ニ小切離ヲ施コスギハ頗ル大ナル減張ヲ得ベシ

三、**チップエンバハ式** 下唇ノ大部ヲ方形乃至心臟形ニ切除シタルノ後口角ヨリ兩側ニ於テ横ニ耳軟骨前方一指横徑ノ處迄皮膚切開ヲ施コシ咬筋ノ表面ニ於テハ其筋膜迄、其前方ニアリテハ粘膜炎下組織迄層ヲ追フテ組織ヲ切離シ更ニ第一切開ノ外端ヨリ缺損縁ニ併行シテ顎下部ニ達スルノ皮切ヲ施コシ筋膜ニ至ルマデ之レヲ切離シ其際唾液排泄管ヲ避ケ癌性傳染ヲ受ケタル淋巴腺アレバ之レヲ摘出スベシ、之ニ於テ咬筋前縁ノ部ニ於テ粘膜炎ニ刀ヲ穿通シ之レヲ眞直ニ下方ニ切

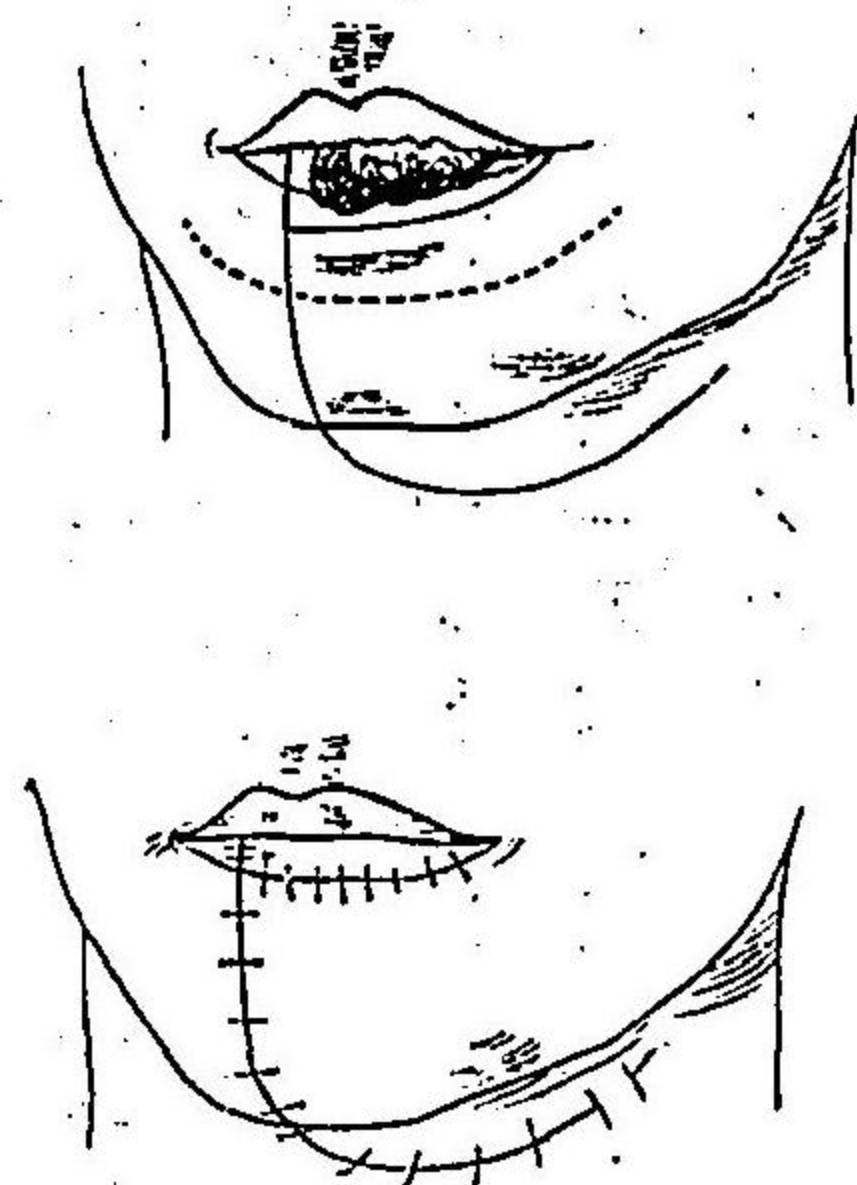


第七十七圖
下唇形成術
(式ハッパンエフイヂ)

離シテ齒齦移行部ニ達ス茲ニ生ジタル方形瓣ヲ内方ニ持來シテ對側ノモノト中線ニ於テ先ツ縫合シ次テ粘膜縁ト皮膚縁トヲ縫合シ最後ニ瓣ノ移動ニ由リテ生ジタル缺損兩縁ヲ縫合スルニアリ

エッセン *Jaesche* ハ此式ヲ改良シテ粘膜直下

迄擴大切開ヲ施コシタルノ後粘膜ヲ上方ニ少シク切離シ之レヲ瓣狀ニ附着シテ保存シ瓣全體ヲ内方ニ移動シ中線ニ於テ對側ニ縫合シタル後粘膜瓣ヲ外方ニ翻轉シテ皮膚縁ト縫合シ唇赤ヲ作爲シタリ



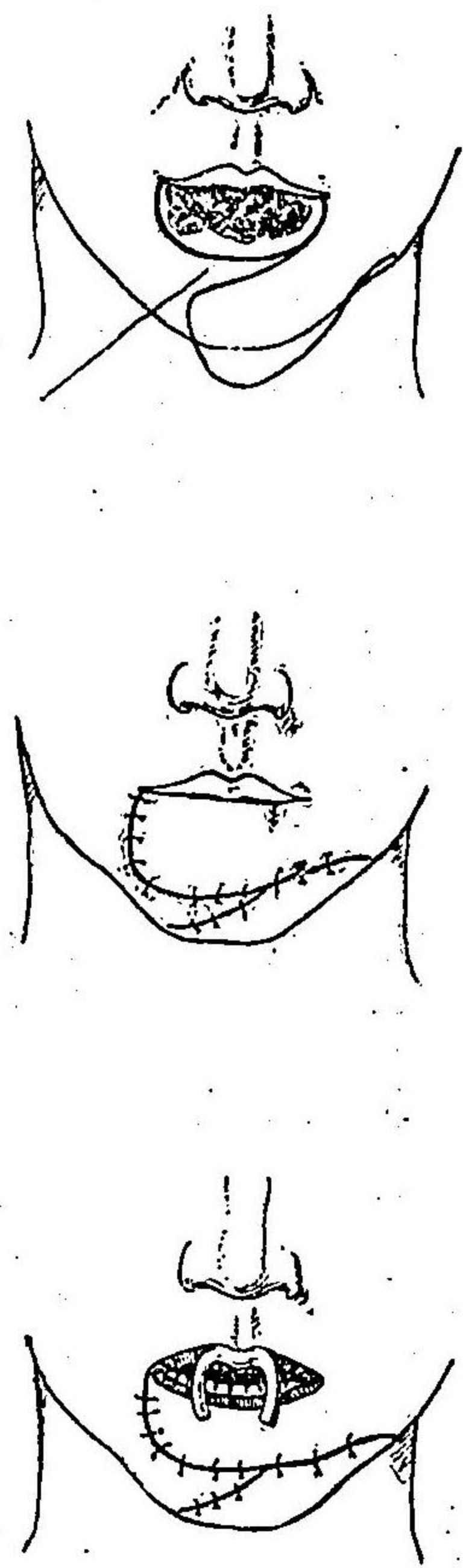
第七十八圖
下唇形成術
(式ルゼキレ)

四レキゼル式 *Lezer*

ハ齒齦移行部ト缺損トノ間ニ粘膜ノ一狹帶ヲ保存シ得ル場合ニハ頰部顎下部ニ跨ル處ノ不正長方形瓣ヲ作り且移行部ノ處ニ於テ粘膜面ニ切離ヲ加ヘ之レヲ全體ニ上方ニ移動シテ先ツ對側ト縫合シ更ニ口唇部ニ於テ粘膜縁ト皮膚縁トヲ縫合スルニアリ

五ランゲンベック式

頰部ヨリ長橢圓形ノ皮膚骨膜瓣ヲ採リ之レヲ上方ニ廻轉シテ縫合スルノ方法ナリ而シテ反對側ノ下方ニ生ジタル舌狀瓣ハ以テ頰部ノ缺損ヲ補フニ供スベシ



第七十九圖
下唇形成術
(式クッペンゲンラ)

上唇部ヨリ、瓣ヲ採取スル、ハ時トシテ必要ナリ即下唇ノ附近頰、頰下部等ニ之レヲ求ムル能ハザルキノ如シ左法ハ之レニ適ス

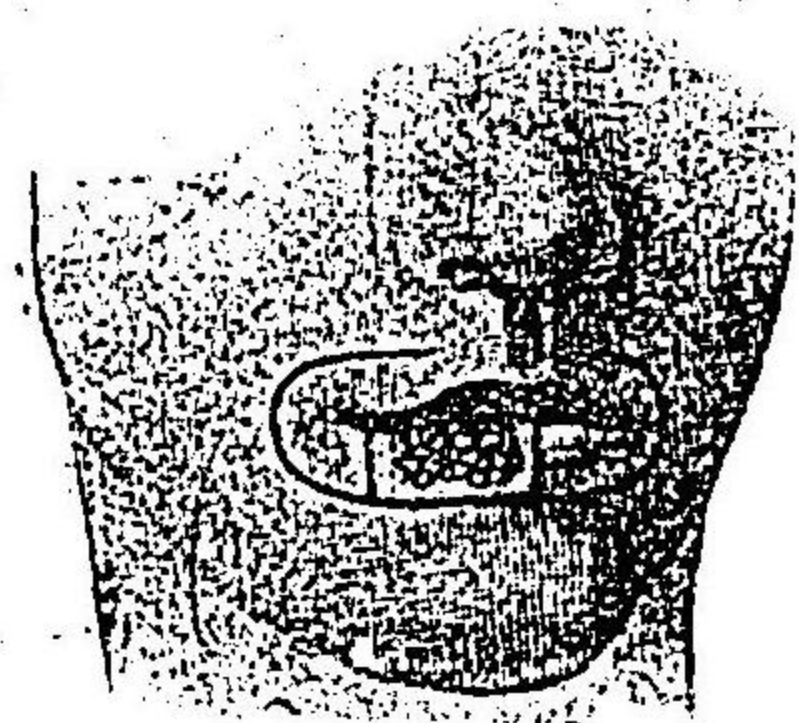
六、ランゲンベック式 唇縁ニ併行シテ腫瘍ヲ方形ニ切除シ次テ下唇及上唇ノ一部ヲ遊離線ト併行ニ切離シ緊縮シテ先ツ缺損部ヲ縫合シ後切離創ヲ全ク縫合スルニヨリテ終ル

七、ブルンス式 *Brunns* 頬實質全層ヲ通シテ口角ヨリ鼻翼ニ達シ營養橋ヲ頰側ニ有スル長方形ノ瓣ヲ兩側ヨリ採リ之ヲ廻轉シテ下唇部ニ持來シ中央及下縁ニ沿フテ縫合スル方法ナリ

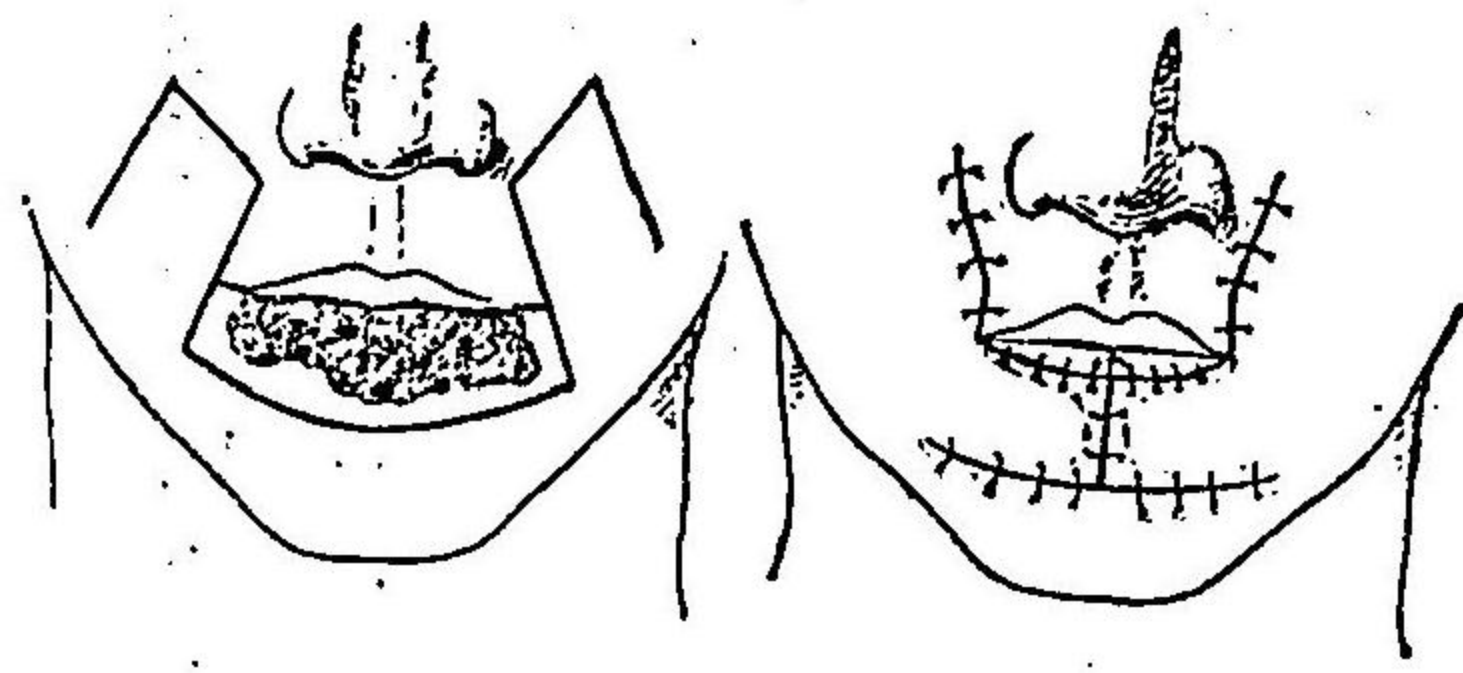
八、エストランドル式 *Estlander* 基底且營養橋ヲ唇縁ニ有スル三角形瓣ヲ上唇ヨリ採リ全ク翻轉シテ下唇ニ持來ス

唇赤成形 唇赤ヲ有セザル瓣ヲ以テ補充シタルキハ其外觀ヲ改善スルタメ唇赤ヲ形成スルノ必要ナリ左法ハ之レニ適ス

九、ランゲンベック式 上唇兩側ヨリ唇赤部ヲ剝離



術形成唇下 圖十八第 (式クッペンゲンラ)



術形成唇下 圖一十八第 (氏スンルブ)

シ之レヲ下唇ニ向ケテ牽引シ適當ノ部位ニ縫合補綴ス

十、シルテシ式 *Schultzen* 口角ニ營養橋ヲ有スル一乃至一・五仙迷廣ノ粘膜筋肉瓣ヲ粘膜面ニ於テ作爲シ之レヲ下方ニ回轉シテ唇縁ニ縫合スルニアリ

第二項 上唇成形術

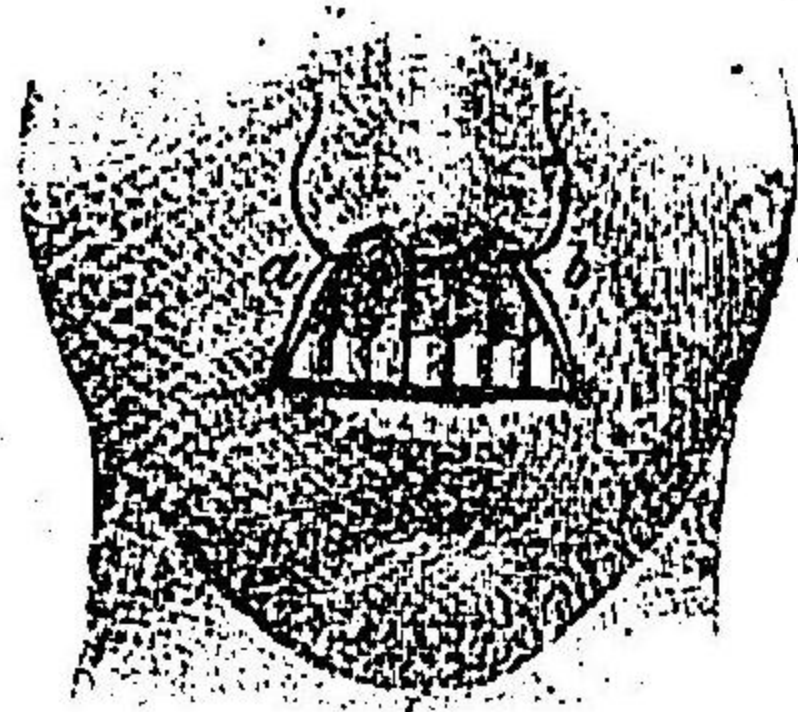
Cheiloplasty of Upper Lips

上唇ニ於テ造唇術ノ要ヲ生ズルコトハ比較的稀有ナリ之レヲ施コ

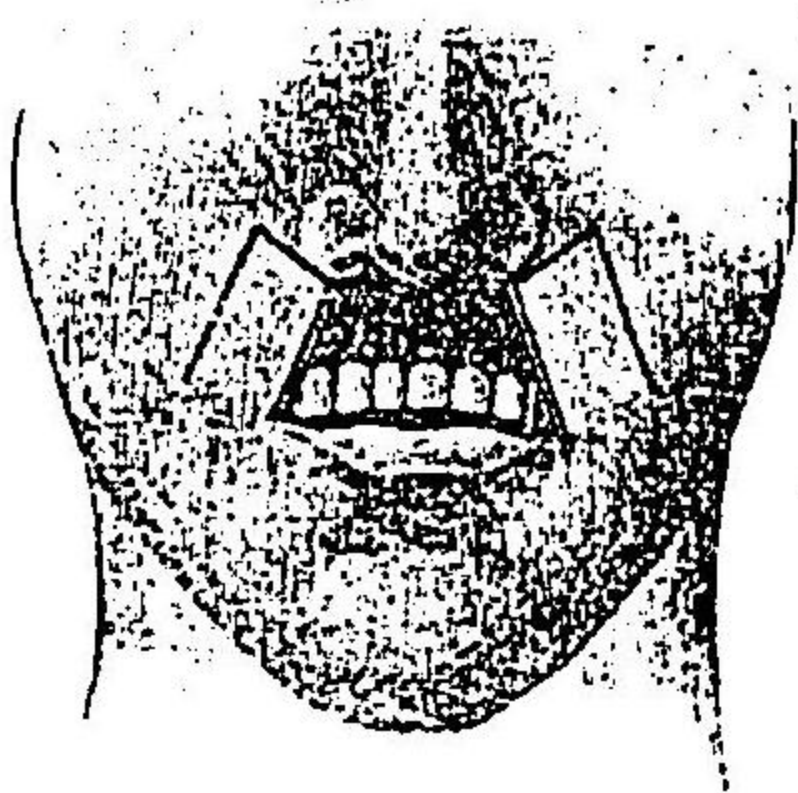
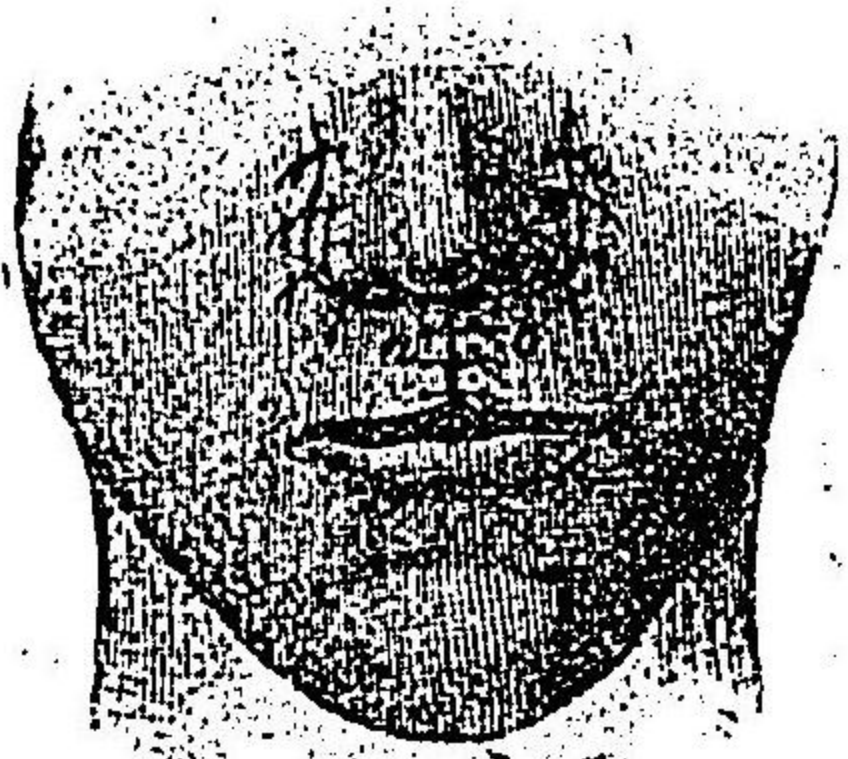
スニハ下唇ト同一方法ニ依ルヲ得

一、デップエンバツハ式 一側或ハ兩側ノ鼻翼ニ沿フテ波狀切開ヲ施コシ缺損兩側縁ノ緊張ヲ充分ニ減却シタル後中線ニ持來シテ縫合ス

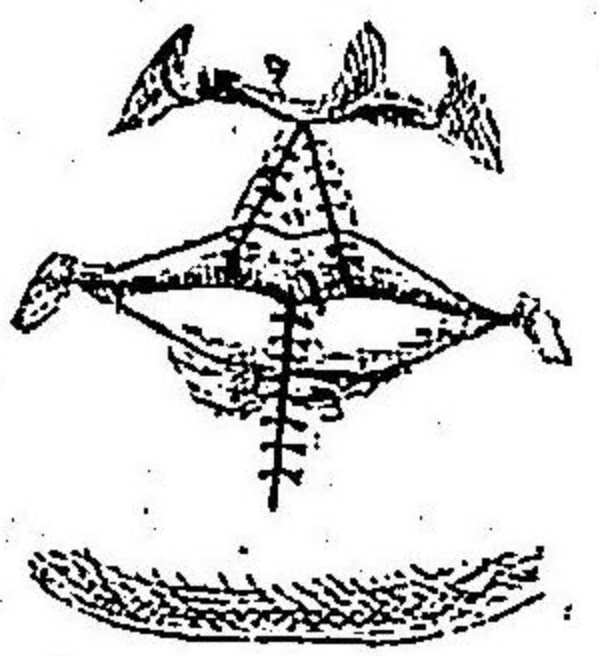
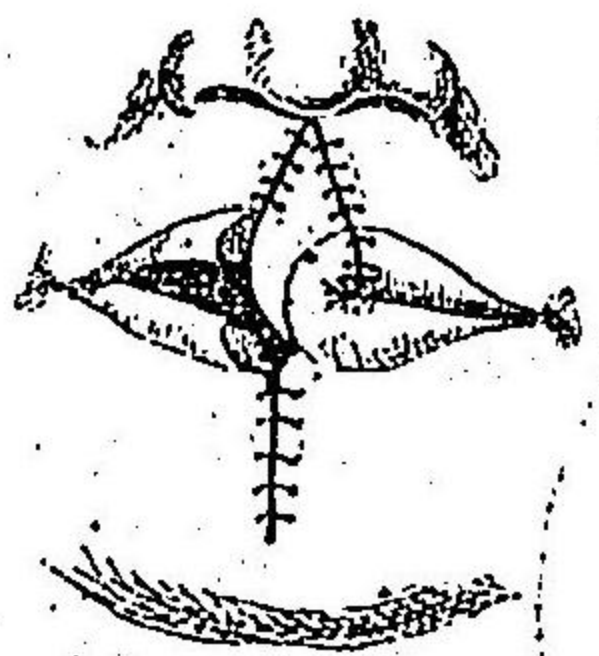
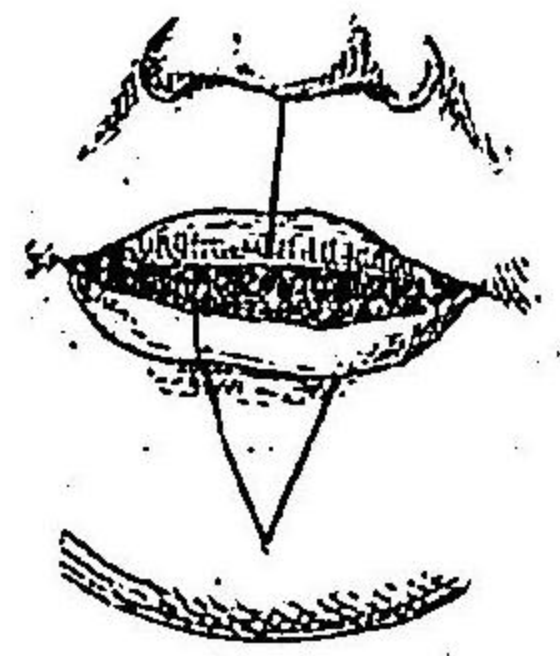
二、ブルンス式 營養橋ヲ口角ニ有シ上方鼻翼ニ達スル長方形瓣ヲ兩側頰部ヨ



術形成唇上 圖二十八第 (式ハツパンエフツガ)



術形成唇上 圖三十八第 (式スンルブ)



術唇造 圖四十八第
(式ルデンラトスエ)

リ採リ之レヲ廻轉シテ上唇部ニ持來シ中線及ビ周縁ヲ縫合ス

三、セデロー式 營養橋ヲ口角ニ有シ下方頰頤ニ亘リテ軟部全層ヲ穿通スル長方形瓣ヲ作り之ヲ上方ニ廻轉シテ上唇部ニ縫合固定ス

四、エストランドル式 唇縁ニ營養橋ヲ有スル三角形瓣ヲ下唇ヨリ取り之レヲ百八十度廻轉シテ上唇缺損部ニ適合縫合シ五乃至七日ヲ經過シタルノ後營養橋ヲ切離シテ唇赤ヲ適當ニ成形スルニアリ

第三項 造口術

Stomatoplasty
Stomatoplastik

造口術ハ口裂附近ニ於ケル癩痕收縮或ハ口裂形手術ニシテ外傷殊ニ火傷外科手術、結核微毒等ニ適應スルコト多シ口唇外翻症手術及口裂狹窄症手術之レニ屬ス

口唇外翻症手術ハ恰モ夫ノ眼瞼外翻症手術ト同

方法ニシテ僅微ナル癩痕ノ存在ニ歸因スルモノハ之レヲ楔狀ニ切除スレバ佳ナリト雖モ稍高度ノ外翻症ハ唇縁ヲ去ル少許ノ處ニV字形切離ヲ施コシ其中央組織ヲ少シク剝離シテ上方ニ轉位シY字形ニ縫合スルヲ便トス(ザッフェンバツハ式)更ニ高度ノモノ

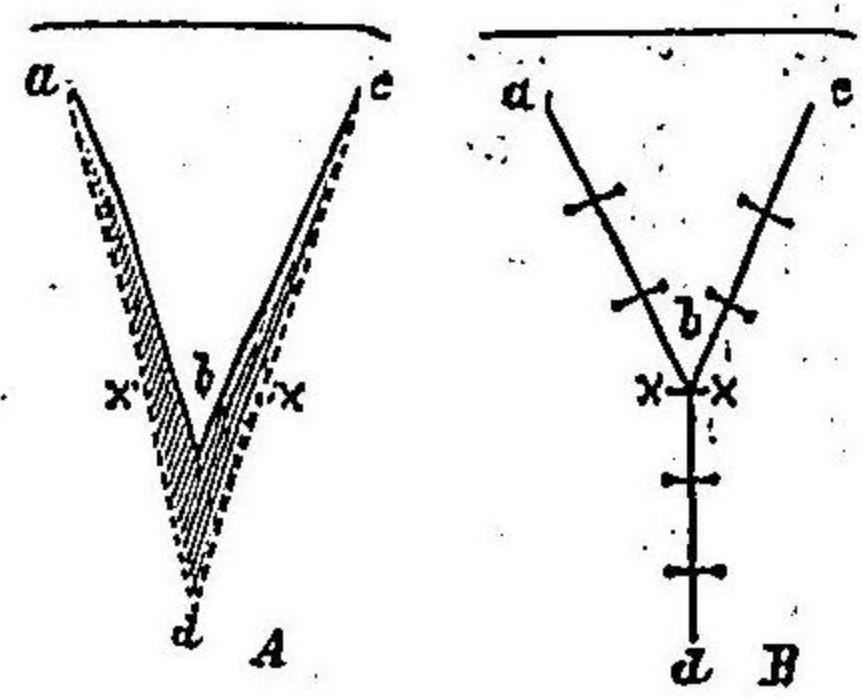


圖 五 十 八 第
術手症翻外唇口
(氏スンマルチ)

ニアリテハ殘存セル唇赤ヲ剝離シ其附近ニ存スル癩痕組織ヲ悉ク切除シ頸頰其他ヨリ皮膚ヲ採リテ植皮術ヲ施コスヲ要ス

口唇狹窄症手術トシテ行ハル、モノ種々アリ其重ナルモノ左ノ如シ

一、ヂッフェンバツハ式 狹窄セル口角ヨリ側方ニ於テ任意ノ廣サ丈ケ皮膚、脂肪、筋肉癩痕等ヲ悉ク除去シテ粘膜ノミヲ保存シ次デ粘膜ヲ中央ニ於テ切離シ翻轉シテ上下ノ外創縁ニ適合シテ縫合ス

二、ランゲンベック式 狹窄セル口角ヨリ組織ノ全層ヲ通シテ側方ニ切開シ次テ粘膜縁ヲ剝離シテ移動スル様ニナシ是レヲ外翻シテ各別ニ相對合スル皮膚縁ト縫合スルニアリ

三、ザエルボー式 Zupfenpann 式ノ如ク口角部ニ組織ノ切除ヲ行ヒ次テ粘膜面ニ Y 字形切離ヲ施コシ兩側縁ヲ上下ノ皮膚縁ト縫合シ其三角形突起ヲ以テ口角部ヲ被ヒテ縫合スルニアリ

四、ヒューテルハ如何ナル方法ニヨリテ成形セラレタル口裂モ時日ヲ經過スルニ從ヒ漸ク收縮シテ再ヒ狹窄スル傾向アルモノナリトナシ之レヲ防ガンガタメ術後數週間口裂ニ適合スル護謨輪ヲ作り之レヲ後方ニ延長セル突起ニヨリテ上下ノ兩齒間ニ維持セシムルノ必要ナルヲ述ベタリ

第四項 造頰術

Meloplasty
Meloplastik

火傷其他癩痕形成、水瘡、癰腫等ニ對シテ使用セラ
ル、ト最多シ要スルニ頰部ノ組織ハ延長性ヲ有
スルガ故ニ少許ノ實質缺損ニアリテハ創縁ヲ牽引スレハ容易ニ適合シ得ラルベ
シ

少量ノ癩痕組織ノ收縮ニヨリテ生ジタル畸形例之頰瘻治療後等ニアリテハ弓
狀切開ニヨリテ其ノ癩痕ヲ切除シ直ニ新創縁ヲ縫合スレハ足レリ然レモ若シ其
緊張極メテ大ナルキハ創縁ヲ去ル少許ノ處ニ於テ之レト併行シテ減張切開ヲ施
コスベシ、缺損單ニ皮膚ニノミ限局セラル、キハ附近組織殊ニ前頭、額、頰部等ヨ

リ適當ナル形狀ノ有莖皮瓣ヲ採リテ縫合スベシ、稀ニ上膊ヨリ之レヲ採ル頰部ノ
皮膚ハ縮性大ナルヲ以テ可及的是レヲ避クベシ、頰全層ヲ通シテ實質缺損ノ存
スルモノニ向テ諸氏ノ行ヒタル方法數多アリ

一、グッセンバウエル Gussenbauer (一八七七年) ハ兩側ノ頰前方ニ於テ基底ヲ後方ニ
向ケタル數仙迷廣ノ長方形瓣ヲ作り之レヲ咀嚼筋前縁ニ至ル迄完全ニ剝離シ下
在癩痕組織ヲ悉ク咀嚼筋部迄切除シ次テ内翻シテ其内縁ヲ咀嚼筋直後ノ粘膜縁
ニ縫合シタリ而シテ數週間ヲ經過シタルノ後其相癒合シタルヲ計リ瓣ヲ基底ニ
於テ切離シ之レヲ翻轉シテ外皮ノ全然口腔ニ向ク様ニナシ其上下兩縁ヲ缺損縁
ト縫合ス外面ニ向ツテ生ジタル創面ハ植皮術ニヨリ或ハ附近ヨリ得タル有莖皮
ニヨリテ被覆治療セシムルヲ通法ノ如クナス

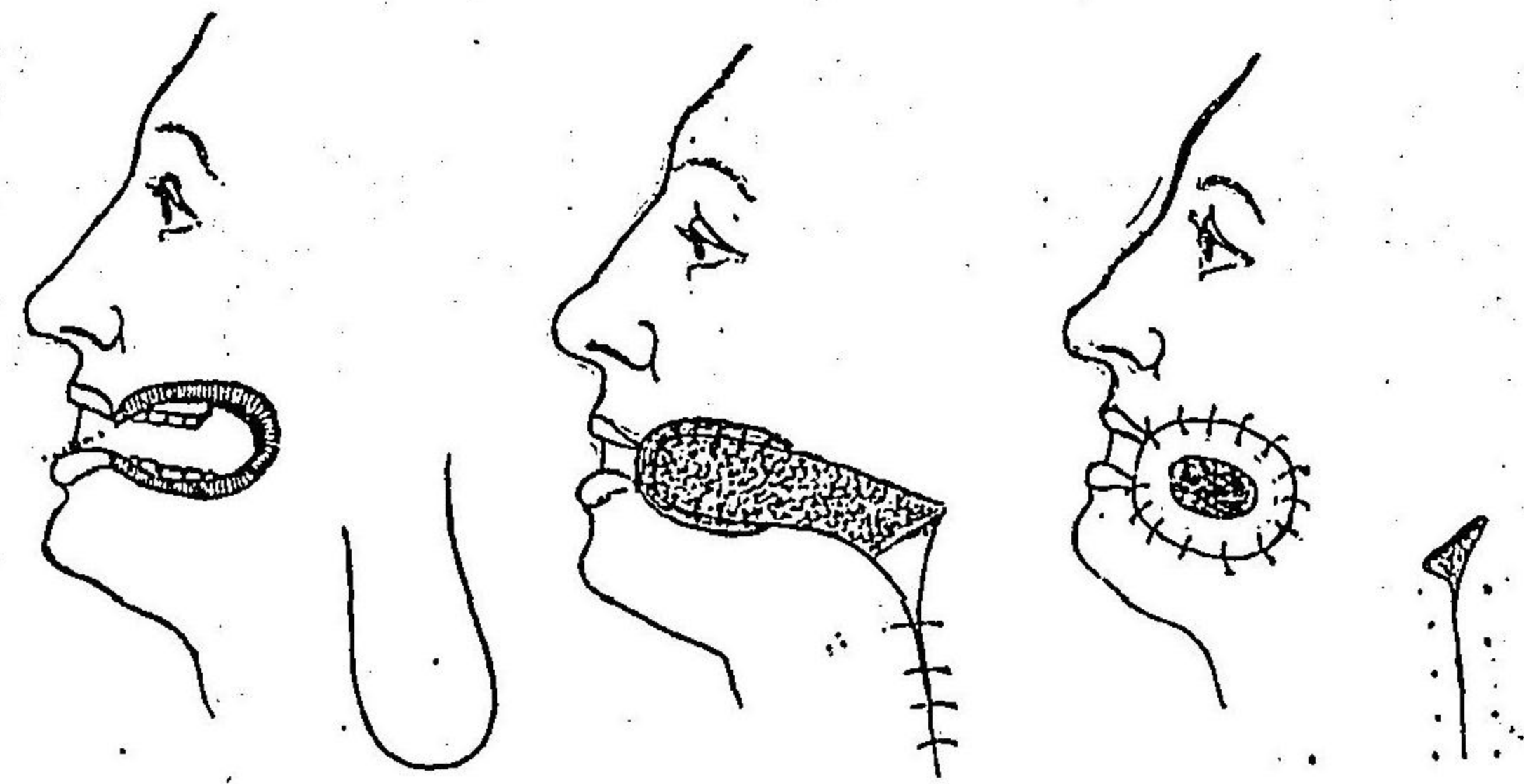
二、イスラエル Israel ハ下顎隅角部ニ基底ヲ有シ側頸部及鎖骨上部ニ亘ル處ノ
長大ナル皮瓣ヲ作り之レヲ翻轉シテ皮膚面ヲ口腔ニ向ケテ缺損部ニ適合シ其尖
端ヲ缺損部粘膜面ノ上下二縁ト縫合ス、次テ數週日ヲ經過シタルノ後皮瓣ノ莖部
ヲ切離シ其後部ヲ翻轉シテ外皮ヲ前部ニ向ケ先キニ缺損部ニ縫合シ置キタル皮
瓣前部ノ上ニ重テ上下兩縁ヲ缺損部皮膚縁ト互ニ相縫合ス而シテ最後ノ手術ニ

ヨリ皮瓣ノ後縁ト相對スル缺損縁ニ作創シ之
レヲ縫合シタリ但シ口唇縁ニハ隨時造唇術ヲ
施コス

三ツルニー *Carmy* ハ殆ト頰骨弓ノ全長ヲ基
底トシテ其中ニ潤頸筋ヲ含有スル處ノ長大ナ
ル頰頸皮瓣ヲ作り之レヲ回轉シテ缺損部ニ適
合シ其前半ハ之レヲ内方ニ翻轉シテ周縁ヲ缺
損ノ粘膜縁ト縫合シ瓣ノ後半ノ周縁ハ之レヲ
缺損部ノ皮膚縁ト縫合シタリ

四、ゲルスニー *Gersuny* ハ缺損縁ヲ去ル少許
ノ處ニ於テ周匝的ニ皮膚及皮下組織ニ切離ヲ
加ヘ之レヲ缺損縁ニ向ツテ剝離シ僅ニ皮下結
締織ヲ柄莖トシテ殘シ凡テノ剝離組織ヲ缺損
面ニ翻轉シテ縫合シタリ

五、クラスク *Krasko* ハ缺損部ニ相連續セル組織ヨリ適當大ノ皮瓣ヲ採リ缺損縁



第 八 十 六 圖 造 頰 術 (イ ブ ラ エ ル 式)

ト相境スル粘膜及粘膜下組織ノ柄莖ヲ
樞軸トシテ皮瓣ヲ翻轉シ外皮ヲ口腔内
ニ向ケテ適合シ其周縁ヲ互ニ縫合シタ
リ此ニ生スル外方創面ハチール植皮
術ニヨリ之ヲ補充スルヲ得ベシ

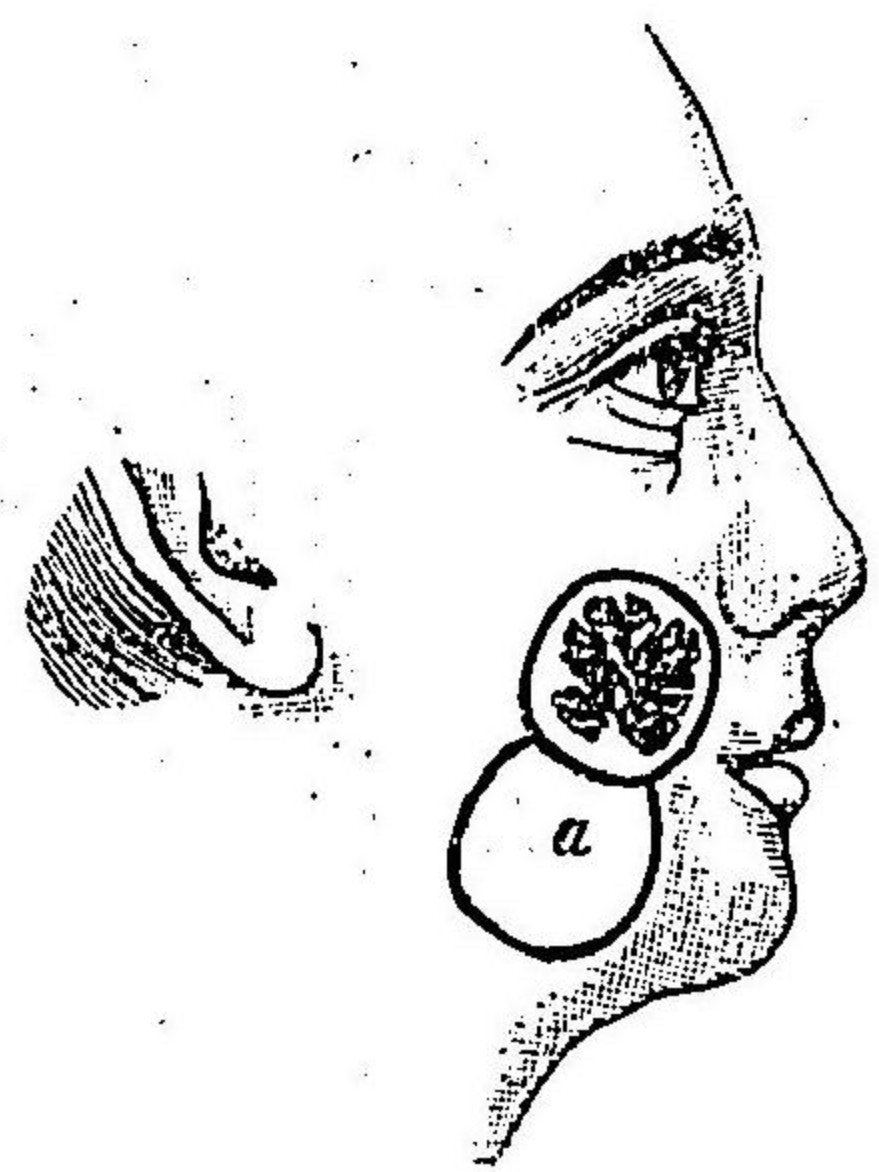
第五章 口蓋破裂

口蓋破裂

Cleft Palate
Gammenspalte

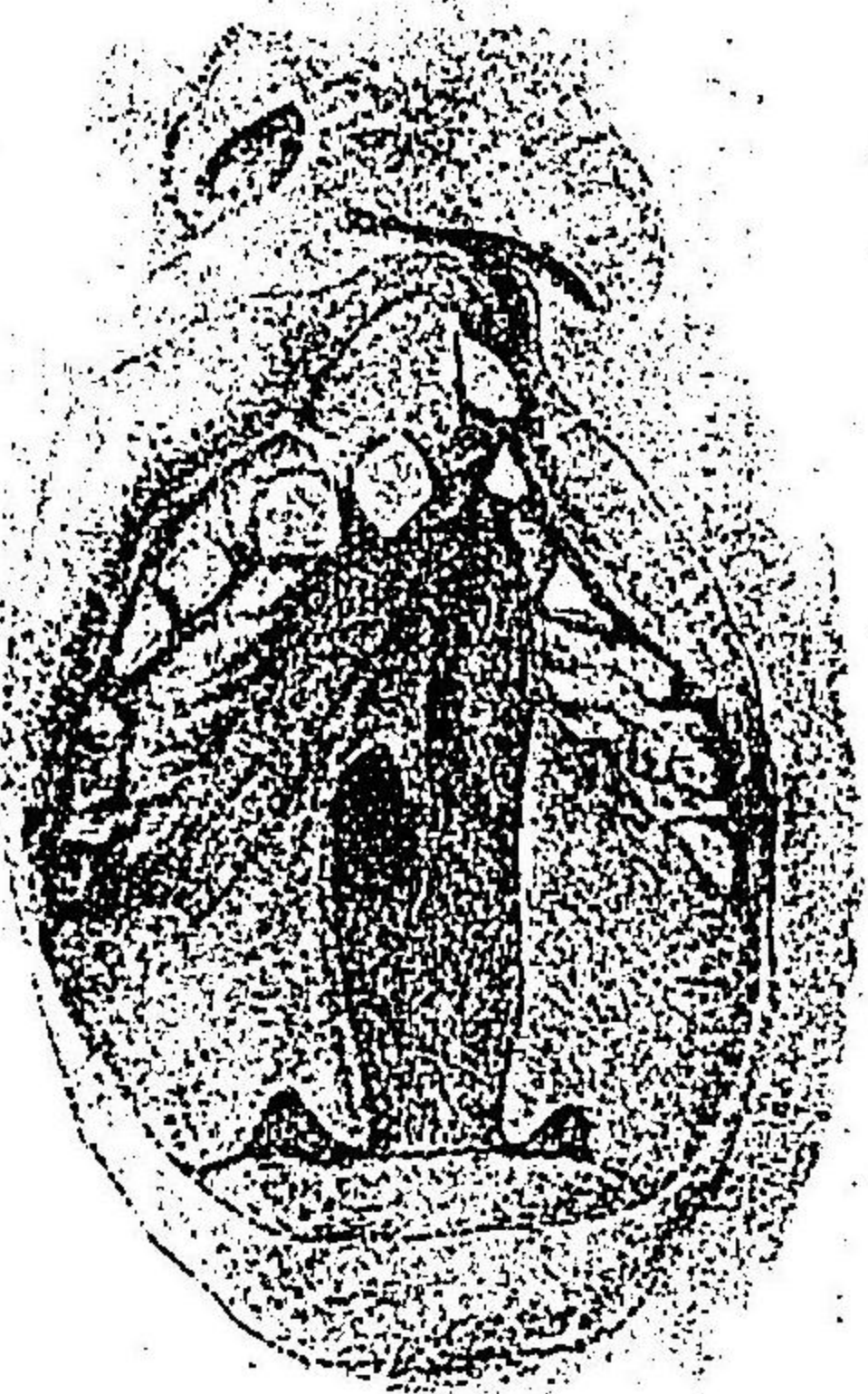
ハ口蓋突起ト顎間骨或ハ對側ノ口蓋突起トノ融合不全
ニ基因ス、頰唇ノ破裂形成ト全然同一原因ニヨリテ來ル
從テ彼レト併發スルコト極メテ多シ或ハ後天性ニ口蓋破裂ヲ生ズルコトアリ微毒
結核、惡性腫瘍又ハ外傷ニ歸因ス、口蓋破裂ハ其形態ニヨリ完全ト不完全トニ區別
ス又偏側性ナルアリ兩側性ナルアリ

完全口蓋破裂トハ齒槽突起及ビ硬軟兩口蓋ヲ通ジテ全ク破裂セルモノニ又
狼咽 *Wolfrachen* ト稱ス多クハ兔唇ヲ伴フ其破裂線ハ齒槽突起及ビ硬口蓋ニアリ
テハ一側ニ偏スルト雖モ軟口蓋ニアリテハ殆ド常ニ其正中ヲ貫ク、狼咽ニアリテ



第 八 十 七 圖 造 頰 術 (ク ラ ス ク 式)

ハ其前方顎間骨ハ健側ノ顎骨ニ相連續シテ著シク前突スルコアリ鋤骨ハ多クハ健側ノ顎骨體ニ接續シ然ラザレバ粗糙縁ヲナシテ鼻腔ニ懸垂セリ又兩側性ニ來ルキハ多クハ兩側兔唇ヲ伴ヒ顎間骨ハ缺如シテ懸垂ニ達スル大破裂ヲ呈スベシ



第八十八圖 猴 (氏ンマヒルベ)

不全口蓋破裂ニ種々ノ形態アリ其破裂或ハ軟口蓋ニノミ限ラレ或ハ硬口蓋ニノミ限ラレ或ハ其兩者ノ一部ニ限ラレ多クハ一側性ナリ

軟口蓋破裂ハ懸垂中央ニ於ケル少許ノ凹陷ナルコアリ或ハ硬口蓋後縁ニ達スル完全ナル正中破裂ナルコアリ或ハ多少ノ硬口蓋破裂ヲ伴フコアリ硬口蓋破裂ハ單獨ニ發スルコアリト雖モ多クハ軟口蓋ニ於ケル破裂ト併發ス前者ハ通例穿孔トシテ説明セラル

害毒

口蓋破裂ハ其程度ニヨリテ同ジカラズト雖モ頗ル多大ノ害毒ヲ顯ハスモノニシテ其結果トシテ小兒ノ斃ル、モノ少ナカラズ殊ニ口唇ニ破裂ヲ有シタルトキハ其害毒一層大ナルヲ見ル其重大ナルモノ左ノ如シ

一、哺乳飲食ノ障害 破裂ノ存在スルヤ哺乳極メテ容易ナラズ攝取シタル乳汁ハ鼻腔ニ進入シテ孔外ニ逸出シ動モスレバ呼吸ノ際氣道ニ吸入セラレントス乳汁ハ匙子ヲ以テ口腔ノ後方ニ送り嚥下セシムルニアラザレバ完全ニ之ヲ取ラシムルコト難カルベシ故ニ初生兒ニアリテハ饑餓ノタメ著シク營養障害ヲ起シ其生命ヲ危フスルコト少ナカラズ

二、粘膜炎疾患ノ誘起 攝取セラレタル乳汁其他ノ飲食物ハ口腔又ハ鼻腔ニ蓄積シテ分解醱酵ヲ起シ加フルニ破裂ヲ通ジテ外氣ノ絶エズ侵入シテ粘膜炎ヲ乾固セシムルアリ其ガタメニ口蓋破裂ヲ有スルモノ殊ニ兔唇ヲ併發スルモノニ於テハ口腔、鼻腔又ハ咽喉部ニ加答兒性炎乃至潰瘍竈ヲ形成スルコト殆ド之ヲ見ザルナシ加フルニ其漸ク増悪スルヤ其病機擴布シテ胃腸ニ影響ヲ及ボシ或ハ呼吸器道ニ達シ以テ患兒ヲ斃スベキ腸胃加答兒肺炎等ヲ發スルコト決シテ少ナカラズ、而シテ之レ實ニ口蓋破裂ヲ有スル患兒ガ不良ノ豫後ヲ有スル所以ナリトス

三、發音障害 患兒幸ニシテ營養普通ナルヲ得テ漸ク生長スルヤ鼻腔トナス處ノ交通ハ發音ヲ満足ナラシムル能ハズ、完全破裂ノ如キニアリテハ殆ド全ク言語ヲ聽取セシムルヲ能ハザルベシ、殊ニ第三成音部ニ於テ生ズル處ノカ行、ガ行、ラ行並ニ凡テノ反響音マ行、ナ行、ニ大ナル鼻聲ヲ帶ハシムルヲ其特徴トナス

四、外容不良 外方ニ破裂ノ露出スルモノ、著シク鼻聲ヲ帶ビタル發音等一トシテ他人ニ不快ヲ與ヘザルモノナシ

療法

上記ノ如キ害毒ヲ有スルガ故ニ口蓋破裂ハ之ニ對シテ相當ノ處置ヲ施コスヲ要ス、其療法二種ヲ區別スベシ曰ク手術的、曰ク補綴的之レナリ、前者ハ彼ノ兔唇手術ニ於ケルガ如ク破裂線ニ作創シテ縫合セシムル方法ニシテ最理想的ナリ、曾テ一八六一年ランゲンベックガ動物及人體ニ於ケル實驗ノ結果一、手術ニ際シ骨膜ヲ廣ク骨面ヨリ剝離スルモ必ズシモ骨質ノ壞死ヲ生ズルモノニアラザルヲ一、二、此ノ如ク剝離シタル粘膜、骨膜層ヲ骨面ニ直ニ觸接セシメ置クトキハ骨膜ハヨク其生機ヲ維持シ再ビ骨質ト癒着ヲ生ズル者ナルヲ一、三、此粘膜、骨膜層ヲ附近ニ移植スルモ尙同成績ヲ得ラルベキヲ確メ得タルヨリ之ヲ行フモノ漸ク多キヲ加エタリ、然レモ破裂ノ過大ニシテ如何ニ減張スルモ完全ニ創面ヲ

適合スルノ目算ナキハ、或ハ微毒、結核等ニヨリ生ジタル破裂ニシテ其癒合疑ハシキハ、乃チ器械的ニ之レヲ補綴シテ可及的機能障害ノ些少ナル様處置スルヲ要ス、補綴的療法即之レナリ、現今ノ齒科醫術ハ之レニ向ツテ多大ノ光明ヲ與フルモノタリ

第六章 口蓋破裂手術

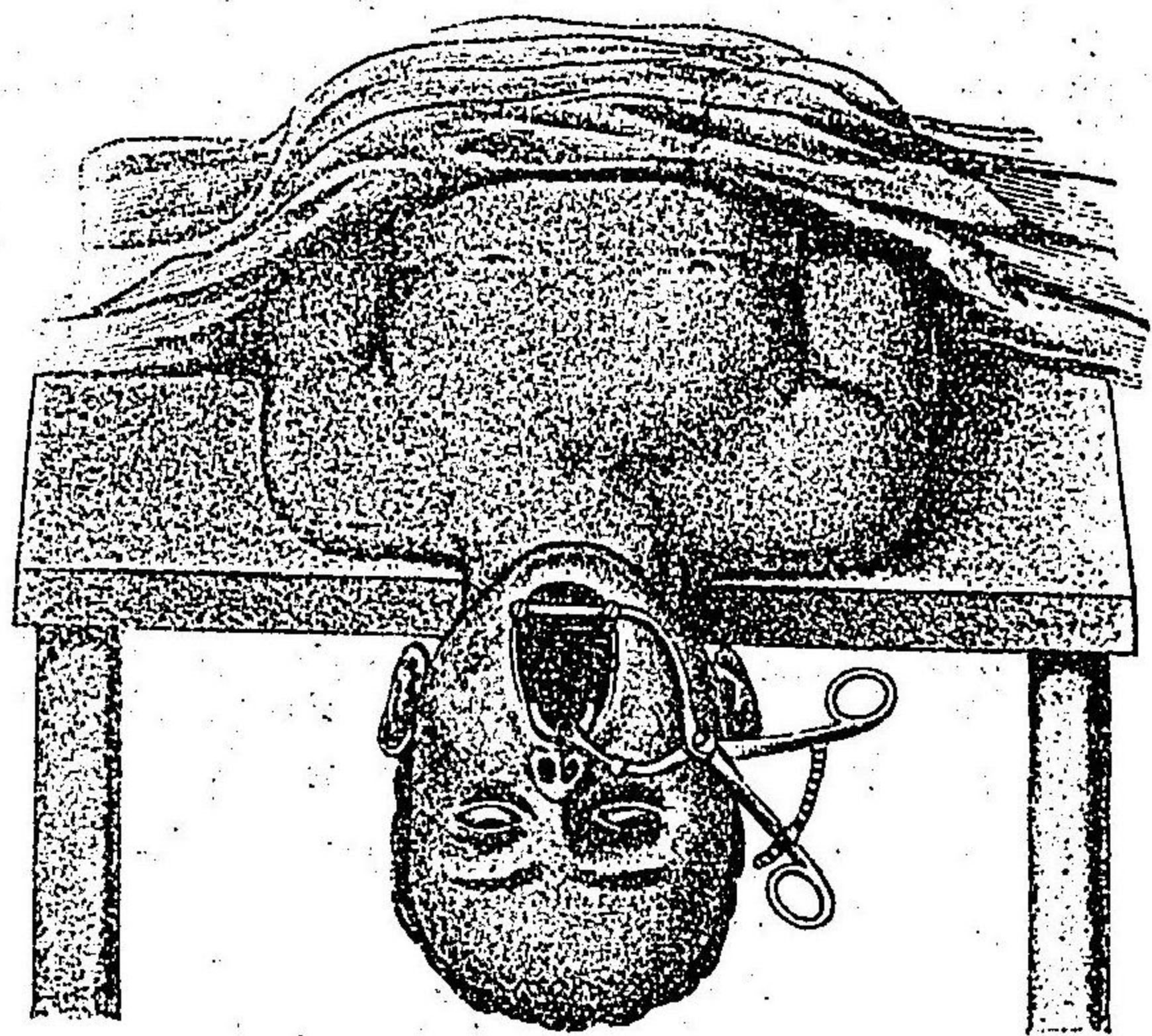
口蓋破裂ハ能フベクンバ手術的方法ニヨリ早期ニ縫合スルヲヨシトス、之レ患兒ノ機能的缺損ヲ補償シ、其部ノ發育ヲ完全ナラシメ、且之レヲ使用スル方法ヲ早く練習セシムルノ點ヨリ極メテ必要ナルヲナリトス

之レカ手術ヲ行フノ時期ハ兔唇ニ於ケルガ如ク生後數週ト定ムルヲ難シ、之レ本術ハ手術後患兒ニ一定ノ認識力ヲ望マザルベカラザレバナリ、故ニ多クハ五乃至七歳ヲ以テ手術ニ適當ノ時期トナス、兔唇ヲ兼タル口蓋破裂ニアリテハ先ヅ生後早く兔唇手術ノミヲ施コシ口蓋手術ハ之レヲ此ノ時期迄延期スルヲヨシトス、ウルフハ生後一乃至三年ノモノニ於テ手術スルヲ悦ビブローフハ生後三ヶ月ニ於テ已ニ施術スルノ有利ナルヲ説ケリト雖モ一汎ニ行フベキ方法ト稱シ難シ

凡ソ口蓋ノ成形手術ヲ行ハント欲
セバ先ツ左ノ數項ニ注意スルヲ要ス
一、粘膜炎ニ存スル凡テノ病的狀態
ヲ先ヅ治療シ置カザレバ傳染ノ患大
ナリ、殊ニ鼻腺腫、扁桃腺肥大、咽喉加答
兒等ニ意ヲ用ユルヲ要ス

二、患兒ヲ垂頭位置ニ措キ術者ハ之
レト相對シテ占位シ、ユンケル吸入器
ニ護謨管ヲ連續シテ鼻腔ヨリ吸入麻
醉セシムルヲ通法トス、但シ事情ノ許
スアラバ患者ヲ坐位ニ置キ、莫兒必涅
嚼囉仿謨ノ併合麻醉ヲ用ヒテ半麻醉
ノ下ニ手術ヲ行フ、キハ出血ヲ節約シ得ルコト大ナリ

三、口内手術面ヲ直視シ得ル様反射鏡、額帶電氣燈等ヲ使用スルヲ便トス(頸骨切
除術ノ條下參照)



三百五十六

置位頭垂 圖九十八第

四、施術面ニ直達センガタメ開口ヲ充分ニシ之レヲ固
定スルヲ要ス、ホワイトヘッド或ハラングンベック開口器ハ
最之レニ適ス

口蓋成形手術

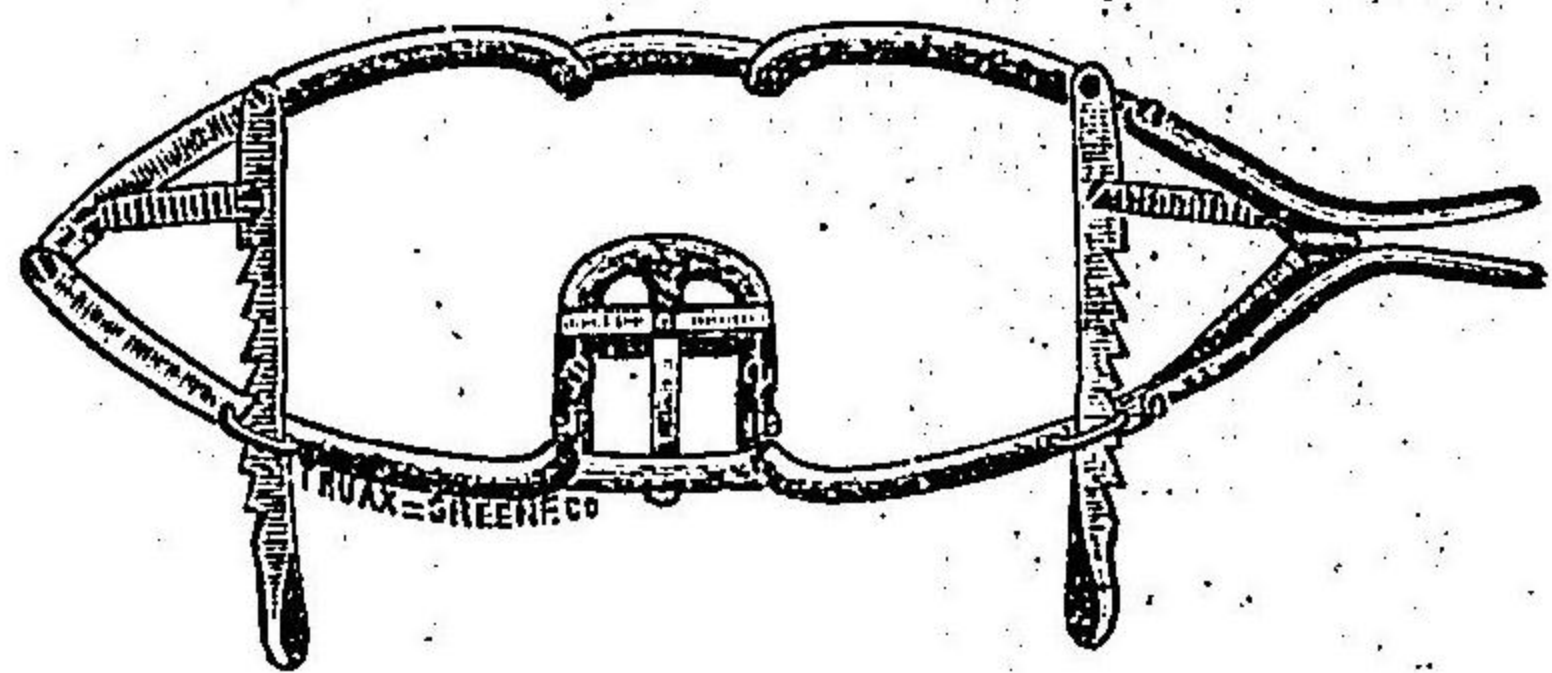
ノ術式ハ破裂ノ軟口蓋ノミニ存ス
ルキト硬口蓋ニモ同時ニ存在セル

キトニヨリテ同シカラズ、軟口蓋縫合術ハ前者ニ適シ、造
口蓋術ハ後者ニ適ス

第一項 軟口蓋縫合術

Staphylorrhaphy
Staphylorrhaphie

破裂ノ軟
口蓋ノミ



器口開氏ドッヘトイワホ 圖十九第

ニ限局セルキハ術式比較的簡單ナリ、先ツ長柄ヲ有スル
有鈎鑷子ヲ以テ懸垂垂ノ末端ヲ挾ミ、尖銳ナル槍狀刀ヲ
用ヒテ輕ク鋸斷様運動ヲナシ、破裂緣全體ニ沿フテ作創ス、創面ハ少シク斜メ
ニ作ルヲ殊ニヨシトス、然ル後數ケノ絹糸ヲ以テ結節縫合ヲナセハ足レリ、但シ其
組織ノ緊張大ナル者アリタルトキハ造口蓋術ノ條下ニ説ケル減張法ノ一ヲ撰用
スベシ

第二項 造口蓋術

Uranoplasty
Uranoplastik

造口蓋術ハ硬軟兩口蓋ニ亙レル破裂ニ適應
スル手術ニシテ左ノ順序ヲ以テ施コス

一 破裂線ノ作

創 軟口蓋縫合
術ニ於ケルガ如

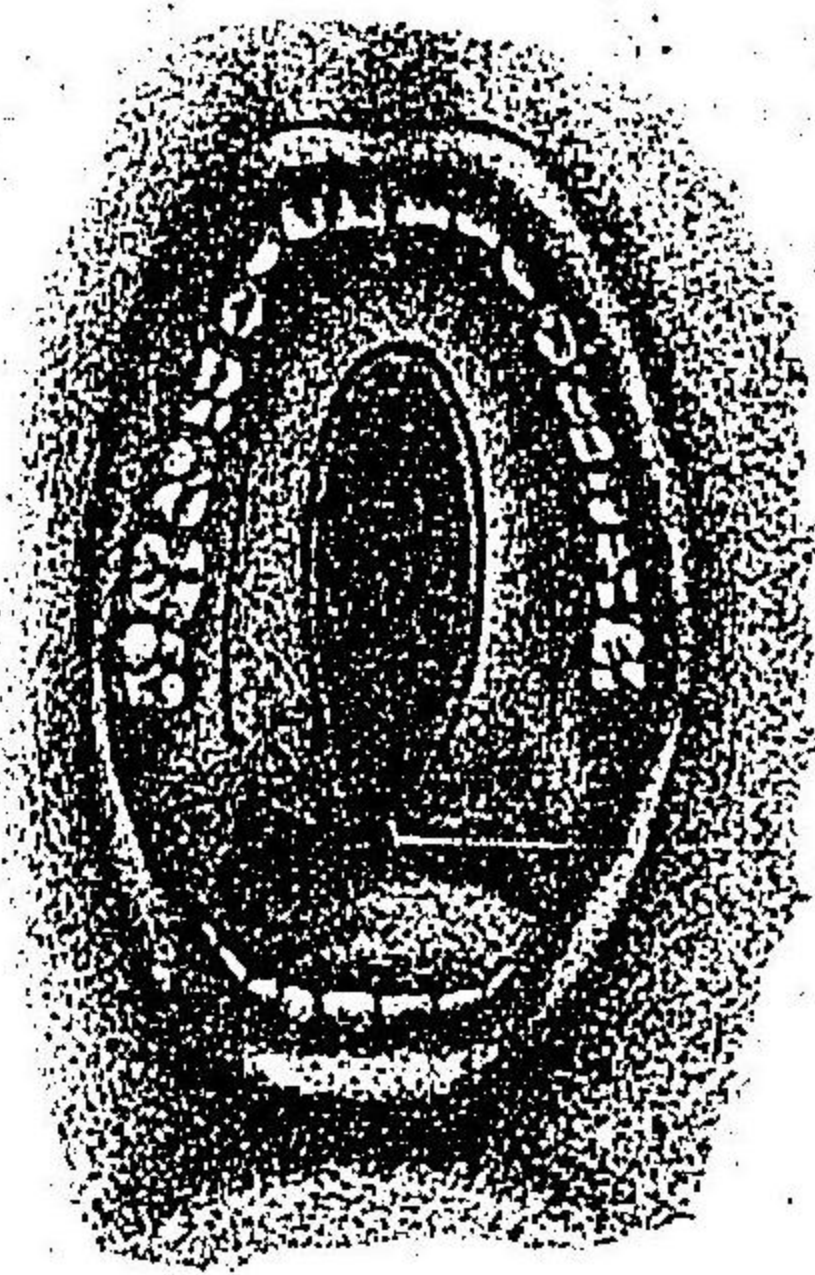


刀開切圖一十九第

ク先ヅ懸壑垂末端ヨリ作創ヲ初メ更ニ之レヲ連續シテ硬口蓋ニ來リ破裂ノ前端
ニ達ス硬口蓋ノ作創ニハ少シク強固ナル切開刀ヲ要ス

二 粘膜骨膜被覆ノ剝離 是ニ於テ破裂線ニ併行シテ齒槽突起ノ内縁ニ沿フテ
智齒部ヨリ前齒部ニ至マデ深キ切開ヲ施コシテ骨質ニ達ス

而シテ此切開線ト破裂線トノ間ニ横ハレ
ル粘膜骨膜ヲ全ク下在骨質ヨリ剝離ス其法
先ヅ切開創ヨリ細小ナル骨膜起子ヲ挿入シ
破裂線ニ向ツテ剝離ヲ試ミ次テ破裂線ヨリ
普通ノ骨膜起子或ハプロフイー口蓋骨膜起子
ヲ用ヒテ切開創ニ向ヒテ同法ヲ企ツルニア



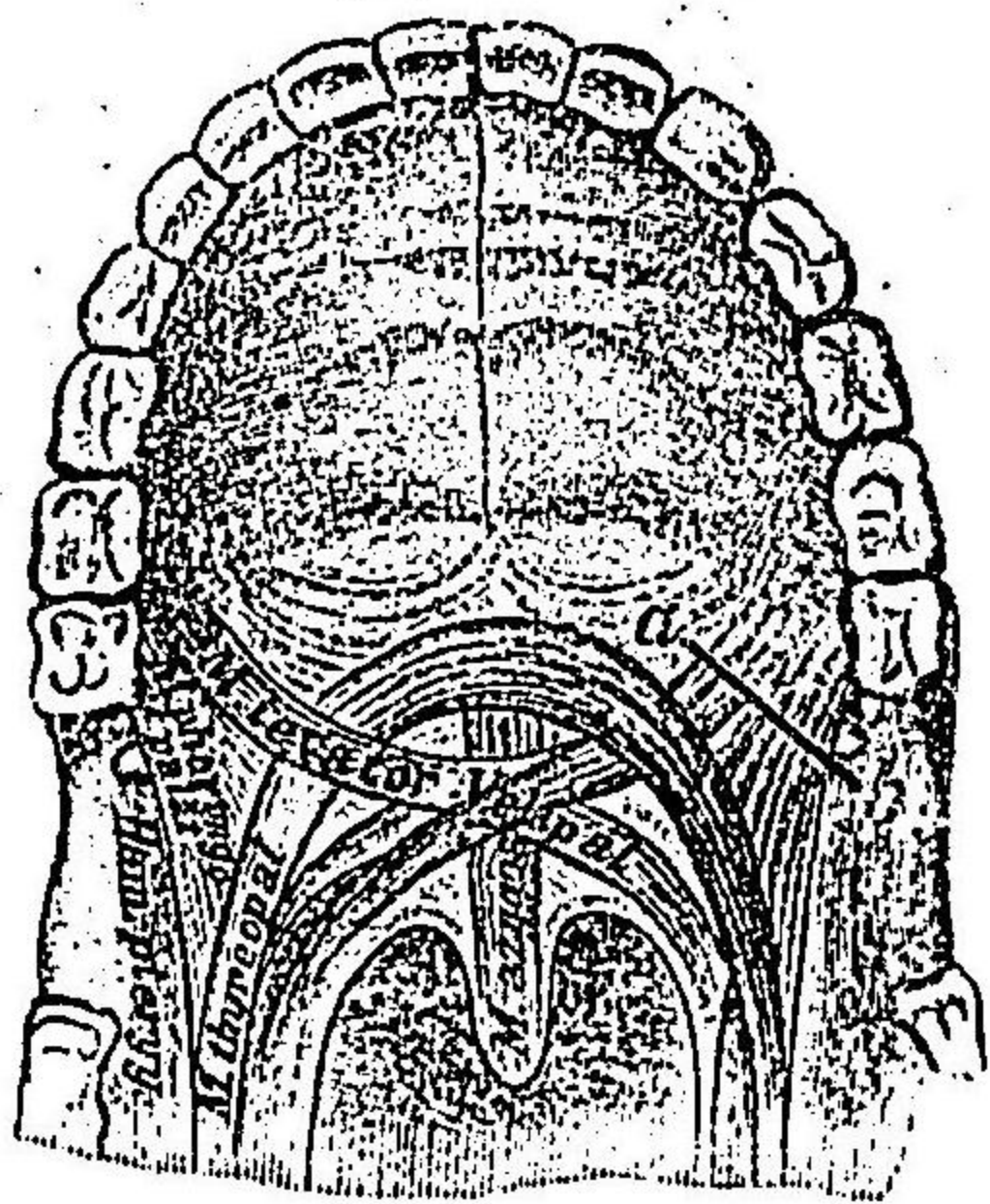
術蓋口造 圖二十九第

リ剝離全ク終レバ乃チ自由ニ移動シ得ル處ノ粘膜骨膜被覆ヲ得ベク其前後兩端
ハ安全ナル營養路ヲ保ツモノトス但シ翼狀口蓋孔ノ部ニ於テ口蓋動脈ヲ毀傷セ
ザル様注意スベシ

三 減張ノ方法 破裂ノ大ナルキハ緊張強クシテ粘膜骨膜被覆ヲ中央ニ適合シ
テ縫合スルコト難シ故ニ縫合ヲ試ムルノ前先ツ創線ヲ適合シテ其緊張ノ度ヲ試ミ
用ニ臨ミテハ之レヲ減少スル方法ヲ講セザルベカラズ其法種々アリ

或ハ鉛鈹ノ減張縫合ヲ施コスモヨシ即兩側粘膜骨膜被覆ノ上ニ任意長ノ鉛鈹
ヲ適合シ銀線ヲ以テ之レヲ固定スルニアリ
破裂線ニ縫合絲ヲ通過スルノ以前ニ先ツ銀
線丈ケヲ通過シ置キ次テ破裂線ニ悉ク結紮
糸ヲ通過シ終リテ正ニ結紮セントスルルニ
方リ鉛鈹ヲ置キテ銀線ヲ結紮スル者トスブ
ロフイー等ノ常用スル處ノ減張法ナリ

或ハチツフェンバッハファーガツン等ノ如ク口
蓋帆ノ實質ニ切開ヲ加ヘテ其中ニ存スル諸



術縫切筋蓋口 圖三十九第
(氏 スン マル ヴ)

筋ヲ切斷シテ緊張ヲ減少ス

或ハフォン、ランゲンベックニヨリ口蓋舉筋及ヒ咽頭口蓋筋ノ切斷術ヲ施コスモ
ヨシ

或ハピルロートニヨリ翼狀突起ノ内板ヲ翼狀鈎ノ上方ニ於テ切離シ鈎ヲ移動
性トナシテ中央ニ向ケ牽掣スルモヨシ

或ハランテロングノ行ヒタルカ如ク鼻中隔粘膜ノ一部ヲ剝離翻轉シテ狭小ナ
ル粘膜骨膜被覆ヲ補フモ亦佳ナリ

四、破裂線ノ縫合 破裂線ノ自由ニ適合セシメ得ル様ナリタルキハ乃チ繊細ナ
ル絹糸ヲ用ヒテ結紮ス、手術面ノ狭小ナルガタメ頗ル多大ノ煩勞ヲ要ス、長ク切り
タル絹糸ノ兩端ニ各々強ク圓形ヲナセル針ヲ附シ之レヲ各別ニ創面兩側ニ通過
シ、各糸ハ之レヲ他者ト混同セザル様保持シ、破裂線ニ沿フテ全部通過シ終ルマテ
結紮セザルヲヨシトス、糸
ヲ通過スルニジャクソン
口蓋破裂用針ヲ用フルモ
可ナリ、縫合ヲ終リタルキ



針蓋口 圖四十九第

ハ粘膜骨膜被覆ノ移動ニヨリ口
蓋ノ兩側ニ生シタル所ノ創面ニ
消毒、ガーゼノ小片ヲ挿入ス但シ
其極メテ淺小ナルキハ此用ナシ

第三項 其他ノ口蓋手

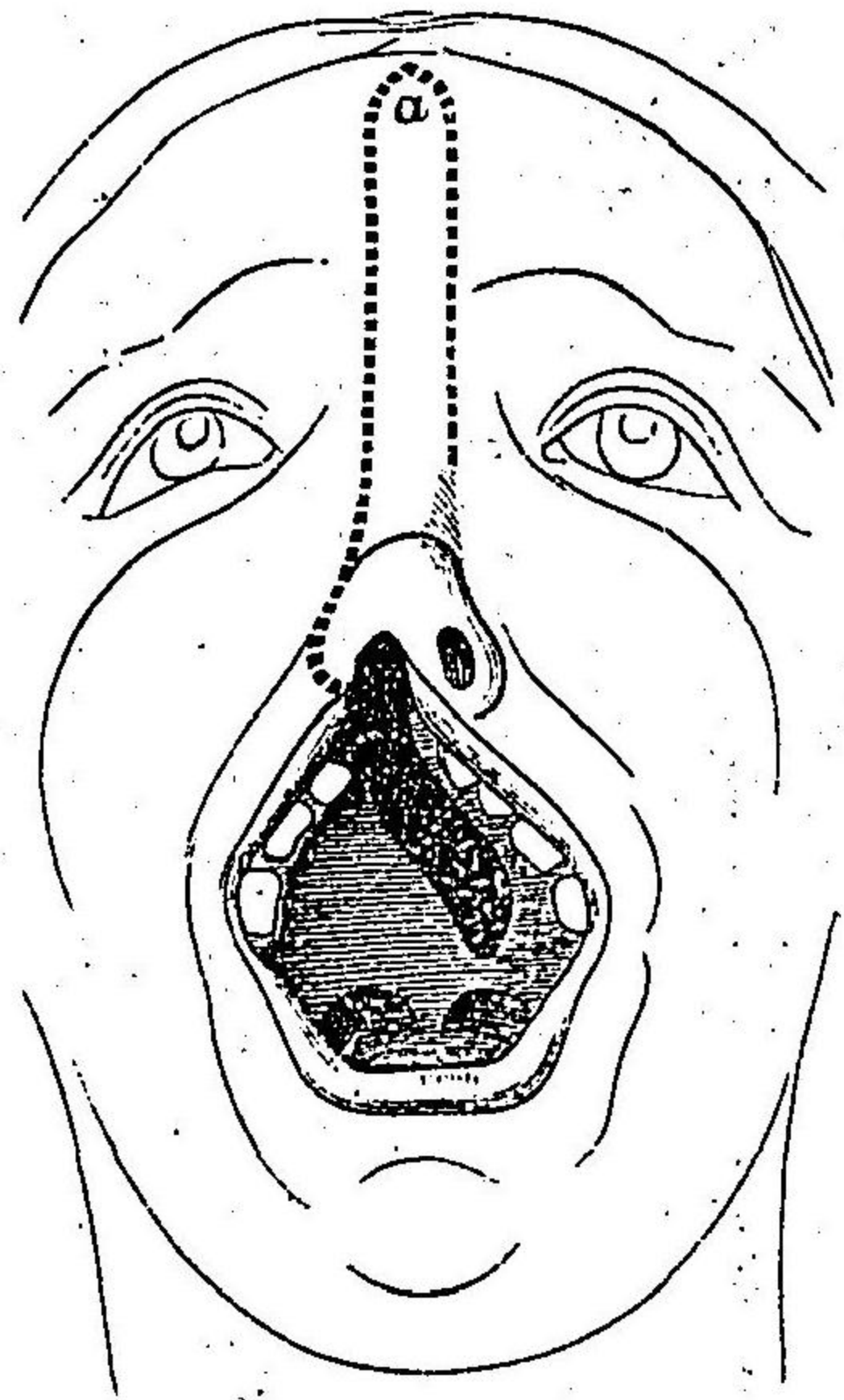
術 上記ノ外口蓋
破裂ニ向テ施

コサレタル手術數多アレモ今尙
用ヒラル、モノハ少ナシ

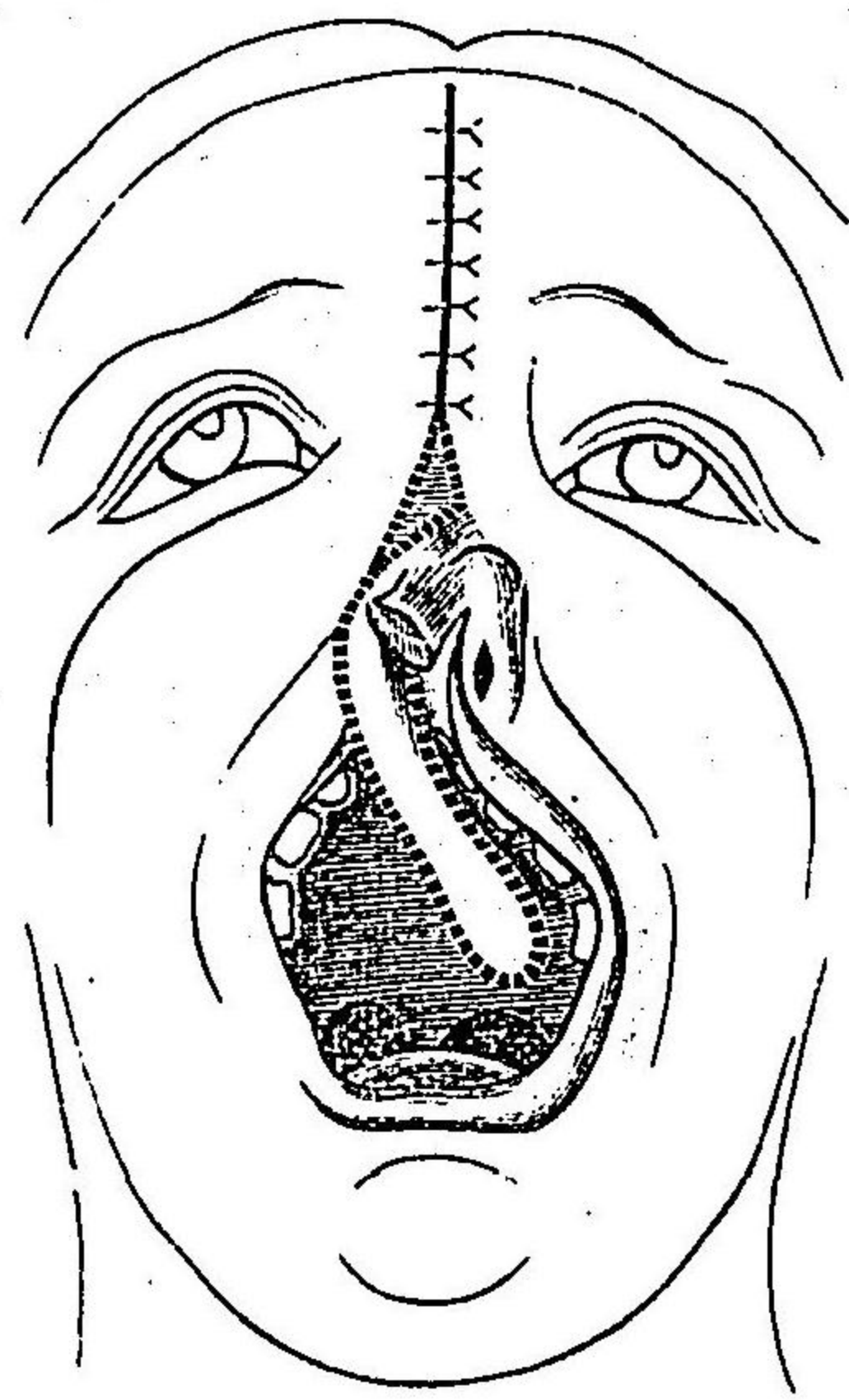
一、ローター *Roller* ハ極メテ大ナ
ル狼咽ニシテ兔唇ヲ兼スルモノ
ニ向ツテ鼻梁前頭ヨリ一大細長
ノ有莖瓣ヲ作り之レヲ翻轉シテ
口蓋及口唇ノ破裂ヲ補ヒタリ

ニ、デービス *Coley* *Devices-Coley*

口蓋破裂手術



(一其)術手一タッロ 圖五十九第



(二其)術手一タッロ 圖六十九第

ハ破裂線ノ兩側ニ於テ三角形又ハ方形ノ有莖粘膜骨膜瓣ヲ作りテ縫合シタリ

三、ブローイー Brophy, ハ早期手術

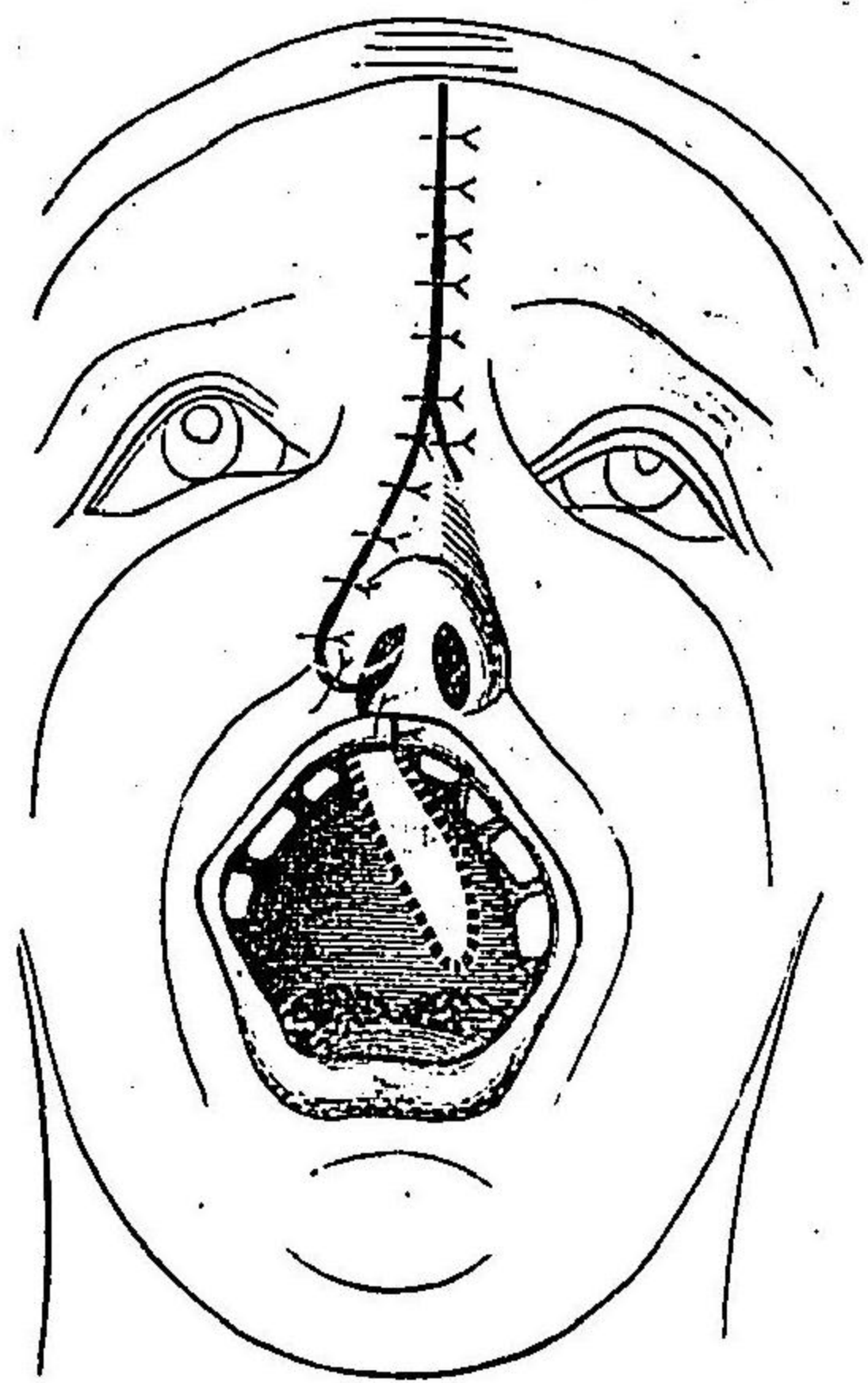
論者ノ一人ナルガ、顯著ナル完全口蓋破裂ノ小兒ニシテ、漸ク三ヶ月ヲ經タルモノニ上顎一側ノ頰側顚骨ノ前後ニ於テ強大ナル數條ノ銀線ヲ顎實質中ヲ通過シテ他側ニ出シ、強制的ニ顚ヲ壓迫シテ破裂線ヲ接合セシメ(川ニ臨ミテハ骨折ヲ起サシメテ)之レヲ兩頰側ニ適合シタル鉛飯ニテ固定シタリ

四、ゲルズニー Gersmy, ハ近來口蓋ノ小破裂ニ對シテ其兩線ニ「バラフィン」注射ヲ

施コシテ破裂線ヲ接合セシメタル治驗ヲ報告セリ

後療法

口蓋破裂手術ノ効果ハ後療法ニ歸スルコト頗ル大ナリ、術後一週間ハ先ツ談話其他凡テ口蓋ヲ緊張セシムルカ如キ運動ヲ避ケ、強メテ安靜



圖七十九第 (三共)術手一タッロ

ヲ與ヘ、長匙又ハ護

謨管ヲ以テ流動食

ヲナサシム、口腔ヲ

絶エズ含嗽又ハ清

掃シ、且時々鼻腔洗

滌ヲナスヲヨシト

ス、一週ヲ經過スル

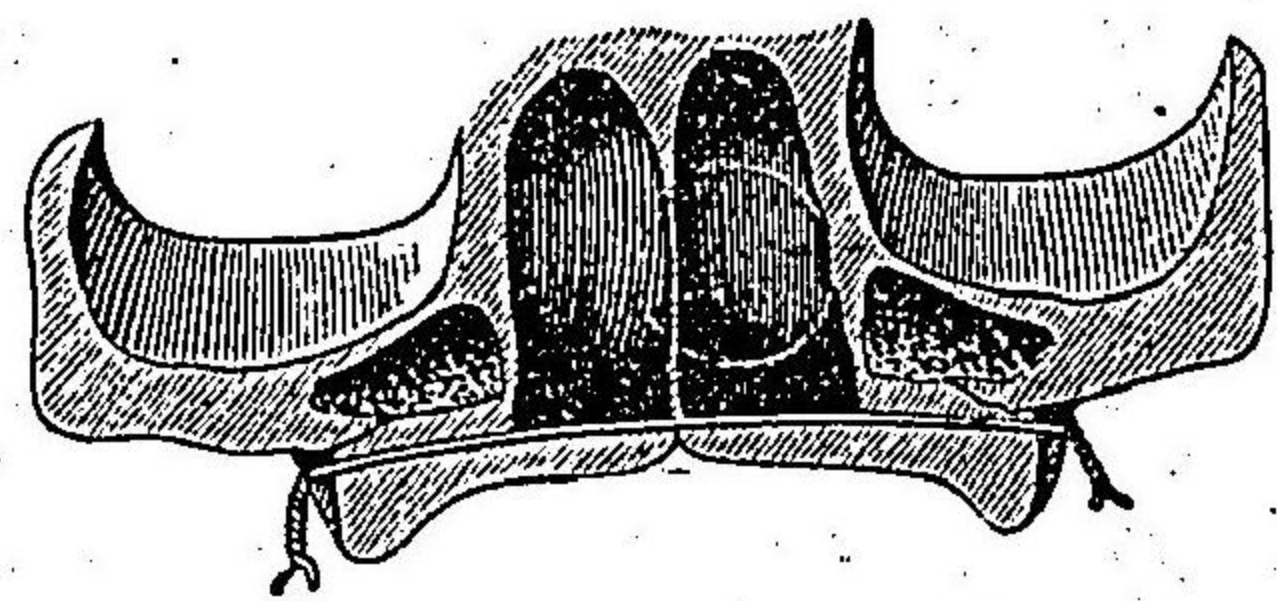
ヤ側方創面中ニ挿

入シ置キタル消毒

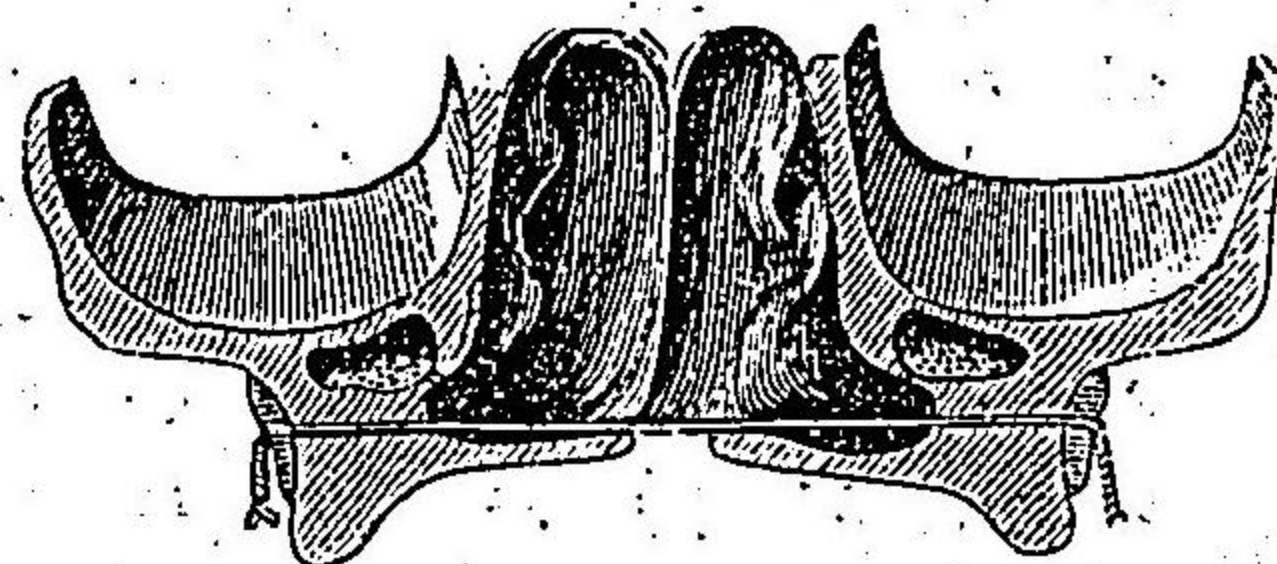
「ガトゼ」ヲ取出シ弛緩シタル二三ノ縫合糸ヲ去ル、其殘餘ハ尙數日放置スベシ

微細ナル穿孔ヲ殘遺シタルキハ腐蝕ニヨリ癒合ヲ計ル、其大ナルキハ再手術ノ

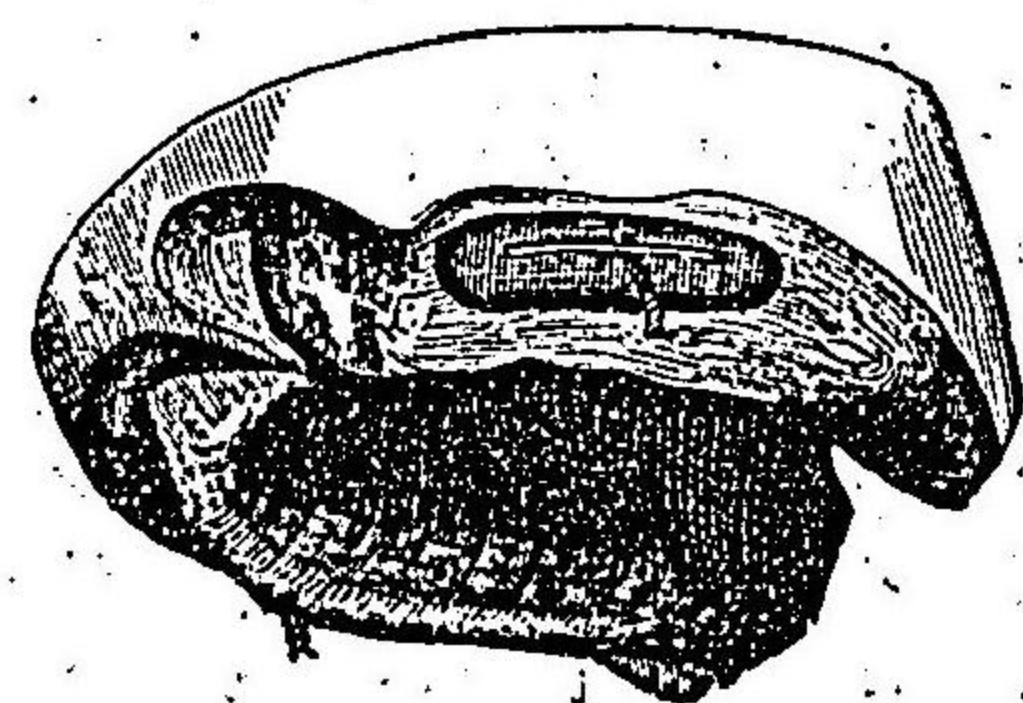
外ニ方法ナシ、手術後勉メテ發音談話ノ練習ヲナサシメザルベカラズ



圖八十九第 術手蓋口氏一イフロア



圖九十九第 同



圖百第 同

第七章 口蓋補綴術

口蓋補綴術

Palate prosthesis
Gummiprotetik

外科的手術ヲ以テ縫合シ能ハサル口蓋破裂ヲ器械的方法ニヨリ補綴シテ其機能ヲ營爲セシメントノ

企圖ハ長キ以前已ニ齒科醫及外科醫ノ試ミタル處ナリキ、アンブロアス、バレー(一五八五年)ハ口蓋ニ適合スル金又ハ銀床ヲ作り其上面ニ直立ノ鼻腔ニ達スル録ヲ鐵着シ其線ノ上端ニ海綿ヲ結着ソ以テ破裂ヲ栓塞センコトヲ企テ、フォーシヤル(一七二八年)亦略ボ同様ノ装置ヲ試用シタリト雖モ何レモ不成功ニ終リシヤ勿論ナリ

軟口蓋ニ於ケル缺損ヲ補綴スルニ方リ金床ノ後方ニ彈力護謨突起ヲ附シタルモノヲ以テシタルハ、デラバール Delabarre (一八二〇年)ニシテ正ニ一段ノ進歩ト稱スベシ、次デステル Shell (一八二三年)及ステアルン Stearn (一八四六年)ハ之レヲ先天的口蓋破裂ニ應用シテ漸次ニ其ノ改善ヲ致シ、更ニキングスレー、ジュエルセンニ氏ノ格段ナル研究ニヨリテ完全ナル口蓋補綴器ヲ得ルノ端緒ヲ開クニ至レリ

口蓋補綴器ハ其之レヲ要スル場合ニヨリテ種々ナル形態アリト雖モ大別スレバ二種トナスヲ得ベシ、即一ハ口蓋ニ於ケル缺損ヲ補綴スルニ止マルモノニシテ、ジュエルセン装置ノ如キ之レニ屬ス(特ニ此種ノモノヲ栓塞子 Obturator ト稱スルモノアリ)他ノ一ハ口蓋ノ缺損ヲ補綴シ且軟口蓋ノ運動ニ伴フテ多少移動スルモノ

ニシテキングスレー、シルツキー等ノ装置之レニ屬ス(特ニ此種ノモノヲ人造口蓋 Artificial palate or Velum ト稱スルモノアリ) Künstlicher Gaumen

其調製法ノ如キハ普通ノ蒸和護謨床義齒ニ於ケルト極メテ相異セズト雖モ之レニアリテハ又特殊ノ注意ト技術トヲ要スルモノタリ、故ニ左ニ最有要ナルモノ數種ヲ説カントス

第一項

ジュエルセン

補綴装置

Sjenssen's Obturators
Sjenssen'sche Obturators

(一八六七年)ハ硬固護

謨ヲ以テ栓塞子ヲ作り談話嚙下ノ機能ヲ完全ニ營爲セシムルノ方法ヲ創爲シタリ、獨逸國ニアリテハ今尙之レヲ用ユルモノ多シ、氏ハ之ヲ調製スルニ方リ先ツ左ノ數項ヲ念頭ニ置カザルベカラザルモノトナセリ

- 一、談話ニ方リ氣流ガ喉頭ヲ通過シ聲帯ガ顫動シタル後、氣流ガ取ルヘキ路ニアリ、一ハ軟口蓋ノ上方即鼻腔ニ至リ、他ハ軟口蓋ノ下方即口腔ニ至ル者之レ也
- 二、マ行ノ發音ニ際シテハ氣流ハ其路ヲ鼻腔ニ取ル、而シテマ行ノ時ニハ唇門ナ行ノ時ニハ舌門閉鎖スルモノトス
- 三、マ行ナ行ヲ除ク其他ノ子音ヲ純粹ニ發音センニハ氣流ヲシテ鼻腔ニ至ルヲ

妨ケ路ヲ口腔ニ取ラシムルヲ要ス

四、母音ヲ純粹ニ發音スルニハ氣流ヲシテ路ヲ口腔ニ取ラシムルヲ要ス、然レモ其際氣流ノ幾部分ヲシテ鼻腔ニ至ラシムルモ差支ナシ、加之然ラザレバ却テ鼻聲ヲ帶バシムベシ、其鼻腔ニ至ル氣流ノ量ハ「ア」ニ於テ最大ニシテ「エ」「オ」「ウ」之レニ次ギ「イ」ニ於テ最小ナリ、然レモ鼻聲ヲ帶バサラシムルニハ鼻腔ヲ通過スル氣流ガ障害物ニ逢會スルコトナキヲ要ス、故ニ鼻孔ノ閉鎖、粘膜ノ肥厚、腫瘍ノ存在、不完全ナル栓塞子等ニアリテハ鼻聲ヲ帶ブルコト常ナリ

五、之ニヨリテ之ヲ見レバ談話ヲシテ完全ナラシメンニハ口腔ト鼻腔トノ交通ヲ自由ニ開閉スルヲ得サルベカラズ、即マ行、ナ行ヲ發音スルニハ完全ニ之レヲ開キ、其他ノ子音ヲ發スルニハ完全ニ之レヲ閉ヂ、母音ヲ發スルニハ略ボ之レヲ閉ヂザルベカラザルナリ

六、此ノ如キ口鼻兩腔交通ノ開閉ハ筋肉ノ運動ニヨリテ常ニ營爲セラル、一明ナリ

七、健態ニアリテハ此運動ハ一方軟口蓋ガ口蓋舉筋及口蓋張筋ノ作用ニヨリテ舉上緊張セラル、ニヨリテ成ルト雖モ又一方人ノ今日迄重要視セサリシ上

咽頭收縮筋ノ作用モ與ツテ力アルモノトナス、即マ行及ナ行ヲ除ク其他ノ發音ニ際シテハ本筋ハ收縮シテ口蓋咽頭腔ヲ縮小シ咽頭壁ニ隆起ヲ生ジ舉上セラレタル軟口蓋ト徐々ニ密接シテ鼻口兩腔ノ交通ヲ遮斷スルモノナリ

調製法

調製シタリ

一、先ツ印象採得ニ際シ粘膜面ノ知覺ヲ鈍麻セシメンガタメ五布仙古加乙涅槃液或ハ十布仙ノボカイン溶液ヲ軟口蓋ニ塗布シタル後、通法ニヨリテ石膏又ハステント印象材ヲ用ヒテ徐々ニ印象ヲ採得ス、印象材ノ深ク鼻腔ニ侵入スルヲ防グタメ兼テ少量ノ綿塊ヲ挿入シ置クモヨシ

二、印象ヨリ石膏模型ヲ作り之ニ基キテ硬口蓋ヲ被フ處ノ床板ヲ硬固護膜ニテ蒸和調製ス、床ハ通例帶鈎ヲ以テ堅ク齒牙ニ固定スルヲ得セシメ且其後縁ノ中央ヨリ破裂ニ相當シテ一仙迷位ノ幅ヲ有スル突起ヲ出サシム、突起ハ後方咽頭後壁ヲ去ル五六密迷ノ部ニ達セシム、第百一圖ハ其完成研磨セラレタルヲ示ス、而シテ其研磨完了シタル後數日乃至一週間之ヲ口内ニ着用シ患者ヲシテ先ツ之レニ慣レシムベシ

三次テ破裂部ノ

印象ヲ完全ニ採取

スル方法ヲ講ゼザ

ルベカラズシユロ

ット法ヲ採用スル

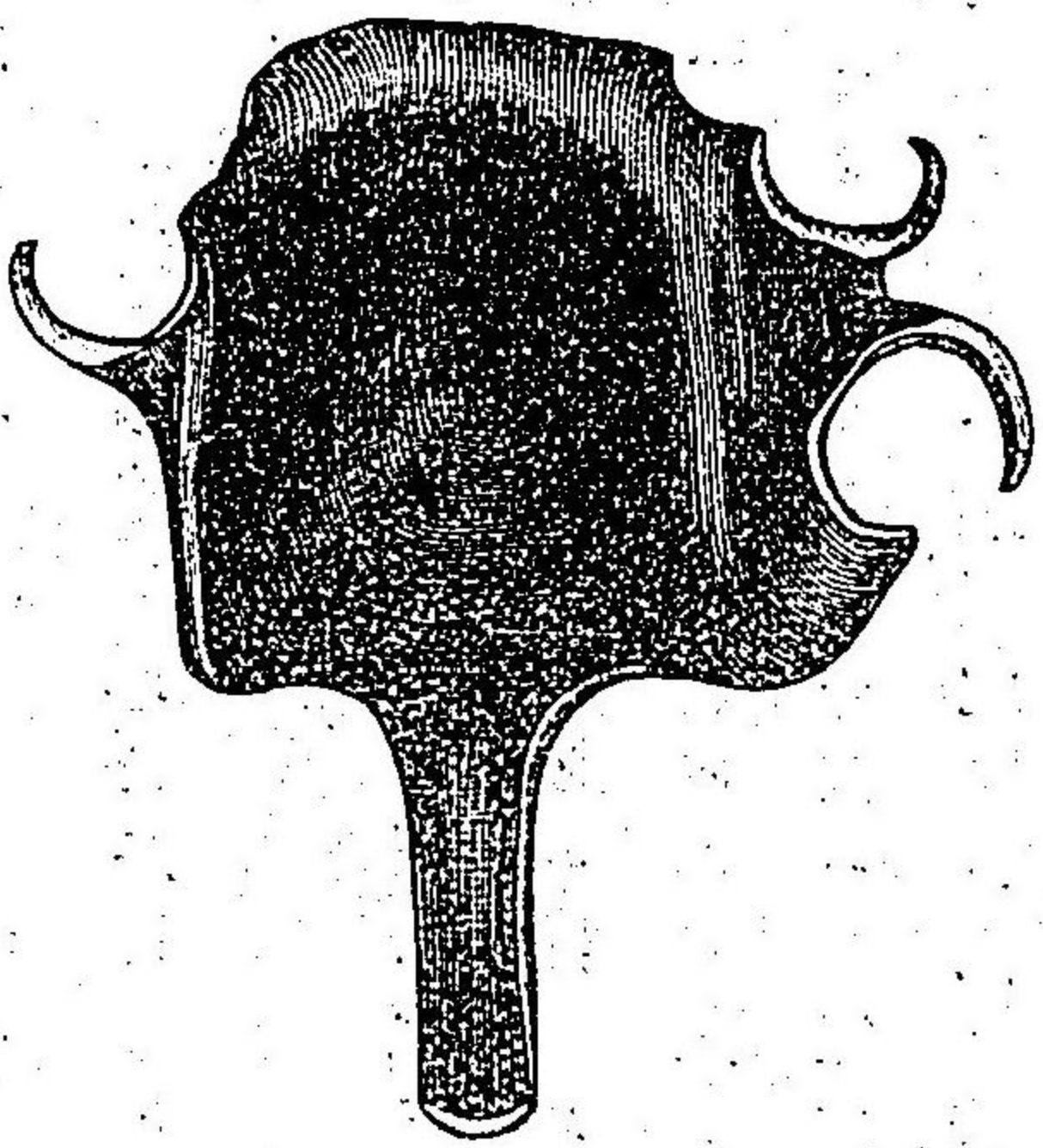
ヲ便トス、即上記ノ

床板後方ニ於ケル

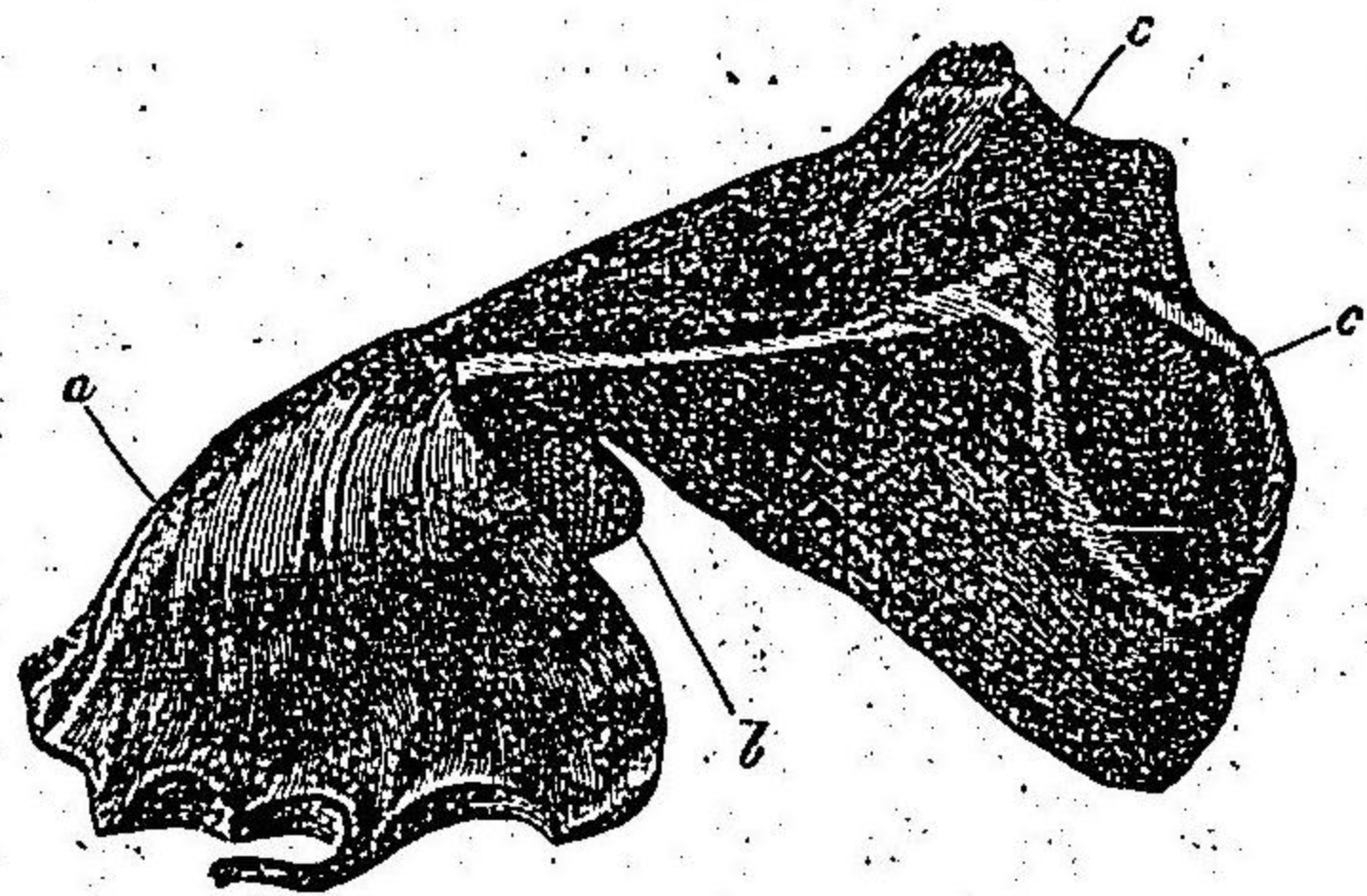
突起ヲ任意鈍削シ

テ其表面ヲ粗糙ナ

ラシメ、其周圍ニ加



置裝綴補ンセルエ、ツ 圖一百第

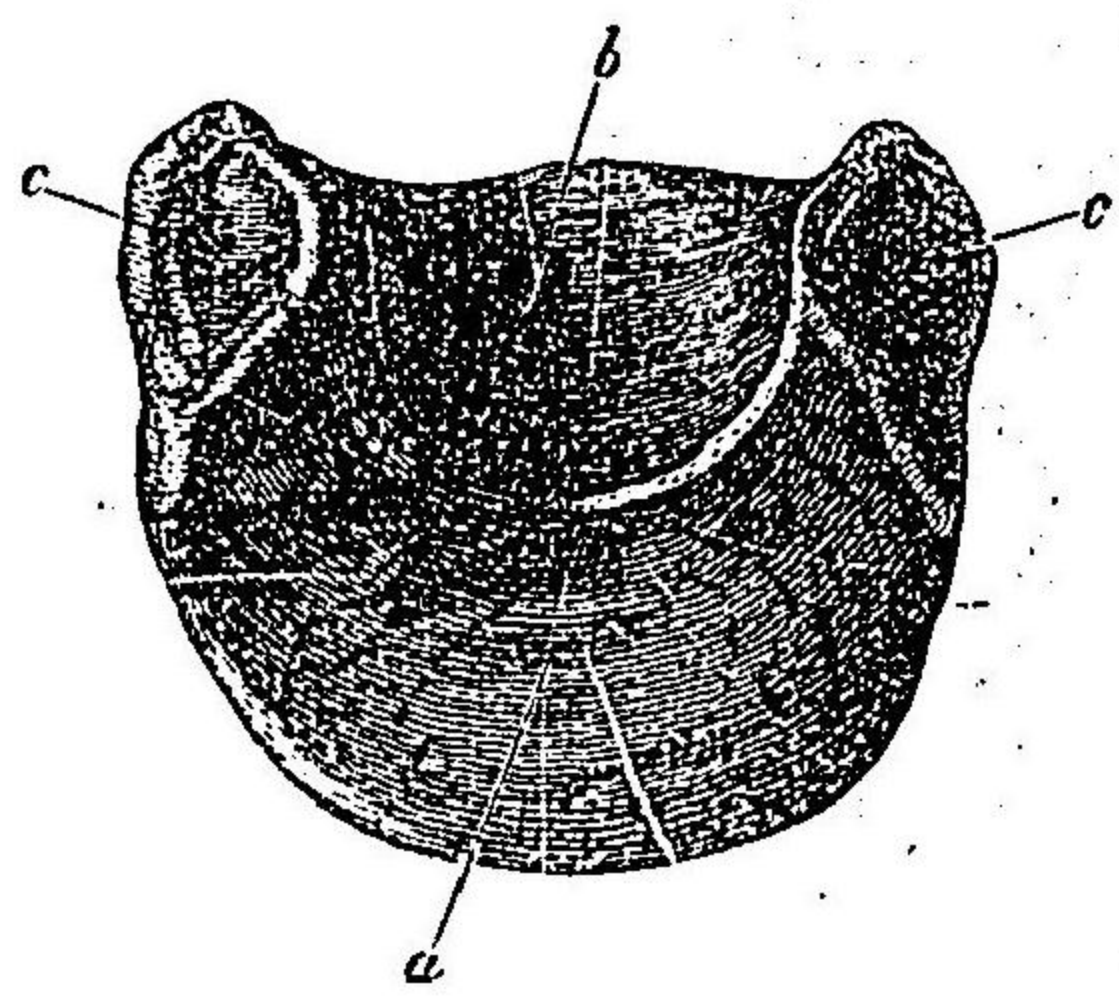


得採象印部頭咽 圖二百第

熱軟化セシメタル僱答百兒加塊ヲ附着シ、直ニ之ヲ口内ニ入レテ着用セシメ、且嚙下發音ヲ反覆營爲セシム、然ルキハ未ダ硬化セサル僱答百兒加塊ハ周圍ノ筋肉ノ運動ニヨリテ成形セラレ、ヨク其部ノ印象ヲ記スルヲ得ベシ、而シテ印象ノ果ノ精確ナルヤ否ヤヲ判定スルニハ次ノ二項ニ注目スルヲ要ス、即一ハ僱答百兒加塊ノ後方ニ咽頭收縮筋側上方ニ歐氏管根ノ壓痕ヲ得ル、他ノ一ハマ行、ナ行、バ行、バ行

ヲ明瞭ニ發音シ得ル、之レナリ、此兩項ノ完全ナル迄時々塊ヲ加温軟化シ、或ハ其量ヲ増減シテ試適セザルベカラズ

四、此ノ如クニシテ得タル印象塊ハ第百二圖ノ如キ形態ヲナス、常ナリ、即其側面ハ下方ヨリ上方方ニ傾斜ヲ呈シ、其上部ニ歐氏管根(c)ヲ明記シ、其後面(第百三圖)ハ一乃至三仙迷ノ高サヲ有シ、上部ニ顯ハル、彎入ハ上咽頭收縮筋ノ壓痕ニ相當ス、塊ノ上面ハ敢テ平坦ナラシムルノ要ナシ、後下方ニ凹彎傾斜スルヲ却テヨロシトナス



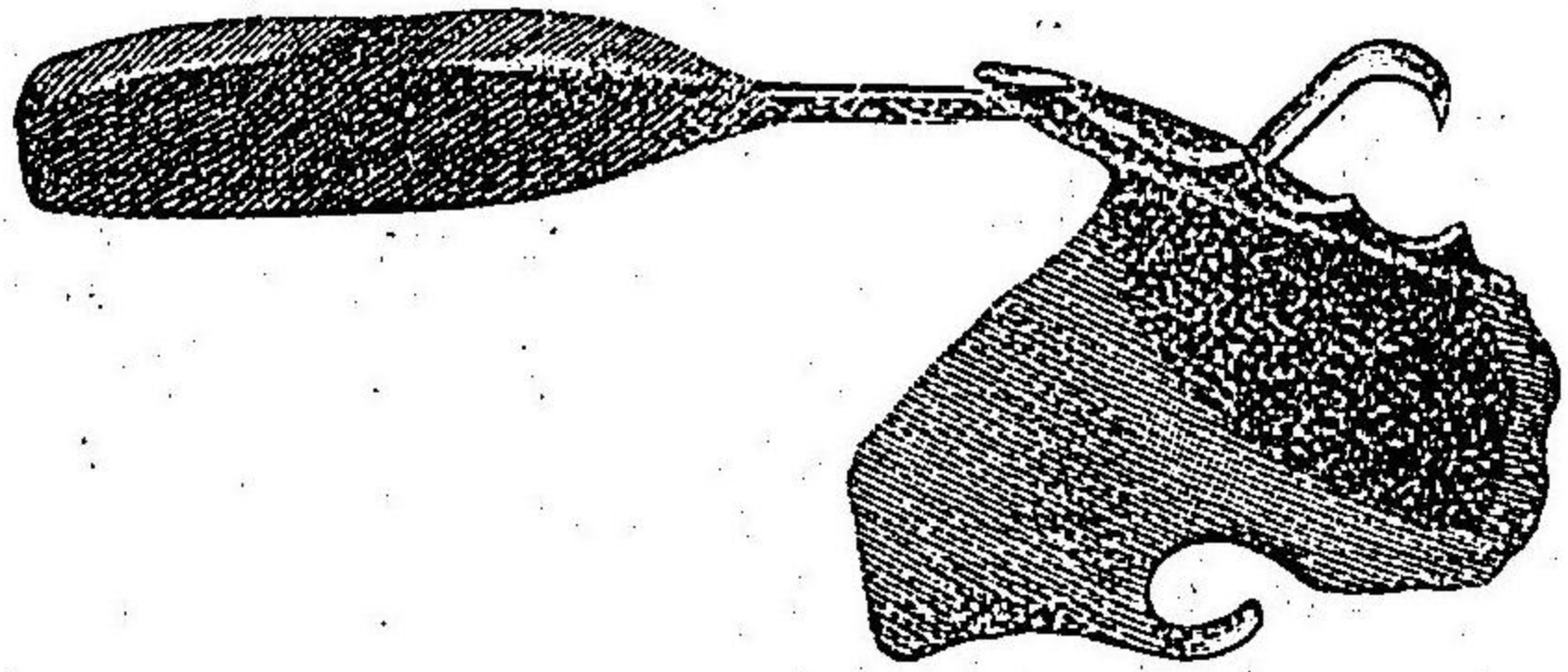
視方後象印部頭咽 圖三百第

五、試適ニヨリ漸ク満足ナル結果ヲ得タルキハ、更ニ患者ヲシテ數日間之ヲ床ニ附着シタル儘着用セシメテ嚙下發音ヲ果シテ完全ニ營爲シ得ルヤ否ヤヲ試ムベシ、用ニ臨ンデ隨意ノ變更ヲ加フル、勿論ナリ、而シテ最後ニ之レヲ「フラスク」中ニ合盒法ヲ行ヒ、通法ニヨリ硬固護膜ヲ以テ蒸和ス、蒸和ノ際僱答百兒加塊ニ相當スル部ハ之ヲ空虚ナラシムルヲヨシトス、即護膜ヲ填塞スル際内部ニ浮石末ヲ入レ

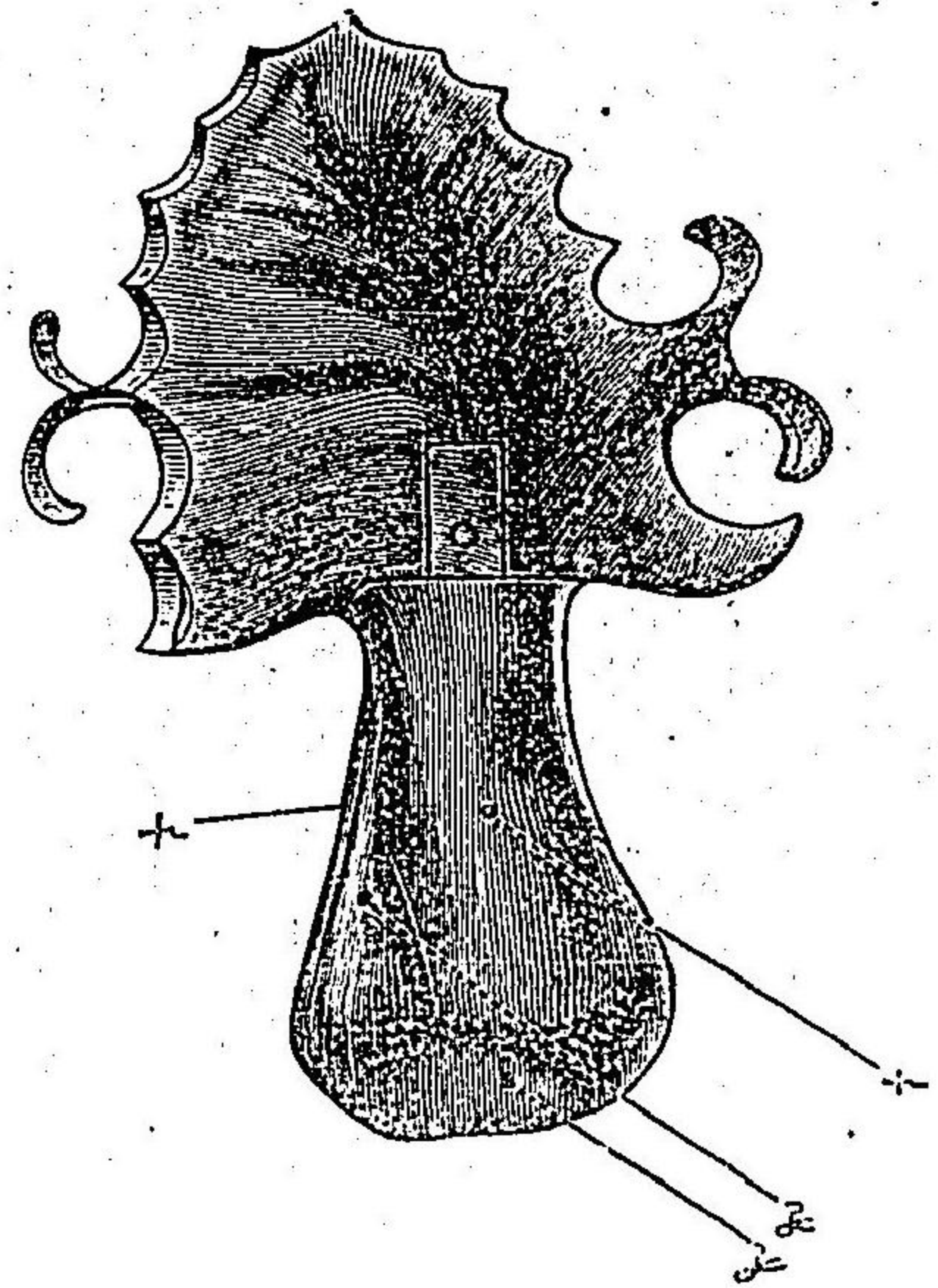
置キ蒸和後
壁ノ一部ニ
穿孔シテ之
ヲ出シ穿孔
部ヲ硬固護
膜ノ小塊ヲ
以テ栓塞ス
レハ之レヲ
得ベシ

六ワル子
クローズバ
ライト等ノ

研究ニヨルガ如クジュールセン装置ノ如キ大ナル栓塞子ヲ着用スルコト數年ナルキハ患者ハ漸ク其使用ニ慣レ一層小ナル栓塞子ヲ以テ同様ニ發音嚙下スルヲ得ルニ至ルベシ然ルキハ便宜ノ方法ニヨリ小ナル栓塞子ヲ以テ之レニ換ユベシ第百



子塞栓蓋口 圖四百第



置裝綴補蓋口ルエツツイツ 圖五百第

四圖ハ此ノ如キモノヲ示ス

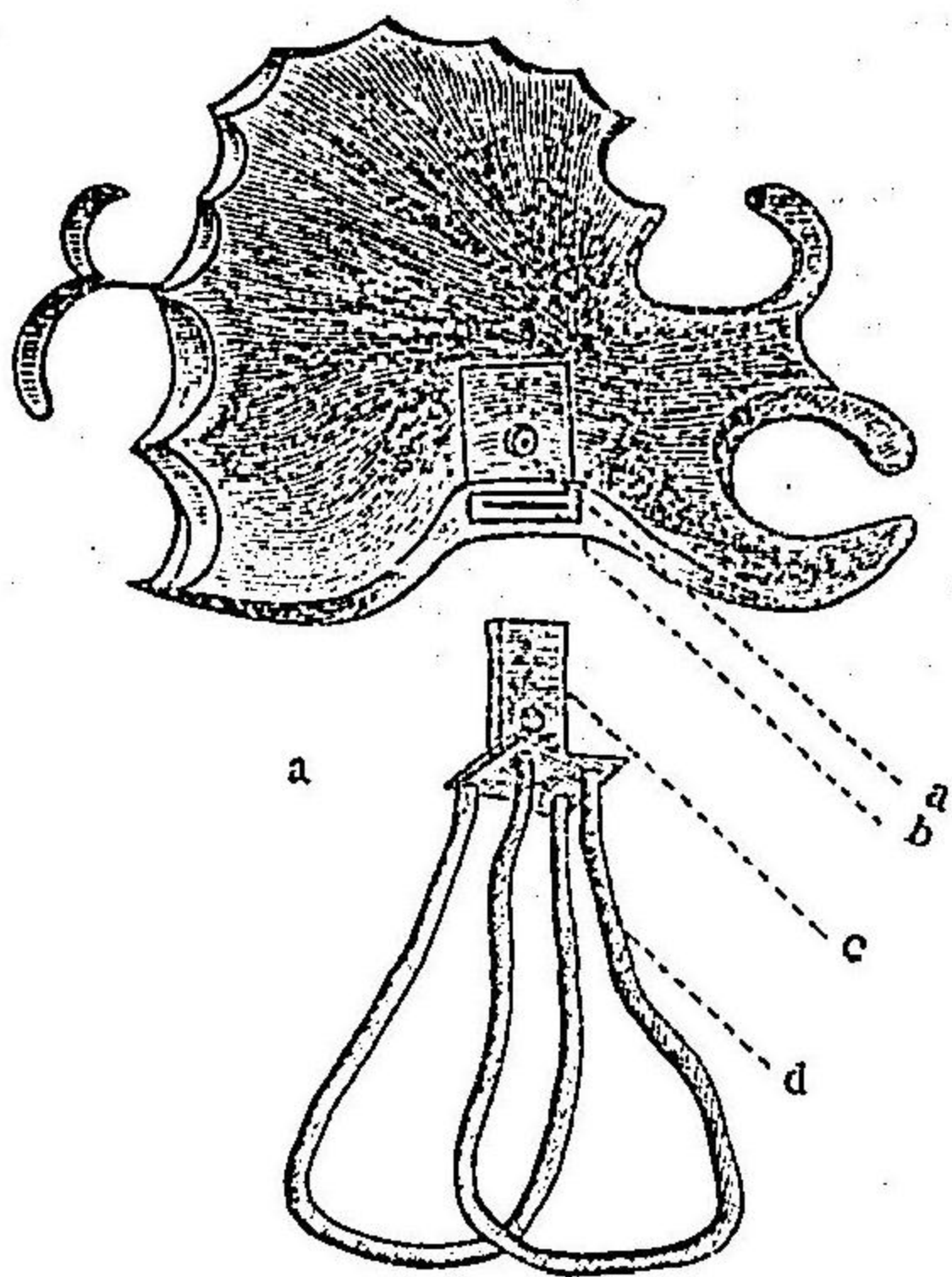
七、ウイツェル *Karl Wied* ハジュールセン裝

置ヲ變更シテ床ト塊トヲ別個ニ調製シ關節ニヨリテ合一セシムルモノヲ稱用セリ、即栓塞塊ハ硬固護膜製中空ノモノニシテ線格ヲ以テ骨子トナシ前方ニ舌狀ノ突起アリ床板後縁ノ間隙ニ挿入シ螺旋(a)ニヨリテ停止セシムルモノトス(第百五及第百六圖)

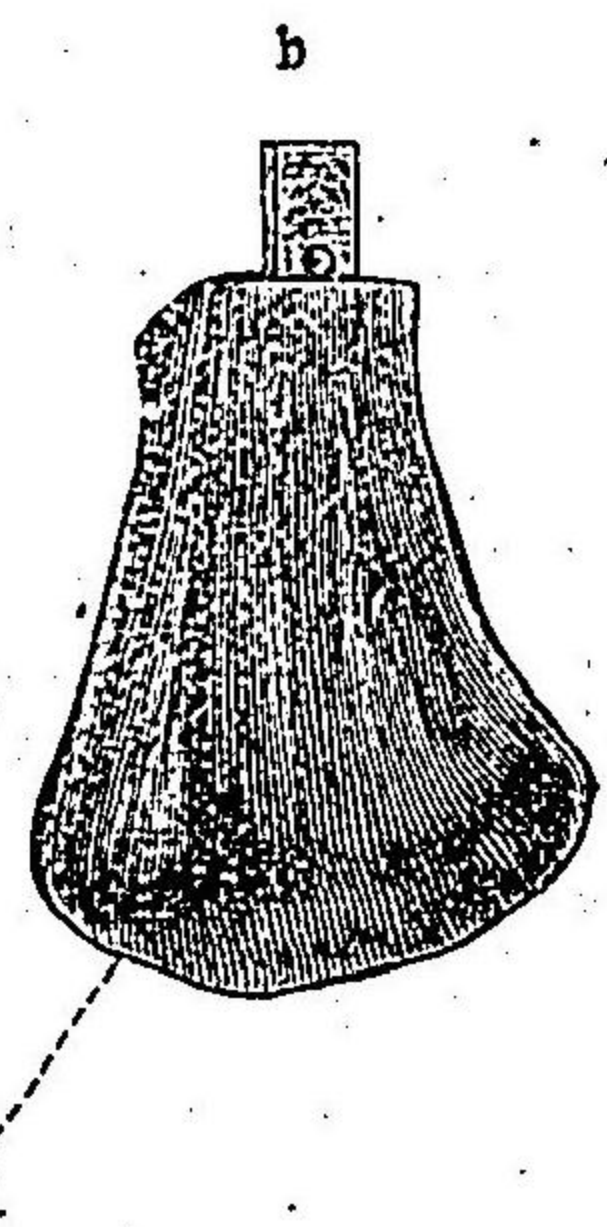
第二項 シルツキー補綴裝

置 *Schilsky's Obturators*
Schilsky's Obturators
シルツ
キー氏

(二八八一年) ハ口蓋缺損カ軟口蓋後方ニノミ限ラレタル時或ハ口蓋破裂手術ニヨリ軟口蓋ガ短倭トナリタル時等ニ適應スル補綴裝置ヲ案出シタリ、特ニ之ヲ



置裝綴補蓋口ルエツツイツ

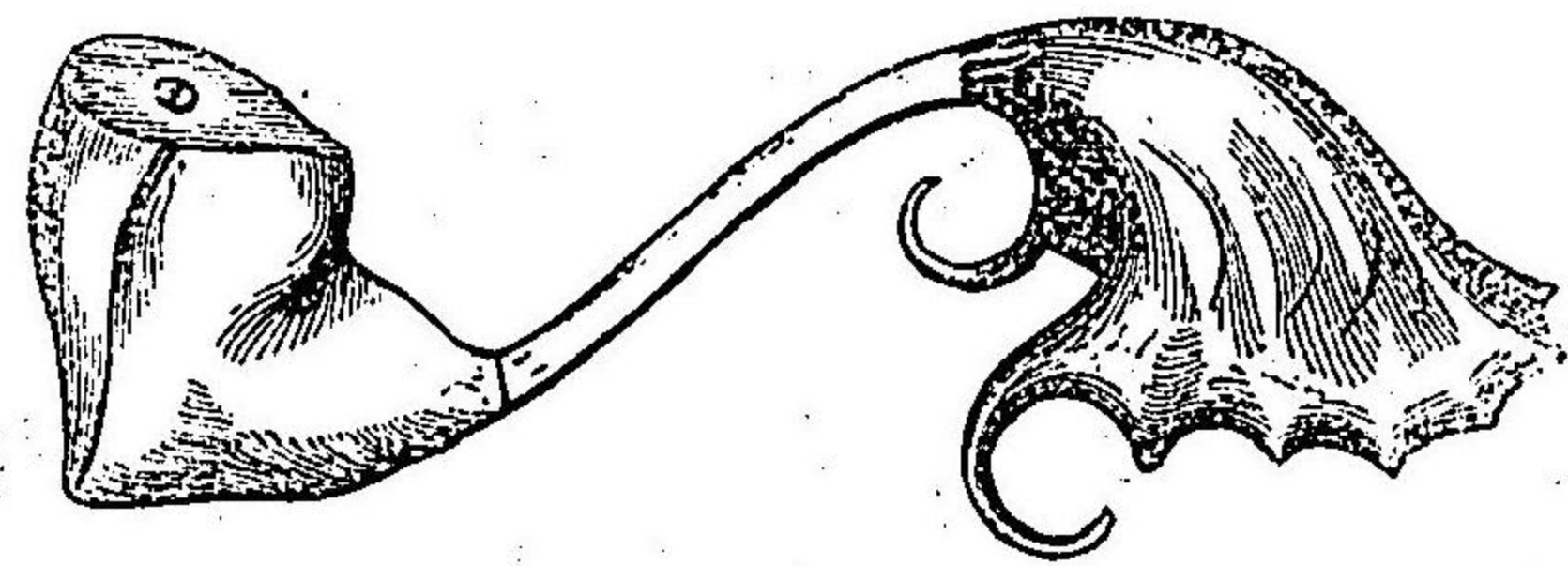


圖六百第

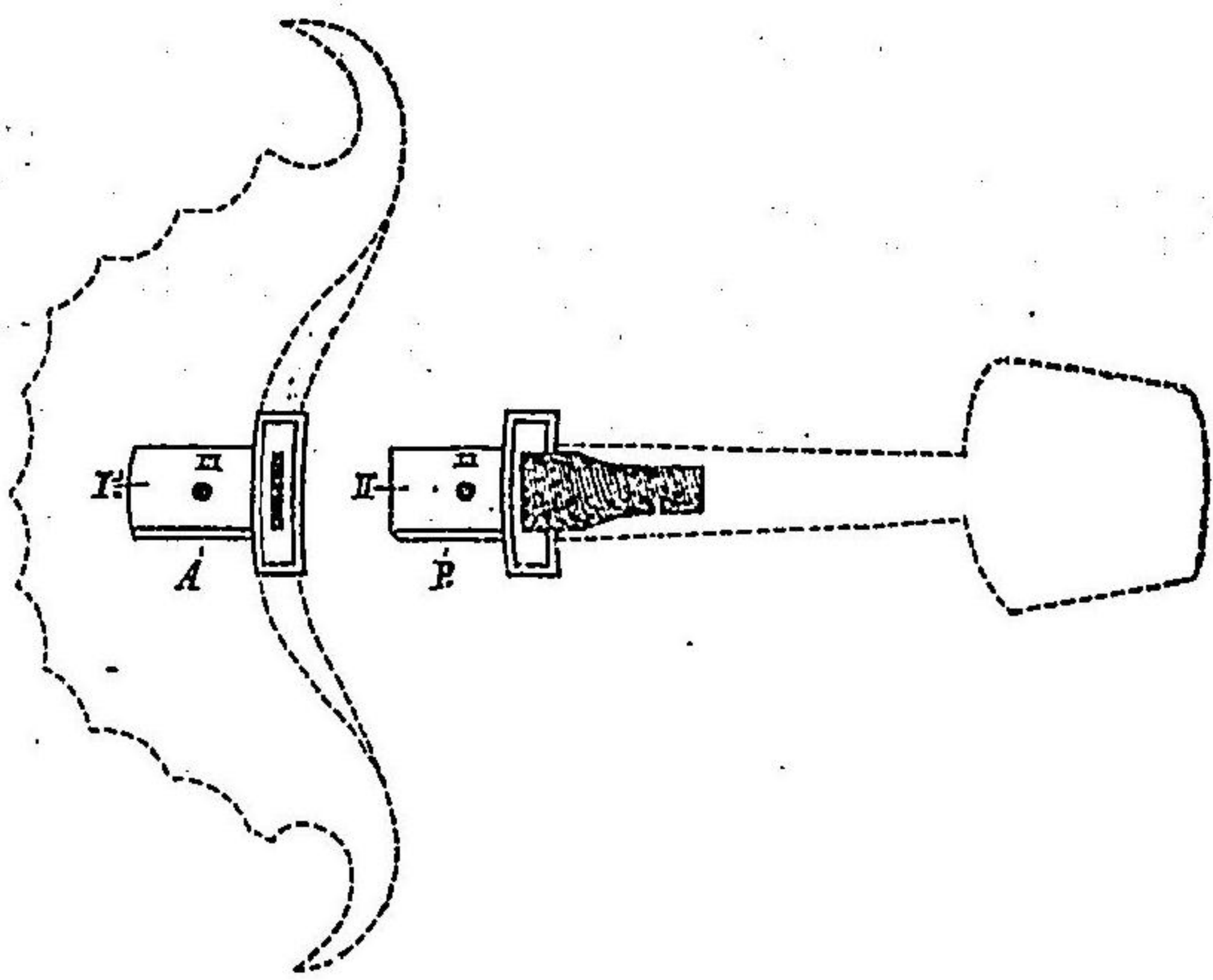
咽頭栓塞子 *Pharyngeal Obturator*
Rechenobturator

ト呼フモノアリ

装置ハ硬口蓋ニ適合スル
硬固護謨製床板ト缺損部ニ
適合スル中空軟護謨塊トヨリナリ
塊ハ其前端ニ弾力性突起ヲ有シ
床ノ後縁ト關節シ螺旋ニヨリテ
停止セラルル其調製法ハ全ク
ジュエルセン装置ニ同ジ
關節ノ状態ハウツエ



置裝綴補蓋口ーキツルシ 圖七百第

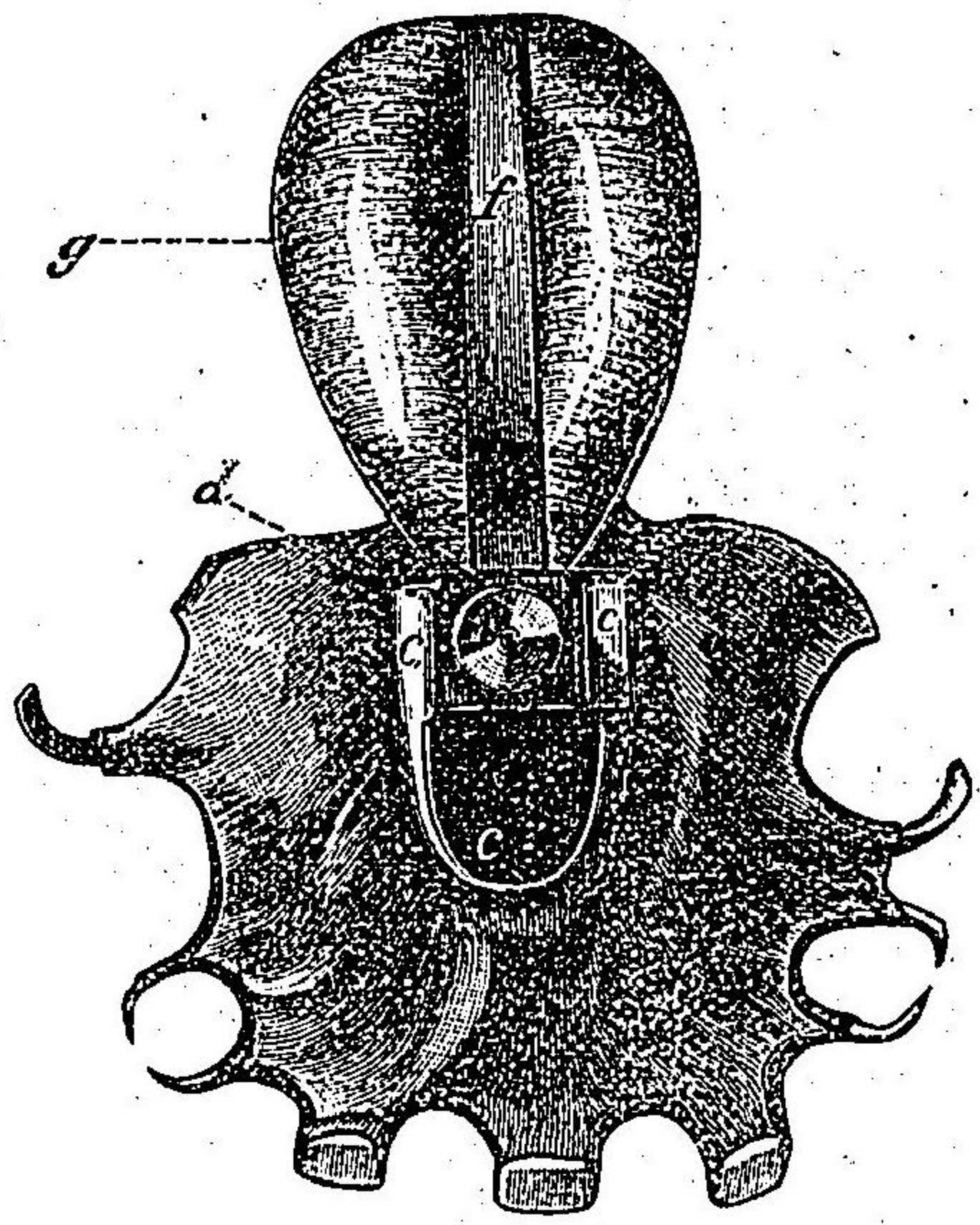


景内上全圖八百第

ル装置ニ類似シ彈力突起ハ螺旋發條又ハ鑢帶ヨリナリ軟口蓋ノ口腔面ニ沿フテ
走り其ノ運動ニ伴フテ多少移動スルモノトス現今ニアリテハ此装置ヲ稱用スル
モノ少ナシ軟護謨ハ忽チニシテ鼻口兩腔ヨリノ分泌物ニヨリ軟化分解シテ用ヲ
ナサザルニ至ルベシ

フランド *Brault* (一八八九年)ハ

前者ノ缺點ヲ避ケンガタメ特異ノ補綴装置ヲ用ヒタリ即床板ノ後方ニ硬護謨突起ヲ出シ其上ニ彈力性鑢帶ヲ附シ突起ト鑢帶トノ間ニ可吹性中空護謨球ヲ介在セシメ自轉車ノ「タイヤ」ニ空氣ヲ入ルト同様ニ小ナル氣銃ニヨリ護謨球ニ空氣ヲ送り任意大ニ膨脹セシムル装置ナリ然レモ之レモ亦長ク實用ニ供セシムルヲ難シ
ハーン *Hahn* (一八九四年)ハ栓塞塊ヲ中空硬固護謨製トナシ床板トノ連絡ヲ蝶番關節ヲ以テシタリ稍用ユルニ足ル(第百十一圖)



置裝綴補蓋口トシラフ 圖九百第

第三項 キングスレー補綴装置

Kingsley's Obturators
Kingsley'sche Obturatoren

カモ實用ニ適スル可動性人造口蓋ヲ案出シタリ米大陸ニ於テ之ヲ稱用スルモノ

キングスレーハ極メテ簡單ニシテ而

多シ

裝置ハ硬

口蓋ニ適合

スル金屬性

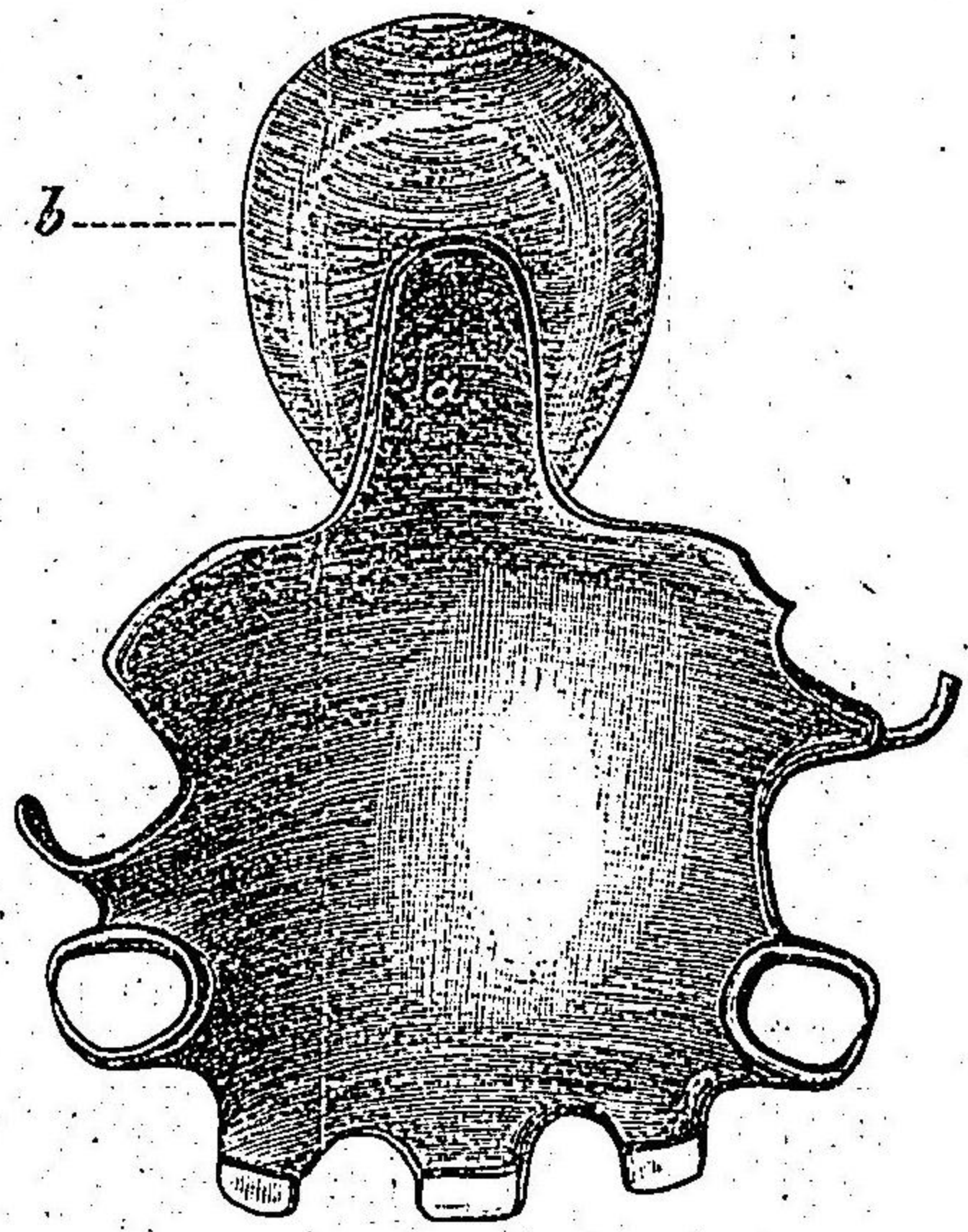
床板ト其後

方破裂部ニ

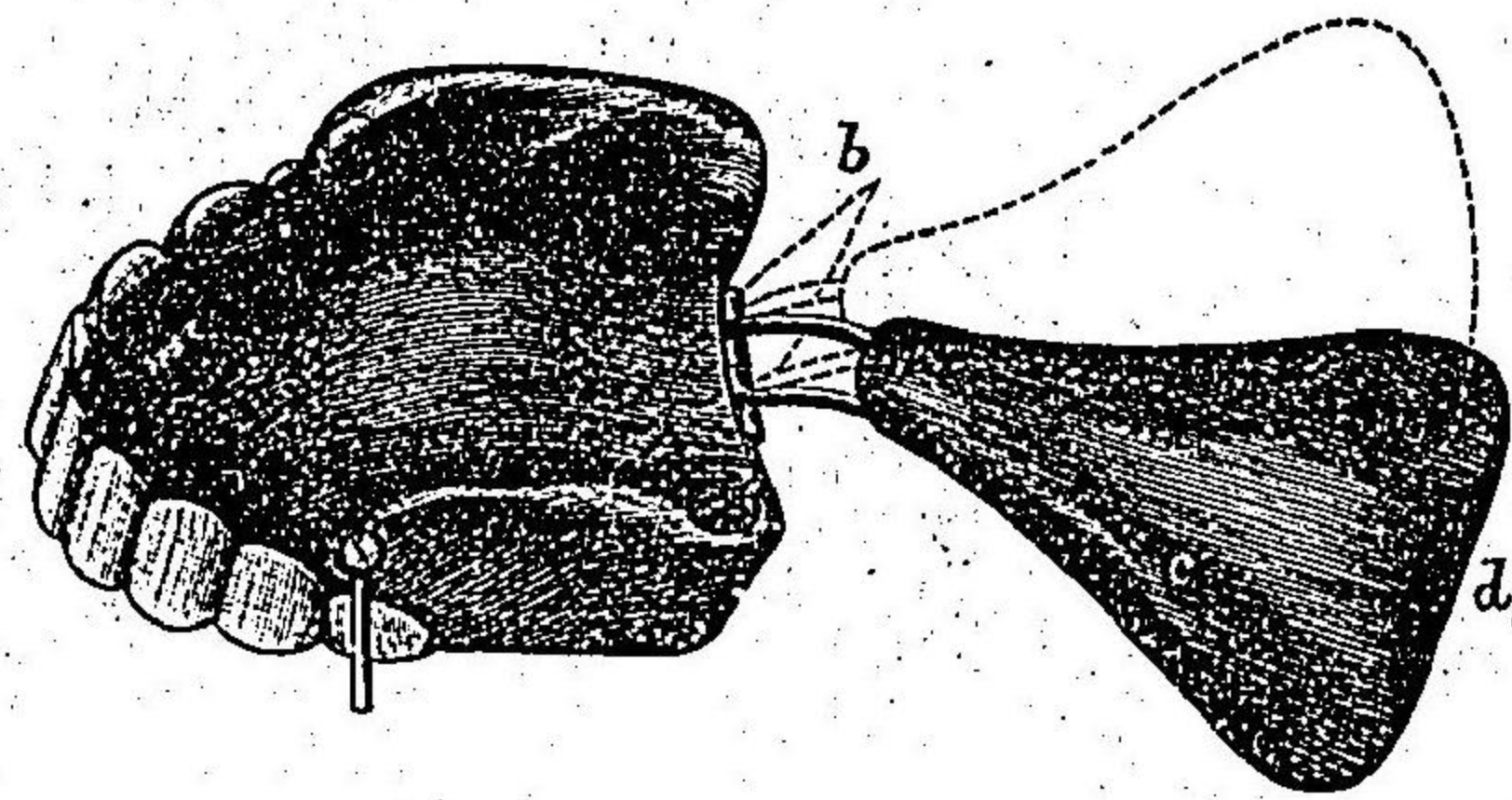
相當スル柔

軟蒸和護謨

製栓塞塊ト



圖十百第 置裝綴補蓋口トシラフ



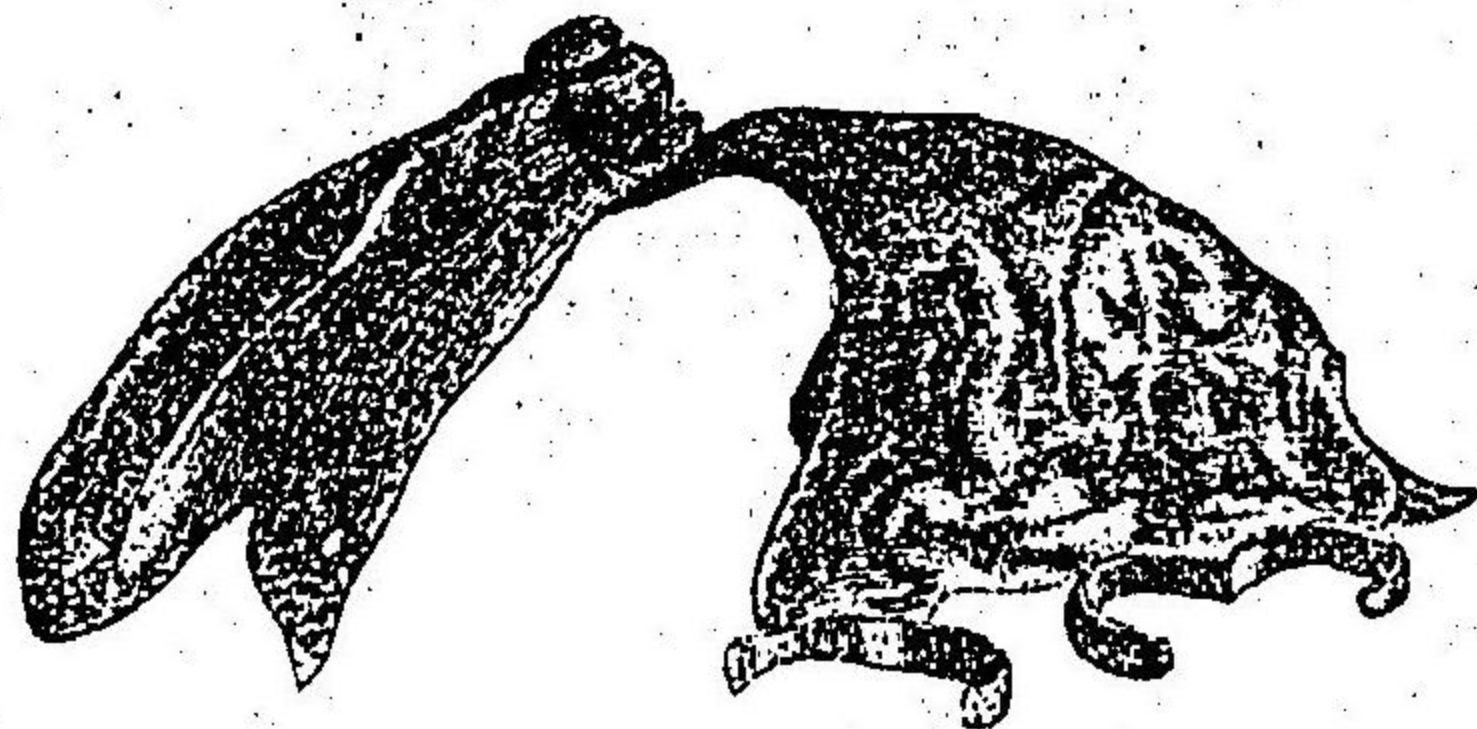
圖一十百第 置裝綴補蓋口ソ一ハ

ヨリナル、栓塞塊ハ上下ノ二瓣ヨリナリ中線ニ於テ連續
 ス下瓣ハ概形三角ニシテ其尖頂ハ前方破裂縁ノ交叉部
 ニ相當シ基底ハ懸垂垂ノ後縁ニ適合シ以テ口蓋穹窿ノ缺損ヲ補フモノトス、上瓣
 モ亦三角形ニシテ其基底即後縁ニ近クニ從ヒ漸ク菲薄トナリ咽頭後壁ニ觸ル、
 ヤ捲轉シテ毫モ刺戟ヲ與フルコトナキヲ要ス、此ノ如ク上瓣ハ破裂縁ノ上面ニアリ
 下瓣ハ其下面ニアルヲ以テ之レヲ破裂部ニ適合スレバ破裂縁ハ兩瓣ノ側縁ニ生

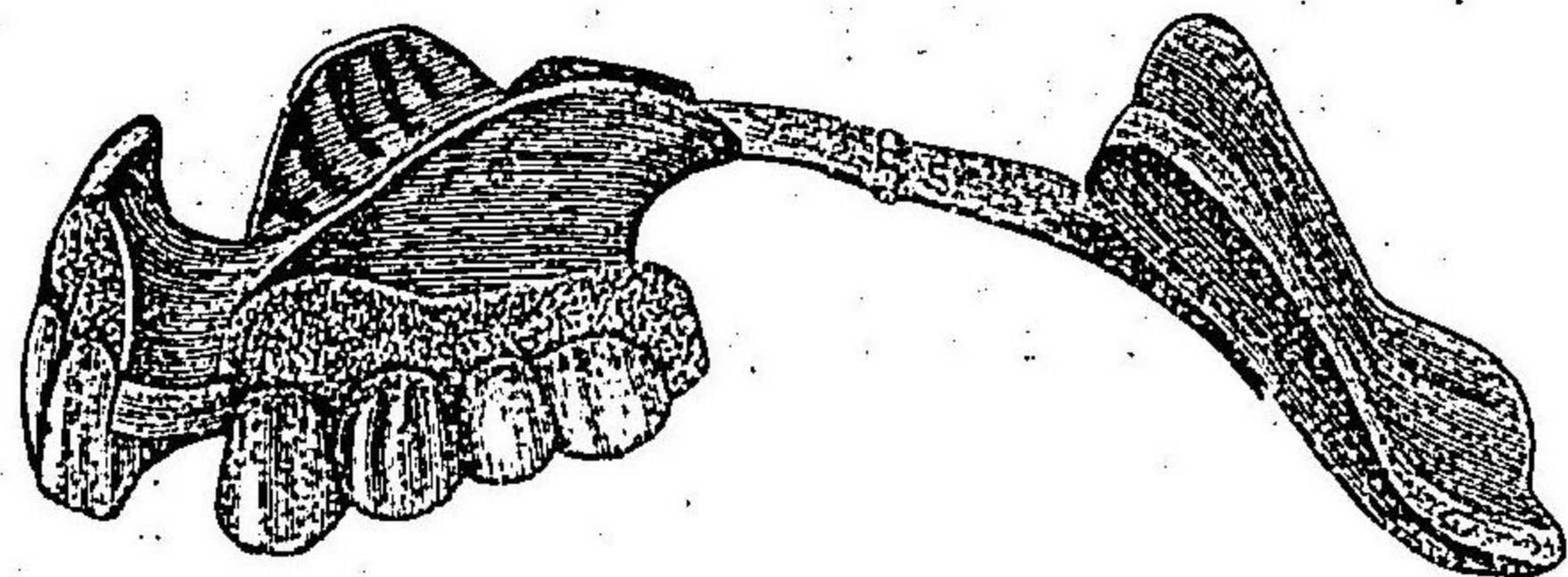
シタル凹溝中ニ適合シ栓塞塊全體ハ軟口蓋運動ニ伴フテ移動スルモノトス、即發
 音又ハ嚙下ニ方リ後鼻腔ヲ閉鎖セントスルヤ軟口蓋ニ於ケル破裂縁ハ先ツ互ニ
 相近邇シテ其ノ間ニ存スル栓塞塊ヲ堅ク挾ミ次テ同時ニ之レヲ舉上シ其後縁ハ
 此際膨隆シ來レル咽頭後壁ト逢會シテヨク閉鎖ヲ完全ナ
 ラシムベキナリ



圖二十百第 蓋口動可一レスゲンキ



圖三十百第 蓋口動可 (氏一レスゲンキ)



圖四十百第 蓋口動可イゲンレトッガ

其調製法ノ如キハ普通ノ蒸和護謨床義齒ニ於ケルト大差ナシ、即チ先ツ硬口蓋ニ相當スル金床ヲ鑄印シタル後、栓塞塊ノ下瓣ヲ備答百兒加ニテ調製シ次テ同一材品ヲ以テ上瓣ヲ成形シ蠟ヲ以テ兩者ヲ合一シ、口内ニ試適シタル後、通法ニヨリ合盒法ヲ行ヒ、軟護謨ヲ填塞蒸和スルニアリ、但シ軟護謨製栓塞塊ハ忽チニシテ軟化廢棄セザルベカラザルコト多シ、故ニ多數ノ栓塞塊ヲ要スルコトナキニアラズ、然ルキハ合盒法ヲ行フニ活字合鑞ヲ以テスレバ數回反覆シテ蒸和スルヲ得ベシ

床ト栓塞塊トノ接合ハ床ノ後縁ニ鑲着シタル白金合釘ヲ以テスルヲ常トスオットレングイハ同一原理ニ基キテ咽頭栓塞子ヲ調製シタリ

第四項 結論

口蓋補綴装置ノ種類此ノ如ク夫レ多シ、其何レカ最良ナルヤハ破裂ノ形態ト大小トニヨリテ同一ナル能ハズト雖モ概シテジュエルセン或ハキングスレーノモノヲ以テ應用ノ範圍廣シトナス、此ノ如キ装置ヲ着用セシムル時期ニ關シテハ諸説一定セズ、ホフエンダール、マルタン等ノ如キハ三歳四歳ノ幼兒ニ之ヲ着用セシメタル例ヲ報告シタレ、概スルニ乳齒列ニアリテハ栓塞塊ヲ維持スルニ足ル堅固ノ基礎ヲ見出ス能ハズ、且小兒ハ理解力尙少ナキヲ以テ好結果ヲ望ムコト難シ、寧ロ十歳以上迄之ヲ延期シ永久齒ノ萌

生ト患兒理解力ノ發達トヲ待ツニ如カズ

補綴装置ヲ着用セシメタル後ハ發音ノ練習ヲナサシムルヲ要ス、装置ノ効果有無ハ一ニ着用者ノ練習如何ニ關ス

第六綱 頰唇疾患

第一章 頰唇ノ外傷

第一項 挫創

挫創其他鈍器ニヨル外傷ハ主トシテ墜落顛倒打撲分娩時ニ鉗子ノ適用等ノタメニ來リ殊ニ頰部頰骨部隅角部等ノ如ク突出セル部ニ起ルコト多シ

其骨性突出部上ニ生ズルヤ忽チ顯著ナル溢血ヲ呈スルコトアレモ其吸收消失亦極メテ迅速ナルヲ常トス上唇ノ部ニアリテハ血腫ヲ形成シテ鬱血及ヒ浮腫ヲ生ジ特異ナル外貌ヲ呈セシムルコト極メテ多ク又切齒齧端ノ咬切ニヨリ恰モ銳器ヲ以テ作りタル刺創切創ノ如キ創面ヲ口唇ノ粘膜面ニ生ズルコトアルベシ

劇度ノ外力ニヨリテ生ジタル挫創ハ殆ド常ニ下在骨質ノ折傷ヲ伴フ殊ニ蹴躓破裂器械ノ壓窄等ニヨリテ生ジタルモノハ下在骨質ニモ亦挫創性或ハ裂創性損傷ヲ生ズベク又頰部及下顎下縁ニ沿フテ加ハリタル暴力ハ下顎部ノ骨折カ否ラザレバ關節脱臼ヲ生ズルコト多シ

頰唇部ニ生ズル挫創及裂創ハ極メテ大ナル癒合力ヲ有ス之レ其血管及淋巴管

ニ富饒スルヲ以テナリ大ナル挫創ニアリテハ稀ニ一部ノ壞疽ヲ生ズルコトアレモ容易ニ分離シテ後害ヲ殘スコトナシ但シ唇部ニ於ケルモノハ治癒後口唇畸形ヲ生ジ頰部ニ於ケルモノハ牙關緊急ヲ生ズルコトナキニアラズ

處置

通法ノ如ク創面及ビ附近ヲ消毒清潔ニシ粗大ナル汚物凝血等ハ之レヲ鉗子ニテ靜ニ撮去シ挫碎シタル創縁及ビ組織ノ遊離片ハ之レヲ剪ニテ

除去ス唇裂其他美容的關係ノアル創縁ハ殊ニ注意シテ正シク適合セシムルヲ要ス縫合ヲ初ムル前ニ出血點ハ一々適當ノ處置ヲ施コサルベカラズ

極メテ不潔ナラザル創面ハ之ニ於テ直ニ縫合スルヲ得ベシト雖モ挫碎著シキモノニアリテハ輕ク沃度防護ガ―ゼヲ填塞シテ一二日放置シ然ル後ニ縫合ヲ企ツルヲ安全トナス但シ疑シキ場合ニハ必ラズ反對切開ヲ施コシテ排泄ノ路ヲ殘スベシ縫合ハ纖細ナル絹糸ヲ撰ミ口唇ニアリテハ先ヅ唇赤ト皮膚トノ境界ヨリ初メテ其恰當ヲ誤マラザル様ナスベシ縫合ヲ終リタル後ハ數層ノ「ガ―ゼ」ヲ置キ其上ヨリ繃帶ヲ施コスコト通法ノ如シ壞疽ノ著シキモノアリタルキハ其全然分離スルヲ待ツテ成形術ヲ施コスベシ

第二項 切創、割創

刀類硝子片其他銳利ナル器物ニヨリテ生成セラル、處ノモノニシテ創痕或ハ線狀ヲ劃シ或ハ瓣狀ヲ呈ス或ハ全然割去セラル、コトアリ血管、神經等毀傷セラル、ト最多シ、出血ハ外顎動脈、淺頰顛動脈ノ毀傷セラレタルキニ殊ニ著シ

顔面神經ガ耳下腺叢ヨリ末梢ニ於テ切斷セラル、キハ環口筋、方形上唇筋、方形頰筋、舉頰筋等ノ運動不隨ヲ生ズベク、三又神經第二枝ガ毀傷セラル、ヤ同側頰、上唇及ビ上顎齒牙ノ知覺脫失ヲ生ジ又頰孔外ニ於テ頰神經ノ切斷セラル、ヤ頰及ビ下唇ノ知覺脫失ヲ生ズ、神經ノ外傷後創面ニ於テ所謂切斷端神經腫ヲ生ズルキハ神經痛ヲ起ストアルベシ

其他此部ノ切創及ビ割創ニ於テ特ニ緊要ナルハ唾液腺殊ニ耳下腺或ハ其排泄管ヲ毀傷シテ唾液瘻ヲ形成スルニアリ(後除其項ヲ參照セヨ)筋肉ノ切斷セラレタルモノハ大ナル變形ナクシテ早晚癒合スベシ

頰唇ノ切創及ビ割創モ亦多クハ佳良ナル豫後ヲ有ス、蓋シ此部ノ生活力旺盛ナルニ加フルニ創面ハヨク組織ノ彈力ニヨリテ自カラ閉塞シ異物ノ進入スル患大ナラザルヲ以テナリ

處置

通法ノ如ク創面及ビ附近ヲ消毒シタル後出血點ヲ求メ或ハ之レヲ鉗取捻擦シ或ハ之レヲ腸腺ニテ結紮ス、基質性出血ハ「ガーゼ」ヲ以テ少時壓迫ヲ施コセバ容易ニ制止シ得ベシ、極メテ稀有ニ外顎動脈或ハ淺頰顛動脈ノ結紮ヲ要スルトアリ

顔面神經及ビ三又神經ノ損傷ニ對シテハ其幹ノ太サト離開ノ度トニ應ジテ直達性或ハ間達性神經縫合術ヲ施コスノ要アルベシ、結紮後繃帶ヲ施コスト通法ノ如シ唾液瘻ノ處置ニ就テハ後條ヲ見ルベシ

第三項 刺創

銃鎗刀劍其他尖銳ナル器械ノ穿入ニヨリテ生ズルモノニシテ頰ル危險ナルトアリ、之レ頰實質ヲ穿通シテ口内他部ニ損害ヲ與ヘ、或ハ顎竇前壁ヲ穿通シテ竇内ニ達シ、或ハ鼻腔、篩骨竇、眼窠等ニ穿通シ又時トシテハ内顎動脈、深頰顛動脈等ノ切斷セラル、トアレバナリ

創腔ノ深淺、其内部ニ異物ノ存否及ビ損害ノ程度ヲ計測シ創傷ノ一般療法ニヨリ處置ヲ施コス、但シ消息子ノ使用ハ能フベクンバ之レヲ避クベシ、傳染ノ患大ナリ

第四項 銃創

主トシテ戰時ニ見ル處ニシテ平時ニアリテハ只僅ニ自殺者、犯罪者又ハ過失ニヨリテ生ズルコトアルノミ、殆ド常ニ

下在組織ノ外傷ヲ伴フモノトス

日露戰役中著者ハ恩師石原先生及ビ岡谷一等軍醫ト共ニ東京豫備病院戸山分院ニ於テ數多ノ興味アル顔面銃創患者ノ診療ニ從事シタリ、或ハ頰部ヲ穿通シテ對側頰部ヨリ射出シタルモノアリ、或ハ一側顎竇ヲ穿通シ更ニ他側ノ顎竇ヲ穿通シテ對側頰部ヨリ射出シタルモノアリ、或ハ顎竇、舌質等ノ中ニ盲管シタルモノアリ、然レモ其多クノモノハ顎骨ノ劇甚ナル挫碎性骨折ヲ伴ヒシヲ見タリ、重ナル危險ハ大血管ノ毀傷ニヨル出血ト、血液ノ吸入或ハ舌毀傷ニヨル窒息ト、尙一ハ其頭蓋腔内ニ穿通スルニアリ、危害ハ其毀傷ノ程度ニ應ズルモノニシテ輕微ノ出血ヨリ即死ニ至ルノ差アリ

處置

輕微ノ裂隙ノ存スルノミナレバ裂創ノ處置ヲ施コスベシト雖モ、創面大ニシテ硬軟組織ノ挫碎著シキハ先ヅ之レヲ消毒シ、異物ヲ去リ、組織屑片及ビ凝血ヲ除キ、出血點ヲ結紮シ、止血完全ナルヲ見タルノ後、ガーゼヲ上セテ綿帶ヲ施コスヲ通法ノ如クナシ、數日ニシテ壞死組織ノ分離シタルモノヲ徐々ニ摘除ス、但シ炎症症候大ナルハ醋酸礬土冷罨法或ハ氷罨法ヲ施コス、但シ窒息ノ危險大ナルハ即時ニ氣管切開術ヲ施コシ、局處的結紮及壓迫等ヲ以テ出血ノ制止

シ難キハ直ニ外頸動脈或ハ總頸動脈ノ結紮ヲナサハルベカラズ

第五項 凍傷、火傷、腐蝕

頰唇凍傷ハ耳翼及鼻尖ニ於ケルガ如ク頻發スルヲナシ、只高度ノ顔面凍傷ニ際シ僅ニ頰唇ノ

犯サル、トアルノミ、輕度ノモノニアリテハ急速ナル摩擦及ビ微溫ノ適用ヲ以テ足レリトナス

輕度ノ火傷ハ夏日直射日光ニ胃露スルニヨリ、或ハ少時間水蒸氣、瓦斯等ニ觸接スルニヨリ生ズル處ノモノニシテ紅斑並ニ輕微ノ水疱形成ヲ以テ其特徴トナス、硼酸鉛糖又ハ醋酸礬土ノ冷罨法、氷罨法ヲ施コシ、然ラザレバ先ヅヘブラ軟膏又ハ華攝林等ヲ塗布シ其上ヨリ亞鉛華澱粉ヲ散布スルヲヨシトス

高度ノ火傷及腐蝕ニ對シテハ三布仙、バイロゾンヲ以テ靜ニ創面ヲ拭去、清掃シ、水疱ハ之レヲ切開シテ内容物ヲ漏出シタル後、創面ニ硝蒼、デルマトール、フィロフェーン等ヲ散布シ其上ヨリヘブラ軟膏又ハ華攝林ヲ塗リタル、ガーゼヲ置キ、軟ク繃帶ヲ施コスベシ、疼痛ニ對シテハ罨法ヲヨシトス、治癒後顯著ノ瘢痕收縮ヲ起シタルハ成形手術ヲ施コスヲ前述ノ如シ

第二章 瘡瘡及癰疽

瘡及癰

Furuncle and Carbuncle
Furunkel und Karbunkel

ハ共ニ數々頰唇皮膚ニ之ヲ見ル、皮脂腺及毛囊中ニ葡萄狀化膿菌或ハ稀ニ連鎖狀菌ノ感染ニヨルモノ

ニシテ單一ナル皮脂腺又ハ毛囊ノ侵サレタルキハ瘡瘡ヲ起シ、數多連鎖シテ侵サレタルキハ乃チ癰疽ヲ生ズ、不潔ナル手指ヲ以テ搔クカ或ハ摩擦スルカニヨリテ其侵入ノ機會ヲ作ル、脂肪過多ノモノ、體質不良ニシテ皮膚面ノ抵抗微小ナルモノニ最多ク來ル

瘡瘡ノ單純ナルモノハ數日間粟粒大ノ小化膿疹ヲ形成スルモ切開或ハ檢塞ノ脱落ニヨリ忽チニシテ治癒ス、然レモ又時トシテ其抓搔或ハ摩擦ニヨリ周圍ニ細菌ノ浸潤スル機會ヲ生ジ重症ナル癰疽ヲ生ズルコトナキニアラズ

惡性癰疽ガ上唇部ニ發顯スルコトアリ、其初メ或ハ單純ナル瘡瘡トシテ起リ之レヲ抓搔シタルタメニ急劇ニ發赤腫脹ヲ増シ發熱ヲ生ズルニ至ルコトアリ、然ラザレバ初メヨリ多數ノ瘡瘡群ヲナシテ惡性ノ癰疽ヲ形成シ當初ヨリ蜂窠織炎ノ症候ヲ呈スルコトアリ、其何レニヨルヲ問ハズ劇烈ナル炎症ハ長ク限局セズ忽チニノ口

唇全體ニ橫布シ、更ニ側方眼瞼及ビ顎下部ニ蔓延シ、發炎腫脹著シク頰部ニ大ナル浮腫ヲ生ジ、疼痛増劇シテ發熱漸ク増進シ、其細菌ノ淋巴管或ハ血管中ニ侵入スルヤ或ハ敗血症ヲ起シ或ハ眼靜脈、頸靜脈ニ血栓ヲ生ジ、或ハ靜脈竇血栓、腦膜炎等ニヨリ終ニ數日內ニ死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ、幸ニシテ組織ノ抵抗力大ニシテ早期ニ細菌ノ深入ヲ防止スルノ方法ヲ講ジタルキハ局處ニ大ナル化膿壞疽面ヲ生ジテ治癒スベシ

上記ノ如ク本症ハ先ヅ粟粒大ノ小化膿疹ノ形成ヲ以テ初マリ、其中央ニ膿瘍ヲ形成シ、然ル後周圍組織ニ炎性浸潤及腫脹ヲ生ゼシムルヲ順序トスルガ故ニ蜂窩織炎等ト容易ニ區別スルヲ得ベシ

療法

輕微ノモノニアリテハ小切開ヲ施コシテ局所ヲ匙搔シ又ハ繊細ナルバクテリン燒灼器ニテ燒灼スルヲ以テ足レリトナス

重症ニシテ口唇ノ大部ヲ侵シ漸ク頰部ニ蔓延セントスル傾向ヲ顯ハセバ直ニ之レヲ横ニ廣ク切開シ以テ靜脈内ノ化膿性血栓及ビ化膿竈ノ排除セラレンコトヲ計ルベシ、創面ハ消毒、ガーゼヲ送入シテ廣ク開放シテ繃帶ヲ施コシ用ニ鑑ミ冷器法ヲ與ヘテ疼痛ヲ輕減スベシ、強壯劑與奮劑ヲ與ヘテ體力ヲ維持セシムルコト又必